

Annual Report 2014

年 報 2014年(平成26年)度



JA 広島総合病院
JA. HIROSHIMA General Hospital

Annual Report 2014

年 報 2014年(平成26年)度

Contents

巻頭言 ——— 病院長の言葉	4
----------------------	---

トピックス

電子カルテの更新について	6
地域医療拠点整備に関する基本協定書調印	8
消化器外科手術の過半数が腹腔鏡下手術になりました	8
災害対策〈DMAT の活動〉	9
るんるん広場	11
薬剤師法改正に伴う窓口での服薬指導の拡充	12
市民公開講座	13
第 5 回 オープンホスピタル開催	15
第 24 回 院内バレーボール大会開催	16
第 4 回 広島西部高校生外科セミナー開催	16
ふれあい看護体験	17
サマーインターンシップ実施	17

病院の概要

病院概況	20
JA 広島総合病院のあゆみ	21

活動報告

呼吸器内科	24
循環器内科	26
腎臓内科	27
糖尿病代謝内科・糖尿病センター	28
消化器内科	29
小児科	31
外科	32
乳腺外科	34
整形外科	35
脳神経外科	36
呼吸器外科	38
心臓血管外科	39
皮膚科	40
泌尿器科	41
産婦人科	43
眼科	44
耳鼻咽喉科	45
放射線治療科	46
画像診断部	47
麻酔科	48
歯科口腔外科	50
救急・集中治療科	51
緩和ケア科	53
健康管理センター	54
形成外科	56
病理診断科・病理研究検査科	57
研修医室	58
看護科	59
外来	60
地域救命救急センター	61
ICU・西 3 階病棟	62
西 4 階病棟	63
西 5 階病棟	64
西 6 階病棟	65

西 7 階病棟	66
西 8 階病棟	67
東 3 階病棟	68
東 4 階病棟	69
東 5 階病棟	70
東 6 階病棟	71
東 7 階病棟	72
東 8 階病棟	73
手術室	74
居宅介護支援事務所	75
訪問看護ステーション	76
薬剤部	77
臨床研究検査科	78
中央放射線科	79
臨床工学科	80
リハビリテーション科	82
栄養科	83
診療情報管理科	84
医療安全管理室	85
感染防止対策室	86
地域医療連携室	87
総合医療相談室	88
人事課	89
情報企画課	90
緩和ケアチーム	91
栄養サポートチーム (NST)	92
心臓リハビリテーションチーム	93
DMAT	94
RST	95
災害対策ワーキングチーム	96
「膵がん・胆道がん教室」運営チーム	97
各種委員会	98
出張記	112

実績

著書・論文	120
書籍・雑誌編集	123
学会発表	124
学会での座長	135
研究会講演・発表	137
研究会座長	148
地域活動	152
雑誌投稿・テレビ・ラジオへの出演	157
合同カンファレンス	160

クラブ活動

華道部	164
野球部	165
テニス部	166
伯友会（ゴルフ同好会）	167
サッカー部	168
バスケットボール部	169

資料

統計資料	172
------------	-----



巻 頭 言

2014 年 1 月、電子カルテシステムを全く新しい富士通に更新した。原因は未だに不明であるが、システムを更新した途端、外来・入院患者数はジェットコースターのように急降下した。バブル崩壊のような患者数の急落は 2014 年度上半期の後半まで続いたのである。夏も終わりがけた初秋のある日、就任 2 年目を迎えた新米院長の部屋に当時の青木晴美事務長がノックもせず突然訪れた。『院長！病院がいつまでもこの状況では 1,000 人いる職員を到底養うことはできません！このままでは皆に給料を払うことができなくなります！！』

各臨床科、看護部、コメディカルの責任者を集め病院の現状を説明、危機感を共有し、さらなる頑張りを指示したことはいうまでもない。後日、小濱千幸放射線科長がノックをして院長室を訪れ次のような提案をおこなった。『YouTube に病院のビデオをアップロードしませんか？AKB48 の恋するフォーチュンクッキーをバックにビデオを作りませんか。きっと職員のモチベーションがあがると思います』彼女の目が輝いていた。

ビデオ作成には放射線科の職員たちがたいへん頑張ってくれた。彼らの周到な準備と撮影によってほぼすべての病院職員が出演、1 か月以上に及ぶ編集作業ののち 10 月 28 日 YouTube に『JA 広島総合病院版・恋するフォーチュンクッキー』がアップロードされたのである。ビデオのアップロードの時期と同じくして入院・外来患者数も見事にアップしたのである。この巻頭言を書きながら久しぶりに YouTube を覗いてみた。再生回数は 37,000 回を超え、ビデオの頭の部分にわれわれの許可なく動画広告が付けられているではないか、コマーシャル代はわれわれに払わないでもよいのか（小濱科長にたずねると、YouTube にアップロードする時点でコマーシャル料はすべて YouTube に委譲する契約を交わしたとのことであった）。その後、外来・入院患者数は急上昇、2014 年度末には計画を大きく上回る成績を達成することができたのである。

2014 年度 JA 広島総合病院年報が辻山修司編集長率いる年報編集委員会の方々の大きなエネルギー注入のお陰でできあがりました。非常に多忙な日々の診療業務に忙殺されているにもかかわらず、昨年に続き世間に胸を張れる内容の年報が完成されたと自負しています。われわれの目標は、1) 先進医療、低侵襲手術・検査、2) 集学的医療ならびにチーム医療の実践、3) 地域医療拠点病院あるいは地域がん拠点病院としての実力向上と病診連携強化、4) 臨床研究、国内・国際学会発表、論文作成などのアカデミック活動の活発化と考えられます。本誌を読まれる方々に当院の active で at home な雰囲気が伝わることを祈っています。

※本文中の固有名詞の表記は本人の承諾を得ています。

2016 年 3 月

広島県厚生農業協同組合連合会

広島総合病院

病院長 藤本 吉範

電子カルテの更新について

【 病院情報システム稼働時スタッフ 】

課長補佐	金 本 英 己
係 長	上 村 浩 司
	横 山 嘉 一
業務委託	桑 野 幹 典
	内 藤 寛
	富 岡 広 志

【 戦慄の病院情報システム更新 】

病院情報システムの更新により、医療の質や情報の安全性を高めるべく、多くの新しい運用が始まりました。バーコードの突き合わせにより医療過誤を防ぐ「三点認証」や、USB 機器の使用制限及びセキュリティ USB メモリ貸与による「情報漏洩対策」、医師のオーダ代行である「医師の承認」、そして電子カルテの業務外目的閲覧を牽制する「患者カルテ参照歴開放」といった、医療業界ではグローバルスタンダードとなる運用をより多く取り入れました。

【 病院情報システム更新の軌跡 】

電子カルテシステム更新時の主なイベント

日付・曜日	主要イベント内容
2012 年 5 月	中電病院 視察
2012 年 6 月	病院医療情報システム特設ホームページ (イントラ内) 開設 電子カルテベンダーデモンストレーション ベンダー選定アンケート投票 情報システム運営委員会 開設 情報システム選定委員会 開設 横浜市立みなと赤十字病院 視察 鹿児島大学医学部・歯学部附属病院 視察 JA 尾道総合病院 視察
2012 年 8 月	部門システム現状調査 更新要望検討 価格交渉
2012 年 9 月	次期電子カルテベンダー決定
2012 年 10 月	呉医療センター 視察 呉共済病院 視察
2013 年 2 月	電子カルテシステム導入キックオフ ベンダー説明会開催
2013 年 3 月	ワーキンググループ、ワーキングメンバー選定
2013 年 4 月	各ワーキンググループ開始 会議室予約システム稼働開始 サーバ室工事
2013 年 6 月	病院情報システムサーバ導入 院内ネットワーク工事開始 電子カルテシステム 各種マスタ構築開始 電子カルテシステム 操作教育開始
2013 年 10 月	電子カルテシステム 操作研修室開放
2013 年 11 月	電子カルテシステムリハーサル (外来・入院) 第一回
2013 年 12 月	電子カルテシステムリハーサル (外来・入院) 第二回 電子カルテ端末、病棟ナースカート搬入 電子カルテシステム切り替え作業 (電子カルテシステム 76 時間停止)
2014 年 1 月	電子カルテシステム稼働開始 電子カルテベンダー 質疑応答会議開催

WG (ワーキンググループ) 等開催スケジュール

日付・曜日	WG 名称 (※開催回 / 開催予定数)	開始 時間	終了 予定	日付・曜日	WG 名称 (※開催回 / 開催予定数)	開始 時間	終了 予定
2月14日 木	電子カルテシステム導入キックオフ	17:30 ~ 18:30		6月6日 木	PDA 説明会 #2/2 (看護科向け)	14:00 ~ 15:00	
3月13日 木	薬剤 WG (プレワーキング)	17:00 ~ 19:00			退院サマリ監製システム仕様確認打合せ	14:00 ~ 16:30	
3月18日 月	外来運用 WG (プレワーキング)	17:00 ~ 19:00			検査 WG #6/6	17:00 ~ 19:00	
3月19日 火	検査 WG (プレワーキング)	17:00 ~ 19:00		6月7日 金	内視鏡レポートシステムデモ	14:00 ~ 16:00	
	データ移行打合せ	19:00 ~ 22:30		6月10日 月	画像検査関連 WG 生理検査	17:00 ~ 19:00	
3月21日 木	薬剤 WG (事前ヒアリング)	15:00 ~ 17:00			看護 WG #6/6	17:00 ~ 19:00	
3月22日 金	外来運用 WG (プレワーキング)	14:00 ~ 17:00		6月11日 火	旧カルテ参照システム要件定義確認	11:00 ~ 12:00	
3月25日 月	看護 WG (プレワーキング)	17:00 ~ 19:00			発生入力打合せ	13:30 ~ 15:00	
3月26日 火	リハビリ WG (プレワーキング)	17:00 ~ 19:00			医事 WG #5/5	15:00 ~ 17:00	
3月27日 水	医事 WG (プレワーキング)	17:00 ~ 19:00			内視鏡レポートシステム仕様打合せ	15:00 ~ 17:00	
3月28日 木	IT WG (プレワーキング)	17:00 ~ 19:00			外来運用 WG 残案件確認	17:00 ~ 19:00	
	検査 WG (検査科ヒアリング)	14:00 ~ 17:00			BCP 打合せ	10:00 ~ 12:00	
3月29日 金	災害コピテック WG (プレワーキング)	17:00 ~ 19:00		6月12日 水	文書コンテンツ WG #1/5	10:30 ~ 12:00	
4月1日 日	入院運用 WG (納税ヒアリング)	15:00 ~ 17:00			電子カルテ共通機能紹介	13:00 ~ 16:00	
4月2日 月	手術 WG (プレワーキング)	17:00 ~ 19:00		6月13日 木	放射線科 Gr #3 R5 打合せ	15:00 ~ 16:30	
4月3日 火	データ移行 WG (プレワーキング)	17:00 ~ 19:00			歯科口腔外科 Gr #1	15:00 ~ 17:00	
4月4日 水	画像検査関連 WG (プレワーキング)	17:00 ~ 19:00			画像検査関連 WG 放射線検査	17:00 ~ 19:00	
	入院運用 WG (栄養科ヒアリング)	14:00 ~ 14:30			チーム医療 Gr (医・薬・OT・検・技・ケア) #2	14:00 ~ 15:00	
4月8日 日	看護 WG #1/5	17:00 ~ 19:00		6月14日 金	セキュリティポリシー Gr #1	15:00 ~ 17:00	
4月9日 月	外来運用 WG #1/5	17:00 ~ 19:00			入院運用 WG #5/5	17:00 ~ 19:00	
4月10日 火	リハビリ WG #1/3	15:00 ~ 17:00		6月17日 月	画像検査関連 WG 内視鏡検査	14:00 ~ 16:00	
	薬剤 WG #1/5	17:30 ~ 19:30			医事 WG (ヒアリング)	13:00 ~ 15:00	
4月11日 水	医事 WG (入院担当者ヒアリング)	15:00 ~ 17:00		6月18日 火	透析 Gr #2/3	15:00 ~ 17:00	
	検査 WG #1/5	17:00 ~ 19:00			地域連携 WG 院外公開カルテ #1	17:00 ~ 19:00	
4月12日 木	院内ネットワーク打合せ	9:30 ~ 11:30		6月19日 水	文書コンテンツ WG #2/5	14:00 ~ 15:00	
4月13日 金	入院運用 WG (西4他病棟、医事科ヒアリング)	14:00 ~ 17:00		6月20日 木	文書コンテンツ WG #3/5	10:00 ~ 12:00	
4月15日 日	医事 WG #1/5	15:00 ~ 17:00			院内ネットワーク打合せ	15:00 ~ 16:30	
4月16日 月	外来運用 WG #2/5	17:00 ~ 19:00		6月25日 火	文書コンテンツ WG #4/5	10:00 ~ 12:00	
4月17日 火	薬剤 WG (薬剤師ヒアリング)	17:00 ~ 18:40			外来運用 WG #5/5	17:00 ~ 19:00	
4月18日 水	放射線科 Gr (放射線科ヒアリング)	14:30 ~ 18:00		6月26日 水	画像検査関連 WG 生理検査	17:00 ~ 19:00	
4月19日 木	看護 WG #2/6	17:00 ~ 19:00			産科カルテシステム打合せ	16:00 ~ 18:00	
4月20日 金	医事 WG #2/5	15:00 ~ 17:00		6月27日 木	薬歴、DI 参照システム打合せ	17:30 ~ 19:30	
4月23日 火	IT WG #1/3	17:00 ~ 19:00		7月1日 月	検査 WG (輸血 Gr) #2	17:00 ~ 19:00	
	リハビリ WG #2/3	15:00 ~ 17:00		7月2日 火	透析 Gr #3/3	15:00 ~ 17:00	
4月24日 水	薬剤 WG #2/5	17:30 ~ 19:30		7月4日 木	医事 WG (お薬引換時ヒアリング)	13:50 ~ 15:20	
	画像検査 WG (内視鏡検査ヒアリング)	13:00 ~ 14:00			職員カードプリンタヒアリング	16:30 ~ 17:15	
4月25日 木	画像検査 WG (生理検査ヒアリング)	14:00 ~ 15:00			検査ラベル運用説明会	15:00 ~ 16:00	
	画像検査 WG (放射線検査ヒアリング)	15:00 ~ 17:00		7月5日 金	検査マスタヒアリング	16:00 ~ 17:00	
	手術 WG #1/3	17:00 ~ 19:00			データ移行 WG #1/2	17:00 ~ 19:00	
4月26日 金	検査 WG (検査科ヒアリング)	15:00 ~ 17:00		7月8日 月	ネットワーク工事打合せ	13:30 ~ 15:00	
	入院運用 WG #1/5	17:00 ~ 19:00			健診 Gr #1	15:00 ~ 17:00	
4月30日 火	医事 WG (薬歴・会計書仕様ヒアリング)	13:00 ~ 15:25		7月10日 水	PDW WG #1/1	13:00 ~ 15:00	
	文書コンテンツ WG (機能説明)	15:30 ~ 16:50			生理検査部門ヒアリング	15:00 ~ 17:00	
5月1日 水	外来運用 WG #3/5	17:00 ~ 19:00		7月11日 木	文書コンテンツ WG #5/5	10:00 ~ 12:00	
5月2日 木	薬剤 WG #3/5	17:30 ~ 19:30			歯科口腔外科 Gr #2	15:00 ~ 17:00	
5月7日 火	看護 WG #3/6	17:00 ~ 19:00		7月12日 金	医事 WG 機要確認	10:30 ~ 12:30	
5月8日 水	リハビリ WG (ヒアリング)	15:00 ~ 17:00			看護 WG 個別打合せ (経通表)	15:00 ~ 17:00	
5月9日 木	放射線科 Gr #1 R5 打合せ	15:00 ~ 19:00		7月17日 水	知覚マスタ確認	17:30 ~ 20:00	
5月10日 金	検査 WG #3/5	17:00 ~ 19:00		7月18日 木	産婦人科 Gr #1	15:00 ~ 17:00	
	院内ネットワーク打合せ	10:00 ~ 12:00			手術 WG #2/3	17:00 ~ 19:00	
	手術 WG (ヒアリング)	13:00 ~ 17:00		7月19日 金	ナースングカード デモ	14:00 ~ 15:00	
5月13日 月	IT WG (ヒアリング)	16:00 ~ 18:00			検査 WG (病理 Gr) #1	15:30 ~ 17:00	
	IT 委員会 (IT WG 内容検討)	17:00 ~ 18:00		7月24日 水	指導料マスタ説明会	10:00 ~ 12:00	
5月14日 火	医事 WG #3/5 (外来化学療法運用確認)	15:00 ~ 17:00			職員カードプリンタ デモ	14:00 ~ 16:00	
	検査 WG (ヒアリング)	15:30 ~ 17:30		7月25日 木	院内ネットワーク打合せ	10:00 ~ 12:00	
	検査運用検討 (検査 Gr 招集・外来運用 WG)	17:00 ~ 19:00		7月26日 金	手術 WG #3/3	17:00 ~ 19:00	
5月15日 水	リハビリ WG #3/5	15:00 ~ 17:00			放射線科 Gr #4	15:00 ~ 17:00	
	薬剤 WG (ヒアリング)	17:30 ~ 19:30		7月29日 月	画像検査 WG 合同ワーキング	13:30 ~ 17:00	
	サーバ室打合せ	13:00 ~ 14:00			看護 WG (西4他病棟運用)	17:00 ~ 19:00	
5月16日 木	画像検査関連 WG 放射線検査	15:00 ~ 17:00		7月30日 火	コンテンツ WG 第一部	10:30 ~ 12:30	
	画像検査関連 WG 生理検査	17:00 ~ 19:00			コンテンツ WG 第二部	17:00 ~ 19:00	
5月17日 金	入院運用 WG #2/5	17:00 ~ 19:00		8月1日 木	検査マスタヒアリング	15:00 ~ 17:00	
5月20日 月	看護 WG #4/6	17:00 ~ 19:00			画像ネットワーク打合せ	18:00 ~ 19:00	
	看護 WG (数値管理日誌ヒアリング)	13:00 ~ 14:00		8月2日 金	健診 Gr #2	13:00 ~ 15:00	
5月21日 火	旧カルテ参照システム説明会	14:00 ~ 15:00		8月5日 月	インシデント管理システム打合せ	14:00 ~ 16:00	
	透析 Gr (プレワーキング)	15:00 ~ 17:00		8月6日 火	ICU 呼吸器ヒアリング	13:00 ~ 14:00	
	外来運用 WG #4/5	17:00 ~ 19:00		8月8日 木	院内ネットワーク打合せ	10:00 ~ 12:00	
5月22日 水	薬剤 WG #5/5	17:30 ~ 19:30			画像検査 WG 合同ワーキング	17:30 ~ 19:30	
5月23日 木	放射線科 Gr #2 R5 打合せ	15:00 ~ 17:00		8月9日 金	看護 WG 個別打合せ (手術室運用)	17:00 ~ 19:00	
5月24日 金	検査 WG #4/5	17:00 ~ 19:00		8月12日 月	eXChart 講習会	17:00 ~ 19:00	
5月27日 月	入院運用 WG #3/5 (NST Gr 招集)	17:00 ~ 19:00		8月16日 金	院内ネットワーク打合せ	10:00 ~ 12:00	
5月28日 火	看護 WG #5/6	17:00 ~ 19:00			生体モニタ打合せ	17:00 ~ 19:00	
	医事 WG #4/5	15:00 ~ 17:00		8月19日 月	検査 WG (病理 Gr) #2	15:30 ~ 17:30	
5月29日 水	薬剤マスタヒアリング	14:00 ~ 15:00		8月20日 火	文書コンテンツ WG #6/5	10:00 ~ 11:30	
	検査 WG (輸血 Gr) #1	16:30 ~ 17:30			放射線科 Gr #2/3 R5 打合せ	14:00 ~ 16:00	
5月30日 木	チーム医療 Gr 機要 #1	16:30 ~ 17:30		8月22日 木	RIS デモ	16:00 ~ 17:00	
	検査 WG #5/5	17:30 ~ 19:30		8月23日 金	地域連携 Gr #2	13:00 ~ 15:00	
5月31日 金	手術 WG (ヒアリング)	14:30 ~ 16:00		8月28日 水	IT WG #2/3	16:00 ~ 18:00	
	入院運用 WG #4/5	17:00 ~ 19:00		8月29日 木	院内ネットワーク打合せ	10:00 ~ 12:00	
6月4日 火	透析 Gr #1/3	15:00 ~ 17:00			産婦人科 Gr #2	15:00 ~ 17:00	
	PDA 説明会 #1/2 (看護科向け)	14:00 ~ 15:00		8月30日 金	看護 WG 個別打合せ (管理日誌)	15:00 ~ 19:00	
6月5日 水	放射線治療科 Gr #1	15:00 ~ 17:00		9月2日 月	給食システム連携打合せ	16:00 ~ 18:00	
				9月5日 木	健診 Gr #3	16:00 ~ 18:00	
				9月6日 金	ネットワーク打合せ	13:30 ~ 15:00	
				9月10日 火	POS システム打合せ	10:00 ~ 12:00	
				9月13日 木	検査 WG (輸血 Gr) #3	16:30 ~ 18:00	
					データ移行 WG #2/2	18:00 ~ 20:00	
				9月26日 木	職員カードプリンタ打合せ	11:00 ~ 12:00	
					患者 ID10 新問題討議会	16:00 ~ 18:00	

〔システム更新に向けた新しい試み〕

電子カルテ稼働前には「電子カルテ学習用動画作成」や、「ロゴ作成」、「電子カルテ講習修了認定証授与」、「旧電子カルテ時代の登録辞書移行」、「電子カルテリハーサル告知用ポスター作成」といった、他医療機関では真似のできない、破天荒且つ比類なき仕事を成し遂げたと自負しております。他にもナーシングカート及び電源コード破損防止用マグネットコンセントの導入や、バーコード入り職員カード作成と、情報システム担当の範疇を超えた事案まで手広く行いました。



Fig. 1 システム委員長 中尾正和医師をモチーフとしたロゴ
(画像を一部ぼかしております)



Fig. 2 電子カルテ リーダー操作教育受講修了証



Fig. 3 ベンダーによる電子カルテシステム説明会



Fig. 4 電子カルテリハーサル概要説明動画
(画像を一部ぼかしております)

地域医療拠点整備に関する基本協定書調印

平成 26 年 10 月 29 日、廿日市市・JA 広島厚生連・JA 広島総合病院は、旧イオン廿日市店跡地を活用した地域医療拠点整備に関する基本協定書に調印しました。

基本協定書には、廿日市市の策定した「地域医療構想」に向け、3 者が連携し、へき地・地域医療支援、高度医療や救急医療の充実、在宅医療と介護の連携、医療人材の確保、災害時医療の充実などの方向性が掲げられています。

今後は、廿日市市が取得した旧イオン廿日市店の土地（約 7,300㎡）を活用した地域医療の拠点と

しての一体的な整備について、平成 29 年度中の事業着手に向けた協議を進めていきます。



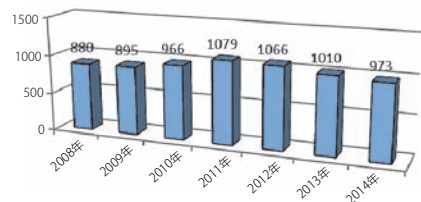
握手を交わす藤本吉範病院長（写真左）、真野勝弘廿日市市長（写真中央）岡田仁志理事長（写真右）

消化器外科手術の過半数が腹腔鏡下手術になりました ～腹腔鏡下鼠径ヘルニア手術の導入～

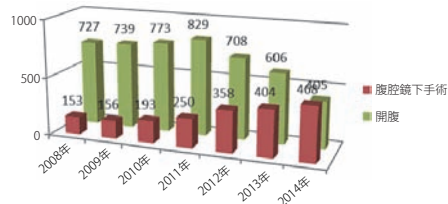
腹腔鏡とは、太さ 5～12mm の棒状のテレビカメラのことで、手術室内のテレビ画面に腹腔内の映像を大きく鮮明に映し出す装置です。最近はハイビジョン映像で映し出すことができます。拡大することができるので、肉眼で見るよりもはるかにきれいに血管、神経、リンパ節、筋肉が観察できます。腹腔鏡手術に用いる他の道具も改良・開発が進み、より高度な手術が行われるようになっていきます。外科医はその画面を見ながら特殊な手術器具を使って、精細な出血の少ない手術をおこないます。当科では、安全性を担保しながら、徐々に適応を広げてきました。2013 年からは腹腔鏡下鼠径ヘルニア手術を導入、2014 年には消化器外科の手術の過半数が腹腔鏡下手術となりました。内視鏡技術認定医は香山、田崎の 2 名が取得しました。現在、食道切除、胆嚢摘出術、虫垂切除等は原則、腹腔鏡下手術を行っています。また胃・大腸・肝臓も適応を重視して腹腔鏡下手術をお勧めしています。腹腔鏡下手術は現代技術の最先端医療機器を使用した外科手術といえます。今後も、より安全で、低侵襲かつ、患者さんにやさしい手術を提供できる体制を整えていきます。



腹腔鏡下鼠径ヘルニア 術中写真



全身麻酔症例数 年次推移



腹腔鏡下手術数と開腹手術

災害対策 〈DMAT の活動〉

2014年8月20日、広島市では午前3時20分から40分にかけて、局地的な短時間大雨によって安佐北区可部、安佐南区八木・山本・緑井などの住宅地後背の山が崩れ、同時多発的に大規模な土石流が発生しました。この豪雨災害によって74人もの尊い命が失われました。また住宅 4540 棟が被害を受け、住民の方は長期的な避難を余儀なくされました。

災害拠点病院である当院は、この大規模災害に対していち早く災害派遣医療チーム（DMAT）を現地へ送り込み救護活動を開始すると同時に、地域救命救急センターで多数傷病者の受け入れ体制を整え、けが人の受け入れの準備をしました。また3日後の8月23日には当院の災害支援ナースが避難所に派遣されました。これらの活動の様子を報告します。

〔 DMAT の活動 〕

JA 広島総合病院 DMAT の災害出動は、東日本大震災から2度目となります。いつもながら出動準備は大変慌ただしいものですが、今回は前回と違い事前に DMAT 専用車が準備されており、さらに DMAT 隊員2名が当日の夜勤といった状況が早朝の発災といった悪条件にもかかわらず、出動決定から1時間あまりで出発と非常にスムーズな出動につながりました。今回は医師1名、看護師2名、調整員（診療放射線技師）1名、計4名の DMAT 隊員で出動しました。病院内では災害対策本部が設置され4～5名の職員が関係各所への情報収集、患者受け入れ体制の準備や当院職員の安否確認、当院 DMAT への情報提供などの対応をしました。

当院の DMAT は参集地の安佐南消防署へ到着後、落ち着くまもなく土石流で倒壊した家屋に被災者発見との知らせがあり被災現場へ出動しました。現場では現地本部が設営されているとの情報でしたが見当たらず、消防隊員を1名発見しましたが、かなり情報が錯綜しており、目的地へのルートも泥で埋まり安全なルートが不明な状況でした。とりあえず車から降り歩きはじめました。途中からは被災現場に詳しい報道記者の案内で、川のような坂道を登りなんとか目的地に到着できました。到着時には被災者は、倒壊家屋から救出されバックボードに固定されており、医師が下腿骨折と診断しました。そして搬送待機中のヘリコプターが巻き起こす強烈な風の中、ルート確保や搬送処置を実施し、患者がヘリコ

プターに収容されたことを確認しました。その後は、いったん安佐南消防署へ帰還し待機していました。次の出動は、医療ニーズの把握のため近隣避難所を巡回することでした。時間経過とともに医療ニーズが低下したことで、当院の DMAT は撤収となり、17時病院に帰着。長い一日が終わりました。



DMAT 車で出動する様子（上）と活動中の様子（下）

〔 地域救命救急センターでの多数傷病者受け入れ準備 〕

発災後、院内では迅速に各役員が招集され災害対策本部が立ち上がりました。本部長である病院長によって DMAT の派遣と同時に「災害モード」が決定されました。

災害モードとは、災害の規模に応じた対応のことをいいます。8.20 広島土砂災害の場合、当院は災害モード1「定期手術や外来診療を中止することなく、地域救命救急センターで被災者の受け入れを行う」としました。県の災害対策本部には重傷患者の受け入れ可能人数は3名と報告し、必要なベッドを確保すると同時に多数傷病者受け入れ準備を開始しました。

災害時に最も重要なことは「自身の安全確保」です。そのため、まず地域救命救急センターのスタッフが集中して災害対応ができるかどうか健康状態を

確認し、スタッフにはそれぞれの家族の安否を確認してもらいました。

次に、災害時には情報が錯綜することによって現場が混乱し、冷静な判断を欠く原因となります。そこで、災害対策本部に情報を集め、本部長を中心とする各担当部署リーダーの指示のもとにそれぞれの役割に応じて行動し、その結果をお互いに確認しました。

情報収集から今回の災害の特殊性を考慮した結果、ドクターヘリや救急車で搬送されるような重傷の患者さんは救助に時間を要すると予測され、時間差で軽傷の患者さんが診療時間を問わず来院され、病院でのトリアージが必要となる可能性も考えました。そこで、START 式といわれるトリアージ方法や記入したタグの取り扱いについてなどのミーティングを行いました。

スタッフ達は、現地の情報が明らかになるにつれて被害の大きさに重傷者や多数の傷病者が一度に搬送されてきた場合のことをイメージしながら緊張感が高まっていました。

結果的に被災された方の搬送はありませんでしたが、多数傷病者を想定した受け入れ準備を行うなかで、平時からのチームワークやハウレンソウ（報告・連絡・相談）は災害時の「指揮命令系統の確立」や円滑な「コミュニケーション」に繋がるということを共通認識することができました。

【災害支援ナースの活動】

災害支援ナースは、避難所に 24 時間常駐し、災害時であっても被災者が健康レベルを維持できるように適切な医療や看護を提供する役割を担います。例えば、避難者のけがや病状変化への看護、避難者の生活状況や健康状態のチェックおよびアドバイス、感染症のアセスメントと必要な処置を行うなどです。

今回私たちが派遣された避難所には、被災された住民 620 人が避難しておられました。住民の皆さんは、昼間は家の片づけに行き、夕方帰ってくる毎日を過ごしておられました。そのため昼間より夜間の医療ニーズが高く、避難時のけがや復旧作業中のけがの処置の必要な方や熱中症、脱水の症状の方が多く見受けられました。私たちは救護所に活動拠点を置き、24 時間常駐してそのような症状のある住民の

方に対応したほか、猛暑の中で復旧作業にかかわる警察、消防、一般ボランティアなどの受診ニーズにも対応しました。重症例については救急搬送にいたった事例もありました。また、季節がら食中毒や高齢者の脱水のリスクが高く、注意が必要でした。さらに長期化した場合のさまざまなリスクを考える必要があり、精神科チームや口腔ケアチーム、栄養士などの専門職との連携も重要でした。

一日の活動スケジュールでは、朝夕 2 回の定時ラウンドで医療ニーズの把握につとめ、市民病院医療チームとともに夜間巡回も行いました。朝夕 2 回のミーティングを行い、医療を統括する保健師と全体の状況把握と情報共有を行いニーズに対応しました。

この他にも、入浴介助などの日常生活援助と生活環境の調整を行い、少しでも快適でストレスの少ない環境を整えるような活動を行いました。住民の方は、夜中に「ばんそうこうが欲しい」といって救護所に来られ、今後のことや身体の不調についての不安を静かに話しては部屋に戻っていかれました。



活動中の様子（朝日新聞電子版より）

以上、8.20 広島市土砂災害における当院の対応を報告しました。緊迫した中での活動でしたが、病院長をはじめ多くの方々のご支援を頂きながらの活動であったと思います。この活動を通して「平素できないことは災害時にはできない」ことも痛感し、日々を真摯に取り組むことや訓練の重要性を感じました。また、当院が災害拠点病院として重要な役割を担っていることも再認識しました。

最後になりましたが、今回の災害で犠牲となられたの方々のご冥福をお祈り申し上げます。

るんるん広場

広島弁で「どうしょうるん」「元気にしょうるん」の語尾をとって“るんるん広場”（通称、ママ友会）を開催しました。この会は、産後休暇・育児休暇中の看護師を対象に、円滑な復職と継続勤務に向けた支援が目的です。23名の対象者にお知らせを配布し、15名の参加がありました。

開催場所は、アットホームな雰囲気の中で子供が安全である事を考えて、医師住宅の和室を使用しました。襖を隔てて布団も準備し、おむつ交換や眠ってしまった子供にも対応できるようにしました。



内容は、看護部長から会・病院の情勢、看護協会の情報を含めた開会の挨拶から始まり、人事課より復職時の手続きや短時間勤務制度の説明、さくら保育園申込み方法などの事務関連の話をしました。手続きの事とあってママさん達は真剣にメモを取り、横で退屈して泣き出す子供を、お世話係の看護部長室の面々が抱っこしたり、あやしたりと子育ての大先輩ぶりを発揮しました。

次に、さくら保育園の園長先生から保育園での園児の様子や過ごし方、行事などを優しく語って頂き、希望のママさんには保育園内の見学も行いました。次々と見学に入ってくるママさん達に園児たちも大はしゃぎ！嬉しいやら、恥ずかしいやら…。

そして、この会のメインである「育児と仕事の両立をどのようにしているか」を、2人の先輩ママが

リアルな話で盛り上げてくれました。さくら保育園・夜間保育・短時間勤務制度など、あらゆる資源を活用して、勤務部署からも協力を得ながら頑張る先輩ママの「ぶっちゃけ話」をママさん達は聞きながら聞いていました。



また、ちょっとしたサプライズがあり、おやつプレートに所属部署の科長やスタッフからのメッセージカードが添えられ、復職を心待ちにしている現場からの声が届けられ、大変喜んで頂きました。

終了後のアンケートでは、

- ・病院の状況が解り復帰する不安が少し楽になった。
- ・復帰や子供を預ける不安を共有できる場が良い。
- ・子供が座ったりハイハイできるのが良かった。
- ・復帰するスタッフへの配慮に感謝する。

など、多くの良い評価を頂きました。一方で、参加者が多く場所が狭いなどの意見もありましたので、来年度に繋げたいと思います。

3時間弱の短い時間でしたが、育児中の情報交換や復職後のイメージ作りの場になったと思います。

看護部では、このような取組みを通して、働くママさんを応援します。



薬剤師法改正に伴う窓口での服薬指導の拡充

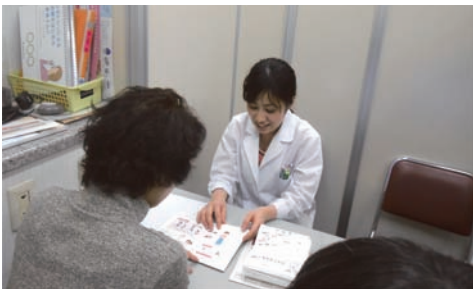
【薬剤師法改正について】

2014年の診療報酬改定で、わが国の医療政策は、医療提供体制の再構築・地域包括ケアシステムの構築を将来構想とし、医療機関の機能分化・強化と連携、在宅医療の充実などを重点課題としました。これに伴い、病院薬剤師は、地域の保険薬局や医療機関と連携して患者さんの入院前から退院後まで含む一連の薬物治療に関わることが一層求められるようになりました。

さらに、同年6月の薬剤師法改正で、薬剤師は情報の提供のみならずその指導義務があることが明文化されました。病院薬剤師は病棟では医師・看護師・その他メディカルスタッフとの連携のもとで入院患者さんの服薬指導を含めた薬学的管理を行い、薬剤部窓口では外来患者さんの服薬指導を行う責務を負うことになったのです。

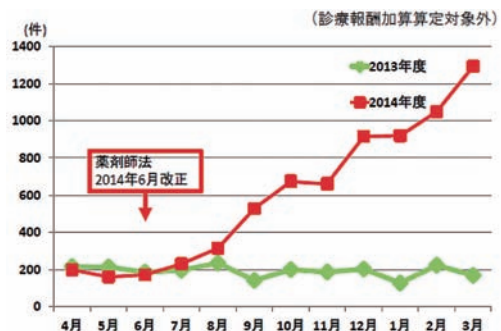
【当院での外来服薬指導について】

当院では外来処方箋を院外に出していないため、外来患者さんに対する服薬指導の義務を当院薬剤部が担っています。患者さんの薬物治療のさらなる適正化のために、2014年6月より、従来とは一線を画した外来窓口での服薬指導方針を決定し努力しています。



2013年度に月平均約200件程度だった服薬指導件数は、2014年6月以降増加の一途を辿り、年度末は6.5倍増の1300件を超え今なお増加を続けています。指導内容は、自己注射薬の手技指導、吸入薬の手技指導、抗凝固薬導入時の服薬指導など多岐にわたり、指導にかかる時間は、長い場合一人の患者さんに1時間に及ぶこともあります。本来、病棟で活動すべき時間とマンパワーを割いているのが実情です。

外来患者に対する服薬指導件数

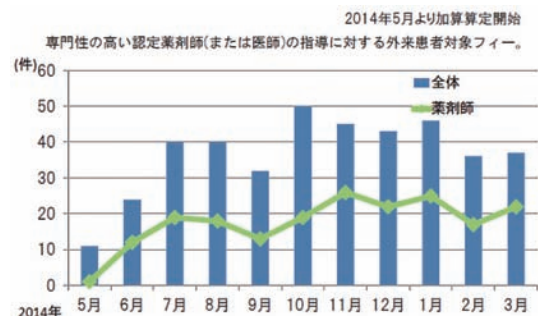


【薬剤師の服薬指導に関連する診療報酬】

病院薬剤師に関連した診療報酬は、「病棟薬剤業務実施加算」「薬剤管理指導料」「麻薬管理指導加算」「退院時薬剤情報管理指導料」と入院患者さん対象のフィーがほとんどです。

外来患者さん対象は2014年4月に新設された「がん指導管理料3」が唯一のものであり、資格を有する薬剤師（または医師）による指導が算定条件となっています。当院薬剤部では外来がん治療認定薬剤師が3名在籍しており、外来患者さんの在宅での安全な治療継続のために、忙しい業務の中でもそれぞれの患者さんの目線に合わせた質の高い服薬指導を行うことにより、2014年度は全体の5割近くの件数を算定することができました。

がん指導管理料3 算定件数



【おわりに】

薬剤師の第一の責務は「患者さんの安全・安心かつ良質な薬物療法の確保」にあります。業務の拡大が続く中でも、日々の研鑽を重ね、今後も患者さん、病院、そして地域に貢献できる薬剤部を目指します。

市民公開講座

第9回 市民公開講座

日時：平成26年6月22日（日曜日）13:00～15:30

場所：はつかいち文化ホールさくらぴあ（大ホール）

趣旨：骨粗しょう症について、予防法や治療法を正しく理解していただくことを目的に、市民公開講座を開催します。

テーマ：骨粗しょう症について考えよう

～長寿社会をよりよく生きるために～

【演題】

1. 「骨粗しょう症とは何じやろう」

整形外科主任部長 鈴木 修身

2. 「私、骨粗しょう症っていわれたんじゃけど」

～一緒にクイズに参加しようや～

脊椎・脊髄センター長 山田 清貴

整形外科医師 松浦 正己

薬剤師 中島 恵子

理学療法士 井場 和敏

管理栄養士 西田 美穂

3. 質疑応答

～日頃、骨粗しょう症について疑問に感じられていることにお答えします～

■会場風景



■参加者：648人

■参加者の感想：

（来場者アンケートより一部抜粋、アンケート回収率70%）

- ・寸劇は、日常の起きることだったので、わかりやすく楽しめた。
- ・日常生活で先生たちの話を聞く機会がないので、講座に参加して勉強になった。
- ・ミニコンサートがすばらしかった。中学生の演奏に元気をもらった。
- ・運動療法が良く理解できた。大変参考になった。
- ・栄養、薬、運動とてもわかりやすかった。



第10回 市民公開講座

日時：平成27年1月25日（日曜日）13：00～15：30

場所：はつかいち文化ホールさくらびあ（大ホール）

趣旨：がんによる身体や心の痛みなどのつらい症状を緩和して、住み慣れた家で過ごせる事を知っていただく為に、公開講座を開催します。

テーマ：がんとともに、自分らしく

～地元の在宅緩和ケアの取り組みについて～

【演題】

1. 特別講演

「マスメディアから見た最期の迎え方」

中国新聞社 文化部 平井 敦子氏

2. シンポジウム

「地元の在宅緩和ケアの取り組みについて」

〈座長〉

勝谷・小笠原クリニック院長 小笠原 英敬

〈シンポジスト〉

JA 広島総合病院 緩和ケア科主任部長

小松 弘尚

木村内科小児科医院院長

木村 泰博

廿日市記念病院院長

狹田 純

廿日市市包括支援センター所長 佐々木智恵美

森川薬局 青葉台店

森川 みか

佐伯地区医師会訪問看護ステーション

岡 恵子

JA 広島総合病院 地域在宅緩和ケアコーディネーター

正畠 忠貴

■会場風景



■参加者：533 人

■参加者の感想：（来場者アンケートより一部抜粋、アンケート回収率 56%）

- ・平井さんの記事をみているので、今回の話も記事にして掲載してほしい。
- ・自宅で最期を迎えたいと思った。
- ・「がん」以外の痛みについても、医療機関を頼ることはもちろんだが、家族がその痛みを理解し家族身内全員の協力が一番大切と思う。
- ・がんになって半年だが、今回の講座で将来の見通しができた。



第5回 オープンホスピタル開催

平成26年11月22日（土）、当院西館及び東館1階フロアにおいて、第5回JA広島総合病院オープンホスピタルを開催しました。当日の来場者は、約360人でした。

オープニングセレモニーに続いて、マリンバデュオ 瞳 & 梓のコンサートが開催され、美しい音色が病院ロビーに響き渡りました。続いて、地御前地区自主防災会の皆様のご協力で餅つき大会が行われ、つくたてのお餅が来場者にふるまわれました。

イベントブースでは、医師や薬剤師による医療相談、健診コーナー、骨密度測定のほか体験型のイベントもあり、内視鏡シミュレーター体験コーナー、脂肪肝チェック、AED体験、市民トリアージコーナー、院内探検も好評でした。小さな子供さんも楽しめるバルーンアートコーナー、おもちゃすくいやJA佐伯中央の即売会、ポップコーン等もあり、どれも大変好評でした。

病院ロビーには、オープンホスピタル開催約1ヶ月前から各部署が日頃の取り組みを紹介するために工夫して作ったポスター44点が展示されていました。来場者には、優秀な作品を選考する投票にご協力いただき、地域住民の方々と院内の選考メンバーでの投票による厳正な審査の結果、最優秀賞、優秀賞を決定しました。

◇最優秀賞

部 署	作品名
臨床研究検査科	ようこそ検査室ワールドへ Part4 細菌検査 呼吸器編

◇優秀賞

部 門	部 署	作品名
医 局 部 門	整形外科	整形外科マイクロサージャリーーどんな手術？どんなことができるの？ー
看 護 部 門	東5階病棟	ちょっと遅すぎるかもよ!! ~ Brain ダッシュ!! ~
コメディカル部門	栄養科	かしこく選ぼう! ~ どれ飲むマップ ~
チーム活動部門	災害対策ワーキングチーム	8.20に学ぶ~減災への道 Part3 ~
住民投票部門	東5階病棟	ちょっと遅すぎるかもよ!! ~ Brain ダッシュ!! ~

来場者のアンケートからは、“楽しかった”“地域の方とのつながりを強く感じた”“やっていることがみんなにわかること、伝えること、同じ目線が大切。来ている人がニコニコして、いいイベントだと思った。”との声が多数寄せられました。

今後もこのイベントが、当院と地域住民の皆様との情報交換の場、交流の場となることを願っています。



第24回 院内バレーボール大会開催

平成26年6月14日(土)、廿日市市スポーツセンターサンチェリーにおいて、第24回院内バレーボール大会が開催されました。

当日は、各部署ごとに結成された20チーム(選手と応援合わせて約470人)が参加して、熱戦が繰り広げられました。各チームはお揃いのユニフォームを着用し、心を一つにして優勝を目指しました。

頑張る選手を全力でサポートする応援団、団結力が高まるイベントとして年々参加者も増加しており、大変盛り上がりました。

各チームの成績は、

Aブロック

優 勝；西5階

準優勝；手術室

Bブロック

優 勝；西6階

準優勝；西4階



第4回 広島西部高校生外科セミナー開催

平成26年8月21日(木)、第4回外科セミナーが開催されました。外科の魅力を知り、関心・理解を深めてもらうために毎年開催しているもので、今年度で4回目の開催となりました。当日は、近隣の高校生29名が参加されました。セミナーでは、若手外科医の1日の紹介に始まり、実際の手術で使用する器具を使った模擬手術体験や実習キットを使用した縫合・糸結び体験、外科医も滅多に使用することの出来ない内視鏡外科手術トレーニング用シミュレータの操作等の体験をしました。中でも模擬手術体験では、当院職員が趣向をこらし作成した模型の中に置かれた枝豆を、内視鏡手術器具を使いリレー形式でゴールまで運ぶタイムトライアルをグループごとに行い、楽しみながら体験することができました。

参加者からは、「ドラマでしか見たことのない器具を実際に使用できて良かった」、「今後の勉強の励みになった」、「医者になりたい思いが強くなった」等の声があり、今年度も大盛況のうちに幕を閉じました。



ふれあい看護体験

毎年5月12日は「看護の日」です。日本看護協会はナイチンゲールの誕生日である5月12日を看護の日と定め、その前後の1週間を「看護週間」として気軽に看護にふれていただける楽しい行事を全国各地で開催しています。「ふれあい看護体験」は、その一環として病院などの保健医療福祉施設が広く市民にドアを開き、見学や簡単な看護体験、患者さんとの交流などを行うイベントです。

当院では平成26年8月1日（金）、「ふれあい看護体験」を実施し、63名の高校生が参加しました。

看護部長の話聞き、看護の魅力満載のDVDを鑑賞して看護についての理解を深めた後、あこがれの白衣に着替えて看護体験を行いました。実際の看護体験を通して、「看護師は会話が難しい患者さんの気持ちをきちんと読み取ってすごいと思った」「今日の体験で看護師になりたいという思いがより強くなった」などの感想がありました。看護師を目指す高校生が、看護師になりたい気持ちを確認、より強く願う。貴重な体験ができた一日となりました。



サマーインターンシップ実施

看護科では、平成26年7月下旬から約1ヶ月間、看護学生を対象にサマーインターンシップを行いました。看護師を目指す人たちに職場体験をしていただき、就職後スムーズに医療現場に入ってもらえるようにと毎年企画しているものです。

また、「私達の看護」を学生に伝えたい、見てもらいたい、医療チームメンバーと触れ合ってもらいたいという思いもあり、多くの看護学生が参加できるよう夏休みの時期に実施しています。

受入れ期間中は、各自の都合に合わせて1日間から最長5日間の参加が可能です。今年は40名の看護学生を受入れました。

インターンシップでは、清拭・足浴や食事の介助など患者さんの身の回りのケアをしたり、患者さんとコミュニケーションをとったり、シーツ交換や環境整備などを看護師と一緒にを行います。

参加した学生からは、「実習の時とは違った」「詰め所の雰囲気を感じることができた」「細やかに指導してもらった」などの意見がありました。当院で働く姿を想像し、イメージを具体化しながらの職場体験となりました。

■ Annual Report 2014 2014年(平成26年)度 年 報 ■

病 院 の 概 要

病院概況

病院基本理念

私たちは人間愛に基づいた医療を実践し地域社会に貢献します

基本方針

- 1 地域の医療機関と密接に連携した医療を提供します
- 2 医療の安全性を高め安心できるチーム医療を提供します
- 3 最新の知識と技術を習得し質の高い医療を提供します
- 4 説明と同意に基づき人権を尊重した医療を提供します

病院の概要

病院名	広島県厚生農業協同組合連合会 広島総合病院
所在地	〒738-8503 広島県廿日市市地御前1丁目3番3号 TEL (0829)36-3111 FAX (0829)36-5573
開設年月日	1947年12月23日
許可病床数	561床（一般）
開設者	広島県厚生農業協同組合連合会 代表理事理事長 石原照彦
病院長	藤本吉範

土地・建物の状況	区分	敷地面積	建物延面積
	病院	12,825.33㎡	32,123.09㎡
	住宅地	3,967.47㎡	3,632.41㎡
	計	16,792.8 ㎡	34,815.15㎡
診療科目 (計37科)	内科、循環器内科、呼吸器内科、消化器内科、内視鏡内科、腎臓内科、糖尿病・代謝内科、緩和ケア内科、化学療法内科、神経内科、精神科・心療内科、小児科、小児アレルギー科、外科、消化管外科、肝・胆・膵外科、乳腺外科、整形外科、脳神経外科、呼吸器外科、心臓・血管外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻いんこう科、リハビリテーション科、麻酔科、救急科、腹部救急科、脳血管救急科、心臓血管救急科、放射線科、放射線治療科、放射線診断科、歯科口腔外科、形成外科		

西 棟		階	東 棟	
内(呼消)・放射線治療科	55床	8	内(内分泌・腎・透析)	44床
内(消化器)・画像診断部	55床	7	内(呼)・整・呼吸器外科(脳)	43床
外・(泌)	54床	6	泌・外・皮・精・心療内科	51床
整形外科	55床	5	脳外・歯科口腔外科	52床
産婦・外科系(小)・ドック	46床	4	小・耳・眼	43床
地域救命救急センター	19床	3	内(循環器)・心外・麻酔	44床
計	284床			277床
計561床				

指定等	・病院群輪番制病院 ・災害拠点病院 ・脳死臓器提供病院 ・救急指定病院（救急告示番号第374号） ・臨床研修指定病院 ・地域医療支援病院 ・地域がん診療連携拠点病院 ・DPC対象病院 ・地域救命救急センター ・へき地医療拠点病院
併設事業所	・訪問看護ステーション ・居宅介護支援事業所

施設基準	■基本診療料 ・一般病棟入院基本料（7対1） ・総合入院体制加算2 ・臨床研修病院入院診療加算 ・救急医療管理加算 ・超急性期脳卒中加算 ・妊産婦緊急搬送入院加算 ・診療録管理体制加算2 ・医師事務作業補助体制加算2(15対1) ・急性期看護補助体制加算(50対1) ・療養環境加算 ・重傷者等療養環境特別加算 ・がん診療連携拠点病院加算 ・栄養サポートチーム加算 ・医療安全対策加算1 ・感染防止対策加算1 ・患者サポート体制充実加算 ・ハイリスク妊娠管理加算 ・ハイリスク分娩管理加算 ・退院調整加算 ・救急搬送患者地域連携紹介加算 ・救急搬送患者地域連携受入加算 ・呼吸ケアチーム加算 ・病棟薬剤業務実施加算 ・データ提出加算2 ・救命救急入院料1 ・ハイケアユニット入院医療管理料1 ・小児入院医療管理料4 ・短期滞在手術基本料2 ■特掲診療料 ・糖尿病合併症管理料 ・がん性疼痛緩和指導管理料 ・がん患者指導管理料1 ・がん患者指導管理料2 ・がん患者指導管理料3 ・糖尿病透析予防指導管理料 ・外来リハビリテーション診療料 ・外来放射線照射診療料 ・ニコチン依存症管理料 ・開放型病院共同指導料（Ⅰ） ・地域連携診療計画管理料 ・がん治療連携計画策定料 ・がん治療連携管理料 ・肝炎インターフェロン治療計画料 ・薬剤管理指導料 ・医療機器安全管理料1 ・医療機器安全管理料2 ・歯科治療総合医療管理料 ・HPV 核酸検出及び HPV 核酸検出（簡易ジェノタイプ判定）	・検体検査管理料（Ⅳ） ・時間内歩行試験 ・ヘッドアップティルト試験 ・小児食物アレルギー負荷検査 ・内服点滴誘発試験 ・画像診断管理加算1 ・CT 撮影及び MRI 撮影 ・冠動脈 CT 撮影加算 ・心臓 MRI 撮影加算 ・抗悪性腫瘍剤処方管理加算 ・外来化学療法加算1 ・無菌製剤処理料 ・心大血管疾患リハビリテーション料（Ⅰ） ・脳血管疾患リハビリテーション料（Ⅰ） ・運動器リハビリテーション（Ⅰ） ・呼吸器リハビリテーション（Ⅰ） ・がん患者リハビリテーション料 ・エタノールの局所注入（甲状腺） ・透析液水質確保加算1 ・脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術 ・乳がんセンチネルリンパ節加算 ・経皮的冠動脈形成術 ・経皮的冠動脈ステント留置術 ・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術 ・大動脈/バルーンパンピング法（IABP 法） ・経皮的冠動脈遮断術 ・ダメージコントロール手術 ・腹腔鏡下肝切除術 ・早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術 ・体外衝撃波胆石破砕術 ・体外衝撃波腎尿管結石破砕術 ・体外衝撃波碎石破砕術 ・膀胱水圧拡張術 ・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術 ・医科点数表第2章第10部手術の通則の5及び6（歯科点数表第2章第9部手術の通則4を含む）に掲げる手術 ・輸血管理料Ⅱ ・人口肛門・人口膀胱造設術前処置加算 ・麻酔管理料（Ⅰ）（Ⅱ） ・放射線治療専任加算 ・外来放射線治療加算 ・高エネルギー放射線治療 ・1回線量増加加算 ・強度変調放射線治療（IMRT） ・直線加速器による定位放射線治療 ・病理診断管理加算1 ・口腔病理診断管理加算1
認定	日本医療機能評価機構（区分4 Ver.6.0） DMAT 指定医療機関（災害派遣医療チーム）	

平成27年4月1日現在

JA 広島総合病院のあゆみ

昭和21年6月佐伯郡内の町村長および町村農業会長の代表の方々が県農業会を訪れ、廿日市方面の緊急対策として原子爆弾による負傷者に対する医療施設を設置するよう強い働きかけがあった。そのため佐伯郡37ヶ町村および農業会が出資して地御前村元旭兵器(株)の工員宿舎を買収し農業会病院の誘致を決定する。

昭和22年12月23日、4診療科、スタッフ総員20名、60床の病床を有する農業会佐伯病院として開設された。その後、昭和37年と40年に相次いで増床と診療体制の充実を図り、昭和41年には総合病院の認可を受け、名称も佐伯総合病院と改称された。

爾来、同地域は広島市のベッドタウンとして開発が進み、診療圏人口の増加に伴って施設の狭隘化を来したため、昭和54年には大幅な増改築が行われ、これを機会に名称も現在の広島県厚生農業協同組合連合会 広島総合病院と改められた。その後更なる人口増加に伴う医療需要の増大により地域の中核的病院の性格を持つに至り、昭和55年には二次救急病院の指定を受け、また昭和59年および平成元年には増築増床工事が実施され430床となる。

更に平成9年5月には、施設の狭隘化と老朽化に対する対策として新棟建設と既存棟の改築工事が開始され、平成10年10月末に新棟完成、平成12年2月には全工事が完了し、同年4月より578床となる。その後透析用ベッドへの転用により平成15年に570床、外来化学療法用ベッドに転用により平成20年に561床となる。

広島西二次保健医療圏の三次救急患者への速やかな高度医療の提供と、広島都市圏域全体の救急医療体制の充実強化のため、平成22年8月から平成23年2月にかけて救急棟新築工事が行われ、平成23年4月には「地域救命救急センター」19床を開設した。

昭和21年	8月	佐伯郡37ヶ町村および農業会が出資して地御前村元旭兵器(株)の工員宿舎を買収し農業会病院の誘致を決定
昭和22年	12月	診療科目(内科・外科・耳鼻科・歯科)、病床数60床、職員20名で広島県農業会佐伯病院として発足
昭和23年	4月	婦人科開設
昭和23年	6月	眼科新設
昭和24年	12月	結核病棟開設(一般49床、結核11床)
昭和25年	5月	外来診療室拡張のため(一般44床、結核11床)計55床に変更
昭和26年	3月	一般病床25床、結核病床25床計50床に変更
昭和29年	6月	一般病床37床、結核病床42床計79床に変更
昭和31年	7月	小児科新設
昭和37年	1月	病棟増築(一般130床、結核20床)
昭和37年	6月	皮膚泌尿器科新設
昭和37年	7月	整形外科新設
昭和40年	2月	病棟増築(一般160床、結核20床)
昭和41年	2月	総合病院の認可を受け、佐伯総合病院となる
昭和49年	9月	結核病床20床一般病床へ転用、16床増床し196床に変更
昭和54年	1月	脳神経外科新設、皮膚泌尿器科が分離独立し皮膚科・泌尿器科となる
昭和54年	4月	現在の広島県厚生農業協同組合連合会広島総合病院に名称変更
昭和55年	2月	第二次救急医療指定病院となる
昭和59年	7月	病棟増築100床(一般370床)
昭和60年	4月	麻酔科新設
昭和60年	9月	放射線科(治療部門)新設
昭和60年	10月	放射線治療棟完成
昭和63年	4月	心臓血管外科新設
昭和63年	7月	放射線科(診断部門)開設
平成元年	4月	精神科・心療内科新設
平成元年	4月	大竹市栗谷診療所の委託運営開始
平成元年	6月	病棟増築60床(430床)
平成2年	8月	形成外科新設
平成2年	11月	MRI棟完成
平成4年	3月	院内保育園開園
平成6年	5月	訪問看護ステーション開設
平成9年	2月	災害拠点病院指定
平成9年	9月	オーダーリングシステム稼働
平成10年	9月	広電・JA広島病院前駅開業式
平成10年	10月	新館西病棟落成
平成11年	4月	病棟増床59床(489床)
平成11年	11月	居宅介護支援事業所開設
平成12年	4月	病棟増床89床(578床)
平成12年	6月	開放型病床(20床)届出
平成13年	10月	呼吸器外科新設
平成15年	2月	一般病床8床を透析用ベッドに転用(570床)
平成15年	10月	臨床研修指定病院指定
平成16年	8月	地域医療支援病院
平成18年	8月	地域がん診療連携拠点病院指定
平成18年	8月	電子カルテシステム稼働
平成20年	4月	一般病床9床を外来化学療法用ベッドに転用(561床)
平成21年	4月	DPC対象病院
平成22年	4月	センター制度の導入(救急センター、循環器・呼吸器疾患センター、一般外科治療センター、健康管理センター、急性期リハビリテーションセンター)
平成22年	4月	神経内科新設
平成23年	4月	地域救命救急センター開設(19床)
平成23年	9月	へき地医療拠点病院
平成25年	2月	糖尿病センター
平成25年	4月	脊椎脊髄センター
平成25年	10月	内視鏡センター

呼吸器内科

■スタッフ

主任部長 近 藤 丈 博 (1998 年卒)
日本呼吸器学会専門医
日本内科学会認定医

部 長 河 野 秀 和 (1999 年卒)
日本呼吸器学会専門医
日本内科学会認定医

医 員 黒 住 悟 之 (2010 年卒)

医 員 下 地 清 史 (2012 年卒)

■診療科紹介

当院呼吸器内科では肺がんによって代表される悪性腫瘍の診療だけでなく、多様な呼吸器疾患に伴う急性、慢性の呼吸不全や生理学的な呼吸機能障害、能力障害、社会的ハンディキャップに対する広い意味での医療的な支援形成を目指しています。今後は急性期にとどまらず、慢性期の治療とケア、リハビリテーション、在宅呼吸ケアなどと広がる有機的な支援体制が一層必要となってきています。「包括ケア」というキーワードは、このような状況から必然性を持って浮上してきました。この10年余りでICU、一般病棟、在宅での人工呼吸が大きく変遷しつつあります。1990年代半ばから非侵襲陽圧換気療法(NPPV)の導入が始まり、現在では慢性呼吸不全急性増悪時の人工呼吸の第一選択がNPPVとなり、スタッフの習熟とともに、一般呼吸器病棟でも当たり前のよう導入されるようになりました。そのような状況を背景として今後、急性期から慢性期にかけて「包括的呼吸ケア」という概念は今後一層の重要性を増してくるものと考えます。当科ではこのような時代の要請に合わせて、医師だけでなく病棟スタッフの教育・指導を行っています。

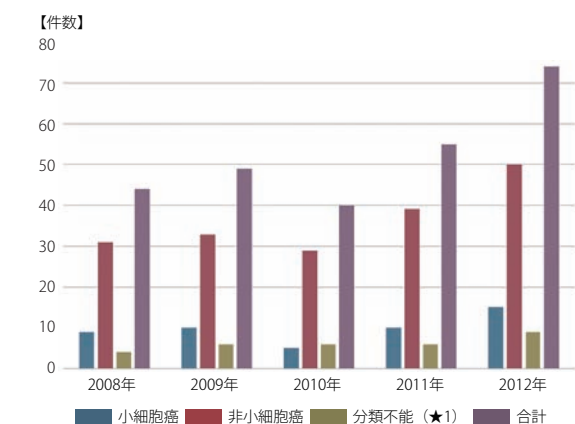
当科では以下のように呼吸器疾患の加療にあたっています。

【肺がん】

例えば初診から治療まで当院では呼吸器外科と放射線治療科と連携し最速で2週間程で診断後治療に

入れます。市内の大病院では治療まで一ヶ月前後かかるにもかかわらず、まだまだこの地域の患者さん達は市内の病院へ目を向けていると思われます。当院も市内と変わらないレベルの治療を行うことができることを知っていただき、もっと当院で肺がんの方を診てあげることができればと思います。

また、局所麻酔下胸腔鏡などの最新の診断・治療技術を積極的に導入しています。



呼吸器内科における新規肺癌患者の推移 (2008～2012)



局所麻酔下胸腔鏡による実際の処置中の写真

【感染症】

当科で扱うのは主に肺炎です。高齢化の影響で誤嚥性肺炎なども多く、繰り返される傾向にあり最近では治療に難渋する傾向があります。また肺結核を早期診断し、外来加療を行ったり結核病棟のある病院への紹介も行っています。また最近増加している非結核性抗酸菌症の加療も行っています。

【気管支喘息】

吸入ステロイドの普及に従い、10年前と比べ喘息死は半数以下となっていますが、まだまだ吸入ステロイドは普及していないように思います。大学などと連携し、この地域の喘息患者さんに良い治療があることを知ってもらうことが大事だと思っています。

【COPD（慢性閉塞性肺疾患）：肺気腫、慢性気管支炎など】

マスクミを通じての啓発運動により、ここ数年でだんだんこの疾患名も知られてきました。日本人の場合は喫煙が原因です。当院では早期診断し、吸入薬などによる加療や必要に応じて在宅酸素療法の導入を行っています。

【びまん性肺疾患】

特発性間質性肺炎などです。早期診断し、薬物が効くタイプを鑑別するのが大事ですが当科では気管支鏡や画像診断で早期発見に努めています。

【睡眠時無呼吸症候群】

外来または入院でPSG検査を行い耳鼻咽喉科とも連携しつつ、CPAP等の導入を行っています。最近では徐々に診療される開業医の先生方も増えて来られたので逆紹介も行いたいと思っています。

その他にも様々な分野の呼吸器の疾患がありますが、広島大学病院呼吸器内科や市中の病院の呼吸器科と連携をはかり、最新の知見を吸収しつつ広島県西部地区の医療に貢献できればと思っています。

循環器内科

■ スタッフ

心臓血管内治療科主任部長

辻 山 修 司

主任部長 前 田 幸 治

主任部長（心臓カテーテル室担当）

荘 川 知 己

主任部長代理

久留島 秀 治

医 員 赤 澤 良 太

医 員 原 田 崇 弘

■ 診療科紹介

平成 26 年 4 月現在、総勢 6 名の科です（日本循環器学会専門医 3 名・日本心血管インターベンション治療学会指導医 1 名）。また日本循環器学会認定循環器および心血管インターベンション学会研修施設です。

対象となる主な疾患は、心筋梗塞・狭心症などの冠動脈疾患、心不全、高血圧、高脂血症、不整脈などの循環器疾患の診断と治療を行っています。

バイパス術、弁置換術など外科的治療が必要な場合は心臓血管外科医との合同カンファレンスで治療方針を検討しています。また開業医の先生方との病診連携に重点を置き、年 2 回の病診連携の会を開催し、その連携を深めています。また地域に貢献出来るよう急性期循環器疾患に対して夜間も待機体制をとり、地域救命救急センターの循環器領域を担っています。

■ 診療実績

平成 25、26 年度の当科の実績を表に示します。平成 26 年度は、心臓カテーテル検査（診断を含）553 例を施行し、そのうち経皮的冠動脈カテーテルインターベンション（PCI）症例 208 例で、急性心筋梗塞例も 34 件含まれています。また PCI 時には狭窄部の形態・プラーク性状分析、適切なステント留置のため血管内超音波（IVUS）をほぼ全症例で使用しています。

高度の冠動脈石灰化病変に対して Rotablator も施

行しています。大動脈内バルーンパンピング（IABP）、経皮的心肺補助装置（PCPS）も重症例には施行しています。

末梢血管の閉塞性動脈硬化症に関しても心臓血管外科と協力して、血管内治療を積極的に行っています。

	平成25年度	平成26年度
年間延べ外来患者数	14,339	13,619
年間延べ入院患者数	924	887
急性心筋梗塞	79	84
【生理学的検査】		
運動負荷試験	44	521
ホルター心電図	280	414
経胸壁心エコー	4,948	4,735
経食道心エコー	37	20
【心臓カテーテル検査】		
心臓カテーテル検査総数	622	553
緊急カテーテル治療（PCI）	85	138
待機的 PCI	177	70
【末梢血管カテーテル治療】		
経皮的末梢血管形成術（PTA）	31	34
経皮的腎動脈形成術（PTRA）	2	1
【不整脈関連】		
電気生理学的検査	14	26
ペースメーカー植込み	27	36
【非侵襲的冠動脈検査】		
心臓核医学検査	479	434
冠動脈 CT	647	632
【心臓リハビリ】		
急性心筋梗塞 / 心不全	57/40	65/134

また非侵襲的検査も多数実施しています。64 列心臓 CT 検査（カテーテル検査数に匹敵する 632 例）、心臓核医学検査（434 例）を施行し、カテーテル検査の補助診断として活用しています。また 4,735 件を超える心臓超音波検査や 20 例の経食道心エコー検査、ホルター心電図の検査も 414 例施行しています。

また心臓血管外科との医師により心臓リハビリ（心筋梗塞後／心不全）を積極的に進め、65 / 134 例の実績でした。

【将来展望】 地域救急救命センターと協力して、現在も循環器領域の救急患者に対応しており、今後も適切かつ積極的な医療活動を行っていきます。

腎臓内科

■スタッフ

主任部長 荒川 哲次 (1998 年広島大学卒業)
日本内科学会総合内科専門医
日本腎臓学会腎臓専門医・指導医

医 員 田村 亮 (2011 年広島大学卒業)
日本内科学会認定内科医

医 員 藤野 修 (2012 年広島大学卒業)

医 員 宮崎 真美 (2012 年島根大学卒業)

■診療科紹介

当院腎臓内科は 2014 年 4 月より当院にて初期研修を修了した藤野医師、また広島大学病院にて初期研修を修了した宮崎医師が新たに着任し、先任の荒川医師、田村医師と合わせ現在 4 人体制で診療を行っております。

当院腎臓内科は各医療機関の先生方から多くの患者さんを紹介して頂いており、外来および入院患者数は県内有数です。また、当院は日本腎臓学会研修施設および日本透析医学会専門医制度認定施設に認定されております。

現在、日本には約 30 万人の透析患者さんがおり、これは国民 450 人に 1 人に相当します。近年の高齢化社会を反映しての糖尿病性腎症と高血圧性腎硬化症の増加に伴い、現在も年 1 万人弱程度の割合で透析患者数は増加しており、今後もさらに増加することが予想されています。

また、慢性的に腎機能が低下している透析予備軍を「慢性腎臓病」と呼び、現在、日本には約 1300 万人の慢性腎臓病患者がいてと推定されています。これは、成人の約 8 人に 1 人にあたる数ですが、こちらも透析患者と同様に急激に増加傾向にあります。「慢性腎臓病」はこれだけ頻度の高い国民病であるにもかかわらず、患者さんの大部分は何の症状もないまま、徐々に腎機能が低下していき、末期腎不全へと進行していきます。また、慢性腎臓病は透析予備軍であるだけでなく、心・血管疾患の発症と生命予後に強く影響を与えていることが多くの研究

で明らかにされており、近年慢性腎臓病の早期診断及び早期治療の重要性が叫ばれています。

当科では、原発性糸球体・尿細管間質性疾患、高血圧、糖尿病、膠原病、血液疾患などに伴う全身性腎疾患、急性腎障害、高血圧、電解質異常など、あらゆる腎臓病に対し幅広く診療に当たっています。腎炎に対しては腎生検を中心とした診断とその診断結果の基づいた集学的な治療を、また腎不全に対しては食事・薬物療法などによる保存的加療および透析療法を実施しています。

透析療法に関しては積極的に腹膜透析 (PD) 導入を推進しているのが当院の特徴であり、また、血液透析 (HD)、各種疾患に対するアフェレシス療法も積極的に行っています。

■診療実績

2014 年度実績

腎生検数	38 例
血液透析患者数 (延べ)	5399 件
腹膜透析患者数	17 名

■教育・研修活動

研究会および学会への参加および発表などを積極的に行っています。また、若手に対するセミナーなどへの積極的な参加を奨励しています。

糖尿病代謝内科・糖尿病センター

■スタッフ

主任部長 石 田 和 史 (1986 年卒 昭和 63 年～)
日本糖尿病学会研修指導医・専門医

部 長 浅 生 貴 子 (2002 年卒 平成 24 年 4 月～)
日本糖尿病学会専門医

医 員 木ノ原 周 平 (2007 年卒 平成 25 年 4 月～)
内科認定医

医 員 堀 江 正 和 (2011 年卒 平成 25 年 4 月～)

■診療状況

症例数：定期通院外来患者数 約 2,600 名
糖尿病 外来定期通院患者 計約 2,370 名
 (平均年齢 67.9 歳、平均罹病期間 15.8 年)
 (1 型糖尿病 6%、2 型糖尿病 92%、その他 2%)
 糖尿病入院患者 159 名
 2008 年 8 月に開始した広島県西部地区糖尿病連携
 パス紹介患者総数 350 名 (うち 67%が継続中)

★インスリン治療 (経口血糖薬併用を含む)
 31.8% / 以下に内訳を示す
 1 型 (SPIDDM を含む) : 5 回法 7.4%、4 回法
 69.5%、3 回法 14.7%、2 回法 8.4%
 2 型 : 5 回法 0.2%、4 回法 14.8%、3 回法
 20.6%、2 回法 50.8%、1 回法 13.6%

★2 型糖尿病における治療内容内訳 (全患者に占
 める割合を示す、重複あり)
 SU 薬 33.6%、グリニド薬 5.3%、BG 薬 48.7%、
 チアゾリジン薬 17.2%、 α GI 薬 11.3%、DPP-4
 阻害薬 49.5%、SGLT2 阻害薬 0.3%、GLP-1 受
 容体作動薬 2.8%、インスリン治療 28.1%、食事・
 運動療法のみ 12.1%

★定期通院患者の HbA1c 年間平均値 (2015 年 3
 月時点) 1 型 : 7.99% 2 型 : 7.28%

★定期通院患者の合併症の状況

1) 神経障害 (当院オリジナルの CPT による病期分類)
 ▶ 0 期 (なし) 29.2%
 ▶ 1 期 (知覚過敏期) 10.6%
 ▶ 2 期 (知覚概ね正常 & アキレス腱反射低下) 37.4%
 ▶ 3 期 (軽度知覚鈍麻期) 13.1%
 ▶ 4 期 (中等度知覚鈍麻期) 5.0%
 ▶ 5 期 (高度知覚鈍麻期) 4.0%
 ▶ 判定不能 (脳血管障害・整形外科的疾患など) 0.7%

2) 網膜症

▶ なし 72.4%
 ▶ 単純網膜症 22.4%
 ▶ 増殖前網膜症 1.0%
 ▶ 増殖網膜症 3.5%
 ▶ 不明 0.8%

3) 腎症

▶ 1 期 68.5%
 ▶ 2 期 15.0%
 ▶ 3 期 7.4%
 ▶ 4 期 4.4%
 ▶ 5 期 1.4%
 ▶ 判定不能 (その他の腎疾患など) 3.3%

4) 大血管障害 (動脈硬化症)

▶ 脳血管障害 8.9%
 ▶ 冠動脈疾患 9.2%
 ▶ 閉塞性動脈硬化症 4.7%

甲状腺疾患 約 220 名 (バセドウ病、慢性甲状腺炎のみ)

※甲状腺腫瘍病変は他科で取り扱い

下垂体機能低下症および副腎機能低下症 若干名

■研究活動

受託研究

1) 糖尿病網膜症合併高コレステロール血症患者を
 対象としたスタチンによる LDL-C 低下療法 (通常
 治療 / 強化治療) の比較研究 (EMPATHY 試験)

研究テーマ

1) 電流知覚閾値検査 (CPT) を用いた糖尿病神経障
 害の評価・長期成績 (治療戦略を視野に入れた病
 期分類確立とその応用、インクレチン関連薬の神
 経障害進展阻止に関する有用性の検討)

2) 諸種インスリンアナログ製剤の臨床効果の比較
 研究 (リスプロ mix25 とアスパルト 30mix の相違、
 リスプロ mix25 とリスプロ mix50 のテーラーメー
 ド的使い分けへの試み、デグルデクと他の持効型
 インスリンアナログの相違)

3) 各種 DPP-4 阻害薬の臨床効果の比較

4) SGLT2 阻害薬の臨床効果と有害事象の検討 (体
 組成変化にも着目)

消化器内科

■ スタッフ紹介

- 石田 邦夫 (Kunio Ishida) 1972 年卒
 参与
 認定内科医、消化器病学会専門医
 肝臓学会専門医
- 徳毛 宏則 (Hironori Tokumo) 1980 年卒
 副院長、消化器内科主任部長、内視鏡センター長
 認定内科医、消化器病学会専門医・指導医
 消化器内視鏡学会専門医・指導医
- 小松 弘尚 (Hironao Komatsu) 1985 年卒
 内視鏡科主任部長、緩和ケア科主任部長
 認定内科医、消化器病学会専門医・指導医
 消化器内視鏡学会専門医・指導医
- 藤本 佳史 (Yoshifumi Fujimoto) 1993 年卒
 肝胆道内科主任部長、消化器内科部長
 認定内科医、消化器病学会専門医・指導医
 胆道学会認定指導医
- 古土井 明 (Akira Furudoi) 1993 年卒
 食道胃腸内科主任部長、消化器内科部長
 総合内科専門医、消化器病学会専門医・指導医
 消化器内視鏡学会専門医
- 野中 裕広 (Michihiro Nonaka) 1997 年卒
 消化器内科部長
 認定内科医、消化器病学会専門医
 肝臓学会専門医
- 冨永 明子 (Akiko Tominaga) 2010 年卒
 消化器内科医員
- 宮森 純子 (Junko Miyamori) 2010 年卒
 消化器内科医員
- 若井 雅貴 (Masaki Wakai) 2011 年卒
 消化器内科医員

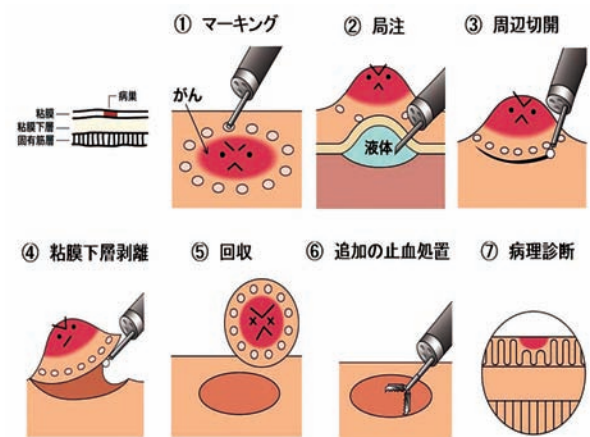
■ 診療科紹介とトピックス

消化器内科の診療スタッフは総勢 9 名となっています。消化器といっても多数の臓器があり、消化器内科が担当する疾患は多岐にわたります。JA 広島総合病院消化器内科では各臓器領域の専門指導医がスタッフ間で連携を取りながら診療にあたっており、すべての消化器疾患に適切に対応することができる体制となっています。

平成 25 年 10 月開設された内視鏡センターでは、検査処置件数の増加とともに、診療内容のさらなる充実した体制となっています。経鼻内視鏡など人に優しい内視鏡機器の充実、安楽な内視鏡検査処置を

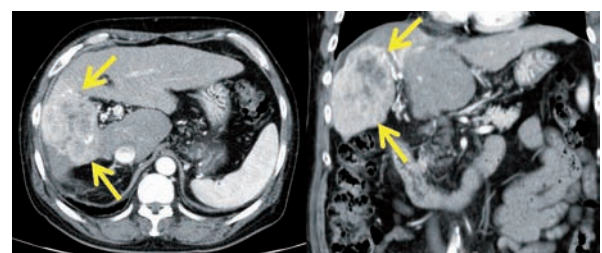
目的として二酸化炭素送気による検査や鎮静麻酔下での内視鏡処置を行っています。

食道や胃腸といった消化管の分野では、早期癌に対して内視鏡的粘膜下層剥離術 (ESD) という侵襲の少ない革新的な方法での切除件数も増加しています。下部消化管内視鏡でも同様にこの完全切除が見込める内視鏡的粘膜下層剥離術 (ESD) を多数の症例で実践しています。また、胃瘻に関しては全国的に先進的な取り組みを行っている施設として知られています。



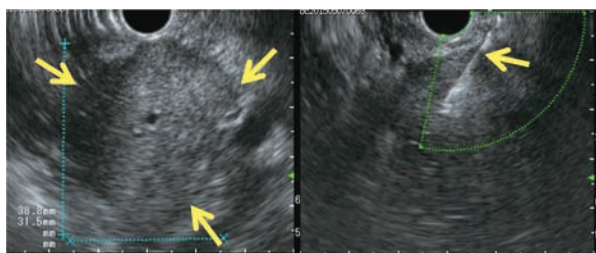
〈図 1. 胃癌を ESD で完全切除〉

肝臓領域ではウィルス性肝炎に対しての PEG インターフェロンや核酸アナログ製剤など最新の治療など、ガイドラインに沿った診療を行っています。最近話題の非アルコール性脂肪性肝炎 (NASH) に対しても積極的に診療しており、全国に先駆けて「NASH 脂肪肝専門外来」を平成 26 年 7 月に立ち上げました。肝臓癌に対しては、各患者さんの病状を十分に検討した上で、内科的な治療法であるラジオ波焼灼療法 (RFA) など実施しています。



〈図 2. 進行した肝細胞癌〉

膵・胆道領域では、十二指腸内視鏡を使つての診断（ERCP）や各種治療（ESTやERBD）などに加え、超音波内視鏡を使つた細胞診検査（EUS-FNAB）も活発におこなっています。膵癌・胆道癌の患者さんやご家族に対しての「膵がん胆道がん教室」は軌道に乗り、全国から注目され高い評価を受けています。



〈図3. 膵体部癌をRUS-FNAで診断〉

当科はこれらの診療実績が認められており、関連する各学会から認定施設として指定されています。日本消化器病学会認定施設、日本消化器内視鏡学会認定施設、日本老年医学会認定施設、日本胆道学会認定施設、PEG在宅医療研究会認定施設管理施設などです。

地域のかかりつけの先生との連携を充実させ患者さんを中心に地域で診療していくという理念を実現するために始めたRIGID Net（地域相互消化器医師ネットワーク）は定期的に開催され、すでに10回の講演会や症例検討会をおこないました。当院はがん診療連携拠点病院です。院内で毎週開催しております「Cancer Board（多科連携消化器癌診療検討会）」を地域の先生方とも共有できる形を目指して「Cancer Board Open Conference（西部地区がん診療オープンカンファレンス）」を年に2回定期的に開催し地域連携を深めています。その他にも「西部地域食道胃腸疾患研究会」も定期的に開催しています。

JA広島総合病院消化器内科は、患者さん本意の診療をモットーに最先端の医療を提供し地域に貢献してまいります。

当科の最新情報は右記消化器内科フェイスブックをご覧ください。

■研究活動

広島総合病院消化器内科は、実地臨床の中で積極的に臨床研究を行い本誌別記のごとく多数の学会発表や論文での報告を行っています。

■検査実績

消化器内科・内視鏡センター検査処置件数（2014年度）	
上部消化管内視鏡検査（含小腸内視鏡）	4514
上部消化管内視鏡処置（含EUS）	752
十二指腸内視鏡検査処置（ERCP等）	453
小計	5719
下部消化管内視鏡検査	1520
下部消化管内視鏡処置治療	861
小計	2381
全消化管検査処置合計	8100
腹部超音波検査（含造影US）	4140
腹部超音波下処置	138
超音波関連検査処置合計	4278
その他（造影等）	138
消化器内科検査処置合計	12516



フェイスブック <https://www.facebook.com/GH.JAHGH>

小児科

■スタッフ

主任部長 岡 畠 宏 易

資格 小児科専門医、医学博士、日本アレルギー学会指導医、
日本アレルギー学会専門医、臨床研修指導医

専門 小児アレルギー（喘息、食物アレルギー）

部 長 辻 徹 郎

資格 小児科専門医、日本アレルギー学会専門医

専門 小児アレルギー（喘息、食物アレルギー）

部 長 吉 野 修 司

資格 小児科専門医

専門 小児アレルギー

部 長 田 邊 真奈美

資格 小児科専門医

専門 小児アレルギー、新生児

嘱託医師 中 畠 千恵子

資格 小児科専門医、心の相談医、産業医、臨床研修指導医

専門 小児神経（てんかん）、小児内分泌（成長ホルモン）

■診療科紹介

2014年3月に樋口公章が退職、中国労災病院小児科に転勤し、同年4月よりJA尾道総合病院小児科から辻徹郎が着任しました。また、2014年9月に藤井寛が退職、県立広島病院小児腎臓科に転勤し、同年10月より広島赤十字原爆病院小児科から吉野修司が着任し、小児アレルギーの研修を開始しました。辻徹郎は、小児アレルギー疾患を専門としていますが、小児科全般、新生児医療に深い知識を持ち、当科の医療レベル向上に寄与し始めました。また、吉野修司は、新生児医療に精通しており、辻、吉野、田邊の3名で当院の新生児医療の向上に向け、活動しています。当科は、常勤医師4名全員が小児アレルギー疾患を専門としており、全国的なレベルでの検査、治療体制の確立により、広島県西部の小児アレルギー疾患の中核として活動することをこれからの目標としています。

2014年9月以後は、岡畠（主任部長）、辻（部長）、吉野、田邊、中畠（嘱託）の5名体制で小児科医療をおこなってきました。

当科の特色は以下の3点です。

- ①二次医療機関として、入院患者受け入れ機関であること。
- ②小児領域専門診療が可能であること。（特に小児神経、小児アレルギー）
- ③NICUは設置していないが、院内出生の病的新生児への迅速な対応ができること。

常勤スタッフが4名のため、小児時間外救急には対応しておりませんが、重症児の救急車での搬送受け入れは救急センタースタッフと連携して行っています。

■診療実績

成長ホルモン負荷試験 09年35件、10年23件、11年35件、12年27件、13年34件、14年29件

脳波 09年530件、10年517件、11年528件、12年540件、13年545件、14年492件

予防接種 09年444件、10年590件、11年530件、12年550件、13年477件、14年540件

シナジス接種 09年度延べ109件、10年度135件、11年度164件、12年度112件、13年63件、14年148件

エピペン（アドレナリン自己注射薬）処方件数 09年4件、10年7件、11年6件、12年14件、13年30件、14年20件

食物アレルギー傾向負荷試験

09年 外来19件、入院27件

10年 外来40件、入院11件

11年 外来44件、入院6件

12年 外来70件、入院7件

13年 外来255件、入院12件

14年 外来268件、入院54件

心エコー 09年355件、10年362件、11年282件、12年234件、13年190件、14年263件

外科

■ スタッフ

診療部長、一般外科治療センター長

中 光 篤 志 (1982 年卒)

肝胆膵担当

外科専門医、消化器外科認定医

消化管外科主任部長

今 村 祐 司 (1983 年卒)

上部消化管・化学療法担当

外科専門医・指導医、消化器外科専門医・指導医

肝胆膵外科主任部長

佐々木 秀 (1991 年卒)

肝胆膵担当

肝胆膵外科高度技能指導医、消化器外科専門医・指導医

部 長 香 山 茂 平 (1993 年卒)

大腸担当

内視鏡外科技術認定医、消化器外科専門医・指導医

部 長 大 下 彰 彦 (1994 年卒)

肝臓担当

外科専門医・指導医、消化器外科専門医・指導医

部 長 田 崎 達 也 (1997 年卒)

ヘルニア、下部消化管担当

内視鏡外科技術認定医、消化器外科専門医・指導医

部 長 杉 山 陽 一 (1998 年卒)

上部消化管担当

外科専門医、消化器外科専門医

部 長 中 村 浩 之 (2001 年卒)

外科専門医、消化器外科専門医

医 員 黒 尾 優 太 (2010 年卒)

医 員 井 上 聡 (2011 年卒)

医 員 川 本 常 喬 (2011 年卒)

医 員 馬 場 健 太 (2012 年卒)

■ 診療科紹介

広島総合病院外科では、消化器外科を中心に心臓血管・肺以外の多くの外科手術をカバーしています。当院は広島西部地区の癌拠点病院に指定されて

おり、その役割を果たすべく、当科では消化器癌の外科治療の成績向上に努めています。また消化器外科の幅広い分野の中でも高い専門性を発揮できるように、臓器別担当制をとって診療・手術を行っています。手術では病巣を確実に切除するのはもちろんですが、低侵襲手術も心がけており傷の小さな内視鏡外科手術を癌の手術でも取り入れています。手術以外では化学療法、放射線療法など様々な治療法を組み合わせた集学的治療により、癌の根治性を高めるように努力しています。また手術および術後ケアを安全に行うには、高度の知識とチーム医療が必要となりますが、当院の外科スタッフは、化学療法室、感染制御、栄養管理、緩和ケアチームなど院内のチーム医療の多くに参加しており、手術以外の分野でも専門性を発揮しています。また地域の腹部救急の最後の砦として、多くの急性腹症患者を引き受けており、緊急手術の多いことも特徴の一つです。最近の特徴としてハイリスク患者の増加がありその外科治療も積極的に行っていますが、院内各診療科と連携を取り様々な合併症を持つ患者様の治療に関しても最適な治療を行えるようにしています。専門医の取得にも努め、消化器外科学会専門医は7人にのぼり県内でもトップレベルであり、また肝胆膵外科学会高度技能指導医が1名、内視鏡外科学会技術認定医（消化器）が2名在籍しています。これらのことは手術レベルの担保にとどまらず、患者様の手術に対する安心にもつながるものと考えています。また下記のようにいくつかの学会施設認定を受けており、次世代を担う若手外科医の修練する場としても充実しています。

- ・日本外科学会専門医制度修練施設
- ・日本消化器外科学会専門医修練施設
- ・日本肝胆膵外科高度技能専門医修練施設 B
- ・外科周術期感染管理教育施設

これからも今までの経験・実績に加え更なる研鑽を積み、地域の外科診療のレベルをより高いものにしていきたいと考えています。

■診療実績

2014年度の手術件数は1041例で、詳細は次表のとおりです。特徴としては消化器癌の症例が多いこと、腹部救急疾患が多いことなどがあげられます。また腹腔鏡手術の占める割合は年々上昇してきています。癌では消化管癌などで、積極的に内視鏡外科手術を取り入れています（食道癌：100%、大腸癌：72%、胃癌：42%、肝臓：29%など）。良性疾患においては、胆石症・胆嚢炎にたいする胆嚢摘出術は97%で腹腔鏡下に施行されました。また虫垂炎では77%、鼠径ヘルニアでは85%の症例がそれぞれ腹腔鏡手術を施行されています。またその他の急性腹症（十二指腸潰瘍穿孔、腸閉塞など）でも症例に応じて積極的に腹腔鏡手術が施行されています。

疾 患	例 数	腹腔鏡手術例数 (%)	
食道癌	5	5	(100%)
胃癌（切除）	78	33	(42%)
大腸癌	160	116	(72%)
胆嚢悪性	33	1	(3%)
肝悪性	24	7	(29%)
胆石・胆嚢炎	186	180	(97%)
鼠径ヘルニア	158	134	(85%)
甲状腺	32		
虫垂炎	64	49	(77%)
急性腹症	113	13	(11%)
人工肛門閉鎖	21		
肛門疾患	18		
CAPD	11		
鎖骨下ポート	57		
その他	81		
総 計	1041		

■研究活動

積極的に全国学会・研究会などにて臨床研究の成果を発表しています（本誌別掲）。2014年度は海外発表や、英文論文の発表もありました。一方で地域の住民を対象とした出前講座を開催し、草の根的に病気の啓蒙活動も行いました。

乳腺外科

■ スタッフ

主任部長 川 渕 義 治 (1994 年卒)

取得資格：日本外科学会専門医
日本乳癌学会専門医

医 員 鈴 木 江 梨 (2012 年卒)

■ 診療科紹介

本年度の当科のトピックスといたしましては、2つのデバイスの新規導入です。一つは、超音波ガイド下吸引式組織生検システム(マンモトーム®エリート)です。病理検体採取のアプローチとして、外科的生検を減らす目的で臨床導入されました。2014年4月から2015年3月までの期間で、17例に施行いたしました。7例の悪性症例の診断を確定し、適切な治療へ導きました。また10例に対しては良性の診断を確定し、外科的生検を回避することができました。もう一つは、乳腺内視鏡システムの導入です。「より侵襲の少ない手術」を模索する近年の方向性はもはや後戻りすることはないと考えます。当科では、根治性を損なわず、より小さなより目立たない手術創を追求しております。

本年度の乳腺領域のトピックスといたしましては、3つの新規薬剤の登場です。進行再発HER2陽性乳癌に対する第2次治療薬として「カドサイラ」、また進行再発ホルモン陽性乳癌に対する「アフィニートール」、それぞれ生存期間や無増悪期間の延長を期待される薬剤です。また、化学療法を継続していく上で重要な副作用である発熱性好中球減少症に対し、予防的に投与することが認められた「ジーラスタ」で、予定スケジュールの遂行や副作用の軽減が期待されており、当科でも使用を開始いたしました。

今後も、院外の地域連携・院内のチームのサポートをいただきながら、広島県西部の乳腺疾患をお持ちの患者さん・ご家族の“happy”の向上を目指した取り組みを継続してまいります。

■ 診療実績

〈手術〉

乳腺悪性腫瘍手術

胸筋温存乳房切除術	54
皮膚温存乳房切除術	0
乳頭温存乳房切除術	2
乳房部分切除術	41
腫瘍摘出術	3
小 計 (件)	100
腋窩リンパ節郭清	13
センチネルリンパ節生検 → 腋窩リンパ節郭清	8
センチネルリンパ節生検	59

乳房再建

組織拡張器	12
腹直筋皮弁	0

乳腺良性手術

小 計 (件)	18
---------	----

その他

小 計 (件)	11
---------	----

合 計 (件)	129
---------	-----

〈外来化学療法〉

術前化学療法	21
術後化学療法	35
進行再発化学療法	29
合 計 (件)	85

■ 研究活動

日本国内で展開中の臨床試験に参加しています。

CSPOR

JBCRG

ACTG-breast

整形外科

■スタッフ

病院長 藤本 吉範 (2002年4月～)
 主任部長 鈴木 修身 (2013年4月～)
 部長 山田 清貴 (2009年4月～)
 部長 橋本 貴士 (2011年4月～)
 部長 中前 稔生 (2012年4月～)
 医員 松浦 正己 (2013年4月～)
 医員 森迫 泰貴 (2013年4月～)

以下の如く各スタッフが専門領域を担当しています。

脊椎・脊髄疾患：藤本、山田、中前

手外科・微小外科・リウマチ外科：鈴木

関節外科：橋本

外傷：松浦、森迫

■診療状況

整形外科は広島県西部地区の基幹病院として地域の病院、医院の先生方と密接に連携を取りながら診療を進めています。2014年度の初診患者数は1,822名で地域医療支援病院紹介率は96%です。また当院で手術した患者さんは再び地域の先生にご加療いただいています。

2014年度の手術件数は1473例で、毎年継続して増えています。そのうち頸椎手術が116例、腰椎手術が641例と脊椎・脊髄疾患の手術が多いのが当科の特徴です。広島県内のみならず、中・四国地方、関西、関東からも藤本病院長のもとに紹介されて来られる患者さんも多くおられます。

また当科では経皮的椎体形成術を、先進医療として中四国厚生局から認可された唯一の施設として積極的に行ってきました。2011年からは経皮的後弯矯正術として保険診療が可能となり、継続して多く行っています。2014年度の後弯矯正手術例は146例です。さらに腰椎椎間板ヘルニアの治療では、新しい手術方法である経皮的内視鏡下椎間板ヘルニア摘出術も行っており、2014年度までに37例と症例数が増加しつつあります。

2013年4月に病院内に新しく開設された脊椎・脊髄センター（センター長：山田清貴、副センター長：中前稔生）は、脊椎・脊髄疾患の治療を、医師とコメディカルが密接な連携を取りながらチームとしてより集学的に行うことを目標としています。脊髄損

傷など重篤な障害の治療も、高いレベルで行う体制が整ってきています。

主任部長の鈴木は手外科、リウマチ外科の診療行うとともに、微小外科の領域でも診療しており、外傷では切断指再接着や皮膚欠損に対する遊離皮弁術を行っています。また地域の先生方から骨壊死の患者さんを紹介して頂き、血管柄付き骨移植を行うことも増えています。

また整形外科診療の大きな柱のひとつである人工関節置換術については、橋本部長が中心となり股関節・膝関節の治療を積極的に行っています。地域の先生方から患者さんをご紹介いただくことも多く、手術症例数は年々増加しています。

医員の松浦、森迫は、大腿骨頸部骨折など整形外科の基本的な外傷を中心として、2011年に当院に開設された地域救命救急センターの医師と互いに協力しつつ、多くの外傷患者さんの治療にあたっています。当院には多数の救急搬送がありますが、救命救急医による全身状態のチェックを受けた上で、整形外科的外傷に対しても、質の高い治療を行うよう心がけています。

また一般の方への啓蒙活動としては、2014年6月22日に第9回市民公開講座を整形外科が中心となって行いました。「骨粗鬆症について学びましょう、長寿社会をより良く生きるために」というタイトルで、整形外科からは鈴木主任部長と山田部長が講演したほか、薬剤師、管理栄養士、理学療法士が骨粗鬆症の特徴や治療について総合的に講演を行いました。講演の合間には、骨粗鬆症にまつわる職員による寸劇を行い、また講演の最後には藤本病院長がビートルズの曲を中心としたミニコンサートを行い、多くの市民の出席がありましたが、たいへん好評であったとのアンケートでの評価を頂きました。

手術症例数が多いのが当科の特徴です。しかし一方で学会や研究会での活動も大切と考え積極的に行っており、国際学会にも演題が採用され発表の機会が増えています。当科の治療成績は良好なものと思われていますが、学会・研究会で発表し、評価を受けながら常にこれを向上させる姿勢を持ち続けていきたいと考えています。

脳神経外科

■ スタッフ

主任部長、急性期リハビリテーション主任部長

黒 木 一 彦 1991 年広島大学卒
日本脳神経外科専門医、日本救急医学会専門医
日本脳卒中学会認定医

副部長 織 田 祥 至 2005 年広島大学卒
日本脳神経外科専門医、日本脳神経血管内治療学会認定専門医

医 員 下 永 皓 司 2008 年 順天堂大学卒
日本脳神経外科専門医、日本脳神経血管内治療学会認定専門医

■ 診療科紹介

上記のスタッフで市民の脳を 24 時間体制で守っています。

当院脳神経外科では脳梗塞、一過性の虚血発作、脳血管狭窄、脳出血、くも膜下出血、脳動静脈奇形、脳腫瘍、頭部外傷、髄膜炎、原因不明の意識障害、顔面けいれんや三叉神経痛、水頭症など多岐にわたって診療、治療をおこなっています。2014 年度では 691 人の入院があり、脳梗塞が 215 人、脳出血が 69 人、くも膜下出血 31 人、脳腫瘍が 19 人でした。手術数も年々増加傾向にあり、2014 年度は 212 例；クリッピング手術 29 例、コイル塞栓術 12 例、頸動脈ステント留置術（CAS）13 例、脳腫瘍摘出術 15 例、脳動静脈奇形（AVM）摘出術 2 例、開頭血腫除去術 22 例でした。代表的な疾患である脳梗塞、脳出血、くも膜下出血、脳腫瘍における最近の治療について簡単に説明したいと思います。

【脳梗塞】大きく分けて脳塞栓症と脳血栓症に分類できます。脳塞栓症は心房細動などが原因となり、心臓などで形成された血栓が太い脳血管を閉塞する疾患です。致死적인になることが多く、予防が極めて重要と考えています。最近の抗凝固薬は副作用の出血率が低く、他の薬との併用や食事に制限が必要なく、内服しやすくなっています。また、発症 4 時間 30 分以内では遺伝子組み換え組織型プラスミノゲン・アクティベータ（tPA）の投与、発症 8 時間以内で、条件を満たす疾患であればカテーテルによる血栓除去も可能となっています。脳血栓症にはアテローム血栓とラクナ梗塞とに細別できます。生活の欧米化

に伴い、高血圧・高脂血症が主原因である頸部内頸動脈狭窄病変が増加傾向にあります。血管内壁にアテロームといわれる粥腫が塞栓源となったり、血流低下の原因となります。頸部を切開し、アテロームを切除する頸動脈内膜剥離術（CEA）という治療にかわり、当院ではほぼ全例に CAS を行っています。血管拡張時にアテローム血栓が遊離し、脳梗塞を生じる危険性がありますが、protection device の発達により危険率は低減しています。14 年度は 13 例施行し、合併症なく良好な治療成績を収めています。

【脳出血】高血圧管理に対する関心が高まり、開頭手術を要する脳出血の頻度は少なくなっています。出血量が多い場合には救命目的の開頭手術、中等量であれば機能改善を目的とした定位血腫除去を行っています。最近の症例は小出血が多く、点滴・降圧剤投与による保存的加療を行う症例が多くをしめています。小出血であっても錐体路に障害が及ぶと後遺症は必発です。予防的治療、生活習慣の是正がなにより重要だと考えています。

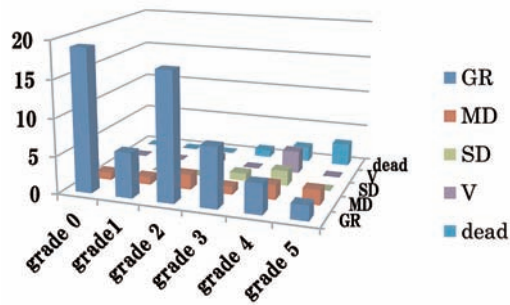
【くも膜下出血】脳動脈瘤が破裂をおこすことで生じる疾患で、発症時の重症度によって軽度の頭痛から突然死までその症状には差がみられます。治療の目的は再出血予防であり、開頭クリッピング術と血管内コイル塞栓術があります。重症度、年齢、合併症、動脈瘤の部位・大きさ・形状により治療法を選択します。椎骨脳底動脈瘤や前床突起近傍動脈瘤はコイル塞栓術のよい適応です。以前は wide neck な動脈瘤はコイル塞栓術が困難でしたが、最近はステントアシストコイルという新たな方法を用いることにより、治療の幅が広がっています。

開頭クリッピング術は症例の蓄積のある確立された治療法です。いびつな形状の瘤や wide neck、血腫を伴



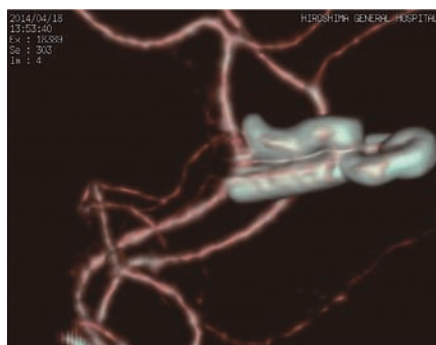
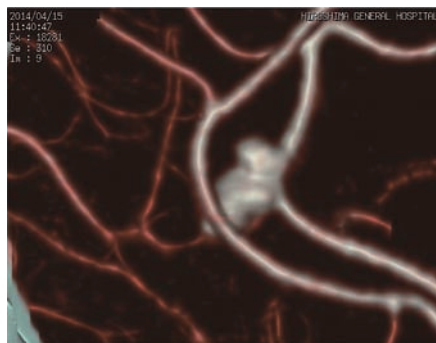
ステントアシストコイルの模式図

うくも膜下出血は開頭クリッピング術が適応となります。一般的に入院時重症度の高い症例や高齢者は予後も不良となる傾向が強いのですが、当科での治療成績は非常に良好であると自負しており、積極的に手術をお勧めしています。



(grade0；無症状、grade Vは昏睡状態です。)

開頭クリッピング術治療成績



遠位前大脳動脈瘤破裂

脳動脈瘤クリッピング前後の3D-CT画像

【脳腫瘍】脳腫瘍の発生率は1年間に10万人あたり10人くらいといわれ、そのほとんどが原因不明です。種類も細別すると100種類くらいありますが、70%は髄膜腫、神経膠腫、下垂体腫瘍です。脳腫瘍の多くは手術が必要と判断されますが、その目的には①腫瘍の種類を確認するため（生検）②腫瘍の体積を減らし、放射線治療や化学療法を併用して治療

する③全摘出で治癒を目指す、と大別することができます。腫瘍の部位、ひろがりや神経機能を総合評価し、治療方針を個々に検討します。当科における2006年以降の88例の脳腫瘍手術中3例の術後悪化を認めました。1例は肺塞栓症、2例は術後出血による麻痺を生じています。それ以外は手術操作による神経症状の悪化は認めていません。脳内に発生する神経膠腫はgrade I-IVまでありますが、浸潤性に発育するため治療が困難であり、特にgrade IVにおいては30年以上にわたり治療成績が目立った改善がみられない難治腫瘍であり、今後の更なる研究が待たれるところです。



呼吸器外科

■スタッフ

主任部長 渡 正 伸 (1986 年卒)
日本外科学会指導医、日本呼吸器外科学会専門医
医 員 熊 田 高 志 (2010 年卒)

■診療科紹介

呼吸器外科は 2001 年 10 月、主任部長の渡 正伸が着任して設立された比較的新しい診療科です。近年増加の一途である肺癌の手術については胸腔鏡を用いたより専門性の高い技術が要求され、呼吸器外科専門医による専門的な診療科が設立されました。

最近の年間手術症例は 130-150 例、そのうち肺癌根治術は 50-70 例行っています。手術侵襲を最小限とするために胸腔鏡を多用していますが、一方、拡大手術が必要とされる進行肺癌においては、高い技術と術後管理能力が問われます。また肺疾患（COPD など）や低栄養、低体力、高齢の肺癌患者さんなど、手術のハイリスク患者では栄養科、リハビリテーション科と連携し術前から患者さんに関わり、肺疾患治療、栄養改善、体力改善などを行い耐術能力が向上した状態で手術を行うチーム医療を 2009 年より、いち早く導入して良好な成績をあげています。これに習い、当院では全身麻酔下の手術症例では術前の肺機能検査が不良で COPD（慢性閉塞性肺疾患）を疑う症例では術前に COPD の診断と治療を始めより良い呼吸状態で手術を受けてもらうための術前肺機能外来なる新たな取り組みを開始しています。

その他に予防医療活動も重要と考えています。病気になるように子どもの時からタバコの有害性を知ってもらうための防煙授業を地域の小学校に向いて行う活動を 2001 年より継続しています。また肺癌をより早期で発見するために胸部 CT 検診も 2002 年より開始して現在に至っています。このように肺癌などの病気について、治療はもとより、予防が重要と認識しており、社会全体の中で病気の治療をしていきたいと考えています。

■診療実績

2014 年度の手術件数を図 1 に示します。術前のチーム医療を行うようになり、術後合併症は激減しています。

また 2012 年 7 月より開始した術前肺機能外来では年間約 100 人のⅡ期以上の COPD 症例を診断し術前から治療を開始しており、その実績は多くの学会で発表しています。（図 2）。

胸部 CT 検診は 2010 年秋に検証試験（NLST）で肺癌死亡率を有意に減少することが証明され、有効であることが立証された検診です。このためその後の受診者数は増加しています（図 3）。

■研究活動

ハイリスク肺癌手術における工夫
術前から開始する総合的周術期管理
術前肺機能検査による COPD スクリーニング

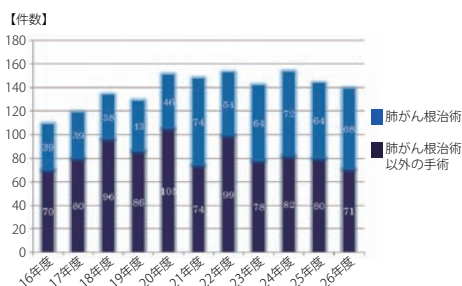


図 1 手術件数

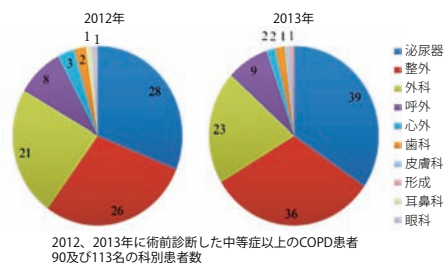


図 2 術前肺機能外来で診断した COPD 患者数

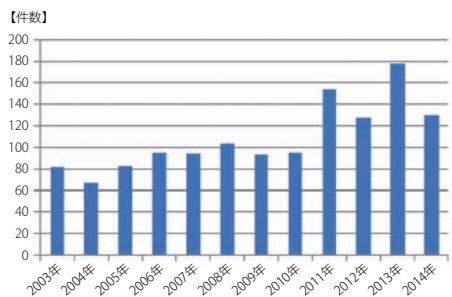


図 3 胸部 CT 検診受診者数

心臓血管外科

■スタッフ

主任部長 濱 本 正 樹 (1995 年卒)
心臓血管外科専門医、修練指導医、
外科学会専門医、指導医

主任部長 (血管外科担当)
小 林 平 (1999 年卒)
心臓血管外科専門医、脈管専門医

部 長 小 澤 優 道 (2001 年卒)
胸部ステントグラフト指導医、
腹部ステントグラフト指導医

医 員 児 玉 裕 司 (2009 年卒)

■診療科紹介

心臓血管外科とは文字通り心臓と血管に対する治療を行う科です。心臓や胸部の大血管などの開心術（心臓を一時的に止め、人工心肺が必要です）、胸部大動脈以下の腹部大動脈や下肢の動脈手術、下肢静脈瘤、透析に必要な内シャント造設術などの手術を行っています。JA 広島総合病院心臓血管外科では、地方都市の一病院であります。先進的な手術を行っています。

心臓弁膜症治療

弁膜症領域では、手術が必要な重度弁膜症とともに併存する中等度弁膜症、高度狭窄・閉塞を有する冠動脈疾患、持続性心房細動にも注目し、1 回の開心術でそのすべてに介入する術式を選択しております。中等度弁膜症は単独で手術適応はないものの、他に行うべき心臓手術があれば併施が推奨されております。特に三尖弁閉鎖不全症は、低圧系（右心系）の弁膜症であり利尿剤で対応できるためあまり手術介入されませんでした。しかし遠隔期に重症化すると利尿剤では対応できなくなり生命予後を悪化させる弁膜疾患であることが認識されるようになり、心房細動や肺高血圧の合併、心機能低下、透析、などの条件があればたとえ軽症でも積極的に形成術を施行しております。また弁膜症に合併する持続性心房細動に対する不整脈手術（メイズ手術）は治療条件が低い場合でも積極的に施行しており、その治療率向上と脳梗塞予防のために両心房縮小術と左心耳閉鎖術も併施しております。

ステントグラフト治療

胸部、腹部ともにステントグラフト（血管内治療）の実施施設として認定され、胸部大動脈瘤、腹部大動脈瘤に対するステントグラフト治療を開始しております。2014 年 2 月よりステントグラフト専門医の小澤が赴任し、低侵襲なステントグラフト手術の症例数も増加しております。

末梢動脈疾患治療

重症下肢虚血は今まで難治性と言われ、下肢切断に陥る場合が多い疾患でした。当院では 2009 年より弁切開刀を使用した insitu バイパスで、下腿、足部を中心に血行再建を施行しております。この分野では日本有数の施設であり、8 割以上の症例で下肢を救うことができるようになっております。2013 年は 144 例に血行再建術を施行、うち重症下肢虚血に対する下腿へのバイパスは 59 例に施行しました。



ステントグラフト治療風景

手術室で血管造影を行いながら、大腿部より血管内にステントグラフトを内挿する血管内治療を行っている。



心臓弁膜症の治療風景

多くの器具を使用しながら治療を行います。

皮膚科

■ スタッフ

主任部長 森 川 博 文 (1993 年卒)
資格；皮膚科専門医
専門；皮膚科一般

副 部 長 梅 田 直 樹 (2007 年卒)
専門；皮膚科一般

医 員 平 川 佳葉子 (2011 年卒)
専門；皮膚科一般

非常勤医師 吉 屋 直 美 (2001 年卒)
資格；皮膚科専門医
専門；皮膚科一般

■ 診療科紹介

2014 年 3 月末で森脇医師が退職、代わりに 4 月に新たに平川医師が赴任しました。平川医師は女性医師ですので、常勤医が男性 2 人女性 1 人となりました。吉屋医師も女性医師で非常勤として、週 3 回ほど勤務しています。そのほか、スタッフは看護師が 3 名、医療事務が 2 名、医療秘書が 1 名です。合計 10 名で診療にあたっております。

皮膚科の診療内容としては、外来診療においては湿疹・皮膚炎群や白癬などのポピュラーなものから、難治性の皮膚疾患、薬疹に対する診療、各種皮膚の腫瘍性疾患に対し、手術なども行っております。また、入院が必要な各種皮膚疾患の患者さんに対して、必要性に応じて随時対応をしていきます。一方、寝たきりの患者さんの生じた褥瘡に対しても、外来での加療や各病棟への往診など対応を行っています。

外来担当医表

		月	火	水	木	金
外来診療前		朝の病棟カンファレンスおよび病棟処置				
午前	1 診	森川	森川	森川	森川	森川
	2 診	梅田	梅田	梅田	梅田	梅田
	3 診	平川	平川	平川	平川	平川
	4 診	吉屋		吉屋		吉屋
午後		手術室手術	小手術	小手術	小手術	手術室手術
		病棟処置および他科の患者さんの往診				
	15:30				午後外来	

■ 診療実績

平成 26 年度の入院患者さんの内訳を下記に記します。

病 名	人 数
湿疹・皮膚炎群	1
蕁麻疹・痒疹	2
紅斑・紅皮症	2
中毒疹・薬疹	6
血管炎・紫斑	1
その他の脈管疾患	6
膠原病および類縁疾患	1
物理・化学的障害	18
水疱症・膿疱症	8
角化症	1
代謝異常症	0
付属器疾患	2
皮膚良性腫瘍	23
皮膚悪性腫瘍	37
細菌性皮膚疾患	55
ウイルス性皮膚疾患	28
真菌症	0
昆虫・原虫などによる皮膚疾患	2

泌尿器科

■スタッフ

病院長代行、医療福祉支援センター長、医療秘書室長

小深田 義 勝 (1979 年卒)
日本泌尿器科学会専門医
日本がん治療認定医機構暫定教育医

主任部長 丸 山 聡 (1988 年卒)
日本泌尿器科学会専門医
日本泌尿器科学会・日本泌尿器内視鏡学会腹腔鏡技術認定医

医 員 栗 村 嘉 昌 (2010 年卒)

医 員 宮 本 俊 輔 (2012 年卒)

■診療科紹介

1. 体に優しい適正な治療を早く(速く)患者様のニーズに合わせて、受診→診断→治療方針決定→治療後の社会復帰までの流れを無駄なく迅速に行うことを心がけています。十分な病状説明を基本とし(病名告知)、手術、放射線治療、抗癌化学療法、ホルモン療法、分子標的治療、免疫療法、緩和医療など、患者様の病気の種類や病状、生活様式やご希望を考慮し、患者様にとってより良い治療方法を選択する方針です。

2. 泌尿器科治療内容(低侵襲手術を最大限に活用)

尿路性器腫瘍(副腎腫瘍、腎癌、腎盂尿管癌、膀胱癌、前立腺癌、精巣癌、陰茎癌)を中心とした診療を行っています。それ以外にも、QOLを低下させる良性疾患(前立腺肥大症、過活動膀胱、腹圧性尿失禁、骨盤臓器脱(膀胱瘤))や尿路感染症、尿路結石と幅広く成人泌尿器科領域をカバーしております。

近年、ロボット補助による遠隔腹腔鏡下手術が、都市部以外でも急速に普及してきました。2014年4月以降、泌尿器科領域ではロボット支援腹腔鏡下前立腺全摘除術に保険適応があり、当院でもごく近い将来導入したいと考えております。狭い術野での操作性、3D画像での立体視野など非常に優れたデバイスには違いありませんが、少し注意が必要です。実は、通常の腹腔鏡下前立腺全摘が十分な経験を

持って行われる施設と比べると手術成績にあまり違いはありません。ただ、腹腔鏡下前立腺全摘を習得するには、ロボット手術を習得するよりも経験を要するようです。つまり、泌尿器科医にとって前立腺全摘という難易度の高い術式について、ロボット支援手術は、患者への恩恵より術者への恩恵(誰でもより容易に、疲労せず)の方が大きいという一面もあるようです。特に導入早期においては、ロボットに触覚がないということにも注意が必要で、触覚を視覚で十分に補うために腹腔鏡の術野展開に慣れていることも必要ですし、機械の不具合に対応するマニュアル操作での腹腔鏡技術の担保も必要不可欠と考えております。また、他術式への応用(膀胱全摘除術、腎部分切除術や腎盂形成術など)をスムーズに行う意味でも、従来の腹腔鏡手術は必ず習得しておくべきと考えており、研鑽を重ねながらロボット導入に備えています。

当科では、2002年に後腹膜鏡下腎摘除術を導入して以来、安全性、制癌性、機能性などを担保した上で、次々と新規術式の導入を行ってきました。(後腹膜鏡補助下腎尿管全摘除術、腹腔鏡下副腎摘除術、後腹膜鏡下腎部分切除術、腹腔鏡下前立腺全摘除術)現在では、泌尿器科主要手術(副腎、腎、腎盂尿管、膀胱、前立腺)の9割近くが腹腔鏡手術で対応可能となっております。こういった手術は、低侵襲であることだけでなく、医療者側の術式に対する意識統一や習熟、若手医師の教育にも非常に役立っています。このことが、低侵襲手術では対応できない患者様に対して、難度の高い積極的拡大手術を行う上でチームとしての総合力を高める要因になっていると考えております。

■診療実績

手術統計(前立腺:96件)

TUR-P	38
RRP	32
LRP	26

手術統計（腎尿管副腎：29 件）

腹腔鏡下腎摘除術	10
腹腔鏡下腎尿管摘除術	14
腎摘出術	4
腎部分切除術	1

手術統計（膀胱：191 件）

TUR-BT	181
膀胱全摘回腸導管造設術 t	2
膀胱生検	3
膀胱内血塊除去術	2
TUF	1
尿膜管摘除術	1

手術統計（結石：142 件）

TUL	4
TUL（レーザー使用）	17
PNL	5
膀胱結石摘出術（高位切開）	1
ESWL	115

手術統計（陰茎・陰囊：28 件）

精巣摘出術	7
陰囊水腫手術	4
精巣上体摘出術	2
包茎手術	9
停留精巣固定術	4
陰囊部分切除術	2

産婦人科

■スタッフ

主任部長 中 西 慶 喜 (1984 年卒)
日本産科婦人科学会専門医・暫定指導医
日本臨床細胞学会細胞診専門医

部 長 大 下 孝 史 (1994 年卒)
日本産科婦人科学会専門医
日本婦人科腫瘍学会婦人科腫瘍専門医

部 長 中 前 里香子 (1998 年卒)
日本産科婦人科学会専門医

部 長 佐々木 美 砂 (2005 年卒)
日本産科婦人科学会専門医
母体保護法指定医師

医 員 藤 本 悦 子 (2008 年卒)
日本産科婦人科学会専門医

医 員 楠 本 真 也 (2010 年卒)
日本産科婦人科学会専攻医

医 員 寺 岡 有 子 (2010 年卒)
日本産科婦人科学会専攻医

■診療科紹介

2014 年 3 月末で佐野祥子医師と佐々木充医師が退職し、4 月から大下孝史医師と寺岡有子医師が赴任しました。9 月末で楠本真也医師が退職、10 月から藤本悦子医師が赴任しました。産婦人科の診療スタッフは総勢 6 名と変わりありません。その内 3 名が女性医師です。

外来での診療内容は平日午前中に妊婦健診や良性・悪性腫瘍の診断・治療を主に行っています。当院では子宮脱患者さんの紹介が多く、ペッサリーでの保存的治療や手術療法で治療を行っています。火・木曜日の午後には子宮鏡・子宮卵管造影等の検査や小手術（バルトリン嚢胞造袋術や子宮頸部腫瘍に対するレーザー治療）などを行っています。また、助産師による母乳外来を週 3 回しており、産後の乳房のトラブルの相談を受け付けています。

手術は月・水・金曜日の午後から行っています。1 日 3 ～ 4 例あり、毎年増加傾向です。当院の特徴

としては日本婦人科腫瘍学会専門医制度指定修練施設であることから悪性腫瘍手術の件数が多いことがまず第 1 にあげられます。次いで婦人科腹腔鏡下手術の中で最も難易度の高い手術の一つである全腹腔鏡下子宮全摘術を行うことのできる県下有数の病院であることです。また開放病床として患者さんの紹介を受けており、青葉レディスクリニックからの紹介患者さんを岡谷先生が執刀されています。

病棟では手術以外に悪性腫瘍の化学療法や放射線療法などの集学的治療、分娩、異常妊娠、切迫早産の治療などを行っています。また急性腹症としての卵巢腫瘍捻転や異所性妊娠に対し緊急手術を行っています。

産科では当院には未熟児センターがなく、妊娠 35 週未満での早産に関しては他院に母体搬送や新生児搬送をしています。逆に母体搬送は年間 81 件を受け入れており、36 週まで管理できれば紹介元に逆紹介し病診連携に努めています。

■診療実績

手術数 515 件
分娩数 601 件
共に前年度より増加しています。

■研究活動

2012 年 1 月から広島大学病院産科婦人科との共同研究として「子宮内膜症術後再発抑制に対するディナゲストと GnRH 製剤の有効性と安全性に関するランダム化並行群間比較試験」を行っています。

JGOG（日本婦人科悪性腫瘍研究機構）の臨床治験にも多くの症例を登録し、研究に協力しています。

眼科

■ スタッフ

主任部長 二 井 宏 紀 (1986 年卒)

資格 眼科専門医

専門 緑内障、白内障

医 員 末 岡 (井上) 千 絵 (2007 年卒)

資格 眼科専門医

専門 眼科一般

■ 診療科紹介

眼科スタッフは医師は昨年同様、当院が 17 年目の私(二井)と 4 年目の末岡(旧姓井上)千絵先生です。他は、看護師が 2 名、視能訓練士が 3 名で、他に事務 1 名(OMA の有資格者)、医師事務作業補助者 1 名です。

■ 診療実績

午前は外来診療、手術は週 3 回午後から概ね一日 5 例行っており、毎年増加傾向です。

2014 年度の手術実績は、白内障 446 例、緑内障 47 例(緑内障単独手術 27 例、緑内障・白内障同時手術 20 例)、その他 35 例、計 528 例です。他に、マキュエイドテノン嚢下注射とルセンティス硝子体注射を合わせ 90 例に施行しています。緑内障手術の内訳は、線維柱帯切開術が 9 例、線維柱帯切除術が 18 例、白内障手術併用線維柱帯切開術が 16 例、白内障手術併用線維柱帯切除術が 1 例、白内障手術併用隅角癒着解離術が 3 例、と例年同様でした。白内障手術は昨年同様全例に極小切開白内障手術(切開幅が 1.9 ～ 2.3mm)を行っています。極小切開に対応した新しい眼内レンズが発売されており、進化した極小切開白内障手術機器の採用が待たれるところです。

新たな治療として、昨年 3 月から採用した抗 VEGF 薬硝子体内注射(加齢黄斑変性症・網膜静脈閉塞症・糖尿病黄斑症治療薬)は増加傾向です。

■ 研究活動

手術症例の多い緑内障・白内障をメインに学会報告・論文発表を行っています。また、緑内障治療薬に関し広島大学眼科との多施設共同研究も行っています。また、緑内障新薬の治験も行っています。



耳鼻咽喉科

■スタッフ

主任部長 兼 見 良 典
広島大学医学部臨床教授
日本耳鼻咽喉科学会専門医

主任部長代理 高 本 宗 男
日本耳鼻咽喉科学会専門医
気管食道科学会専門医

医 員 岡 林 大

■診療科紹介

今年度は医師の異動はなく平成24年9月から同じスタッフで診療を行っています。耳鼻咽喉科の一般診療、手術ならびに頭頸部外科として頭頸部癌の診療に力を入れています。当科は日本耳鼻咽喉科学会専門医研修施設に認可されており、今年度も無事更新されています。

■診療実績

今年度はここ数年来非常に多く推移していた頭頸部癌患者の初回治療例が少なく、これまでの治療後の患者の転帰が帰結した症例も多かったため、入院患者数は前年に比べ若干落ちております。その代わり耳下腺腫瘍、甲状腺腫瘍の手術症例数が増加したため、手術件数は前年度と比較してあまり減ってはならず、同じようなペースが続いています。

嚥下内視鏡検査は高本医師が赴任してから開始しておりますが、増加傾向にあります。

今年度の学校検診も例年のごとく行いました。玖島小学校と浅原小学校は今年度で統廃合により廃校となりましたので、来年度からは耳鼻科検診はなくなりました。

10月よりスギ花粉舌下免疫療法が施行できる状況になっています。兼見と高本の医師2名が治療薬シダトレンの処方医に認定されております。

甲状腺エコー検査を月曜午後に行っておりますが、甲状腺腫瘍症例が増加傾向にあり、1ヶ月以上の予約待ちの状況が続いております。状況改善のために耳鼻科外来専用のエコー機器の購入も検討しております。

■研究活動

平成24年9月から開始していた味覚障害に対する治験（Z-103）は今年度で終了し、ほぼ予定通りに治験を完遂できました。

放射線治療科

■ スタッフ

主任部長 桐 生 浩 司（昭和 61 年広島大学卒）
医学博士、日本医学放射線学会、日本放射線腫瘍学会
認定治療専門医、日本がん治療認定医機構認定がん治療
認定医、日本乳がん検診精度管理中央機構認定マンモグ
ラフィー読影認定医、緩和ケアの基本教育に関する指導
者研修会修了医、日本医師会認定産業医

医 員 廣 川 淳 一（平成 22 年広島大学卒）

■ 診療状況

診療放射線技師は 3 名体制で、中村哲之（放射線
治療科科長・放射線治療専門技師）、海老谷京子（放
射線治療科科長補佐（10 月より）・放射線治療品質
管理士）が常勤で、砂田研二、重田祐輔（8 月より
は都築晋治）が交替となっています。

看護師は河野佐代子（がん放射線療法看護認定看
護師）、受付は奥田志帆です。

以上 8 名で診療に当たっています。

■ 診療実績

1) 脳・脊髄	2
2) 頭頸部	13
3) 食道	11
4) 肺・気管・縦隔	28
4) のうち肺	25
5) 乳腺	67
6) 肝・胆・膵	8
7) 胃・小腸・大腸	13
8) 婦人科	5
9) 泌尿器系	49
9) のうち前立腺	38
10) 造血管・リンパ系	1
11) 皮膚・骨軟部	4
12) その他 悪性	2

2014 年度の新患数は 203 名、のべ治療患者数は
228 名です。新患の原発巣別内訳は上記の如くです。

高精度放射線治療としては、前立腺癌の IMRT を 9
名に、体幹部定位照射（肺）を 1 名に施行しています。

■ トピックス

2015 年 1 月 に、SIEMENS 社 製 CT SOMATOM
Definition AS OPEN が治療計画専用 CT として導入
されました。大口径であり定位照射などの撮影がで

きることで、また管球容量が高いため広い範囲の scan
が一度に行え、全脳・全脊髄照射などが容易にでき
るようになっています。

■ 診療科紹介・当科の特徴

放射線治療は手術、抗がん剤と並ぶ癌治療の 3 本
柱です。メスを入れずに癌を治療する、したがって
体にやさしい治療であることが放射線治療の特徴で
す。また、臓器を残す（温存する）ため、機能・形
態が温存可能というメリットがあります。

また、（治療をめざした）根治照射から、（症状軽
減のための）緩和照射まで、その役割は多岐にわた
ります。

全身のあらゆる疾患が対象になるので
水曜日；cancer board（消化器内科・外科・画像診断部・当科）
水曜日；呼吸器カンファレンス（呼吸器内科・呼吸器外科・当科）
水曜日；乳腺カンファレンス（乳腺外科・当科）
木曜日；緩和ケアカンファレンス（消化器内科・麻
酔科・外科・呼吸器内科・精神科・栄養科・リハ
ビリ・薬剤部・地域連携・当科）

と院内でもカンファレンスが多いのも当科の特徴です。

他には

- ① IMRT、体幹部定位照射といった高精度放射線治
療をおこなっている一般病院
- ② 化学放射線療法では抗癌剤の効果を最大限にいか
すよう時間調整している。
- ③ 毎回 EPID で写真を撮り、より正確な照射を行う
ようとりくんでいる。
- ④ 病棟を持ち、とくに化学放射線療法の患者・緩和
照射の患者の主治医となっている

などが、当科の特徴といえるかと思います。

また、がん拠点病院の要件ともなる、（医療従事
者向を対象とした）放射線治療講習会を年 1 回開催
することとなりました（2014 年 9 月 16 日に開催；
桐生浩司が担当）。

今後も、がん拠点病院における放射線治療部門と
して、広島県西部の癌治療に貢献していきたいと考
えています。

画像診断部

■スタッフ

主任部長 西 原 礼 介 (1994 年卒)
放射線診断専門医
PET 核医学認定医

部 長 太刀掛 俊 治 (1998 年卒)
放射線診断専門医

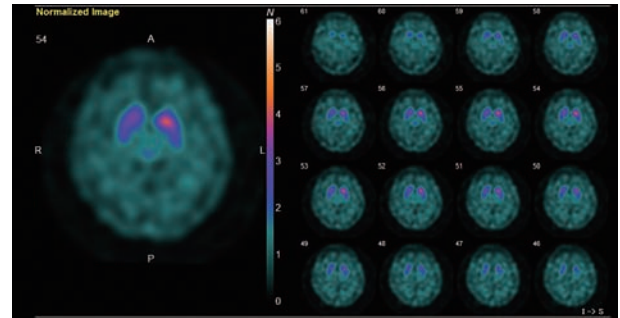
■診療科紹介

- CT、MRI、核医学等各種検査の画像診断や、造影検査（胃透視、注腸）を施行しています。
- IVR は、肝細胞癌に対する TACE、膀胱癌動注のためのリザーバ留置、救急での動脈出血に対する塞栓術などを行っています。
- 肝切除前に残肝部分を肥大させるため、経皮経肝門脈塞栓術（PTPE）を外科医と協力して施行しています。
- Nonvascular IVR として、CT を利用した生検（CT ガイド下生検）や膿瘍ドレナージ（CT ガイド下ドレナージ）を行っています。
- 健康管理センターの依頼で、脳ドックを行っています。脳ドック受診者のうち、希望者に結果説明を行っています。また、検診胃透視の読影を行っています。
- 開業医の先生から CT、MRI や骨塩定量、マンモグラフィなどの検査依頼を受け、その検査や画像診断を行っています。
- 救急外来などからの時間外の読影依頼を在宅で行えるようなシステムが構築されています。
- 救命救急センターと毎週金曜日、その週の救急患者の画像に関してカンファレンスを行っています。
- 2014 年 1 月 1 日の富士通電子カルテシステム稼動に伴い、RIS（横河メディカル）、検像機（iRad-QA）を導入し、運用しています。

〈本年度はじめたこと〉

- ダットスキャン® 静注発売開始に伴い、ダットスキャン® を運用開始しました。ダットスキャン® 静

注はドパミントランスポーターに高い親和性があり、パーキンソン症候群やレビー小体型認知症の診断に有用です。



診療実績

2014 年度画像診断件数

CT	19535
MRI	7123
胃透視	1511
注腸	32
核医学	1880
血管造影	105

麻酔科

■ スタッフ

副院長、麻酔科主任部長

中 尾 正 和 (山口大学 1979 卒)

臨床研修プログラム責任者、臨床研修指導医、医学博士、
麻酔科学会麻酔指導医、ICLS インストラクター、JPTEC
CMD、査読者；Journal of Anesthesia、日本臨床麻酔学
会雑誌、麻酔と蘇生

手術室中材主任部長

松 本 千香子 (長崎大学 1979 卒)

麻酔科学会麻酔指導医、臨床研修指導医

地域救命救急センター長

吉 田 研 一 (広島大学 1984 卒)

救急・集中治療部門責任者、医学博士、
臨床研修指導医

救急麻酔治療科主任部長

新 澤 正 秀 (島根医科大学 1993 卒)

麻酔科学会麻酔指導医、心臓血管麻酔認定
医、医学博士、臨床研修指導医 (～ 2014 / 6)

部 長 本 多 亮 子 (愛媛大学 1998 卒)

麻酔科学会麻酔指導医、米国心臓学会認定 ACLS イン
ストラクター、集中治療医学会認定医、臨床研修指導医

部 長 檜 高 育 宏 (広島大学 1999 卒)

麻酔科学会麻酔指導医、ペインクリニック学会認定医

副 部 長 梅 田 絢 子 (愛媛大学 2007 卒)

麻酔科学会認定医、(2013 年度に専門医合格)

医 員 片 岡 宏 子 (広島大学 2009 卒)

麻酔科後期研修中 (2012 / 9 ～)

医 員 高 田 菜々子 (福岡大学 2009 卒)

麻酔科後期研修中 (2014 / 3 ～)

医 員 藤 野 友 里 (神戸大学 2010 卒)

麻酔科後期研修中 (2014 / 10 ～)



(2014 年 5 月撮影)

■ 診療実績

2014 年度の総手術件数は 5661 例で、うち麻酔科
管理は 3907 例で、中央部門として大きな役割を果
たしています。

	全症例 (%)		麻酔科管理 (%)	
総 数	5633		3907	
予 定	3794	(67.4)	2766	(70.8)
追 加	1061	(18.8)	524	(13.4)
当日緊急	779	(13.8)	617	(15.8)

▶ 予定手術 (前週水曜日正午の計画締め切り) 以降
に申し込まれた追加手術、当日申し込みの緊急手
術と計画後手術が比較的多いのが特徴です。とく
に、各科管理では追加手術 31.1%、緊急手術が 9.4%
で、追加手術が多く、計画性の問題も憂慮されま
す。

▶ 麻酔管理の診療科別内訳は外科 970、整形外科
1247、泌尿器科 368、産婦人科 381、耳鼻
科 201、心臓血管外科 240、呼吸器外科 142、
口腔外科 89、脳外科 118、皮膚科 39、形成
外科 9、眼科 8 などで新生児を除く多岐にわ
たっています。

▶ ペインクリニック；平日午前のみですが、外来で
痛みをもつ患者の治療を担っています。松本が緩
和ケアチームの一員です。

▶ 救急・集中治療 (地域救命救急センター、ICU の
セクション参照)

■ 麻酔科の機器

麻酔ワークステーション；ドレーゲル社全身麻酔器 Fabius GS をベースに、フィリップス社インテリビューモニターを統合し、安全で信頼性の高いシステムを構築しています。（9室すべて同一機種となり、医療安全上も有利となりました）セボフルランはすでに全室に配備されていましたが、2014年度にデスフルラン専用気化器も全手術室に配備完了しました。

▶ 自動麻酔記録システム；PaperChart を神戸海星病院の越川正嗣 Dr と共同開発したもので、静脈麻酔薬を投与するポンプもオンライン接続して活用しています。

▶ 高次脳波モニター BIS の全室配備；患者さんの術中覚醒防止と麻酔薬の調整に有用な BIS モデル A2000 を全手術室に配備し全身麻酔患者さんに利用しています。当院のように手術室が9室あるような大きめの一般病院では全国で数番目と早期から導入されています。実際の麻酔の品質管理にも役立てています。

筋弛緩モニタリング TOFwatch Sx monitor を全手術室に配置し、PCに取り込み客観的な筋弛緩レベルを確認しています。

■ 基本活動

▶ 麻酔科学会認定指導病院（No 421）

☆ 初期研修医の医師としての基本的手技を含めた基礎教育

1 年次必須ローテーション 10 名 8wk

2 年次選択ローテーション 1 名 8wk

☆ 後期研修医（麻酔科）の養成指導

☆ ガイドラインによる歯科医師の医科麻酔研修施設（2 名）

☆ 広島大学医学部生に対する学外教育

☆ 救急救命士の就業前研修、就業後研修、気管挿管などの実習病院

☆ 女性麻酔科医師復帰支援機構の協力病院

☆ 看護学校での非常勤講師

など、多くの役割を果たしています。

■ 研究活動

▶ 臨床治験；ペインクリニックでの、トラマドールの良性疾患への適応拡大

▶ GlideScope、AirwayScope ビデオ喉頭鏡による安全で速やかな気管挿管に関する研究

▶ ビデオ喉頭鏡を利用した、気管挿管技術習得の品質管理

■ その他活動内容

▶ 救急蘇生の講習会 日本救急医学会認定 ICLS 認定コース 開催

▶ 外傷のプレホスピタルケア JPTEC 認定コース 開催 CMD（中尾）

歯科口腔外科

■ スタッフ

主任部長 原 田 直

歯科医師 安 田 雅 美

臨床研修医 大 井 尚 志

歯科衛生士 石 井 真 弓・梶 川 佐知子

歯科助手 大 野 陽 子

■ 診療科紹介

口腔外科では、歯・口腔・顎（あご）・顔面領域に生じる種々の病気に対して、外科治療および周術期の口腔管理を中心に行っています。その専門性から、広島佐伯区歯科医師会、佐伯歯科医師会、広島西部地区の医療施設から紹介された患者様の診療（当科は予約診療）を行っており、外来での小手術から入院下での手術などを行っています。また当院での各診療科の治療成績の向上、治療時のリスクの除外など医科診療科の診療を優先することを心がけて周術期（化学療法、放射線療法、BMA の使用を含む）の口腔管理を行っています。

■ 診療実績

年間新患約 1800 人で内、歯科医師会より 6 割、医師会より 4 割の紹介を受けています。顎口腔領域に生じる腫瘍や外傷、炎症などを対照に年間、全身麻酔入院下の手術を約 100 例、局所麻酔下の外来小手術は約 400 例を行っており、咬合咀嚼機能の回復を第一にしています。加えて、他科の癌患者、心臓血管手術前、化学療法、放射線照射前の周術期口腔管理、口腔衛生は約 150 例行っており、さらに体内人工物埋入例の手術前後の口腔衛生管理も行い、顎骨壊死や体内人工物感染の防止に対し好成績をあげています。

口腔外科受診症例（2014 年）

		件数
先天異常	小帯異常	20
外傷	骨折	16
	軟組織創傷	5
炎症	膿瘍	13
	その他	12
睡眠時無呼吸症候群	マウスピース作成	8
口腔粘膜疾患		92
良性腫瘍		48
悪性腫瘍		14
唾液腺疾患		11
智歯抜歯		473
神経性疾患		16
歯周疾患		758
顎関節疾患		398

入院手術症例

智歯抜歯：40

消炎手術：10

良性腫瘍嚢胞摘出：40

悪性腫瘍：9

救急・集中治療科

■ スタッフ

地域救命救急センター長
救急・集中治療科主任部長

吉田 研一 (1984 年卒業)
医学博士、日本救急医学会専門医
臨床教授 (広島大学 救急医学)
集中治療・救急医療

副部長 櫻谷 正明 (2006 年卒業)
日本救急医学会専門医 集中治療・救急医療

医 員 河村 夏生 (2010 年卒業)
集中治療・救急医療

医 員 平田 旭 (2011 年卒業)
集中治療・救急医療

医 員 加藤 栄 (1998 年卒業)
外科専門医 外科

■ 診療科の紹介

2014 年度、当科は、総勢 5 名で救急・集中治療の診療行為を施行しました。また当院は日本救急医学会認定救急専門医研修施設でもあります。

救急・集中治療科は、「内科系、外科系を問わず呼吸、循環、代謝そのほかの重篤な急性機能不全の患者を収容し強力かつ集中的に緊急治療・看護を行うことにより、その効果を期待する」部門です。

このたび、2011 年 4 月から地域救命救急センターとして、組織変更し、より患者さんへもわかりやすい救急体制が認可されました。地域に愛され信頼される急性期病院として、さらに設備と体制の整備をすすめていく計画です。御支援をよろしく願います。

■ 診療実績

2013 年度

年間救急搬送患者数 3431 台

年間救急来院患者数 6431 人

2013 年度の年間重篤患者数を表 2 に示す。

表 2 救急・集中治療科実績 (厚生労働省報告)

(人)

番号	疾病名	患者数	退院・転院	死亡
1	病院外心停止	152	6	146
2	重症急性冠症候群	92	81	11
3	重症大動脈疾患	25	21	4
4	重症脳血管疾患	115	70	45
5	重症外傷	76	69	7
6	重症熱傷	3	3	0
7	重症急性中毒	23	23	0
8	重症消化管出血	59	54	5
9	重症敗血症	38	24	14
10	重症体温異常	4	3	1
11	特殊感染症	4	4	0
12	重症呼吸不全	52	31	21
13	重症急性心不全	60	49	11
14	重症出血性ショック	3	1	2
15	重症意識障害	10	8	2
16	重篤な肝不全	4	1	3
17	重篤な急性腎不全	4	3	1
18	その他の重症病態	5	3	2
合計		729	454	275

※上記のなかには敗血症、横紋筋融解症、各種ショックなど含まれない疾患もあります。

■ 研究活動

①重症感染症 (敗血症) 患者の救命率の向上

重症感染症 (敗血症) は、細菌によって引き起こされた全身性炎症反応症候群 (SIRS) です。細菌感染症の全身に波及したもので非常に重篤な状態であり、無治療ではショック、DIC、多臓器不全などから早晚死に至ります。もともとの体力低下を背景としていることが多く、治療成績も決して良好ではありません。当院でもその死亡率は高く、28 - 35% (2008-2014 年) の患者さんが亡くなられています。

Surviving Sepsis Campaign Guideline 2012 では循環管理だけでなく感染対策、続発する臓器不全や周辺病態に対しての集中治療が示されています。当院では特に初期蘇生の循環管理について early goal-directed therapy (EDGT) を積極的に推し進めています。

なお EDGT を行う場合は大量輸液によって肺の酸素化が障害される場合があり、人工呼吸器管理となることがあります。当院では高頻度振動換気法を導入し、その治療成績を検討しています。

②低温療法の導入

脳低温療法とは、脳が障害を受けた際に脳の障害がそれ以上進行することを防止するため、体温を低く保つ治療法です。通常、脳が重大な障害を受けた際には脳組織に浮腫が起こるほか、カテコールアミンやフリーラジカルなどが放出され、進行的に組織が破壊されていきます。救急の脳障害においては、この進行的な脳組織の破壊を抑制することで救命率・機能予後の向上が見込まれ、またそれを抑制する事が重要な課題となっています。

蘇生ガイドライン 2010 (ACLS 2010) でも脳低温療法が新たに加えられたことを契機に、当院でも水冷式ブランケットを用いて患者の体温を 34℃程度に下げること、代謝機能を低下させて、脳内での有害な反応の進行速度を抑え、蘇生後脳症の治療成績の向上に努めています。

③オートプシー・イメージングの検討

オートプシー・イメージング (Autopsy imaging, Ai) とは、狭義では死亡時画像診断のことです。コンピュータ断層撮影 (CT) や核磁気共鳴画像法 (MRI) などによって撮影された死後画像により、死体にどのような器質的病変を生じているのかを診断することによって、死亡時の病態把握、死因の究明を目的とします。

当院では 2007 年よりオートプシー・イメージングを導入し画像診断部の支援のもとに、Ai 認定施設 (クラス A) となっています。救急搬送された患者のうち、300 例近くの Ai 施行にて、約 4 割の患者の死亡原因の診断・推定に役立ちました。

救急搬送される症例には、自宅での服毒自殺や幼児虐待などの外因死の可能性がある症例が含まれます。体表の情報からこれらを判断するには限界があり、Ai を取り入れることにより正確な判断が可能になる可能性があります。外因死などが疑われる場合には、所轄の警察署へ検視依頼を行っています。

緩和ケア科

■医師・スタッフ紹介

主任部長 小 松 弘 尚 (S60 広島大学卒)
 日本消化器内視鏡学会専門医・指導医、日本がん治療
 認定医機構がん治療認定医)、緩和ケアチーム各員 (略)

看護科主任 高 原 さおり (緩和ケア認定看護師)

臨床心理士 南 佳 織

病棟スタッフ

科 長 鶴 谷 理 恵

主 任 岡 田 恵美子 (緩和ケア認定看護師)

■診療科紹介

緩和ケア科は 2007 年に発足した緩和ケアチームを母体として 2010 年に創設されました。2012 年 7 月に緩和ケア病床を西 8 階病棟の一角に 5 床を開床し緩和ケア科を主科としての専門的緩和ケアを提供しております。現在は院内のプライマリー科から病床依頼があれば緩和ケア科へ転科しチームで方向性を共有し専門的な緩和治療の実践を行っています。

また、地域に対して、県から依頼された地域在宅緩和ケア推進事業の取り組みを行いました。中でも、両方向で利用できる緩和ケア地域連携パスを作成し、患者の緩和ケア提供体制を整えました。パスの利用は 11 件でした。緩和ケア地域連携パス (予後が急迫しているタイミングでの地域からの看取り目的入院) の利用もありました。また、緩和ケア科では患者の意思決定支援に対する取り組みとして、アドバンスケア・プランニングおよび、終末期医療におけるリビングウィル文書を導入しました。文書の作成数は 57 件です。治療の選択、療養場所の選択、終末期医療について患者の希望を中心としたケアを調整しています。その結果、予測されるせん妄などの意識低下や急変について理解し対応も心得られるためか、在宅療養の期間が延長され、病院で過ごす期間の短縮が見られています。遺族からも「本人の意向に寄り添い、しっかり看ることが出来た。」との意見もいただいています。

■診療実績

(ア)緩和ケア外来：2 / 週 水・木曜日午後診：原則として罹患がんの主科との併診



により緩和ケアを提供。2014 年度 延べ外来受診患者数 135 件です。

(イ)緩和ケア病床 (西 8 階 5 床)：チーム業績 (別記)とは別に、緩和ケア科を主科・プライマリー科医師を副主治医として診療。



■各部門の主な活動紹介

【薬剤調整】

個々の患者が使用する薬剤につき過不足ないように主治医と連携し調節します。症状緩和の必要な患者に対して患者・家族の理解が得られるよう薬剤指導します。

【がん患者リハビリテーション】

外来では加算の算定が出来ない背景もあり、主には入院患者が対象です。がんを抱える患者の日常生活動作に対応します。

【栄養相談】

管理栄養士が個々の患者に合う食事の工夫を患者・家族へ指導します。

【がん患者管理指導加算】

がん患者管理指導加算はシステムを整え 7 月半ばから算定開始。がん患者管理指導加算 1 では各科主治医 (緩和ケアに関わる医師に対する研修会を終了している) と緩和ケア認定看護師等が協力して患者の病状説明、その後の意思決定支援にあたります。2014 年度がん患者管理指導加算 1 算定数は 29 件。2 は 2 件。

【リンパ浮腫相談】

主治医の指示のもと、リンパ浮腫を患う患者に対して相談、指導、バンテージや弾性着衣の調整を行います。

リンパ浮腫に対するリハビリの処方がある場合、外来で施術も行います。

■研修会実績

- ・ 院内外医療従事者対象緩和ケア研修会開催
- ・ 地域のがんを診療する医師に対する研修会開催
- ・ 第 10 回市民公開講座「がんとともに、自分らしく」
「マスメディアからみた最後の迎え方」 平井敦子

健康管理センター

■スタッフ

診療部長・センター長／主任部長／臨床研究検査科部長

碓井 裕史 (1977 年卒業)

日本人間ドック学会認定医・
産業医臨床検査管理医

課長 (保健師) 久保 知子

課長補佐 (事務) 馬場 諭

主任 (保健師) 野村 恵美

保健師 7 名 (うち 2 名産育休)

事務 5 名

委託 (受付・予約) 4 名

(車両業務) 1 名

臨時職員 (医師 3 名、看護師 8 名、助手 2 名、
臨床検査技師 2 名)

【取得資格】

人間ドックアドバイザー 4 名、禁煙専門看護師 1 名

健康運動指導士 1 名

【所属学会】

日本人間ドック学会、日本癌学会、日本農村医学会

日本乳癌検診学会、日本禁煙学会

【各種所属委員】

JA グループメンタルヘルス協議会

健康はつかいち 21 推進協議会

【担当事務局】

広島県農村医学研究所

広島県農村医学研究会

日本農村医学会

■活動内容

当センターでは、厚生連の基本理念に基づき、JA グループ・行政・医師会との連携によって広島県西部地域の JA 組合員、住民の健康管理活動の推進に努めています。病院併設型の機能を活かし、診療部門、臨床研究検査科、中央放射線科など優れたスタッフの協力により精度の高い健診活動に取り組んでいます。

○施設内健診は、当院独自の人間ドックに加え、廿日市市、広島市、大竹市、各健康保険組合等の委託ドック、各種がん検診他、10 月第 3 日曜日は JMS マンモグラフィーサンデー (4 回目) を行いました。今年度は人間ドックパンフレットのリニューアル、消化器内科、画像診断部と共同でおこなっているすい臓がん MR 検診のチラシ (写真) を作成し、精度の高い検診の利用推進を図っています。

MR単独検診のご案内

すい臓がん検診 (MRすい臓検診)

すい臓は体の奥深くに位置するため、がんが発見しても気づくのが非常に難しい臓器です。すい臓がんと診断されたときには、すでに進行していることが多くあります。

そこで、当院では、MRCP (磁気共鳴胆膵管造影) による膵臓・胆管系、主膵管を撮り取ることで、すい臓がんの早期発見とその予防の対応を行っています。

検査内容

- MRCP検査: 膵臓とすい臓の膵管や胆管を造影することができ、膵臓、胆管と膵臓、膵管の心臓がわかります。
- 血液検査: CA19-9、アミラーゼ

検査日: 土日祝日除く (完全予約制)

受付時間: 午前7時50分

料金

■ 単独検診 (午後1時～午後5時) 17,280 円 (税込)
 ■ 検診結果は、後日電話からお問い合わせいただけます (予約制)。
 ■ 結果通知は約1週間程度です。

こんな方にすい臓がん検診をオススメします。

これまで、すい臓にうけなどの異常を指摘された方
 膵臓病、慢性すい炎の方、
 たばこを吸う方
 血のつばかった家族に、
 すい臓がんの家族がいる方

お申し込み・お問い合わせ
 ☎0829-36-3111 代 人間ドック予約担当まで
 受付時間: 午前9時～午後5時 (土日祝日除く) まで
 受付時間: 午前9時～午後5時 (土日祝日除く) まで

JA広島総合病院 健康管理センター
 〒730-0855 広島県廿日市市大竹 1-1-1

○巡回健診は JA グループ、廿日市市、佐伯地区医師会等の委託健診を中心に実施しています。

○保健師の活動は、施設内健診、巡回健診、健康教育、学術研究まで多岐にわたります。がん検診後の要精査未受診者へ文書通知し、受診率の向上に取り組んでいます。また、食事指導の取り組みとして毎年、当院レストラン調理師、管理栄養士とともに健康定食 (写真) を考案し、ドック利用者から大変好評です。また、JA 健康まつり、JA 健康教室、JA 広報誌の執筆活動、安心・安全な健診を提供するための研修会なども開催しています。

健康定食
メニューのご案内

ついつい早食い
食べ過ぎていませんか?
しっかり噛むことで、
体にいい影響がたくさんあります。
しっかり噛んで、
味わってみてください。

2014年4月～

JA広島総合病院 健康管理センター

健康定食カロリー・塩分

おかず	カロリー (kcal)	塩分 (g)
鶏: いかパスタ	0.9	100
肉: 鶏もも肉がゆ	0.6	196
ほうれん草の白和え	0.3	51
ゆりしん大根	0.4	39
みそ汁 (白味噌)	1.2	19
デザート	0.0	33
計: 全メニュー	2.8	245
計: 全メニュー	2.5	312

三食定食

メニュー	カロリー (kcal)
男性定食1食 (250g)	363
女性定食1食 (200g)	307
男性定食1食 (180g)	277
女性定食1食 (150g)	231

今年度はさらに三食定食を考案しています。
 食にたががしっかりある和食と
 なっています。ゆっくり噛んで食べてみてください。

■平成 26 年度活動実績

○施設内健診

	実施日数（日）	受診者数（人）
入院ドック	26	26
外来ドック	233	2,669
協会けんぽ健診	195	1,311
原爆（一般・がん・2世）	152	198
脳ドック	173	256
個別子宮がん検診	66	76
個別乳がん検診	70	172
健康診断	172	1,681
特定保健指導	115	136
その他	198	767
計	1,400	7,292

*特定保健指導はのべ人数を計上

○巡回健診

	実施日数（日）	受診者数（人）
生活習慣病予防健診	22	665
肝炎検診	3	15
胃がん検診	19	446
職員健診	57	3,708
大腸がん検診	4	380
特定・後期高齢者健診	4	389
その他	8	989
計	117	6,592

■平成 26 年度がん検診部位別精密検査受診状況

○施設内検診

		受診者数（人）	要精検者数(人)	要精検率（％）	精検受診者数(人)	精検受診率(％)	がん発見数(人)	がん発見率(％)
胃部	バリウム	1,397	54	3.9	30	55.6	1	0.07
	カメラ	1,983	142	7.2	129	90.8	3	0.15
胸部	レントゲン	4,853	79	1.6	57	72.2	1	0.02
	C T	129	5	3.9	2	40.0	0	0.00
大腸（便潜血反応）		3,924	192	4.9	108	56.3	3	0.08
乳部		1,108	69	6.2	63	91.3	3	0.27
子宮頸部		1,037	63	6.1	45	71.4	1	0.10
前立腺（PSA）		717	29	4.0	19	65.5	7	0.98

○巡回検診

	受診者数（人）	要精検者数(人)	要精検率（％）	精検受診者数(人)	精検受診率(％)	がん発見数(人)	がん発見率(％)
胃部間接レントゲン	446	1	0.2	1	100	0	0
胸部間接レントゲン	4,687	42	0.9	15	35.7	0	0
大腸（便潜血反応）	1,671	92	5.5	30	32.6	0	0
前立腺（PSA）	405	9	2.2	5	55.6	0	0

形成外科

■ スタッフ

部長 長谷川 美 紗 (2003 年広島大学卒業)
資格 日本形成外科学会専門医、医学博士
専門 形成外科一般

非常勤医師 新 保 慶 輔

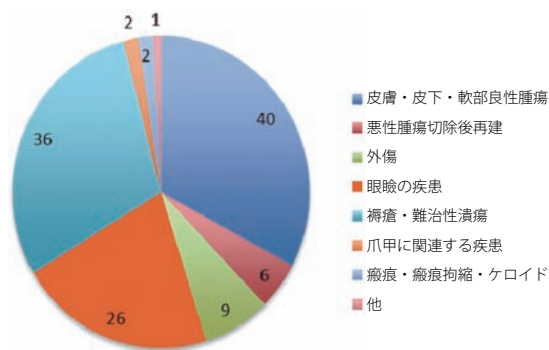
非常勤医師 奥 原 裕佳子

■ 診療科紹介

常勤医師が 6 月から産育休を取りましたので、その間は広島大学病院の形成外科医二人が交替で代理を務めてくれました。他科からの要望にもできる限り応じ、after5 の手術にも参戦するなど、よく献身してくれたおかげで手術件数は昨年と比べ若干の減少に留めることができました。

■ 診療実績

初診患者数	240 例
手術症例数	計 122 件
内訳 全身麻酔	53 件
腰麻・伝達麻酔	9 件
局所麻酔	60 件



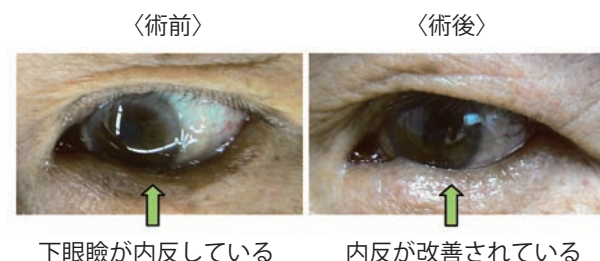
■ トピックス

下眼瞼内反症の再発について

・老人性下眼瞼内反症の再発率は、一般的に行われる術式 (Hotz 法：睫毛近傍の皮膚を瞼板や瞼板前組織に縫合する方法) を行っても、術後 1 ヶ月 25%、3 ヶ月 60%、2 年後で 80% と報告されており (臨眼, 99:66-67, 2005)、効果の不十分さが指摘されています。

当院では下眼瞼牽引筋膜腱膜 (lower eyelid retractors: LER) と眼輪筋の短縮を併用することで、良好な結果を得ています。術後 1 年以上経過した症例 16 例の内、再手術を要した症例 4 例 (25%) でした。内 2 例は睫毛乱生を併発しており、これらを除外すると、再手術率は 16% でした。睫毛乱生を併発していた症例については、睫毛電気分解術や瞼縁切開法など、別の術式を追加施行し、最終手術後 1 年間再発を認めておりません。

以上より Hotz 法単独に比べ、LER と眼輪筋の短縮を併用すれば数年内の再発を減らすことが可能といえます。しかし、退行性疾患は常に徐々に進行しますから、さらに長い経過をみれば、再発する症例が出てくることは回避できません。このような再発は術式の拙さというよりは疾患特有のものであるので、手術的治療を否定するのではなく、再手術を適切な時期に選択する必要があると考えます。



病理診断科・病理研究検査科

■ スタッフ

主任部長 台 丸 裕

科 長 水 野 誠 士

臨床検査技師 6 名

事務 1 名

■ 取得資格

病理専門医 1 名

細胞診専門医 1 名

病理解剖資格 1 名

細胞検査士 4 名

国際細胞検査士 2 名

二級甲類臨床病理技術士 3 名

(病理学 3)

診療情報管理士 1 名

認定病理検査技師 2 名

特化物四アルキル鉛等作業主任者 1 名

■ 所属学会

日本病理学会

日本臨床細胞学会

日本臨床衛生検査技師会

■ 業務内容

病理組織検査・細胞診検査・病理解剖

検査件数 (2014 年度)

組織検査 5905 件 (2013 年度 5454 件)

術中迅速検査 367 件 (// 378 件)

細胞診検査 6671 件 (// 6834 件)

術中迅速細胞診 94 件 (// 77 件)

病理解剖 1 件 (// 7 件)

■ トピックス

〈病理診断科の標榜〉

病理診断科と病理研究検査科の併記となりました。

〈認定病理検査技師 誕生〉

2014 年度に認定病理検査技師の第 1 回認定試験が行われ、2 名が合格しました。認定病理検査技師制度は「国民が安心して医療を受けることのできる

病理診断」を支える技師としての資格であり、様々な専門知識と技術を要する病理検査技師を認定するものです。病理診断は最終診断であり、患者さんの治療方針や予後を大きく左右します。病理医が的確な病理診断を行うためには、質の高い病理標本を病理医へ提供することが前提となります。標準化された質の高い病理標本作製を行い、病理医との協働作業により最適な病理診断を患者さんへ提供できるよう取り組んでいきます。

研修医室

■ スタッフ

〈2 年目研修医〉

筒井 徹、児玉 堯也、永島慎太郎、中野 貴之
棚橋 弘貴、田妻 昌、末廣 洋介、山口 哲司
白石 剛章、田中 晶康

〈1 年目研修医〉

石橋 栄樹、新原 健介、仙波 恵樹、竹本 浩太
元 貴彦、松田 真伍、村田 愛、最上 文子
森本 啓介、大和 賢輔

〈歯科研修医〉

大井 尚志

■ 概要

臨床研修医室には初期臨床研修医 20 名、歯科研修医 1 名の 21 名のスタッフがいます。それぞれ、研修プログラムに従い各科での研修を行っております。

■ 活動内容

初期臨床研修医は 1 年目に内科系 6 ヶ月、外科系 1 ヶ月、救急集中治療科 2 ヶ月、麻酔科 2 ヶ月、産婦人科 1 ヶ月をローテーションし、2 年目は小児科・地域医療・精神科を各々 1 ヶ月、健康管理センターを 0.5 ヶ月と残りは希望の科で研修を行っております。

各科での研修では、上級医の先生の指導のもとで日々の診療業務を行っております。内科系では主に病棟管理を行っております。その中でも患者様としっかりコミュニケーションをとり些細な出来事にも気が付けるように心がけております。外科系では病棟に加え手術に助手として参加させていただいております。救急集中治療科では救急車で搬送される急患の初期対応を指導医のもとで行っております。麻酔科では麻酔の導入・維持・覚醒までの一連を行っております。また、気管挿管や静脈路確保といった手技も習得できるように日々訓練しております。

また、日々の診療とは別に当直・日直業務を行っております。救急センター当直医師 1 名と一般当直医師 1 名の上級医の先生に加え、研修医 1 年目・2 年目それぞれ 1 名ずつの 4 名で、主に救急車で搬送

される患者様の診療に当たっています。日々の研修で得た知識や技術を活かしながら、目の前の救急患者様の病態を的確かつ迅速に把握し、適切な初期対応ができるように心がけ診療を行っております。また、上級医からの feed back もあり非常に研修医にとっては大きく成長できる場だと思えます。また、毎週火曜の早朝に行われる Early Bird Lecture (EBL) では、当直・日直で経験した症例を研修医同士で共有しています。

BLS・ACLS・JPTEC・JATEC・FCCS・TNT など、様々な講座を受講し、資格を取得するための補助を受けることができます。若手医師のためのセミナーや勉強会にも数多く参加ができ、対外面としては中四国の地方レベルから、場合によっては海外の学会にまで、上級医の指導を仰ぎながら学会発表をする機会もあります。

その他に、当院では初期臨床研修を修了した後に、3 年目からも後期臨床研修医として当院での研修を希望する諸先輩方が多くいるのが特徴の一つでもあります。初期研修で慣れ親しんだのはもちろんのことですが、それ以上に熱心な上級医の先生方や、スタッフの皆さんと一緒に医療を行い、その中で自分自身も成長したいという気持ちからだと思っています。



看護科

■看護科の理念と目標

□看護科の理念

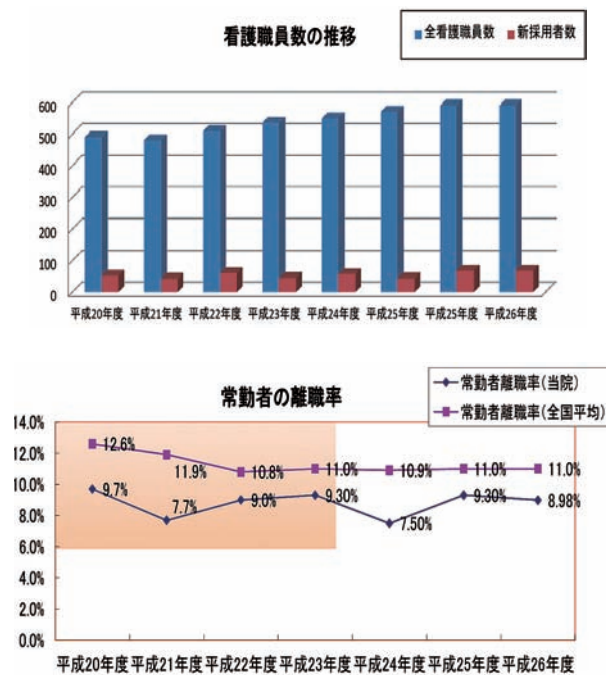
病院基本理念に則り地域の中核病院として看護の果たすべき役割を自覚して実践し、患者の安全と生活の質を守り地域社会から信頼される看護を目指します。

□2014年看護科目標

心と心の通い合うハートふるナースィング
—看護をもっと見えるかたち—

□2014年度の動向

看護職員は590人で、その内新採用者は67人でした。離職率は下表に示すとおりです。新採用者の離職率は3.1%（全国平均7.5%）でした。



■2014年度の看護科の取り組み

1. 看護職の人材確保と定着推進活動

育児休暇中のスタッフが安心して職場に復職するための支援として、「どうしょうん？元気にしょうん？」という気持ちを込めて、「るんるん広場」を始めました。るんるん広場では、同じ保育園の保育士さんのお話や先輩ママの話、復帰の手続きに関してなどママさん達の欲しい情報を提供しました。また同じ子育て仲間として育児の

悩みなどを話せる場となり、たいへん好評でした。（詳細はトピックスに掲載）



「るんるん広場」の様子

2. 看護の質向上に関する活動

看護実践能力の開発支援としてクリニカルラダー認定制度を平成24年度より取り入れています。日々の努力を認め励ますキャリアナビ会（認定のための面接）は、モチベーションアップにつながると好評です。これまでにラダーⅠ（新人レベル）は111人が認定されました。また、ラダーⅡ（一人前レベル）は163人、ラダーⅢ（ベテランレベル）は39人になりました。



3. 看護の普及啓発に関する活動

看護ふれあい看護体験を8月1日に開催し、高校生62人が参加しました。看護の楽しさ、すばらしさを実感し看護師になりたいという思いが強くなった1日でした。



外 来

■スタッフ

科 長 石 崎 淳 子 坂 尻 明 美
 中 元 美 恵 野 田 明 美
 主 任 野 村 昌 代 高 原 さおり
 実 平 明 美 平 舛 仁 美

他 69 名（短時間勤務制度を利用する看護師：7 名含む）

看護助手 5 名

認定看護師：7 名

糖尿病看護 2 名、がん化学療法看護 2 名

緩和ケア 1 名、がん放射線療法看護 1 名

皮膚・排泄ケア 1 名、

■外来の概要

診療科は 19 科、平成 26 年度の外来患者数は、年間約 251,701 人、1 日平均約 1,027 人です。

外来では、医師、看護職、医療事務、医師事務補助、医療技術職など、様々な職種が互いの専門性を理解し尊重しながら、患者さんの医療に携わっています。基本理念である「医療の安全性を高め安心できるチーム医療を提供します」を具現化する部署がまさに外来部門です。

また、地域の医療機関との連携を強化しています。地域医療支援病院として、紹介患者さんの情報を事前に把握し、受け入れがスムーズにできるよう努めています。

■看護

外来全体目標は、①外来応援体制を強化し外来看護の質を向上させる、②各科の専門性を発揮できるようにキャリアアップを目指す、③コンプライアンスを守り働きやすい職場環境に努めより良い医療の提供に貢献する、です。外来の主な取り組みを紹介します。

1. 病棟と外来のシームレスな看護の提供

内科の入院センターでは、専従の看護師が患者さんの入院中の生活がイメージできるよう、丁寧に具体的な説明を行うことに取り組みました。患者さんからは、入院中のことがよく分かって安心して入院ができると好評です。

2. 急変対応チームの活動

急変対応委員会が中心となり、急変対応チームを編成し、急変シミュレーション学習、「外来待合室での待機中の患者の急変」を実施しました。勉強会は、「心肺停止時の対応」についてなど、毎年内容を変えて行い、外来看護師の急変対応能力の向上を目指しています。



3. 感染チームの活動

「手指消毒を励行する」を目標に、手指消毒剤（ゴージョー、ピュアラビング）の使用状況調査を毎月各部署で行い、グラフ表示し、見える化を図りました。その結果、手指消毒剤の設置場所の見直しや、看護師のみならず、医療職員個々の手指消毒の意識付けが強化され、感染予防に繋がりました。



■教育

外来看護師が輪番制で勉強会を企画し開催しています。鼻出血の対応、下肢静脈瘤について、疼痛スクリーニング、尿閉について、大腸内視鏡検査の前処置及び腸管洗浄剤について、小児点滴の固定方法や褥瘡の処置方法等々、多様な疾患の看護ができるよう研鑽しています。

さらに、コンプライアンスを遵守し、医療人としてのモラルを守り、働きやすい職場環境の構築のため毎月コンプライアンスの勉強会を実施しています。

■院内における研究・発表

院内看護研究発表会

診察待ち時間に対する質向上への取り組み
 ～待ち時間アンケート調査における患者心理～
 ○阪本 茜 服部加津子（内科外来）

地域救命救命センター

■スタッフ

科 長 西 村 留 美

主 任 前 田 智 子

主 任 竹 野 香 織 (救急認定看護師)

他 看護師 39 名 看護助手 1 名

■概要

地域救命救急センターは、平成 23 年 4 月に開設し、4 年目を迎えます。

1 階の救急外来では救急医療を必要とする患者の救急車の受け入れや他院からの紹介など全科の救急患者の対応を行っています。2 階には 8 床(個室 1 床)のベッドを有し、小児・産科を除く全科にわたる救急患者が入院可能であり、夜間入院を主に受け入れています。

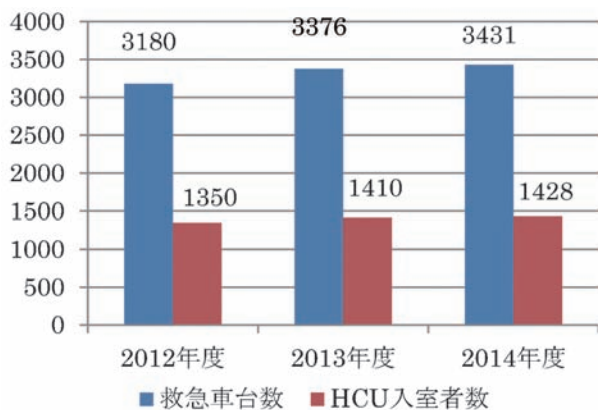


図 救急車台数と HCU 入室者数

■看護

日勤、夜勤ともに、外来リーダーと病棟リーダーが連携をとり、急患の受け入れ対応を行っています。

外来部門は、検査科や放射線科などの他部門との連携を密にし、重症患者や急変時に素早く的確な対応を心がけています。

救命センターに入院された患者は、状態に応じ、各専門科に振り分けられ、翌日一般病棟に転床するケースや、退院することもあります。必要時には HCU に幾日間か滞在することもあります。そのため満足度の高い看護が提供できるよう日々努力しています。

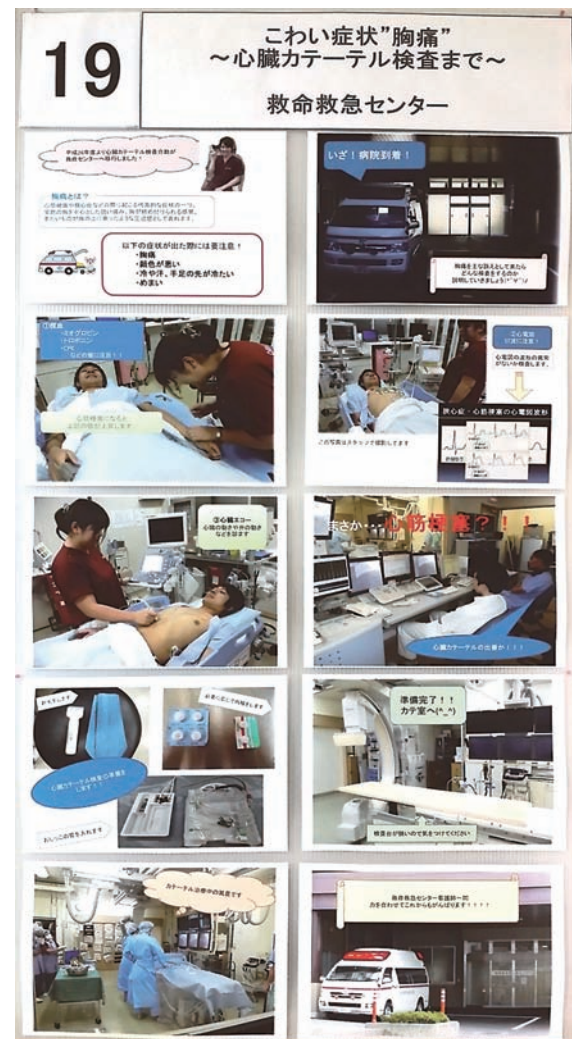
平成 25 年より、定期心臓カテーテル検査介助もを行っています。そのため看護業務も多岐にわたり、より高度なものを求められています。

■教育

・BLS、ICLS、JPTEC、ACLS などのコースに参加し、救急領域のスキルアップを図り、年々増加する患者に対応できるよう励んでいます。又、救命した患者が更に重症化しないよう医師による 1 回/週の救急勉強会や看護師による研修参加の伝達講習を行っています。

・2 校の看護実習の受け入れも行っており、看護学生の育成・指導にも力を注いでいます。

■院内における研究・発表



院内ポスター展

ICU・西3階病棟

■スタッフ

科長 村中 好美

主任 尾崎 直美

主任 坂本 佳奈江

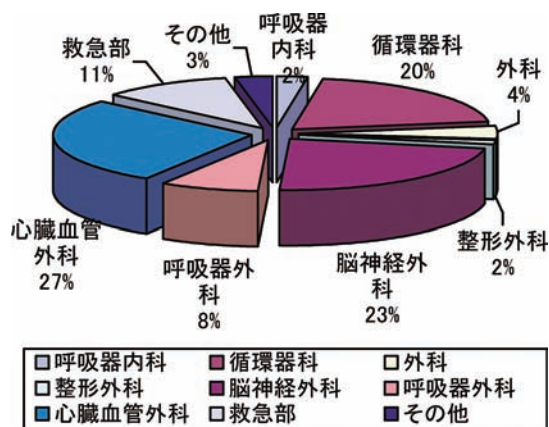
主任 辻 幸枝

病棟スタッフ：看護師 24名、看護助手 1名

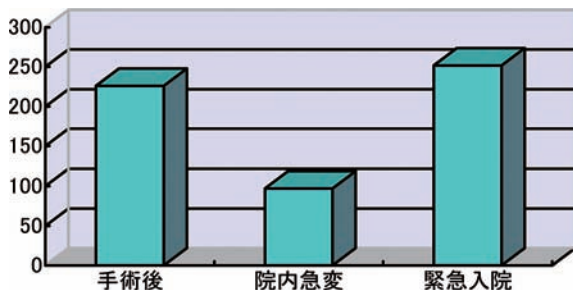
■病棟の概要

西3階病棟は、病床数11床（個室4床含む）で集中治療を必要とする患者さんを、院外・院内問わず受け入れています。このため、対応する診療科は全科にわたり、対象年齢も0歳から100歳と幅広い層となっています。勤務体制は、入室患者の重症度が高く長時間勤務の導入は困難なため、院内唯一の三交代勤務を行っています。

2014年度の入室患者は575名であり、近年の傾向として脳神経外科患者の入室が多くなっています。以下には、診療科別の入室割合を示します。



また、入室理由としては、血管内手術も含めた、術後入室の件数が増加しています。



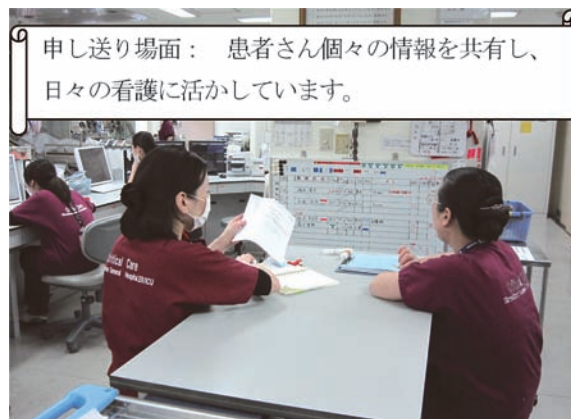
■看護

病棟目標を、「代弁者として患者・家族を支える看護の提供を行う」「専門的知識を高め、より充実

したクリティカルケアの提供に努める」としました。

目標1では、患者さんやご家族の意思決定が支援できる看護を実践するために、関連するスタッフとの情報交換を密にし、チーム医療の実践を行っています。その中で、個々の学びの機会を設け専門職としての感性を高める努力も行ってきました。

目標2では、専門的知識を高めるために、学びの共有を行い、共に成長できる風土を確立することを目指しました。経験値も異なるため、知識の差もありますが自分達に課せられた役割を認識し、日々努力しています。



■教育

＊救命センター開設以来継続して、毎週木曜日に医師・薬剤師等を講師として「救命センター勉強会」を開催しています。

＊院外研修では、BLS・FCCS、集中治療学会が開催する「ICU・CCU看護教育セミナー」の初級編及び中級編に参加し、スタッフのレベルアップを図っています。

また、2014年度は「ECMO（体外式膜型人工肺）プロジェクト」（日本呼吸療法学会）に参加しています。セミナーには他職種と共に参加し、医師・臨床工学技士と共にチーム医療に取り組んでいます。

■院内における研究・発表

院内看護研究発表

CPOT（Critical care Pain Observational Tool）を用いた当院ICUにおける鎮痛管理

○高松美沙季 伊藤 美奈 岡田 明子

西 4 階病棟

■ スタッフ

科 長 田 尾 由美子

主 任 竹 村 美 鈴

主 任 杉 中 知 子

主 任 植 野 祐 子

他 助産師 20 名 看護師 5 名 看護助手 3 名

■ 病棟の概要

診療科：産婦人科・外科

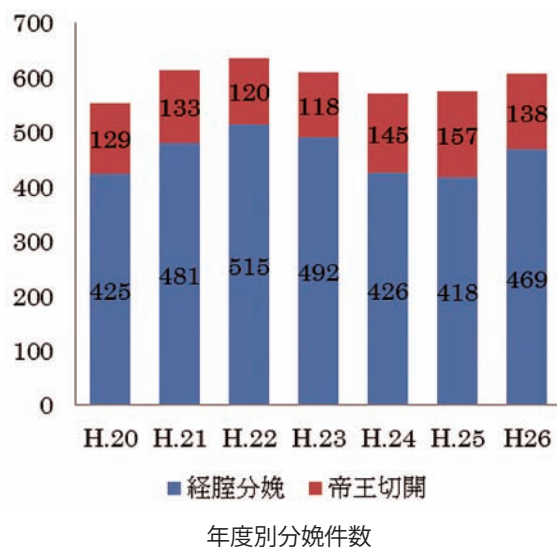
病床数：41 床

病床稼働率：86.9%

平均在院日数：9.2 日

H26 年度分娩件数：607 件 帝王切開率 22.7%

H26 年度手術件数：515 件



■ 看護

産科では外来保健指導やマタニティクラスにて妊娠中の体調管理や不安の軽減につとめ、継続したケアを行うことで、できるだけひとりひとりの希望に添えるよう妊婦さんに寄り添い出産をサポートしています。

産後の生活や育児においても母乳外来でのサポートと共に、小児科や保健センターと連携し継続した支援をおこなうことで育児不安の軽減、乳児虐待防止に努めています。

婦人科では 10 代から 90 代までの女性ならではの疾患において、周手術期や悪性腫瘍患者の化学療法、放

射線療法、終末期の患者さんに同じ女性としての目線で患者、家族に寄り添った看護を提供しています。

■ 教育

月 1 回医師を含めた胎児心拍モニタリングの勉強会を行っています。個々が興味を持った研修に参加し伝達講習をして専門的な知識、技術の習得を目指しています。骨盤ケア、乳房マッサージなど自分の得意分野での研修会を自主的に行い看護実践に役立てています。

■ 院外活動

今年度は、佐伯中学校（6 月）、世羅町立甲山小学校（12 月）に出向き“いのち”をテーマに講演を行いました。

■ 院内における研究・発表

母乳育児支援における産後 1 ヶ月までの母乳外来受診の有効性について

—当院の母乳外来受診の実績と母乳栄養率向上に向けた今後の課題—

◎有留 美菜 中本 佳世 田邊 智子 橋本麻衣子



西 5 階病棟

■ スタッフ

科 長 馬場崎 喜美子
水 村 めぐみ (7月1日より)
主 任 龍 敬 子
主 任 村 中 昌 美
主 任 中 村 希
他 看護師 34 名、看護助手 3 名

■ 病棟の概要

診療科は整形外科で主に脊椎疾患患者の看護、急性期の外傷患者の看護を行っています。病棟スタッフは、看護師 39 名、看護助手 3 名で構成されており、勤務体制は 2 交代勤務です。

平成 26 年度の整形外科手術件数：1473 件 病床稼働率：89%です。

■ 看護

固定チームナースング+受け持ち制を導入、さらに、受け持ちカード、担当カードを使用し、入院から退院まで責任を持ち、継続した看護を提供することに努めています。



当科では「患者参画型看護」に取り組んでいます。特に「転倒・転落予防」や「療養環境の整備」は、外来からの患者情報をもとに入院前からベッドや補助具の準備を行い、イラストの ADL シートをベッドサイドに提示することで患者さんとそのご家族、病棟スタッフが患者さんの状態を共有できるようにしています。「患者参画型看護」は、患者さんやご家族が参画することで個別性が生かされ、また、相互の情報の共有がより安心で安全な看護の提供に繋がることを目指しています。今後も患者さんと一緒になって考え共に協力し合える関係性を大事にして、

信頼される質の高い看護の提供ができるよう努力していきたくと考えています。

手術が決まった患者さんは早期に入院説明をおこなっています。患者さん、家族への情報提供、病棟看護師との情報共有は、患者さんのスムーズな受け入れに役立っています。



■ 教育

個人の興味、関心に基づき、研修会に参加してもらっています。研修会への参加は年間計画を立て、伝達講習を行うことで病棟全体のレベルアップを図っています。必要な知識・技術を明確にし、シミュレーション教育を充実させ、看護技術習得を支援しています。

1 年生のローテーション研修後は他病棟での学びを発表します。他病棟のいいところを取り入れ、また西 5 階病棟の良さを再発見できる機会となっています。1 年生の成長を形にし、モチベーションを高めるとともに、一緒に成長を喜ぶ機会としています。

スタッフ全員のキャリアラダー認定合格を目指すとともに、リーダーや実習指導者を育成し、スタッフがさらに成長できるよう支援を続けています。

■ 院内における研究・発表

経皮的後弯矯正術後再骨折を起こした患者の特徴をとらえる

○山野 千穂 中村 希 馬場崎喜美子

西 6 階病棟

■ スタッフ

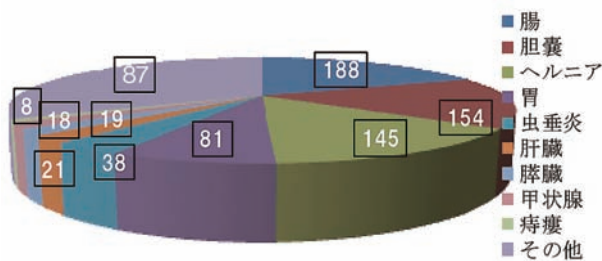
科 長 馬場崎 喜美子
主 任 藤 村 雅 子
主 任 平 野 有 紀
主 任 島 津 加奈子
他 看護師 29 名、看護助手 3 名

■ 病棟の概要

【診療科】消化器外科

【病床数】54 床（個室 6 室 4 人部屋 12 室）

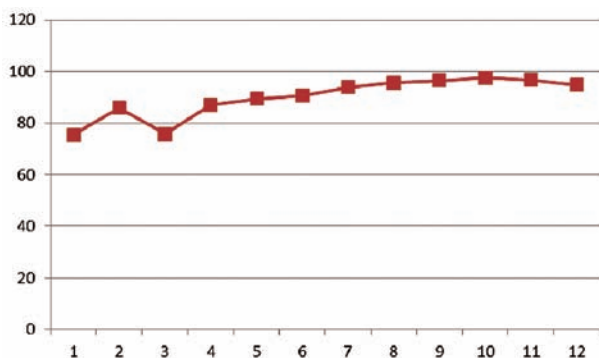
手術件数 759 件



【図 1】平成 26 年度手術件数内訳

■ 看護

「外科看護に特化した病棟」を目標としており、術後の合併症予防に加えて、周術期看護の充実した取り組みを行っています。また他部門の協力も得て、術後の合併症予防も行っています。当科入院患者数も増え、年間平均病床稼働率 90%を保っています。



【図 2】H26 年度病床稼働率

【ストーマ外来】

開設日：週 1 回（月曜日・木曜日）

時間：9 時～ 17 時

受付：外科外来

場所：西 6 階病棟

担当者：皮膚・創傷ケア認定看護師

中国ストーマリハビリテーション講習会受講者

2007 年に開設したストーマ相談外来（毎週 2 回 月・木曜日）の相談者も増え、去年は皮膚・創傷ケア認定看護師、または専門の教育を受けた看護師が担当した相談は延べ 72 件でした。



（相談対応中）



（ストーマ外来入口）

■ 教育

毎月 1 回テーマを決め、勉強会を実施しています。昨年実施した勉強会を表 3 にまとめました。専門知識を習得するため医師、コメディカルの協力も得て、研修会を計画しています。

対象	研修内容
全スタッフ	外科疾患勉強会（医師） クリニカルパス勉強会（医師） 人工呼吸器の管理（臨床工学士） シリーズ「ストーマリハビリテーション」 口腔ケアの実際 嚥下評価の実際 急変時の対応
新人スタッフ	疾患別外科看護（1 回／月）

■ 院内における研究発表

○手術前後の患者サポートの見直し

～手術前口腔ケアより病棟の取り組みを考える～

西 7 階病棟

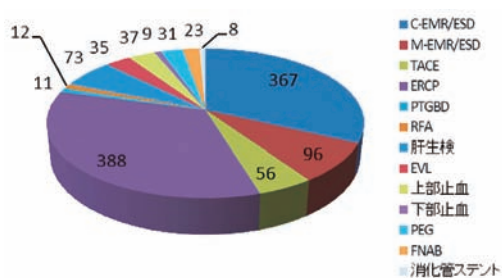
■ スタッフ

科 長 松 下 理 恵
主 任 本 山 敏 恵
主 任 上 田 美 紀
主 任 山 本 時 生 子
他 看護師 29 名 看護助手 2 名

■ 病棟の概要

当病棟の病床は 55 床、個室 7 室（うち特別室 1 室、重症個室 1 室）、4 人部屋 12 室を有する消化器内科・画像診断部の病棟です。消化管疾患や胆膵系疾患に対しての内視鏡治療や肝疾患の患者さんが多く、入院中はクリニカルパスに沿って医療を提供しています。

2014 年度に入院された患者さんの治療件数は以下の通りです。



2014 年 病棟運営状況

病床稼働率	在院日数	1 日患者数	入院患者総数
85.90%	15.3 日	47.2 人	1241 人

■ 看護

看護体制は、固定チームナースング制をとっており、2 チーム二交代制で行なっています。検査当日の入院や緊急入院の患者さんも多く、限られた時間のなかでの情報収集や対応が重要になっています。病棟目標に「患者満足度をあげる」ことを掲げ、十分なオリエンテーションやコミュニケーションをとることを心がけています。また、慢性期やターミナル期の患者さんも多く、「心のこもった看護」に努めています。毎日のショートカンファレンスを行い、患者情報の把握を行うとともに、毎月のチーム会ではインシデントや業務改善について話し合い、団結力をはかっています。

平成 24 年度に行った看護研究の結果から「内視

鏡的経鼻胆道ドレナージチューブ留置患者に対するオリエンテーションブック」を作成しました。患者が治療前より挿入について理解ができ、挿入後の管理がスムーズに行えると考えました。作成により、改めて私達の援助方法について考える機会になり、来年度は活用していきたいと考えています。



■ 教育

新人看護師が専門的治療についての知識と技術を習得出来るようプリセプターが中心となり、プログラムに沿って勉強会を行なっています。



今年度は、「腹水再静注時の介助方法」「胃瘻の看護」「急変時の対応について」を行い、1 年生が学んだことを発表しました。

また、癌化学療法や肝炎治療など新しい治療方法について、医師や薬剤師、化学療法認定看護師も含め日々、勉強会を行い安全な治療の実施が出来るよう心がけています。

その他、毎月開催している「消化器内科懇話会」では、医師、看護師、他職種のスタッフと共に消化器疾患や治療について学ぶだけではなく、日々の業務で連携がスムーズに取れるような関係づくりの場としても役立っています。

■ 院内における研究・発表

院内研究発表会

大腸内視鏡検査における腸管洗浄剤の検討
～モビプレップを使用して～

○本山 敏恵 松下 理恵 石崎 淳子 徳毛 宏則

西 8 階病棟

■ スタッフ

科 長 鶴 谷 理 恵
主 任 岡 田 恵美子
主 任 松 浦 美由紀
主 任 久 保 洋 子
他 看護師 30 名 看護助手 4 名

■ 病棟の概要

西 8 階病棟は呼吸器内科、放射線治療科、緩和ケア科を主とする混合病棟です。病床数は 55 床で、個室 7 室（うち重症個室 2 室）、4 人部屋 11 室、緩和ケア科用の 2 人部屋 1 室あります。

2014 年度の緩和ケア科入院患者数は延べ 61 名で平均在科日数は 16.34 日でした。院内転科としては、外科が全体の 46.7%、次いで消化器内科 23.3%、泌尿器科 10.0%、乳腺外科 6.7% でした。その他婦人科、泌尿器科、整形外科、皮膚科、放射線治療科など様々な科からの転科を受け入れています。

■ 看護

看護方式は固定チームナーシングで呼吸器ケアを中心としたチームと緩和ケアを中心としたチームの 2 チーム制をとっています。

呼吸器ケアを中心としたチームは排痰援助法、栄養管理、誤嚥リスク、嚥下リハビリについて他職種カンファレンスを毎週火曜日に行っています。スマートベストを使用した排痰援助や体位変換用クッションを用いた体位ドレナージ・ポジショニングを行い、誤嚥予防ケアに努めています。



平成 26 年度スマートベストを用いた排痰の効果について看護研究に取り組み、その結果スマートベストの効果を実感しました。今後は機器と看護技術を融合させた呼吸器ケアが実践できるように呼吸器ケアチーム全体で考えて行きたいと思います。

緩和ケアを中心としたチームは疼痛コントロール、患者・家族ケア、情報の共有など医師、看護師（緩和ケア認定看護師を含む）臨床心理士で毎日カンファレンスを行い、症状緩和に努めています。

毎週水曜日に地域医療連携室相談員と退院・転院調整カンファレンスを行い患者・家族の思いや調整状況を確認しています。

■ 教育

看護の質を向上させるために主任、各チームリーダー、新人サポート委員会を中心に勉強会を行っています。講師は看護師だけでなく医師、臨床工学士、事務など他職種の方にも協力をいただいています。

新人教育の集大成として 3 月に患者急変のシミュレーションを 1 年生に対して行いました。患者の観察ポイントや SBAR での報告などを実際に行いました。



日本赤十字広島看護大学の実習を受け入れて、学生指導にも力を入れています。

■ 院内における研究・発表

1. 平成 26 年度院内研究発表会
スマートベストを用いた排痰の効果
～呼吸器内科病棟の取り組み～
宗網 博子

東 3 階病棟

■ スタッフ

科 長 丸 澤 葉志子
主 任 山 口 瑞 穂
主 任 益 田 尚 恵
主 任 宮 本 英 美
他 看護師 29 名 看護助手 3 名

■ 病棟の概要

診療科：循環器内科・心臓血管外科

病床数：44 床

病床稼働率：86.8%

平均在院日数 16.8 日

急性心筋梗塞・重症心不全・開心術術後等、ICU からの転床も多く、重症度の高い患者が多いのが特徴です。

看護方式：固定チームナースング（2 チーム）
一部機能別

他職種合同カンファレンス

心臓血管外科 毎週火曜日 15 時～15 時 30 分

循環器内科 月・火・金 9 時～9 時 30 分

■ 看護

心疾患は、生活習慣の改善が重要です。循環器内科・心臓血管外科で入院された患者様・ご家族に生活指導を行っています。2013 年 10 月から、心不全患者に対する、包括的心臓リハビリテーションを開始しました。指導パンフレットを多職種共同で作成し、使用しています。

又、循環器内科の多職種合同カンファレンスを 2014 年 10 月から開始しました。心臓血管外科共に全患者対象のカンファレンスを行い、医療スタッフが共通認識を持ち、患者・家族にかかわっています。



■ 教育

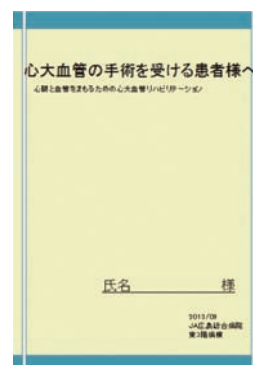
循環器看護に必要な知識の向上と技術の習得のため、新人教育はプリセプターが中心となり、スタッフ教育は教育担当主任が中心となり指導計画を立てます。医師に協力してもらい勉強会を開催し、学びを深めています。2014 年度の新人看護師教育は、4 月から様々な処置やケアを体験し、その後学習し学びを深めるといった方法を取り入れました。

勤務異動者には、教育係がつき、経験年数などを考慮した独自の計画を立て、精神的にも技術的にもサポートする体制をとっています。

スタッフ間の教育・サポートを病棟全体で行う環境が整ってきています。

■ 院内における研究・発表

第 20 回日本心臓リハビリテーション学会学術集会
心不全患者における包括的心臓リハビリテーション導入への取り組み



東 4 階病棟

■ スタッフ

科 長 川 村 洋 子
主 任 畝 小百合
主 任 秦 真規子
他 看護師 25 名 看護助手 2 名

■ 概要

当病棟は小児科・眼科・耳鼻咽喉科の混合病棟、病床数は 43 床です。個室 10 室（うち重症個室 1 室）、2 人部屋 6 室、4 人部屋 5 室です。

入院患者の多くは廿日市市、広島市佐伯区、大竹市の方です。広島県西部地区における小児の入院の受け入れ可能施設は当院のみのため、小児の入院は多方面より受け入れています。

■ 看護

病棟では、小児科・耳鼻咽喉科・眼科別に看護チームを作り、日々課題をもって取り組んでいます。

1. 眼科看護チームでは、高齢者の転倒予防に取り組みました。眼科の白内障手術は入院日数が短期間であり、高齢者の多くは慣れない環境の中で入院生活を送ります。手術当日は、術側の眼を眼帯で覆うため、視野も狭くなり転倒のリスクがより高まります。そこで、取り組みとして、眼科外来と連携し、入院前に転倒転落予防確認シートをご記入いただき、入院前から転倒のリスクをアセスメントし、よりよい安全な療養環境の準備・提供に努めました。患者・家族からは、確認シートを記入することで自分や家族が転倒に注意しないといけないところがあった、などの声も聞かれ、転倒について改めて考える機会となり、転倒予防に効果がみられました。
2. 小児科看護チームでは、近年増加している食物アレルギー負荷試験入院患児への看護の充実に努めました。勉強会の開催や看護手順の見直しを行い、個々のスキルアップを図りました。また、病棟内の小児科処置室を、患児が安心して採血などの処置を受けることができるような環境改善に取

り組みました。今後もストレスの少ない入院環境の提供や保護者へのサポートにも取り組んでいきます。



■ 教育

看護の質を向上させるため、病棟内で月 1 回以上の勉強会を行っています。

講師には、医師、管理栄養士、認定看護師など多くの職種の方に協力をいただいています。

平成 26 年度 勉強会 内容

- ・食物経口負荷試験について
- ・小児の心肺蘇生法
- ・経管栄養～投与方法と注意点～
- ・小児腎臓病の検査のみかた
- ・緑内障・白内障について
- ・地域包括ケアシステムとは

等



東 5 階病棟

■ スタッフ

科 長 松 村 鶴 代
主 任 坂 本 真由子
主 任 岩 崎 文 江
他 看護師 36 名 看護助手 4 名

■ 概要

定床 51 床で、一般病室 7 部屋と混合病室 3 部屋、一般個室 9 床、重症個室 2 床の病棟です。主に脳神経外科・口腔外科患者を対象とする混合病棟です。平成 26 年度の平均在院日数は脳外科 31.2 日、口腔外科 12.4 日です。

■ 看護

看護師の勤務形態は、2 交代制、チームナーシング方式で、受け持ち看護師制をとっています。

今年は 4 つのチームを編成しテーマごとに活動しました。

1、【患者指導】退院時指導チーム

20 ページにおよぶ詳しいもので「脳卒中にかかれた患者様とご家族の方へ」のパンフレットと「脳卒中の後遺症」の 2 冊のパンフレットの作成に取り組んで完成させることができました。今後は、このパンフレットを使用して入院時から指導に力を入れて行きたいです。



2、【業務改善】申し送り改善チーム

スタッフ同士の申し送りを廃止し、必要な情報は各自で電子カルテから収集し、リーダーからリーダーへの申し送りのみとして時間は、10 分程度を目標に取り組みました。開始時は、戸惑いもありましたが、メンバーは、早くからベットのサイドケアができ時間を効果的に使用できるようになりました。

3、【スタッフ教育】急変シミュレーションチーム

蘇生人形を使用し、医師を交え、本番さながらのシミュレーション研修を 5 回／年行うことができスタッフからよく理解でき、自信に繋がったとの声も聞かれ効果的であった。

4、【自己啓発】勉強会企画、研修参加計画チーム

ME、リハ、栄養士、研修医を講師に勉強会を企画、運営し東 5 病棟の看護に必要な知識を身につけました。

■ 教育

- ・ラダーⅠに 5 名、ラダーⅡに 2 名、ラダーⅢに 2 名の看護師が認定されました。ラダー認定もスタッフに定着し、早期から研修に参加し、積極的に取り組めるようになりました。
- ・日本救医学会と日本神経救急学会主催の ISLS（脳卒中初期診療コース）5 名が受審し、全員終了しました。

■ 院内における研究・発表

- ・脳神経疾患患者における達人看護師による内服方法選定の判断基準 ○山崎 克仁 小西 香里
- ・脳血管疾患患者家族への入院時オリエンテーションの現状 ～アンケートの結果から～
○渡邊 衣梨 森 由美子
- ・ふれあいポスター展（第 5 回）で看護部門と住民投票部門からのダブル受賞となりました。

テーマは「ちょっと遅すぎるかもよ。ブレインダッシュ！」で第 3 回に次ぐ 2 度目の受賞です。3 年目ナースが中心になって取り組みました。



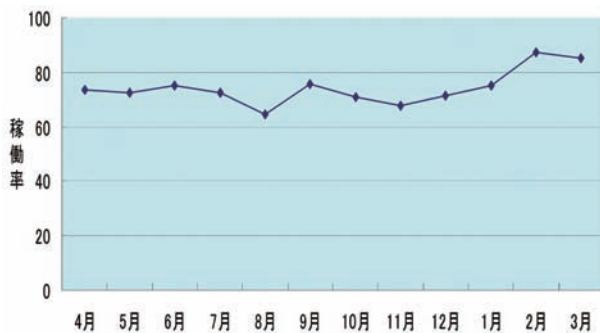
東 6 階病棟

■ スタッフ

科 長 藤 本 七津美
主 任 廣 瀬 敏 子
主 任 古 井 良 子
他 看護師 24 名 看護助手 2 名

■ 病棟の概要

東 6 階病棟は、病床数 49 床の泌尿器科・乳腺外科・皮膚科の混合病棟です。平成 26 年度に実践した周術期看護は、565 件数になっています。稼働率は、年度末より徐々に上昇し、85.3%（平成 27 年度 3 月平均）となり、目標とした 85%以上を維持しています。【図 1】病棟概要の詳細は【表 1】に示します。



【図 1】平成 26 年度月別病棟平均稼働率

【表 1】平成 26 年度病棟概要

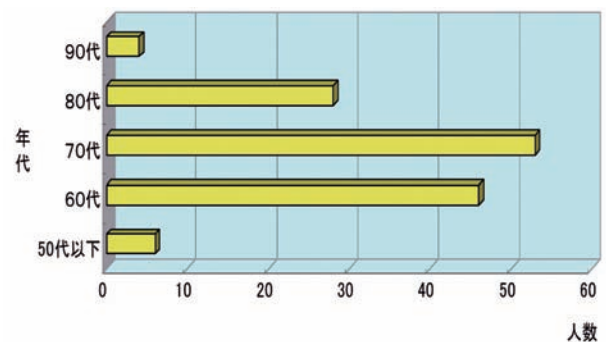
病 床 数	49 床
年間入院患者数	1246 名
退 院 患 者 数	1324 名
年間手術件数	565 件
在 院 日 数	12.8 日
在 宅 復 帰 率	89.8%
勤 務 体 制	2 交代勤務（平均夜勤回数：7.8 回）
看 護 体 制	固定チームナーシング
平均看護必要度	21.5%
専門看護チーム	乳腺チーム スキンケアチーム 泌尿器科チーム

■ 看護

平成 26 年度は「自己研鑽での学びを病棟看護に活かしていこう」「体調管理を十分に行い、看護ケアを充実させよう」の病棟目標を立案しました。病棟スタッフ全員が、3 チームの専門看護チームに所属し、計画的に研修会に参加しました。（平成 26 年度研修参加数：80 件）

参加した研修内容は、病棟研修会で伝達講習され、病棟内での知識共有が図れました。27 年度は、専門チームをさらに 6 チームに細分化し、更なる専門的知識の習得と共有を行い、専門看護ケアに反映していきたいと思っています。

また平成 26 年度は、「手術をうけられる患者様に入院前からかわりサポートをしていきたい」という思いを実践するため入院前オリエンテーションを開始しました。実施できた患者の内訳は【図 2】に示します。



【図 2】入院前オリエンテーション年代別分布

■ 教育

【表 2】平成 26 年度主な参加研修一覧

分 野	研修名
乳 腺 看 護	乳房再建看護セミナー がんリハビリテーション研修会
ス キ ン ケ ア	高齢者のスキンケア CNC 褥瘡トータルケアセミナー
泌尿器科看護	急性期病院におけるせん妄予防と対応
看 護 教 育	平成 26 年度教育者責任研修会 第 45 回日本看護協会看護教育学会

■ 院内における研究・発表

院内看護研究会

前立腺生検をうける患者へのクリニカルパスの効果について

ポスター展発表

前立腺生検について

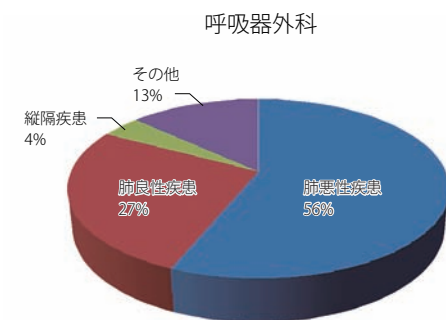
東 7 階病棟

■ スタッフ

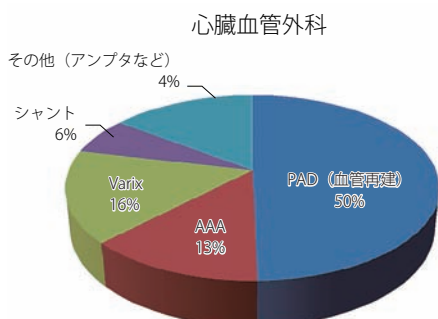
科 長 村 中 ひろみ
主 任 伊 藤 昭 典
主 任 小松野 明 美
他 看護師 27 名 看護助手 2 名

■ 病棟の概要

主な診療科：呼吸器外科・心臓血管外科
病床数：43 床 個室 11 室（うち重症個室 2 室）
4 人部屋 8 室
看護体制：固定チームナースィング（2 チーム）
受け持ち制、2 交代勤務
呼吸器外科の主な疾患：肺がん、縦隔腫瘍、気胸、
膿胸
心臓血管外科の主な疾患：末梢動脈疾患、腹部大
動脈瘤、下肢静脈瘤
2014 年度の手術件数の内訳は図 1 に示します。



肺悪性疾患（85 件）肺良性疾患（40 件）
縦隔疾患（6 件）その他（20 件）



PAD（146 件）AAA（38 件）Varix（47 件）
シャント（19 件）その他（44 件）

図 1 手術件数

■ 看護

患者さんとの関わりを深め、きめ細かく・質の高い看護を提供するため、4 月より固定チームナースィ

ングを導入しました。入院から退院まで安心して過ごしていただくため、受け持ち看護師を中心とした看護の提供に力を入れています。5 月からは、下肢血管チーム（メンバー：心臓血管外科医師・形成外科医師・理学療法士・薬剤師・栄養士・看護師）によるフットケア回診を開始しました。毎週金曜日に下肢潰瘍など下肢にトラブルを抱えている患者さんを回診し、末梢動脈疾患患者さんの下肢ケアの充実に努めています。月に 1 度、回診後にミーティングを行い、疾患や検査についての勉強会やチーム活動の検討も行っています。

フットケア回診



■ 教育

専門知識を習得し個々の成長を促すために、病棟内で勉強会を行っています。また、病棟全体のレベルアップを図るため、院外研修にも積極的に参加しています。

〈2013 年度に施行した勉強会〉

- ・ DESIGN-R の評価のしかた
- ・ 人工呼吸器の仕組み
- ・ 呼吸器外科勉強会
- ・ 抗血栓薬について
- ・ フットケアについて

■ 院内における研究・発表

肺切除を受ける肺癌患者の不安に着目したパンフレット指導の有効性の検討

○中野 純子 戎崎 美里

RCT 活動報告と今後の課題

○道脇 純子

東 8 階病棟

■スタッフ

科 長 槌 谷 滋 乃

主 任 新 田 克 己

主 任 山 本 時 生 子

他看護師 31 名、透析看護師 4 名、看護助手 2 名

■病棟の概要

【診療科】糖尿病代謝内科 腎臓内科

透析室

【病床数】34 床（個室 11 室、4 人部屋 6 室）

透析室 15 床

【看護体制】

6 月から 2 チームでの固定チームナーシングを導入
平均病床稼働率 87%

■看護

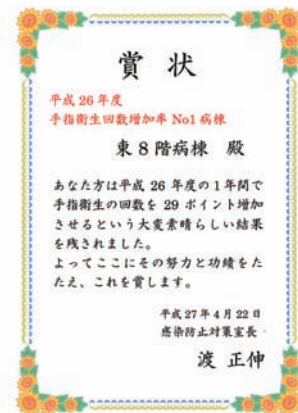
今年から看護体制を固定チームナーシングに変更し、毎朝チームでカンファレンスを実施し、看護目標・計画の見直しをおこなっています。カンファレンスでは患者の治療・看護の方向性を検討するため、主治医にも参加してもらい、意見交換をおこなったりしています。また奇数月にはリーダー会を開き、業務改善の見直しをはかれるよう、意見交換をおこなっています。

その他、昨年度に引き続き、毎週月曜日は糖尿病患者のカンファレンス、毎週木曜日は腎臓病患者のカンファレンスをコメディカルを含めて実施しています。

■教育

今年は感染対策委員会を中心に、感染管理の認識を高めるように働きかけ、その結果、感染防止対策室より「手指衛生回数増加率 No. 1」に表彰されました。

新人看護師教育はプリセプターを中心に年間計画を立案し、毎月の目標と指導計画を考えています。また、病棟勉強会係が毎月新人対象の勉強会や病棟全体の勉強会を計画し、スタッフの育成に力を入れています。



■院内における研究・発表

【研究発表】

透析患者のかゆみに対するスキンケア指導について
～患者・スタッフ教育への取り組み～

○乗金 利絵



【院外活動】

あいプラザまつりへの参加

廿日市市ケアマネージャー対象「透析について学ぼう」の研修講義



手術室

■スタッフ

科 長 村 田 美智子
主 任 上 田 順 子
主 任 生 田 佑 子
他 看護師 31 名 看護助手 15 名

■概要

当院手術室は 13 診療科の手術を行っており、平成 25 年度の年間手術件数は 5,662 件（うち麻酔科管理 3,907 件）でした。緊急手術は 779 件（昨年 758 件）と、定期手術・緊急手術とも増加傾向にあります。手術室 9 室をフル稼働させ、地域救命救急センターを有する急性期病院として役割遂行に努めています。また、平成 26 年度は、「手術室の効率的運用」をテーマに富士通 FI（フィールドイノベーション）サービスを利用した手術室業務改善に院内全体で取り組みました。その施策の成果評価の主なものとして、①午前中稼働率アップ②定時内終了手術増加があります。



■看護

看護師 2 名で待機体制をとり、365 日 24 時間緊急手術に対応できる勤務体制をとっています。

1. 予定手術に対しては手術担当看護師による術前訪問を行い、患者様・家族の緊張不安軽減に努めています。また、手術中の皮膚トラブル・体位による弊害に細かく留意した看護の実践にも努めています。
2. 手術管理システムの修正・整理や、スタッフによる器械管理・器材物品管理などの役割分担や、医療機器の管理・看護行為を臨床工学士と連携・協働して実施することで、より安全・安心な手術環境が提供できるように努めています。

3. 安全・安心な医療・看護の提供を目指しマニュアルを作成し、看護の統一に努めています。



月に 1～3 回行っている FI の資料

■教育

新人看護師教育は、1 年目・2 年目ともプリセプターを中心に立案した教育計画をラダーで提示し、プログラムに沿って実施しています。毎月プリセプター会議・リーダー会議を行い、各科指導チームとも連携を図り各科手術に対応できる幅広い知識・技術の習得、スタッフ育成に力をいれています。看護実習は 2 校受け入れており看護学生への指導・育成にも力を注いでいます。

■院内における研究・発表

平成 26 年度院内看護研究発表会

「手術室における外回り看護師の眼への血液・体液曝露防止に関する意識調査～ゴーグルの使用状況から明らかになったこと～」

研究者：○高野 正義 赤木 友香 大島みのり
佐々木京子



居宅介護支援事務所

■スタッフ

管理者 矢野 秀美

(主任介護支援専門員、看護師)

他 介護支援専門員(看護師) 1名

■概要

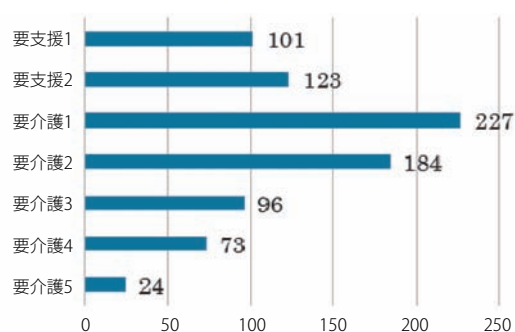
事業所の介護支援専門員が、要介護状態又は要支援状態にある利用者に対しその有する能力に応じて、可能な限り自立した日常生活を営むことができるよう適正な居宅介護支援を提供することを目的とします。

介護支援専門員(ケアマネジャー)は介護保険法によって定められた職種で、適切なサービスを利用できるよう、本人や家族の要望を伺いながら、ケアマネジメントを行い、居宅サービス計画(ケアプラン)を作成します。

更に、サービス事業者や施設との連絡調整も行います。居宅介護支援事業所は、都道府県の指定を受けた専門の事業者です。



*年間介護度別利用者数(実績)



*主な支援内容数(実績)

	年間総数	月平均
利用者宅訪問	911件	75.9件
計画書配布	119件	10件
サービス担当者会議	137件	12件
モニタリング	706件	58.5件
代行申請	48件	4件
住宅改修の調整	33件	2.75件
他機関との連携	613件	51件
医師との連携	66件	5.5件

■教育

広島県介護支援専門員協会、廿日市市介護支援専門員連絡協議会、廿日市市五師士会、広島県、廿日市市、院内研修会等に参加、伝達講習を行い自己研鑽に努めています。



ケアマネジャー 2名

訪問看護ステーション

■スタッフ

管理者 古本 直子

(緩和ケア認定看護師、主任介護支援専門員)

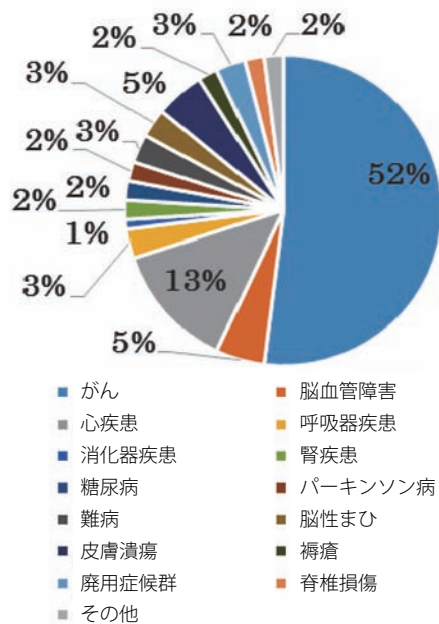
主任 奥元 直美

他 看護師 2名

■概要

当訪問看護ステーションは、急性期病院、地域がん診療連携拠点病院に併設し、がん末期の方や医療依存度の高い方を、医療と介護の連携を図りながら支援しています。

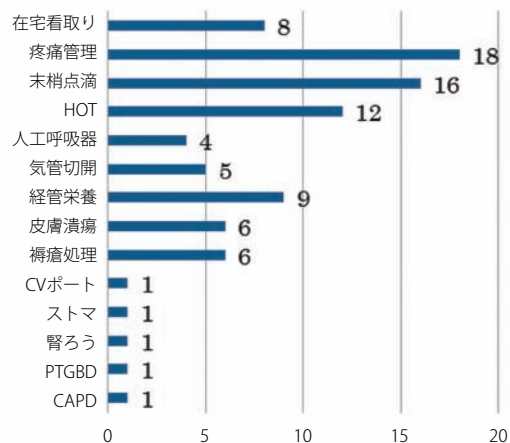
- ・利用者の年齢 9歳～98歳
- ・月間利用者数：27人前後（年間総利用者数 62人）
- ・月間のべ訪問件数 140件
- ・介護保険：医療保険＝7：3
- ・主な疾患（N＝62）



・地区別訪問利用者数

廿日市地域	44件	大野地域	9件
旧佐伯町	2件	佐伯区	7件

・主な医療処置（重複該当あり）



■看護

1. 看護師4名で待機制をとり、365日24時間連絡対応体制をとっています。
2. 経験年数20年以上のベテラン看護師で、サービス提供体制加算、医療依存度の高い利用者さんに対応できる特別管理加算も算定しています。



薬剤部

■スタッフ

部長 橋本 佳浩
 科長補佐 磯貝 明彦
 科長補佐 中島 恵子
 主任 高先 邦子
 主任 古月 雅子
 主任 松本 里恵
 主任 正畠 和美
 主任 角井 碧

薬剤師 計 36 名（役職者含む） 事務 6 名

〔人員配置〕

西 4 階、西 5 階、西 6 階、西 7 階、西 8 階、東 3 階、
 東 4 階、東 5 階、東 6 階、東 7 階、東 8 階、HCU、
 ICU に病棟薬剤師

がん化学療法専任 3 名 ICT 専任 1 名
 NST 専任 2 名 緩和ケア専任 1 名
 DI 専従 1 名

〔取得資格（認定、所属学会、世話人等）〕

日本臨床救急医学会 救急認定薬剤師 1 名
 日本臨床腫瘍薬学会 外来がん治療認定薬剤師 3 名
 日本緩和医療薬学会 緩和薬物療法認定薬剤師 1 名
 日本病院薬剤師会
 感染制御認定薬剤師 2 名・認定指導薬剤師 2 名
 がん薬物療法認定薬剤師 1 名
 生涯研修履修認定薬剤師 20 名
 日本薬剤師研修センター
 認定実務実習指導薬剤師 3 名
 研修認定薬剤師 9 名
 日本化学療法学会 抗菌化学療法認定薬剤師 1 名
 糖尿病療養指導士 6 名
 日本静脈経腸栄養学会 NST 専門療法士 2 名
 日本アンチ・ドーピング機構（JADA）
 公認スポーツファーマシスト 1 名

日本 DMAT 隊員 2 名
 日本救急医学会 ICLS インストラクター 2 名
 危険物取扱者 1 名
 NR・サプリメントアドバイザー 1 名
 日本糖尿病学会 1 名・日本臨床薬理学会 1 名
 日本 TDM 学会 2 名・日本化学療法学会 1 名
 日本医療薬学会 5 名・日本腎臓病薬物療法学会 3 名
 日本緩和医療学会 1 名・日本緩和医療薬学会 3 名
 日本臨床腫瘍学会 1 名・日本臨床腫瘍薬学会 3 名

日本環境感染学会 1 名・日本臨床救急医学会 1 名
 日本静脈経腸栄養学会 2 名・日本褥瘡学会 1 名
 全国厚生連病院薬剤師長会議理事・監事 1 名
 廿日市市薬剤師会理事・副会長 1 名
 広島県病院薬剤師会理事 1 名
 広島県病院薬剤師会委員会
 （DI 委員 1 名、薬剤業務・プレアボイド委員 1 名）

■業務内容

調剤業務：外来 500 枚／日（院外処方箋発行率 0%）
 入院 250 枚／日
 注射調剤 240 枚／日、院内製剤 48 品目
 TDM（VCM・TEIC・ABK）10 症例／月
 抗がん剤無菌調製：外来 15 件／日 入院 7 件／日
 抗がん剤レジメン構築・管理
 薬剤管理指導算定件数 842 件／月、
 持参薬鑑別 201 件／月
 薬品管理（採用薬：内服薬 740、注射薬 527、
 外用薬 305、用時購入 81）
 医薬品情報（DI）、ICT、NST、医療安全管理、
 後発医薬品選定、糖尿病教室、肺がん教室
 治験 16 件／年、実務実習 7 名／年
 がん指導管理料 3 算定（薬剤部）197 件／年

■その他活動内容

プレアボイド、各委員会、薬事委員会事務局、治
 験委員会事務局、がん化学療法運営委員会事務局

■管理機器一覧

錠剤分包機、散剤分包機、散剤バーコードシス
 テム、高圧蒸気滅菌器、乾熱滅菌器、RO 純水製
 造装置、クリーンベンチ、安全キャビネット

■部内の研修会

2 回／月 薬剤部定期勉強会・症例検討会
 全病棟に薬剤師を配置し、病棟薬剤業務加算を
 算定、病棟での薬物療法すべてに関わり、薬剤の
 安全管理と適正使用に貢献しています。

2014 年度は、新たに 1 名が救急認定薬剤師、3
 名が外来がん治療認定薬剤師の資格認定を取得
 し、より専門性の高い業務を行っています。

臨床研究検査科

■スタッフ

主任部長 石 田 和 史 (兼務)

部 長 碓 井 裕 史 (兼務)

精度管理部長 藤 井 隆

科 長 水 野 誠 士

科長補佐 三 舩 正 志

主 任 笹 谷 真奈美

主 任 横 山 富 子

主 任 山 下 美 香

主 任 小 松 浩 基

臨床検査技師 (役職者含む) 38 名

助手 2 名

◆取得資格

認定管理検査技師 1 名

認定輸血検査技師 2 名

認定一般検査技師 2 名

認定血液検査技師 1 名

認定心電検査技師 1 名

細胞検査士 1 名

超音波検査士 5 名

(循環器 2、消化器 2、体表臓器 1)

血管診療技師 3 名

二級甲類臨床病理技術士 10 名

(血液学 6、循環器 2、脳神経 1、呼吸生理 1、病理学 2)

DMAT 隊員 (1) 消化器内視鏡技師 (1)

一般毒物劇物取扱者 (2) 医療情報技師 (2)

医療廃棄物管理責任者 (1)

特化物四アルキル鉛等作業主任者 (1)

健康食品管理士 (4) 危険物取扱者 (1)

() 内は取得人数

◆所属学会

日本臨床衛生検査技師会 日本臨床検査医学会

日本臨床細胞学会 日本超音波医学会

日本検査血液学会 日本輸血・細胞治療学会

日本消化器内視鏡学会 日本臨床検査自動化学会

日本超音波検査学会 日本感染症学会

日本臨床微生物学会 日本化学療法学会

日本環境感染学会 日本結核病学会

日本心エコー図学会 日本不整脈心電学会

日本睡眠学会 日本乳腺甲状腺超音波医学会

■施設基準

日本臨床衛生検査技師会 認証精度保証施設

標準化事業 基準基幹施設

■部門研修会

・乳腺エコー関連業務

・平成 26 年度診療報酬改定と臨床検査室としての対応

・CPX 勉強会 (初級編)

・ミオグロビン、トロポニンについて

・CPX 勉強会 (中級編)

・広島県標準化事業調査報告 (血液部門)

・当院でのルーチン心エコー検査の実際と所見用紙について

・抹消血液鏡検を契機として早期発見に至った
Capnocytophage canimorsus による掻傷感染症
の一例

・甲状腺疾患と検査

・B 型肝炎について

・ウイルス性出血熱について

・血液ガス検体の取扱いについて

・尿沈渣中に見られる結晶について

■トピックス

日本脈管学会 基幹施設認定のため、血管診療技師の資格を 3 名が取得しました。

■外部精度管理成績

・平成 26 年度日臨技臨床検査精度管理調査結果報告
100 点 (230 / 230)

・日本医師会臨床検査精度管理調査結果報告
99. 7 点 (643 / 645)

・広島県医師会臨床検査精度管理調査結果報告
99. 1 点 (575 / 580)

■今年度更新検査機器

・全自動微生物培養検出装置

VersaTREK240 (コージンバイオ (株))

・心臓エコー

TOSHIBA Aplio500

中央放射線科

■スタッフ

主任部長 西 原 礼 介 (兼務)

科 長 小 濱 千 幸

科長補佐 山 口 裕 之

海老谷 京 子

主 任 本 山 貴 志

高 畑 明

砂 田 研 二

診療放射線技師 25 名 (科長、主任含む)

▲取得資格

検診マンモグラフィ撮影認定技師 7 名

JABTS 乳腺超音波検査認定試験 A 判定 1 名

放射線治療専門放射線技師 2 名

放射線治療品質管理士 2 名

第 1 種放射線取扱主任者 4 名

エックス線作業主任者 2 名

ガンマ線透過写真撮影作業主任者 2 名

第一種作業環境測定士 1 名

日本核医学技師認定機構認定

核医学専門技師 1 名

日本救急撮影技師認定機構認定

救急撮影認定技師 1 名

日本 X 線 CT 専門技師認定機構

X 線 CT 認定技師 3 名

日本医療情報学会認定 医療情報技師 3 名

日本放射線技師会認定 MRI 検査技能検定 3 級 4 名

日本放射線技師会認定 放射線管理士 4 名

日本放射線技師会認定 放射線機器管理士 5 名

日本放射線技師会認定一般撮影技能検定 3 級 2 名

日本放射線技師会認定 医用画像情報管理士 3 名

日本放射線技師会認定 臨床実習指導教員 1 名

肺がん CT 検診認定技師 1 名

Ai 認定診療放射線技師 1 名

■所属学会

公益法人 日本放射線技師会 12 名

公益法人 日本放射線技術学会 21 名

NPO 日本乳癌検診学会 2 名

日本消化器集団検診学会 1 名

日本医用画像管理学会 1 名

日本核医学技術学会 1 名

日本核医学会中四国部会 1 名

日本磁気共鳴医学会 1 名

オートプシーイメージング学会 1 名

■業務内容 (トピックス)

院長より「恋するフォーチュンクッキー 広総バージョン」の動画作成の命を受け、撮影、振り付け、構成、編集全てを放射線科で担当しました。

撮影では笑顔を、振り付けではメトロノームでリズムあわせを、編集では 0.01 秒の単位まで繊細さを求めました。おかげさまで何処に出しても恥ずかしくないほどの完成度の高い作品になったと自負しております。

「恋するフォーチュンクッキー」見ました！

「病院にはこんなに沢山の部署があり、こんなに沢山の方が働いていることを初めて知りました」など業務の撮影の合間に、患者様からお声がけ戴くこともあり、病院のアピールに貢献できたのではないかと考えています。



臨床工学科

■スタッフ

主任部長 吉 田 研 一 (兼務)

主任部長代理 小深田 義 勝 (兼務)

科 長 瀬 尾 憲 由

主 任 荒 田 晋 二

臨床工学技士 11 名 (科長・主任含む) 助手 1 名

【認定資格取得】

- ・体外循環認定士：2 名
- ・3 学会合同呼吸療法認定士：6 名
- ・透析技術認定士：2 名
- ・不整脈治療専門臨床工学技士：1 名
- ・呼吸治療専門臨床工学技士：1 名

【所属学会】

- ・日本臨床工学技士会・日本体外循環技術医学会
- ・日本集中治療医学会・日本呼吸療法医学会
- ・日本人工臓器学会・日本高気圧環境医学会
- ・日本呼吸ケアリハビリテーション学会
- ・日本透析医学会・日本消化器内視鏡技士学会

■部門紹介

臨床工学技士は、医師や看護師とチームを組んで「生命維持管理装置の操作や各種医療機器の保守点検・修理」を行います。臨床工学科は現在 11 名でさまざまな業務と各専門性に対応するためチームに分かれて業務を行っており、手術室・人工透析室・集中治療室・心臓カテーテル検査室・内視鏡室・一般病棟など院内のさまざまな分野で活躍しています。

■業務内容

『手術室業務』

- ・人工心肺装置・自己血回収装置の操作・管理
- ・整形外科手術でのインプラント介助
- ・電気メス、内視鏡装置・麻酔器などの ME 機器の保守管理

『救急・集中治療業務』

- ・急性血液浄化療法
CHDF、血漿交換、血液吸着、血液透析など
- ・補助循環装置 (VA-ECMO, VV-ECMO)、IABP



人工心肺操作中

- ・人工呼吸器などの酸素療法に関する機器操作
Weaning プロトコルの運用
医師の指示下での人工呼吸器設定調整
NPPV 管理・物品管理
- ・各種生体情報モニタの管理
- 『慢性期・在宅医療支援業務』
- ・慢性期人工呼吸器患者管理 (RST 活動)
- ・一般病棟での NPPV 管理
- ・人工呼吸器や NPPV (NIP、ASV) などの在宅医療支援 (HST) 活動としての在宅訪問



在宅訪問中

『循環器業務』

- ・心臓カテーテル検査室
ポリグラフ・IVUS・ローター操作、物品管理
- ・不整脈デバイス関連
ペースメーカー・ICD・CRTD の患者情報管理

埋め込み時や電池交換時の PSA 操作
 埋込みデバイスの機種選定
 EPS 時のポリグラフ・スティムレーター操作

『血液浄化療法』

- ・透析室
 シェント穿刺・血液透析の開始・終了
 良質な透析液水質の維持
 透析装置・水処理装置の保守管理

- ・アフェレーシス
 白血球除去療法（LCAP）

『高気圧酸素療法業務』

- ・火気厳禁のため、火の元（マッチ、懐炉など）の
 持ち込みの厳重観察
- ・治療中に異常がないか常に観察

『内視鏡業務』

- ・内視鏡スコープとトランス（本体）の保守管理
- ・治療後のスコープの洗浄管理、洗浄機管理
- ・ESD・EMR・ERCP などの介助、物品管理
- ・高周波装置・RFA などの ME 機器の保守点検・操作



ESD 介助

『ME 機器管理業務』

- ・シリンジポンプ・輸液ポンプ・モニターだけでなく、
 複雑化する院内 ME 機器を保守管理
- ・適切な機種選定、台数の確保、データベース管理
- ・院内修理を行うことで素早い対応が可能



機器清掃・点検

トピックス

今年度から臨床工学科はユニホームを一新しました。各チームに分かれて業務を行うようになってからチーム間でユニホームがばらばらだったので、科として統一できました。



リハビリテーション科

■スタッフ

センター長 黒 木 一 彦 (兼務)
 部 長 渋 川 正 顕 (兼務)
 部 長 小 林 平 (兼務)
 部 長 山 田 清 貴 (兼務)
 科 長 上 野 忠 活
 科長補佐 金羽木 敏 治
 主 任 寺 迫 正 広
 理学療法士 11名 (役職者含む)

作業療法士 3名

言語聴覚士 2名

取得資格

呼吸療法認定士 8名

心臓リハビリテーション指導士 2名

住環境福祉コーディネーター2級 3名

社会福祉士 1名

介護支援専門員 2名

がんリハビリテーション研修修了者 7名

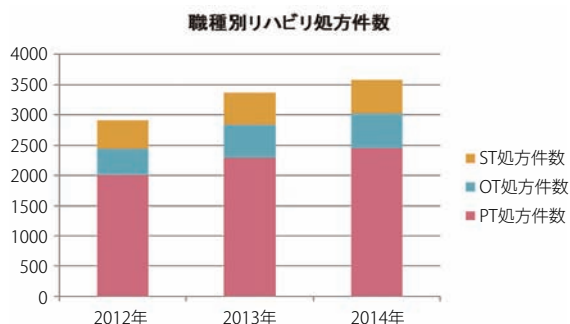
認知症ケア専門士 1名

弾性ストッキングコンダクター 1名

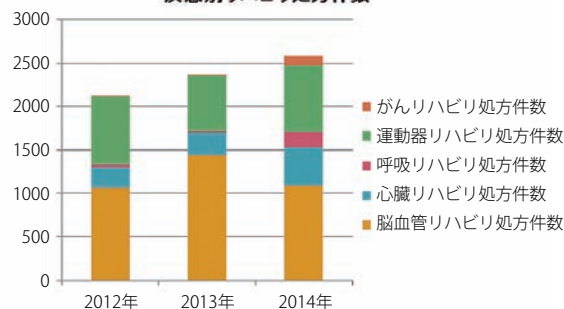
■部門紹介

当科では入院患者さん中心に、院内全科からのリハビリテーション依頼を受けております。入院直後や手術後早期の超急性期から、重症の方～軽症の方まで、多種多様な疾患をもたれた患者さんに介入しております。昨年と同様にリハビリテーション処方件数は年々増加しております。

理学療法士・作業療法士・言語聴覚士がそれぞれの専門性を活かし、他職種と協同して患者さんに介入しています。



疾患別リハビリ処方件数



■認定施設基準

運動器リハビリテーション料 (1)

呼吸器リハビリテーション料 (1)

脳血管疾患等リハビリテーション料 (1)

心大血管リハビリテーション料 (1)

がん患者リハビリテーション料

■所有管理機器

自転車エルゴメーター・トレッドミル・渦流浴・ホットパック・起立台・CPM・低周波・スパイロメーター

■トピックス

がんリハビリテーション研修会に毎年参加しており、本年度もリハビリテーション科から2名参加し、研修を修了しました。これにより、がん患者リハビリテーション料が算定できるスタッフが増え、より多くのがん患者さんのリハビリに介入できるようになりました。

がんリハといっても、患者さんの病状は多彩ですので、患者さんの病状や能力に合わせながら、患者さんに寄り添えるリハビリを提供していきたいと思います。



写真) がんリハビリテーション研修修了者

栄養科

■スタッフ

主任部長 香山茂平（兼務）

科長 河本良美

主任 三浦満美子、要田裕子

管理栄養士 10名（科長、主任含む）

委託（調理部門）（株）日米クック

[人員配置]

外来指導担当	常時 3名
病棟担当	各 1名
NST 専従	1名（八幡 謙吾）

[取得資格]

病態栄養専門師	5名
日本糖尿病療養指導士	3名
NST 専門療法士	3名

[所属学会]

日本病態栄養学会	8名
日本静脈経腸栄養学会	6名
日本糖尿病学会	1名
日本臨床栄養協会	1名

■業務内容

[栄養指導]

栄養食事指導では、患者さんの食生活・食習慣などを考慮した個別指導や、集団指導を実施しています。

〈2014 年度実績〉

・個別指導

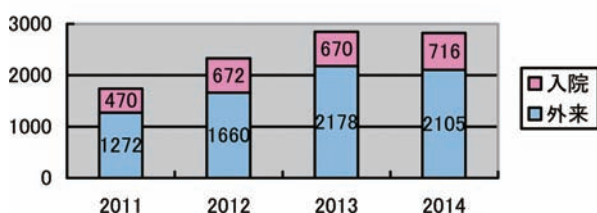
外来	2,105 件	入院	716 件
糖尿病	1,394 件	心血管疾患	349 件
腎臓病	273 件	糖尿病	142 件
その他	438 件	その他	225 件

・集団指導 165 件

糖尿病昼食会 1 回／週（毎週 火曜日）

腎臓病調理実習 2 回／月（毎月第 3、4 木曜日）

＜個人栄養指導件数の推移（件）＞



[給食]

調理部門の協力のもと、安全で美味しい食事の提供を心がけています。

〈2014 年度実績〉

一般食 15,142 食／月 特別食 20,328 食／月

■施設基準

入院時食事療養（Ⅰ）

■その他活動内容

患者サービス：行事食、退院食

集団栄養教育：妊産婦教室、膵がん胆道がん教室

参加チーム活動：NST、褥瘡、緩和ケア、PEG、RST

その他：あいプラザまつり（糖尿病グループ）、腎臓病市民公開講座のスタッフとして参加

■トピックス 1



嚥下調整食は病院ごとに食形態や名称が異なるため、広島西脳卒中対策地域連絡協議会「栄養支部会」の取り

組みとして、近隣の病院と嚥下調整食一覧を作成しました。今後、さらに地域連携が円滑に進むよう取り組んでいきたいと思っています。

※詳細は病院ホームページ→「栄養科」で見ることができます。

■トピックス 2

本年度はひろしま給食 100 万食プロジェクトに参加し、「ひろしまドレみそ♪レモン」を提供しました。豚肉とたっぷりの野菜に、手絞りの生レモン果汁（約 100 個！）と味噌を使った「みそドレッシング」をかけた香り豊かな 1 品はたいへん好評をいただきました。



診療情報管理科

■ スタッフ

科 長 金 本 英 己

係 長 井 本 真 美

他 6 名

〔資格取得〕

診療情報管理士 6 名（科長、係長含む）

院内がん登録実施中級者修了者 2 名

院内がん登録実施初級者修了者 3 名

医師事務作業補助者認定 1 名

医療秘書 1 名

DPC コース認定 1 名

〔所属学会〕

日本診療情報管理士会

■ 活動報告

診療情報管理科では、『情報の管理』と『物の管理』を行っています。

『情報の管理』

- ・ 医師の退院時サマリーを基に国際疾病分類 ICD-10、手術・処置の分類 ICD-9CM を用い、当科用として Medi-Bank システムに入力し、データを蓄積しています。データは、医師・看護師・コメディカルからの抽出依頼に対応し情報として提供しています。
- ・ がん診療連携 拠点病院として、国際疾病分類 ICD-O-3、UICC TNM 分類（7 版）を用いて登録を行い、院内がん登録及び地域がん登録として関係各所に提出しています。
- ・ 従来「物」として管理されていた同意書・計画書は、スキャンによりタイムスタンプが付与され、電子上を「正」とし、同意書等を含んだ電子化となりました。内容点検後は、文書種別ごとに当日内にスキャンされ院内端末で確認ができるよう迅速に対応しています。スキャン後の同意書等は、病院稟議承認のうえ、一定期間保管した後に廃棄処分しています。

『物の管理』

平成 3 年から電子カルテ移行時までの入院カルテ

の保管をしており、貸出依頼には、速やかに提供できるように管理しています。

『診療記載の量の充実』を図るため、電子カルテ内の量的点検を行っています。量的点検結果には、コメントやグラフで可視化し今後のカルテ記載に役立てて頂けるよう働きかけています。

診療報酬改定による「診療録管理体制加算 1」の取得目標を掲げ高記載率を保持すべく、医師退院時サマリー 2 週間以内記載率および 1 ヶ月記載率の作成及び提示をしています。また、各医師に週 1 回の退院時サマリー未記入、一時記録のお知らせを配布しています。

平成 26 年度 病名トップ 15

順位	病 名	入院件数
1	小腸大腸の良性疾患（良性腫瘍を含む）	451
2	白内障	412
3	前立腺癌	360
4	狭心症、慢性虚血性心疾患	349
5	肺癌	329
6	脊柱管狭窄（脊椎症を含む）	306
7	肺炎、急性気管支炎、急性細気管支炎	280
8	膀胱癌	254
9	胃癌	228
10	胆管（肝内外）結石、胆管炎	228
11	脳梗塞	216
12	心不全	200
13	結腸癌（虫垂を含む）	199
14	閉塞性動脈疾患	189
15	慢性腎炎症候群・慢性間質性腎炎・慢性腎不全	180

平成 26 年度 手術トップ 15

順位	手術名称	手術件数
1	水晶体再建術（眼内レンズを挿入する場合）	433
2	内視鏡的結腸ポリープ・粘膜切除術（長径 2cm 未満）	388
3	脊椎固定術、椎弓切除術、椎弓形成術	347
4	腹腔鏡下胆嚢摘出術	192
5	膀胱悪性腫瘍手術（経尿道的手術）	184
6	椎間板摘出術（後方摘出術）	167
7	経皮的椎体形成術	161
8	内視鏡的消化管止血術	134
9	腹腔鏡下鼠径ヘルニア手術（両側）	133
10	骨折観血的手術 肩甲骨、上腕、大腿	132
11	内視鏡的胆道ステント留置術	111
12	経皮的冠動脈ステント留置術	84
13	帝王切開術（選択帝王切開）	83
14	腹腔鏡下結腸悪性腫瘍切除術	81
15	四肢の血管拡張術・血栓除去術	80

医療安全管理室

■ スタッフ

室 長 徳 毛 宏 則 (兼務)

次 長 鈴 木 修 身 (兼務)

科 長 吾 郷 志津枝

〈専従スタッフ〉

吾郷 志津枝

専従リスクマネージャー (RM)、医療安全責任者

認定：医療メディエーター (医療対話推進者)

※今年度はインシデント管理システムを変更し、職員への周知を行いました。

■ 平成 26 年度 活動テーマ

『職員の医療安全管理活動への自主的参加を支援する』

■ 委員会内容

1. 院内リスクマネージャー管理部会

(毎週月曜日 16:10 ~ 17:00)

各部署より提出されたインシデント報告書を元に、現場で起きている医療安全上の問題を速やかに把握し、介入していく医療安全活動の中心的役割を担っています。

レベル 3b 以上の報告・患者誤認・転倒・転落についての事例討議を行い、対応策を検討しています。今年度は、転倒アセスメントシートの見直し、転倒・転落防止対策フローシートを作成し運用を開始しました。

〈メンバー〉

徳毛医師 (副院長・医療安全管理室長)

鈴木医師 (整形外科主任部長・医療安全管理室次長)

吾郷専従 RM (医療安全管理室科長)

新宅課長 (総務課)

瀬尾科長 (臨床工学科)

三舛科長補佐 (臨床研究検査科)

本山主任 (中央放射線科)

生田主任 (看護科手術室)

寺迫主任 (リハビリテーション科)

角井主任 (薬剤師・医療安全研修 40 時間修了者)

2. 医療事故防止対策委員会

(毎月第 3 木曜日 17:00 ~)

医療安全管理室より出された提案事項の検討、医療事故防止対策に関連した事項の対応策の検討、インシデント報告書の集計報告、医療安全研修会の計画実施、委員会の伝達を担うほか、ラウンドを行っています。

3. 部門別小委員会

＊看護科安全対策委員会 (毎月第 4 水曜日)

専従 RM がオブザーバーとして出席

＊看護科急変対応委員会 (毎月第 3 火曜日)

専従 RM がオブザーバーとして出席

＊DMPP 委員会 (会議年 8 回・研修会年 1 回)

医療事故防止対策委員会の下部組織

＊医療ガス安全管理者委員会 (会議・研修会年 1 回)

＊放射線安全管理委員会 (会議年 1 回・研修会年 2 回)

＊透析機器安全管理委員会 (会議年 1 回)

■ 認定施設基準

医療安全対策加算 1

■ 主な活動報告

＊新採用者研修 (4 月入職時)

＊事務部門・委託職員に AED 研修会の実施 (2 回)

＊看護補助者に出前研修会の実施

＊院内医療安全研修会 (集合研修) 年 14 回実施

＊RRT 活動 (3 部署) の定着 適宜会議を開催

活動時間は土日を除く 24 時間体制としました。



今後も安心・安全な医療の提供を支援していけるよう取り組んでまいります。

感染防止対策室

■ スタッフ

室長 渡 正 伸 (兼務)

科長 今 本 紀 生

■ 取得資格、所属学会

〔取得資格〕

Infection Control Doctor : ICD

感染管理認定看護師

〔所属学会〕

日本環境感染学会

日本感染管理ネットワーク学会

■ 部門紹介 (概要)

感染防止対策室は患者さんや医療従事者の安全確保を第一の目標として、院内感染対策委員会や ICT、看護科感染対策委員会を中心とした各組織・部門と連携し、感染防止活動を支援する部門として機能しています。特に ICT (感染対策チーム) とは密に連携を図り、ラウンドや研修会など多くの業務を共同しています。

■ ICT メンバー紹介 (名前の右※はコアメンバー)

渡 正伸※ (呼吸器外科医師、感染防止対策室長、ICD)

田崎 達也 (消化器外科医師、ICD)

近藤 丈博※ (呼吸器内科医師)

丸山 聡 (泌尿器科医師)

櫻谷 正明 (救急・集中治療科医師)

橋本 佳浩 (薬剤部長)、吉廣 尚大 (薬剤師)

正畠 和美※、角井 碧 (感染制御認定薬剤師)

池部 晃司※、山川 理奈、池田 光泰 (臨床検査技師)

今本 紀生※ (感染管理認定看護師)

村田 美智子 (手術室・中央材料室看護科長)

田尾 由美子 (病棟看護科長)

水村 めぐみ、坂本 佳奈江 (病棟看護主任)

平舛 仁美 (内視鏡室看護主任)

藤木 翔 (事務：施設資材課)

行廣 優※ (事務：医事課)

■ 認定施設基準

感染防止対策加算 1

感染防止対策地域連携加算

■ 主な感染症対応

2014. 8	デング熱 対応
2014. 11	エボラ出血熱 対応
2014. 11	疥癬 対応
2015. 1	季節性インフルエンザ 対応



2014. 11. 26 院内感染対策研修会 (エボラ対策)

■ 2014 年度の Topics

〈新型インフルエンザ対策〉

広島県の感染症協力医療機関である当院の役割として、新型インフルエンザ発生時の帰国者・接触者外来の開設が想定されています。そこで、広島県西部保健所と共同で「陰圧テントの設営演習」を行いました。



2014. 10. 24
病院駐車場にて



〈消化器外科 手術部位感染 (SSI) サーベイランス〉

厚生労働省サーベイランス事業 (JANIS)・日本環境感染学会サーベイランス (JHAIS) に参加登録し、外科医師&病棟看護師と協力しながら手術部位感染サーベイランスを開始しました。

地域医療連携室

■スタッフ

室 長 佐 藤 澄 香
他 事務職 2 名

■部門紹介

地域医療連携室は、その名の通り地域との医療連携を目的としています。

紹介率等の地域医療連携にかかる実態調査及び管理をはじめ、近隣の医療機関との連携業務や広報活動、顔の見える連携を目的とした、近隣の医師会との「医師懇話会」も開催しています。平成 25 年度は西部地区の医療の架け橋になれたらと、初の佐伯地区・大竹市両医師会との合同開催を行いました。

また、当院は地域医療支援病院の認定を受けており、その役割の一環として、近隣の医師会・自治体・町内会等の代表者で構成される「地域医療支援病院諮問委員会」や、地域の医療技術充実のため、近隣の医療従事者を対象とした「地域医療従事者研修会」も行っています。

その他にも、地域住民との関係を密にすることを目的として、町内会連合会や JA 女性部会等の病院視察、地域住民向けの病気・医療に関する研修会の窓口も行っており、地域に密着した病院となるよう、尽力しています。

■業務内容

【医師会との医師懇話会】

○佐伯地区医師会・大竹市医師会

日時：平成 26 年 7 月 23 日（水）18 時 30 分～

場所：安芸グランドホテル



○佐伯区医師会

日時：平成 26 年 12 月 3 日（水）19 時 30 分～

場所：安芸グランドホテル

【地域医療支援病院諮問委員会】

○第 20 回

日時：平成 26 年 7 月 2 日

場所：JA 広島総合病院 大会議室

○第 21 回

日時：平成 27 年 2 月 4 日

場所：JA 広島総合病院 大会議室



【地域医療従事者研修会】

日 時	テ ー マ	講 師
4 月 22 日	PEG について	石 崎 淳 子
5 月 20 日	乳がんについて	川 淵 義 治
6 月 17 日	褥瘡予防とポジショニングについて	南 部 智 江
7 月 15 日	感染対策について	今 本 紀 生
8 月 19 日	摂食嚥下について	八 幡 謙 吾
9 月 16 日	放射線療法について	桐 生 浩 司
10 月 21 日	緩和ケアについて	小 松 弘 尚
11 月 18 日	エンゼルケアについて	高 原 さ お り
12 月 16 日	家族ケアについて	岡 田 恵 美 子
1 月 20 日	緩和ケア事例検討会	正 畠 忠 貴
2 月 17 日	がん患者の心のケア	古 本 直 子
3 月 17 日	アロマセラピーについて	土 屋 い づ み

【研修風景】



総合医療相談室

■スタッフ

室長 佐藤 澄香（看護副部長兼務）

主任 三谷 法子

主任 桐山 葉子

他 看護師 1 名 社会福祉士 3 名

計 7 名

〔所属学会〕

広島県看護協会

日本社会福祉士会

広島県社会福祉士会

広島県医療ソーシャルワーカー協会

公益社団法人 日本医療社会福祉協会

日本医療メディエーター協会

■トピックス

本年度、地域在宅緩和ケア推進モデル事業で「在宅緩和ケアコーディネーター」として地域で活動をおこないました。

活動内容は患者相談（電話・来所・在宅訪問を含む）38 件、地域資源マップ作成、広報活動（講義）、デスカンファレンス、在宅緩和ケア事例検討会、アンケート調査など多岐にわたりました。広報活動は地域住民対象から地域の保健福祉介護職、医療従事者まで幅広く行いました。



市民公開講座での講演



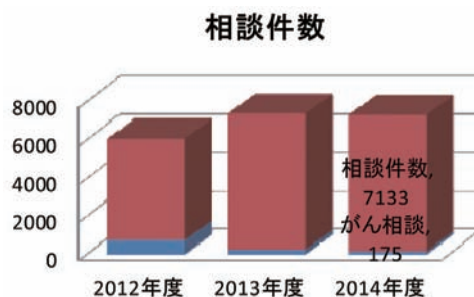
地域住民等に配布した資源マップ

■部門紹介

総合医療相談室の業務は患者・家族からの相談窓口として、病気に伴うさまざまな医療・福祉相談です。

また、当院が地域がん診療拠点病院の指定を受けており、がん患者の相談窓口として「がん相談支援センター」も設置されています。専門の研修を受講した職員 2 名を配置しています。

〈活動実績〉



（主な相談内容）

転院・入所に関する相談

在宅ケアに関する相談

療養に関する相談

医療費等に関する相談

おしゃべりサロン（がん患者サロン）

月 2 回開催

第 2 月曜日 交流会

第 4 月曜日 ミニレクチャーと交流会

開催回数 22 回 延べ参加人数 110 人



おしゃべりサロン「絵を描こう」の様子

人事課

■スタッフ

課長 山根 保博

他 人事担当者 3 名

■業務概要

○人事・労務に関する事項

- ＊各部署の要員計画策定及び採用活動
- ＊給与・賞与計算
- ＊退職・休職・復職等人事発令に関する業務
- ＊職員勤怠管理
- ＊税金及び社会保険関係

○安全衛生・福利厚生に関する事項

- ＊衛生管理委員会の開催
- ＊職員健康診断の実施
- ＊インフルエンザ予防接種・B型肝炎予防接種
- ＊院内バレーボール大会開催事務局

○業務委託・人材派遣に関する事項

- ＊委託及び派遣業務の管理・契約

○その他

- ＊病院長のスケジュール管理等秘書業務
- ＊永年勤続表彰・職員表彰

■活動内容

人事課は課長含め 4 名の職員で業務を行なっています。

要員計画に基づいて採用試験を実施し、適正な人員管理に努めています。

職員の給与・賞与計算及びそれに付随する税金や社会保険関係の手続きを行っています。職員ひとりひとりの標準報酬月額に応じた社会保険料の決定及び徴収、一年間の源泉所得税精算を行なう年末調整も人事課の重要な業務です。

退職や休職等の人事発令に関する業務を行なっています。院内の事務処理だけでなく、健康保険組合・年金事務所・公共職業安定所・各自治体等への申請も必要に応じて行ないます。

安全衛生面では、健康管理センターや各検査部門と連携して職員健康診断を実施しています。また、

インフルエンザ・B型肝炎予防接種の調整を行い、職員の感染管理にも従事しています。

職員間の親睦を深めるため年に一度開催される院内バレーボール大会の事務局を行なっています。26 年度は約 470 名の参加がありました。部署・職種の枠を超えて交流のできる大切な行事となっています。

適切・迅速な事務処理を行なうのはもちろんのこと、誠実な対応を常に心掛け日々の業務にあたっています。



2014 年度 人事課スタッフ
左から遠藤、平川、山根課長、山脇



6 月 14 日 院内バレーボール大会

情報企画課

■ スタッフ

課長 金 本 英 己
係長 上 村 浩 司
横 山 嘉 一
業務委託 桑 野 幹 典
高 田 光 一 郎

■ 活動内容

- ・ 病院情報システムに関する問い合わせ対応
- ・ 各種ソフトウェア、ハードウェア問い合わせ対応
- ・ 病院データの可視化
- ・ 電子カルテシステム向けマスタ更新
- ・ Filemaker、Access 等を使用したソフトウェア開発
- ・ 講習会パンフレット、イントラ web デザイン
- ・ BSC 並びにフィールドイノベーション活動

■ 業務詳細

長らくご愛顧頂きました「電算室」ですが、平成 26 年 4 月 1 日より「情報企画課」と呼称を改め、院内職員の総合的なレベルアップを図るべく、電子カルテ、Excel、Filemaker、セキュリティ講習の開催や、情報の可視化を目的として DWH（データウェアハウス）より抽出したデータの提供、日々追加される電子カルテ、医事会計マスタの更新を行っております。また病院情報システムの運用面について、問題が発生している部署へヒアリングの実施及び改善提案を行い、必要に応じて運用の変更を行っております。運用変更の可否は、電子カルテベンダー SE との定例会にて仕様のすり合わせを行い、現場へフィードバックを行っています。

システムのみならず、フィールドイノベーションの取り組みとして手術室運用の効率化や、BSC（バランススコアカード）を用いて当院の理念、ビジョン、戦略を明確化し、各部署に行動計画（アクションプラン）を立てて頂きました。

今後は「情報」を基に「企画」を立案していくミッションに力を入れていく所存です。



Fig. 1 情報企画課スタッフ
(恋するフォーチュンクッキー JA 広島総合病院 Ver より)

■ 院内における活動実績

- ・ 富士通 DWH 講習会（外部講師招致）
- ・ また奴らか！ミッキー桑野のエクセル講習会
- ・ 当院のセキュリティ事情 Featuring Mickey. K
- ・ Filemaker 講習会（外部講師招致）
- ・ 電子カルテトラブル自己解決 2015
- ・ 部署別 BSC 発表会
- ・ 手術室フィールドイノベーション活動



Fig. 2 エクセル講習会配布パンフレット



Fig. 3 BSC ロゴ（画像を一部ぼかしております）

緩和ケアチーム

■ チーム概要

緩和ケアチームは院内入院患者に対応しています。

患者・家族のQOLを向上させるために、緩和ケアに関する専門的な臨床知識・技術を用いて患者・家族へのケアや、病院内外の医療従事者への教育・支援を行います。がん診療連携拠点病院では全がん患者に対して苦痛のスクリーニングを行う事が要件とされ、当院でも「生活のしやすさに関する質問票」を作成し運用開始しました。

■ メンバー紹介

小松 弘尚 チームリーダー（消化器内科医師）

松本千香子（麻酔科医師）

香山 茂平（外科医師）

桐生 浩司（放射線治療科医師）

河野 秀和（呼吸器内科）

高石 佳幸（精神科・心療内科医師）

鶴谷 理恵（病棟看護科長）

高原さおり・岡田恵美子・古本 直子
（緩和ケア認定看護師）

野村 昌代（がん化学療法看護認定看護師）

磯貝 明彦（薬剤師）

小林 恭子（理学療法士）

南 佳織（臨床心理士）

要田 裕子（管理栄養士）

益村 勇子（看護師・がん相談員）

正島 忠貴（社会福祉士・がん相談員）

以上の職種で構成しています。



■ 活動内容

毎日～隔日で緩和ケア認定看護師と臨床心理士が入
院患者の元に訪れ困っておられることに対応します。

週一回緩和担当医師と薬剤師、緩和ケア認定看護

師、臨床心理士、社会福祉士とで依頼されている患者さんの元に回診に伺います。毎週木曜日カンファレンス（参加はオープン）を行い、その結果を主治医、病棟、患者・家族へ返していきます。

運用を開始した「生活のしやすさに関する質問票」について利用件数は92件／年と少なく、リンクナース、MSなどメディカルスタッフの協力を得ることを来年度の課題としています。また、毎年開催してきた「がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会」については、平成29年6月までに主治医の9割以上が終了していることが要件となり、来年度は当院でも多くの参加者に対応出来る研修会の開催が課題となりました。

■ 各部門の主な活動紹介

【薬剤調整】

個々の患者が使用する薬剤につき過不足ないように主治医と連携し調節します。症状緩和の必要な患者に対して患者・家族の理解が得られるよう薬剤指導します。

【がん患者リハビリテーション】

がんを抱える患者に対して手術前後のケア、日常生活動作の維持、気分転換等を目的として関わります。

【栄養相談】

管理栄養士が個々の患者に合う食事の工夫を行います。

【がんサロン】

がんサロンを隔週月曜日に開催します。

【がん相談】

療養場所の相談、在宅で受けられるサービスについて等、各種の相談に対応します。

■ 院内実績

・総依頼件数：172件

依頼内容：疼痛・疼痛以外身体症状

精神症状・家族ケア・病状説明

・院内外対象緩和ケア研修会開催

地域がんを診療する医師に対する研修会開催

■ 院外活動

別紙参照

栄養サポートチーム

■チーム概要

栄養サポートチーム（NST）は、患者さんの治療が円滑に進むよう、栄養面からサポートを行うチームです。

様々な職種のメディカルスタッフが、専門的な立場から最善の栄養管理を検討しています。

■専従・専任メンバー紹介

- ・医師：香山 茂平、櫻谷 正明（ICU）
- ・看護師：石崎 淳子、藤本七津美
- ・薬剤師：中島 恵子、山崎 貴司
- ・管理栄養士：八幡 謙吾（専従）、要田 裕子
- ・臨床検査技師：横山 富子、山下 美香
- ・理学療法士：金羽木敏治
- ・言語聴覚士：上田 雅美

■活動内容

- ・NST ラウンド：毎週木曜日 14：30～16：00 頃
- ・NST カンファレンス：毎週木曜日 16：00 頃～
- ・栄養管理推進委員会：毎月最終木曜日
- ・看護科栄養管理推進委員会：毎月第2月曜日
- ※ミニレクチャーやラウンド参加などを実施
- ・院内 NST 研修会

開催日	内容	講師	参加者
5 / 8	『栄養管理の当院の動向』	八幡	30 名
7 / 30	『おさえておきたい栄養療法のポイント』	山崎	53 名
9 / 26	『栄養アセスメントについて』	香山	25 名
11 / 20	『経管栄養の合併症～確認事項と対処法～』	八幡	25 名
1 / 19	『栄養評価に使う検査～症例とともに～』	横山 山下	22 名
3 / 3	『食べるための姿勢作り』	日比野病院 助金先生	59 名

■NST 回診件数・加算算定件数

- ・回診件数：延べ 1,268 件／年（前年 1,063 件／年）

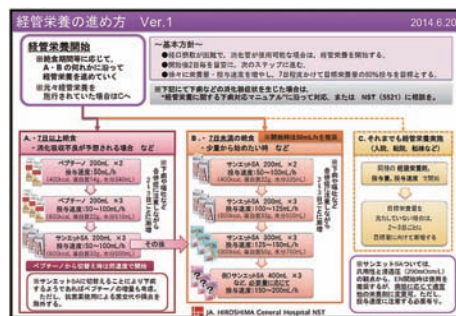


■栄養サポートチーム加算 診療科別算定件数（患者数） （単位：人）

診療科	2012 年度	2013 年度	2014 年度
呼吸器内科	76 (23)	99 (18)	161 (33)
腎臓内科	19 (5)	47 (11)	89 (10)
糖尿病代謝内科	7 (2)	4 (2)	13 (2)
消化器内科	150 (70)	179 (54)	203 (61)
循環器科	77 (9)	76 (12)	151 (25)
心臓血管外科	12 (4)	68 (9)	45 (8)
呼吸器外科	41 (11)	30 (4)	59 (12)
外科・乳腺外科	190 (23)	169 (22)	142 (27)
脳神経外科	75 (15)	84 (15)	175 (36)
整形外科・形成外科	140 (66)	44 (23)	32 (16)
皮膚科	46 (7)	40 (6)	34 (10)
泌尿器科	41 (11)	35 (11)	23 (9)
放射線治療科	6 (1)	2 (1)	7 (1)
耳鼻咽喉科	5 (3)	27 (7)	71 (7)
小児科	8 (1)	0 (0)	0 (0)
歯科口腔外科	8 (1)	20 (2)	10 (1)
救急麻酔科	45 (10)	133 (19)	45 (13)
産婦人科	1 (1)	6 (2)	6 (2)
緩和ケア科	0 (0)	0 (0)	2 (2)
計	947 (263)	1063 (218)	1268 (273)

■2014 年の Topics

- ・麻酔科と共同で「術前経口補水療法」の開始、運用マニュアル作成、院内説明会の実施
- ・GFO® 取り扱い中止に伴い、経管栄養開始時のマニュアル「経管栄養の進め方 Ver. 1」の作成



同時に、「経管栄養に関する下痢対応マニュアル」を「Ver. 2」に更新

- ・2014 年 6 月より看護科 NST 委員の NST 回診参加を開始（好評につき今後も継続予定）
- ・NST アンケート実施（院内 HP 参照）

■学会・研究会発表など

- ・第 30 回日本静脈経腸栄養学会学術集会
「当院 ICU における NST 活動の成果と現状」
演者 八幡謙吾 他
- ・第 7 回日本静脈経腸栄養学会中国支部学術集会
「当院の入院時栄養スクリーニングの妥当性及び NST 介入の有効性の検討」
演者 八幡謙吾 他

心臓リハビリテーションチーム

■ チーム概要

近年、増加する心血管疾患（狭心症、急性心筋梗塞、心臓弁膜症、胸・腹部大動脈瘤、末梢動脈疾患など）を有する患者さまに対し、包括的心臓リハビリテーション（以下、心リハ）を提供することを目的に設立しました。包括的心リハとは、心血管疾患を有する患者さまにおける社会復帰および再発予防を目的とし、運動療法や食事療法、薬物療法などの患者教育、生活指導などを包括した治療手段です。当院では2010年度よりチームアプローチを展開しています。

■ メンバー紹介

医師：小林 平、久留島秀治、長谷川美紗

理学療法士：本間 智明*、小島 輝久*

看護師：丸澤葉志子、益田 尚恵、石川 恵子
村中ひろみ、伊藤 昭範、松田 沙織、
福本 裕平

薬剤師：向井 一樹、山崎 貴司、稲田 淑江、
角井 碧

栄養士：上村真由美、渡壁 史那

その他：臨床検査科、義肢装具士

*心臓リハビリテーション指導士

■ 活動内容

- 開心術後心リハ 75件（2013年度75件）
- 急性心筋梗塞後心リハ 64件（2013年度63件）
- 腹部大血管手術後心リハ 26件（2013年度24件）
- 心肺運動負荷試験 43件（2013年度44件）
- 末梢動脈疾患手術後リハ 80件（2013年度85件）
- 下肢外来 16件（2013年度22件）
- 心不全心リハ 149件（2013年度50件）
- 日本心臓リハビリテーション学会発表

10演題（2013年度9演題）

一循環器内科入院患者さまを対象とした

多職種カンファレンスを開始—

2014年9月より急性心筋梗塞や慢性心不全急性増悪などによって入院された患者さまを対象とした多職種合同カンファレンスを開始しました。退院後

の社会復帰や生活環境について多職種で話し合いながら、調整しています。慢性心不全患者さまは高齢の方も多いため、家族の方も交えてお話をするよう努めています。



多職種カンファレンスの様子

—下肢血管チームでのフットケアラウンドを開始—

2014年5月より重症下肢虚血に対する外科的血行再建術を行った患者さまを対象としたフットケアラウンドを開始しました。ラウンドでは、潰瘍部や術創部を観察し、足を守るための装具作成や運動療法についての検討、潰瘍治癒を目的とした栄養療法、退院後も内服が継続できるよう服薬指導などを行います。月に1回は勉強会を行い、患者さまへの関わりに役立てています。



フットケアラウンドの様子

DMAT

DMAT 活動報告

1995年の阪神・淡路大震災以来、集団・災害医療への関心が年々高まっています。医療体制が確保されていれば、防ぎ得た死が相当数あったとの教訓から平成8年厚生労働省は「災害時に初期救急医療体制の充実強化を図るための医療機関」である災害拠点病院を構想し、当院も1997年に認定をうけています。災害拠点病院は24時間災害に対応でき、被災地内の傷病者の受け入れ・搬出が可能である、十分な資機材を備えた医療救護班（DMAT：disaster medical assistance team）を派遣できる、などの要件を満たさなければなりません。DMATの活動の目的は災害や大事故の際に多数の患者を限りある医療資源で診療し、防ぎ得た死をなくすよう活動することです。その任務は災害現場のトリアージや災害拠点病院での治療、患者の広域搬送を主な業務とします。チーム活動の際食料、水、寝床などは自給することが求められるため、2泊3日が活動の限度といわれています。DMATの出動要請や出動待機となる状況は次のとおりです。自然・人的災害における被災地の都道府県や厚労省、文部科学省からの要請があった場合、また東京23区で震度5強以上、その他地域で震度6弱以上の地震発生時、津波警報発令、東海地震注意情報発令、大規模航空機墜落事故発生時は要請がなくとも待機状態であることを期待されています。

2006年9月に2泊3日の集中的な缶詰研修にて資格を得ました。下記のメンバーが活動しています。

黒木 一彦；脳神経外科医師

杉山 陽一；外科医師

寺田 英子；看護師

大田 博子；薬剤師

竹野 香織；看護師

阿部 伸也；看護師

生田 佑子；看護師

後藤 友美；看護師

三舛 正志；臨床検査技師

高畑 明；診療放射線技師

これまでの活動内容

- ・2011年3月11日14：46 東日本大震災 発生

2011年3月11日22：00 呉より自衛隊輸送艦にて被災地に向かい、災害拠点病院で救助活動を行いました。

- ・2014年8月20日 広島緑井・八木地区土砂災害に対して出動しました。消防との共同で閉じ込められた方を救出、応急処置を施し、防災ヘリで搬送をおこないました。（詳細はトピックスで紹介しています）



現場に出動準備をするDMATの様子

- ・2014年8月30日 政府総合防災訓練に参加しました。8月29日18：00 南海トラフ地震が発生した想定で、全国で10カ所設定された参集拠点のうち、広島空港に参集して九州方面からの傷病者受け入れ訓練を行いました。



政府総合防災訓練の様子



自衛隊機 CH-47 と

この他にも、災害に関する研修会や技能維持訓練への参加、看護学校や他施設での講義などに出向いています。

これからも院内外の訓練に参加し、一人でも多くの命を救えるよう研鑽を続けていきます。

RST

■ チーム概要

RSTとは呼吸療法サポートチーム（Respiratory Support Team）の略称で、呼吸療法が安全で効果的に行われるようにサポートするチームのことです。

人工呼吸と言えば、気管挿管して行うものが一般的でしたが、現在ではNoninvasive Positive Pressure Ventilation（NPPV）も普及し、酸素療法もベンチュリーマスクやHigh Flow Nasal Cannulaなどさまざまなデバイスがあります。また、呼吸不全患者さんには呼吸器リハビリテーションや口腔内の衛生管理、嚥下機能評価・リハビリテーションなどさまざまな職種が関わっています。

■ メンバー紹介

医師 櫻谷 正明、平田 旭
臨床工学技士 荒田 晋二、田中 恵子
看護師 村中 好美
理学療法士 小山 明子
歯科衛生士 石井 真弓
薬剤師 吉廣 尚大
管理栄養士 八幡 謙吾

■ 活動内容

2011年1月より、RSTによる病棟ラウンドを開始しました。患者さんのベッドサイドで人工呼吸器のチェック項目や周辺環境等について確認します。患者さんのそばで最も長い時間働く看護師は、見慣れない機械やアラームに困ることがあり、その際に臨床工学技士に相談するのですが、医師の指示がないと設定変更もできず、各職種がフラストレーションを抱えていました。RSTは主治医にスムーズに情報が伝わり、適切な指示が早期に提供できるように心がけております。また、管理栄養士や薬剤師もラウンドに参加するようになり、NSTとの情報共有や鎮静・鎮痛管理など薬剤調整について病棟薬剤師と情報共有できるようにもなりました。

看護師を中心とした教育活動も行っており、1年間を通して、呼吸療法に関する様々なレクチャーを行うのですが、実際の現場での教育に勝るものはあ

りません。また、実際の現場で悩んでいる声を聞くと、我々に求められているものがだんだんと分かってきました。当初は、機械に関する質問が多かったのですが、口腔ケアやリハビリテーションなど患者さんに必要な呼吸療法について他職種でディスカッションできるようになってきていると思います。

呼吸療法は急性期から慢性期までさまざまなステージがあり、それをたくさんの職種が関わって診療を行っております。ラウンドして思うことは、病棟毎に得意なこと不得意なことがあり、呼吸療法においてもそれは同様です。いいことは病院全体で共有して呼吸療法の質を向上できるように、今後も頑張っていきたいと思っています。



病棟ラウンド



人工呼吸器セミナー

災害対策ワーキングチーム

■災害対策ワーキングチームの役割

平成 23 年 3 月 11 日、日本中を震撼させた東日本大震災が発生し、それを契機として災害対策ワーキングチームは立ち上がりました。今世紀前半の発生が予想されている南海トラフ大地震は、広島県においても甚大な被害が予測されており、災害対策ワーキングチームは院内・院外において防災・減災の啓発活動を行ってきました。そのような中で、平成 26 年 8 月 20 日に広島市で大規模な土砂災害が発生しました。私たちは大自然の脅威には抗えないことをあらためて知るとともに、災害拠点病院として何ができるのかを考えさせられました。災害対策ワーキングチームはこのことを教訓にして、今後起こりうる様々な課題にどのように対応するのか考え、対策を推進していくための活動を続けています。(8. 20 広島市土砂災害における活動報告はトピックスに掲載してあります)

■構成メンバー

DMAT メンバーや看護協会登録災害支援ナースを中心として、職種・部門を問わず、防災・減災活動に参画したいという意思がある職員で構成されています。

■活動の概要

活動日は毎月第 1 月曜日の夕方 1 時間程度とし、2012 年度 5 月より活動を開始しました。翌年には、当院組織の「集団・災害医療救護体制委員会」の下部組織に位置づけられました。今年度の活動内容は以下の通りです。

- 1) 災害対策マニュアル改訂の検討
- 2) 災害マニュアルの改訂とそれに基づいたアクションカードの作成
- 3) 地域住民との防災・減災にかかわる活動

今年度は阿品地区避難訓練に参加し、8. 20 土砂災害の活動報告、一般市民によるトリアージの方法を指導しました(写真 1)。訓練への参加人数は、300 人近くに上り、地域の方々の積極性に感心しました。自分と家族の命は自ら守る、近隣が互いに協力して地域を守る、地域住民の自助・共助に関する

ニーズは高く、その力になれるよう啓発活動を継続していきたいと思いました。

4) オープンホスピタルへの参加

ポスター展では、「チーム部門」で表彰されました。

また AED 体験ブースや市民トリアージブース、災害用資機材展示ブースを設け、地域住民の方々とふれあい防災への意識付けを推進しました(写真 2、3)。

5) 災害支援ナースの活動報告

当チームには、災害支援ナースへの登録者が多数在籍しています。8. 20 土砂災害では、派遣要請を受け、避難所での支援活動を行いました。その活動報告を行い、知識・経験を共有しました。

6) 学会発表

7) チーム医療報告会への参加



写真 1 地域の防災訓練に参加し実技講習を行っている様子

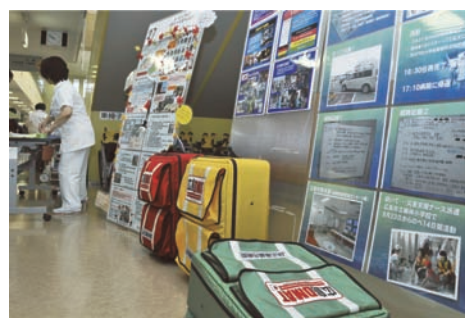


写真 2 オープンホスピタルでの災害用資機材の展示



写真 3 オープンホスピタルでの AED 講習の様子

「膵がん・胆道がん教室」運営チーム

はじめに

2012年から、院内のチーム活動として「膵がん・胆道がん教室」を開催しています。2年目の活動内容について、報告します。

メンバー紹介

医師（膵・胆道内科）：藤本 佳史

看護師：坂尻 明美、松下 理恵、本山 敏恵、

野村 昌代、吉川 咲子、奥村 麻美、

古本 直子、益村 勇子

緩和ケア科：高原さおり、南 佳織

薬剤師：藪田 ゆみ、埋橋 賢吾、白井 敦史

管理栄養士：河本 良美、森田菜津美、

リハビリテーション科：上野忠活、小林恭子、後藤優佳

MSW：佐藤 澄香、正嶋 忠貴

外部講師：木村泰博先生、小笠原英敬先生、

長谷川健司先生、中丸光昭先生、

臨床心理士：坂本真里子さん（廿日市記念病院）

活動内容

隔週の水曜日午後2時から健康管理センターをお借りして開催しています。新たな取り組みとしては、リハビリテーション科に抗がん剤治療中の運動について講義していただき、参加者で体操を行っています。〈Fig1〉また、講義の後には、患者さんやご家族と一緒に座談会形式のグループワークを始めました。医療関係者も同席してサポートをさせていただきました、好評です。

発足から1周年を迎え、記念の講演会も企画しました。「教室」の発案者である国立がん研究センターの奥坂卓志先生にご講演いただき、院内外の医療関係者の皆さんに多数参加していただきました〈Fig2〉。

また、膵臓学会の全国会で活動報告の発表をし、会長賞をいただきました〈Fig3〉。

院内ポスター展にも参加しました〈Fig4〉。11月には全国会である「ワークショップ」が神奈川県立がんセンターで開催され、野村看護師が当院の取り組みについて発表しました。「笑顔の体操」を取り

入れていることが大変注目を集め、皆さんの前で実演をしました。〈Fig5〉。地域を重視した連携と、笑いと希望を目指した当院の「教室」運営は、全国的にも注目されるようになっていきます。このような活動が評価いただき、忘年会にはチームとして院長賞をいただきました〈Fig6〉。

当院の「教室」はまだまだ手探りの状態ですが、患者様やご家族の要望に応えられるように日々努力しています。引き続き皆様のご協力をお願いしますとともに、興味があるかたはぜひ参加してみてください。



〈Fig 1〉



〈Fig 2〉



〈Fig 3〉



〈Fig 4〉



〈Fig 5〉



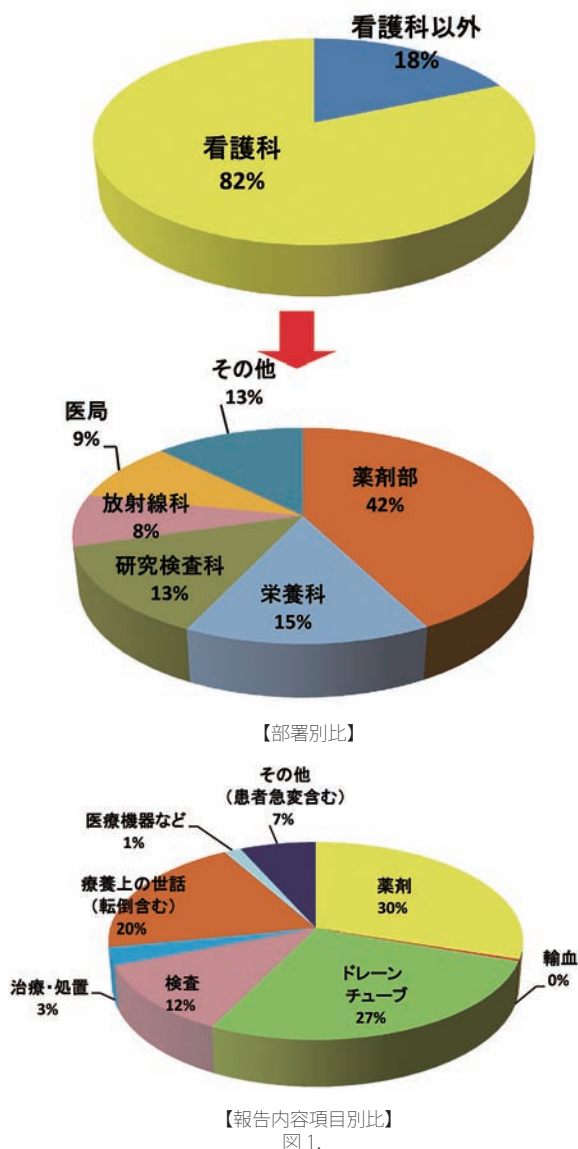
〈Fig 6〉

各種委員会

医療事故防止対策委員会

委員長 鈴木 修身

医療事故防止対策委員会は、病院内で発生する様々なインシデント・アクシデントを収集し、その発生要因・背景を考察し、対策を立案し、同様なインシデントを未然に防ぐことを目的に活動している委員会です。定例委員会は毎月第3木曜日に開催しました。委員会では、主に『ヒヤリ・ハット報告書の集計結果』(図1.)『担当ラウンドグループの活動』『医療安全研修会の企画・実施』『最近の医療安全管理室の状況』の報告・事案の検討などを行いました。



インシデント報告書の報告件数は、2013年度3353件、2014年度2931件と422件減少しました。これは、インシデント報告システムのアナウンスが不十分だった影響もあると考えます。職員への周知方法は今後の課題です。

本委員会は、医療安全への意識の啓発をさらに推し進め、患者・医療従事者の『安心・安全』のために活動を充実させてまいります。

倫理委員会

委員長 碓井 裕史

A 設立主旨

1) 倫理委員会の責務

当院の職員がおこなう人間を対象とした医学研究および医療行為について、職員の申請に基づき、研究や実施計画について審査を行います。

また、関連する医療機関が当院職員・患者に対しておこなう医学研究について、その申請に基づき、研究や実施計画について審査を行います。

2) 倫理委員会構成メンバー (2014年度)

委員長：碓井裕史、副委員長：徳毛宏則

委員：病院長代行、副院長、診療部長、事務長、看護部長、薬剤部長、臨床研究検査科長、看護部副部長、地域医療連携室長、事務次長(書記兼務)

外部委員 3名(有識者、内1名は弁護士)

オブザーバー：病院長

B 活動内容

1) 倫理委員会の開催

研究申請書が提出された場合、委員会を招集して開催します。2014年度は11回開催しました。

2) 2014年度委員会開催概要

- ・第1回(2014/4/18)
審査件数6件(承認6件)
- ・第2回(2014/5/23)
審査件数8件(承認8件)
- ・第3回(2014/6/20)

審査件数 5 件（承認 5 件）

・第 4 回（2014/7/18）

審査件数 3 件（承認 3 件）

・第 5 回（2014/8/22）

審査件数 8 件（承認 8 件）

・第 6 回（2014/9/19）

審査件数 6 件（承認 6 件）

・第 7 回（2014/10/17）

審査件数 2 件（承認 2 件）

・第 8 回（2014/11/21）

審査件数 3 件（承認 3 件）

・第 9 回（2014/12/19）

審査件数 2 件（承認 2 件）

・第 10 回（2015/2/6）

審査件数 7 件（承認 7 件）

・第 11 回（2015/3/6）

審査件数 8 件（承認 8 件）

3) 2014 年度承認された研究の申請部署別内訳

・医局	34 件
・看護科	15 件
・薬剤部	2 件
・臨床研究検査科	1 件
・広島大学大学院	2 件
・日本赤十字広島看護大学	2 件
・広島国際大学	1 件
・神戸市看護大学	1 件

合計 58 件

臨床検査適正化委員会

委員長 石 田 和 史

本年度も、臨床検査に関する問題、ならびに適正な運用に関する議案を審議し、より一層診療支援となるよう活動を行いました。

◆構成メンバー

医師	7 名
看護師	3 名
臨床検査技師	6 名

事務部門 2 名

◆活動報告

【第 1 回】

- ・フルオレセインの測定への影響
- ・CA15-3, CA125 の試薬変更
- ・BNP の基準範囲の変更
- ・ヒトメタニューモウイルス迅速診断キットの導入
- ・H-FABP（ラピチェック）の導入

【第 2 回】

- ・KL-6 の改良試薬への変更
- ・CRP の改良試薬への変更

【第 3 回】

- ・クロストリジウム・ディフィシル トキシン AB 検査方法の変更

【第 4 回】

- ・平成 26 年度日本臨床衛生検査技師会臨床検査精度管理調査結果報告
- ・小児の GFR 推算式について

【第 5 回】

- ・蛋白分画の報告の変更について
- ・「検査結果の見方」の更新
- ・年末年始の業務体制について

【第 6 回】

- ・H-FABP の感度・特異性について
- ・インスリン・CPR の測定機器並びに試薬変更について
- ・PD 中皮細胞診検査の中止について
- ・サーモグラフィ（熱画像）検査の中止について

【第 7 回】

- ・SP-D の試薬変更について
- ・尿中 NAG の試薬変更について
- ・ループスアンチコアグラント定量試薬の変更について
- ・サイログロブリンの試薬変更について
- ・TsAB の試薬変更について
- ・クロナゼパムの測定法の変更について
- ・PSG 検査時のビデオ撮影について

- ・平成 26 年度日本医師会臨床検査精度管理調査結果報告について
- ・平成 26 年度広島県医師会臨床検査精度管理調査結果報告について
- ・全自動微生物培養検出装置の更新について
- ◆平成 26 年度臨床検査外部精度管理報告
- ・日本臨床衛生検査技師会精度管理調査
評価 230 / 230 で 100 点を獲得
- ・日本医師会臨床検査精度管理調査
評価 643 / 645 で 99.7 点を獲得
- ・広島県医師会臨床検査精度管理調査結果報告
評価 575 / 580 で 99.1 点を獲得

◆トピックス

「検査の見方」

利用度の高い検査項目の基準範囲と検査内容を簡単に説明したリーフレットを作成しました。

衛生管理委員会

委員長 藤 本 吉 範

労働安全衛生法第 17 条及び第 18 条に基づき衛生管理委員会を設置し、原則毎月 1 回委員会を開催しています。

〈衛生管理委員会構成メンバー〉

委員長：病院長

副委員長：健康管理センター長・産業医

委員：感染防止対策室長、診療部長、薬剤部長、放射線科長、臨床・病理研究検査科長、栄養科長、看護部副部長、看護科長、医療安全管理室科長、感染防止対策室科長、健康管理課長、事務次長、総務課長、人事課長、施設資材課長、放射線科主任、健康管理課主任、看護科主任、栄養科主任

オブザーバー：事務長

なお、委員の半数は従業員組合の推薦で選ばれています。

〈平成 26 年度の主な取り組み事項〉

1. 過重労働対策について

平成 18 年度から職員の超過勤務時間を毎月調査

し、委員会で報告しています。また、平成 20 年度からは、月に 80 時間以上の超過勤務が 2 ヶ月連続した職員、もしくはひと月の超過勤務が 100 時間を超えた職員に対し、産業医による面接指導の案内を文書で行っています。平成 26 年度は、医師 2 名に対し文書を発布し、その内 1 名に対し面接指導を行いました。

2. 職員のメンタルヘルス対策について

心の健康づくり推進のひとつとして、平成 18 年度から毎年、夏期職員健康診断時期にメンタルヘルス調査を行っています。

3. 感染症検査及びワクチン接種等の状況

平成 21 年度より、職員の入職時検査に麻疹、風疹、水痘、ムンプス、HBs 抗原・抗体検査を実施しています。B 型肝炎対策として、在職者および新入職者の中で、必要かつ希望する者にワクチン接種を行いました。また風疹対策として、新入職員および昨年ワクチン未接種者の内、希望者に対し風疹ワクチン接種を実施しました。

さらに例年どおり、インフルエンザの流行に備えて、職員・職員家族の内、希望者を対象に 10 月から 11 月にかけてインフルエンザワクチン接種を実施しました。職員の接種率は 89.6%となっています。

4. 結核患者接触職員の対応について

結核患者に接触した職員の追跡として、事例があるごとに、状況・検査結果・今後の検査予定等の報告をしています。また、感染防止対策室とも合同でミーティングを行い、結核患者接触のハイリスク部署の職員は、T スポット検査および年 2 回胸部 X 線検査を実施しています。

5. 職員健康診断について

職員健康診断の受診率を向上させるため、健康管理課と対策を話し合い、また各部署の所属長への声かけを積極的に行っており、職員健康診断の受診率は夏期が 97.0%、冬期が 97.5%と、昨年度に引き続き高水準を維持しています。また、パソコンの使用頻度が高い事務職員および診療放射線技師に対し

VDT (Visual Display Terminals) 健康診断を、フィルムバッチ着用者を対象に電離放射線健康診断を実施しました。

6. 職場巡視

臨床研究検査科、医局、女性医局、研修医室、放射線科の5箇所を訪問し、職場環境をチェックしました。問題点や要望等を委員会で報告し、改善できるところはないか検討しています。

7. その他

作業環境測定（病理研究検査室・解剖室・滅菌保管室）を年に2回実施し、その結果を委員会で報告しています。昨年解剖室に排気ダクトが設置されたこともあり、結果は全て「適切である」となっています。

8. まとめ

平成26年度は職員のB型肝炎やインフルエンザ、結核等の感染症対策に取り組んできましたが、職員の感染症検査のデータベース作成や、長期休職者に対する具体的な対応策の作成について、引き続き具体的な検討をしていく必要があると考えています。

診療録管理委員会

委員長 石田和史

1. 設立主旨

診療情報管理業務の円滑な運営のため、診療情報管理上および診療記録に関する事項を検討、討議することを目的として、診療録管理委員会が設立されました。

診療録管理委員会の構成

オブザーバー：院長、事務長

委員長：医師

委員：医師5名、薬剤師1名、看護師6名、

事務部門2名、診療情報管理士4名

計21名

2. 活動内容

『医師同士による質的監査』について

医療と診療録記録の質の向上を図る目的で、医師同士による質的監査（オーディット）を行っています。診療録内容のチェックを実施し、その結果・内容は各医師へ報告・還元しています。当委員会は、全医師の診療録の改善に役立ててもらおうよう働きかけています。

平成26年度 科別質的監査件数

※特定の医師を除く

監査対象科	件数	オーディット担当回数	
呼吸器内科	4	呼吸器内科	3
循環器科	6	循環器科	5
腎臓内科	4	腎臓内科	3
糖尿病代謝内科	3	糖尿病代謝内科	3
消化器内科	9	消化器内科	6
小児科	5	小児科	5
外科	14	外科	12
整形外科	6	整形外科	5
脳神経外科	3	形成外科	1
呼吸器外科	2	脳神経外科	6
心臓血管外科	4	呼吸器外科	1
皮膚科	3	心臓血管外科	5
泌尿器科	4	皮膚科	3
産婦人科	6	泌尿器科	1
眼科	2	産婦人科	7
耳鼻咽喉科	3	眼科	3
放射線治療科	2	耳鼻咽喉科	2
歯科・口腔外科	3	放射線治療科	1
救急・集中治療科	4	画像診断部	3
		麻酔科	7
		歯科・口腔外科	3
		救急・集中治療科	2
総計	87	総計	87

『退院時サマリー2週間以内記載率ならびに1か月記載率』について

退院時サマリーは退院後の外来診療等を円滑に遂行し、主治医以外の医師が診療情報を共有できるよう、記録として残し活用することを目的としています。また、「診療録管理体制加算1」の取得するためにも、高い記載率を保って頂けるよう働きかけると共に記載率を公表しています。

診療科別退院時サマリー 2 週間以内記載率

平成 26 年 4 月～平成 27 年 3 月分

診療科	2 週間以内 記載率	診療科	2 週間以内 記載率
呼吸器内科	83.8%	呼吸器外科	84.3%
循環器科	77.8%	心臓血管外科	97.3%
腎臓内科	94.7%	皮膚科	89.7%
糖尿病代謝内科	97.4%	泌尿器科	98.5%
消化器内科	94.6%	産婦人科	88.6%
小児科	85.5%	眼科	95.5%
外科	97.3%	耳鼻咽喉科	100.0%
整形外科	92.6%	放射線治療科	97.9%
形成外科	93.3%	歯科口腔外科	97.1%
乳腺外科	95.7%	緩和ケア科	100.0%
脳神経外科	95.7%	救急・集中治療科	100.0%
平均科別 2 週間以内記載率			93.1 %

診療科別退院時サマリー年間記載率

平成 26 年 4 月～平成 27 年 3 月退院分

診療科	登録状況			統計	科別 記載率
	2 週間 以内	2 週間 越え	1 か月 越え		
呼吸器内科	522	88	13	623	100.00%
循環器科	707	170	28	905	100.00%
腎臓内科	316	17	0	333	100.00%
糖尿病代謝内科	170	3	0	173	100.00%
消化器内科	1719	86	11	1816	100.00%
小児科	691	45	71	807	100.00%
外科	1291	34	2	1327	100.00%
整形外科	1369	95	13	1477	100.00%
形成外科	9	1	0	10	100.00%
乳腺外科	172	8	0	180	100.00%
脳神経外科	678	27	0	705	100.00%
呼吸器外科	213	37	9	259	100.00%
心臓血管外科	380	14	0	394	100.00%
皮膚科	177	20	0	197	100.00%
泌尿器科	913	14	0	927	100.00%
産婦人科	1087	85	54	1226	100.00%
眼科	451	22	0	473	100.00%
耳鼻咽喉科	482	0	0	482	100.00%
放射線治療科	59	1	0	60	100.00%
画像診断部	0	0	0	0	0
麻酔科	0	0	0	0	0
歯科口腔外科	134	5	0	139	100.00%
緩和ケア	60	0	0	60	100.00%
救急・集中治療科	1720	0	0	1720	100.00%
総 計	13320	772	201	14293	100.00%

地域医療連携推進委員会

委員長 小深田 義 勝

1. 目的

当院が、地域の中核病院としての役割を発揮するために、院内の診療体制整備、強化を行うことを目的とします。また、委員会の活動により円滑な地域医療連携を推進し、地域から信頼され選ばれる病院を目指します。

2. 所掌事務

①地域医療連携に係わる活動実績に関すること（紹介・逆紹介、退院支援、地域連携クリニカルパスなど）

②地域医療連携に係わる院内の体制に関すること

③地域医師会、関係機関との連携に関すること

④地域医療連携に係わる地域住民への広報活動に関すること

⑤その他、地域医療連携に関すること

（平成 26 年度 地域医療連携推進委員会構成員）

オブザーバー：病院長、事務長

委員長：病院長代行

委員：医師 12 名、薬剤師 1 名、保健師 1 名、看護師 8 名、事務部門 5 名、診療情報管理士 1 名（活動報告）

平成 26 年度の開催は 2 回。開催日と報告及び検討事項については下記の通り。

【開催日：平成 26 年 9 月 8 日】

（報告事項）

○第 9 回市民公開講座について

・出席者は 648 名。アンケート回収は 456 名。

○紹介・逆紹介の状況について

・平成 26 年 4 月 1 日より、地域医療支援病院の算定要件が変更になり、より要件達成が厳しくはなっているが紹介・逆紹介ともに要件はクリアしています。

○未返書状況について

・受診から 2 週間経過後の返書作成状況で計算しています。未作成の場合は地域医療連携室から案内があります。

○地域医療従事者研修会について

- ・今年度より地域医療支援病院の算定要件が変更になり、毎月開催しています。

(検討事項)

○第 10 回市民公開講座について

- ①広島県から平成 26 年度より在宅緩和ケア推進モデル事業として委託を受けており、補助金から外部講師を招いて開催してはどうか。

- ②外部講師として、中国新聞にて「最後の迎え方」掲載中の平井敦子記者、また佐伯地区医師会にもお願いしてはどうか。

- ③外部講師の公演に加えて当院医師も参加してシンポジウムも行ってはどうか。

【開催日：平成 27 年 3 月 9 日】

(報告事項)

○紹介・逆紹介の状況について

- ・平成 26 年度の診療報酬改定により、紹介率の計算にあたり、救急患者を除くことになったため、昨年度と比較して紹介率が下がっています。

○未返書状況について

- ・未返書ケースのなかでも診療科が変わった場合は注意が必要。

○病診連携に関するアンケート調査について

- ・211 件調査を行った中から 158 件を回収。回収率は 72%です。
- ・診療予約申込について、診療科により紹介状が必要であったりそうでなかったりと統一性がないため分かりづらいといったご意見を頂き、診療予約申込書一枚で申込ができないか等検討中です。
- ・返書に関して、漏れがないよう各診療科ごとでシステムを見直しの検討も必要。

○第 10 回市民公開講座について

- ・『がんとともに、自分らしく』をテーマに、地元の在宅緩和ケアの取り組みに焦点を当てて開催した。参加者は 533 名でした。

○平成 26 年度地域医療従事者研修会について

- ・開催数は増えたが、1 回あたりの参加者数も約 46

名と昨年度より倍増しました。

(検討事項)

○第 11 回市民公開講座について

- ・テーマに関して、例年アンケートで開催希望があったテーマを参考に、最終的には管理者委員会で決定します。3月末までにはテーマを絞り込む予定です。

輸血療法委員会

委員長 松本 千香子

本年度も、輸血療法に関し安全性の確保ならびに適正使用の促進に向けた取り組みを行ないました。

(6 回開催)

月別の診療科別輸血製剤使用単位数・アルブミン使用量報告、院内輸血マニュアルや輸血関連業務の運用の見直しについて継続的に審議しました。輸血療法に伴うインシデント事例は昨年同様、医療安全管理室と連携し、内容・発生要因・改善策について検討を行いました。輸血医療の IT 化では運用の改善点を提案しています。輸血後感染症検査については、各部門で関与（チーム医療）して患者説明を行い輸血後感染症検査のおすすめ文をお渡しする手順で運用を始めました。

【今年度の主な取り組み】

- ・製剤使用状況・廃棄報告
- ・輸血副作用報告
- ・CPDA 液（35 日）自己血パックについて
- ・アルブミン製剤使用アンケート集計報告
- ・輸血後感染症検査の案内・実施手順について
- ・輸血関連インシデント
- ・心臓血管外科 OP 中の自己採取・使用の運用マニュアル
- ・発注・溶解後廃棄製剤の廃棄手順について
- ・自己血採血における VWR 出現対応マニュアル
- ・輸血療法マニュアルの改訂について

【院内合同研修会】

開催日 2014. 10. 22

演題 アルブミンの適正使用

講師 森松 博史

岡山大学大学院 医歯薬学総合研究科

麻酔・蘇生学講座 教授

今年度は、アルブミンの適正使用についての全体研修やアルブミン使用状況調査アンケートの集計分析等、適正使用に向け取り組みを行いました。

来年度は、5%アルブミンの使用状況について数ヶ月に1回の集計を取り委員会で検討し各診療科へフィードバックしていきます。

26年度 輸血用製剤 使用単位数・廃棄単位数・廃棄率

製剤名	使用単位数	廃棄単位数		合計	廃棄率
Ir-RBC-LR2	3578	158	RBC	3608	4%
Ir-WRC-LR2	30	0			
FFP-LR240	1344	66	FFP	1612	3.9%
FFP-LR480	268	0			
Ir-PC-LR10	3000	60	PC	3020	1.9%
Ir-PC-LR20	20	0			

26年度 自己血使用数・廃棄数

科別	貯血単位数	使用単位数	廃棄単位数
整形外科	72	70	2
心臓血管外科	2	2	0
泌尿器科	248	152	96
産婦人科	68	34	34
合 計	390	258	132

26年度 特定生物由来製品使用状況

製 品	本 数
20%アルブミン	1329
ヴェノグロブリン IH 5g	
グロベニンI 2. 5g	22
グロベニンI 5g	147
10%日赤ポリグロビン N 5g	89
テタノプリ筋注 250 国際単位	10
ハプトグロビン静注	54
抗 D 人免疫グロブリン筋注	3
乾燥 HB グロブリン筋注	4
献血ノンスロン	116
フィブロガミン P	9
タコシール 3 × 2. 5cm	82
タコシール 9. 5 × 4. 8cm	64
ボルヒール 1ml	55
ボルヒール 3ml	59
ボルヒール 5ml	88
アブラキサン点滴静注 100mg	185
5%アルブミン 250ml	1270

医療ガス安全・管理委員会

委員長 中 尾 正 和

□設立主旨

昭和 63 年 7 月 15 日付および平成 5 年 10 月 5 日付の厚生労働省通知にて、『医療ガス設備の保安管理』について、その重要性が位置づけられ、吸入麻酔器、人工呼吸器等を設置し、医療ガスを使用して診療を行う施設においては、「医療ガス安全・管理委員会」を設置し、医療ガス設備の保守点検、工事の施工監理を行うよう危害防止に関する指導が行われているところです。

□構成メンバー

委員長：中尾正和

副委員長：森藤 望

委員：松本千香子、藤田寿賀、橋本佳浩・瀬尾憲由・

村田美智子、生田佑子、吾郷志津枝、松村英昭、

石原忠、大久佑樹、森田祐規

オブザーバー：藤本吉範、友田裕康

□活動内容

・開催日：平成 27 年 3 月 10 日

・協議事項：医療ガス設備点検等の報告、院内酸素ボンベラウンドの結果報告

禁煙推進委員会

委員長 渡 正 伸

当委員会は主に院内の禁煙推進を行っています。

当院を利用する患者さんの禁煙、職員の禁煙などを推進していくことを主目的としています。当院は 2010 年より敷地内全面禁煙化し、禁煙外来治療も開始しています。入院に際して、入院治療中の禁煙を患者さんをお願いしていますが、現実的には、敷地内での隠れ喫煙や無断で敷地外に出て喫煙する患者さんが散見される状況であり、そのような喫煙患者さんへの対応については特に対策もない状況でした。入院治療中の喫煙は治療効果を損ねる原因になる可能性があり、敷地外の喫煙は無断外出を助長し、病院としての患者管理能力も問われかねません。病

院周囲環境への迷惑にも関わってくる問題です。我々、院内禁煙対策委員会は以上の諸問題に対応するため、入院中の喫煙に対する統一した対応策を決め、実施していくことを検討してきました。その結果平成27年度からは以下の様な対策を開始します。

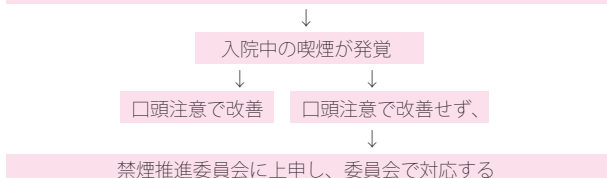
【対応策】

当院で入院治療を受けることとなった患者さんのうち、現在喫煙者（禁煙後1ヶ月以内を含む）を対象とします。入院案内において敷地内全面禁煙であることを説明し、リーフレットを用いて患者さんおよび家族の方に以下の事項を説明し承諾していただきます。

- ・タバコが有害であり治療に悪影響を与えること
- ・タバコの持ち込みは禁止
- ・入院を機に禁煙をしましょう
- ・禁煙の自信のない方は事前に申し出があれば禁煙外来治療の情報提供（禁煙外来のご案内）が受けられる
- ・入院中の喫煙に対しては厳重に注意されること、禁煙治療の必要性の情報提供がある

入院中の喫煙が明らかとなった場合は、病棟科長や主治医などが代表者として喫煙の有無を問い、禁煙をお願いします。その後も喫煙を繰り返す場合は禁煙対策委員会に対応を要請します。委員会は患者さんと面談し禁煙補助薬品などを利用した禁煙対策を中心に禁煙支援を考慮します。

外来で入院説明時に現在喫煙患者等に対して入院中の禁煙をお願いする



- ・職員の喫煙については、敷地外に所定の喫煙場所を設置して協力いただいている状況です。この喫煙場所について2014年4月に当院関連の保育施設より受動喫煙が生じているという情報が入りましたので、医師住宅建物の西側出入り口の喫煙場所を撤去し、うつみビル裏に新たな場所を設けて

います。今後は職員の喫煙率が下がることを目指していきたいと考えています。

2014年度委員会開催

2014年4月24日（木）

2014年9月13日（金）

2014年度勉強会等開催

新入職員オリエンテーション禁煙研修(2014年4月)

院内勉強会（2015年2月2日、16日）

テーマ；入院患者の喫煙問題をどうするか

臨床研修医支援委員会

委員長 大下 彰彦

臨床研修医支援委員会は、臨床研修医との情報共有を図り、充実した研修を行えるように支援することを目的として設立されました。研修医と指導医の中間的な立場で研修医を支援（臨床力の充実、学術活動、生活面・精神面のサポート）する役割を担っています。

今年度は、3回委員会を開催し、昨年に引き続きEarly Bird Lecture（毎週火曜朝7時～実施、MRによる説明、研修医によるプレゼン、上級医によるレクチャー）の内容や運営について、また研修医からでた意見や、よりよいセミナーを開催するための外部講師の招聘についても協議し、臨床研修の質の向上に努めました。

研修医会を開催し、指導医と研修医の交流を深めています。

指導医の意見交換や研修医からのヒヤリング内容を報告し、より充実した研修が行えるように取り組んでいます。



平成26年度 研修医集合写真

地域がん診療連携拠点病院運営委員会

委員長 今村 祐司

1. 設立目的

地域住民が日常生活圏内で質の高い全人的がん医療を受けることができる体制整備について検討し、拠点病院としての機能強化と円滑な運営を図ることを目的としています。

2. 任務

- 1) 院内がん診療領域の改善活動に関すること。
- 2) 院内がん登録システムに関すること。
- 3) がん診療に係る研修及び公開カンファレンス等の開催に関すること
- 4) がん診療に係る情報提供及び相談支援に関すること。
- 5) がん診療に係る広報に関すること。
- 6) その他がん診療に関すること。

3. 委員

委員会の構成員は、病院長の指名により構成します。

委員長：消化器外科主任部長、化学療法科主任部長

副委員長：放射線治療科主任部長、内視鏡科主任部長、緩和ケア科主任部長、地域医療連携室長、総合医療相談室長

委員：病院長代行、診療部長、センター長、主任部長、放射線治療科長、薬剤科長補佐、栄養科長、看護科長、診療情報管理科長、地域医療連携室、事務次長、医事課長、施設資材課長、総務課長他
書記：総務課係長

4. 開催状況

委員長の招集により定期的に開催します。今年度は8月5日（火）及び3月23日（月）に開催し、がん診療連携拠点病院の指定更新等について協議しました。

広報委員会

委員長 藤井 隆

◆設立の目的

院内における各部署の活動を院外に広く知っていただくことを目的として設立されました。各部署についての詳細な広報としては、年報がありますがタイムリーな話題の広報も必要です。そのための手段の一つがホームページであり、もう一つが広報誌「せと」です。この二つを作成・管理するのが本委員会です。

◆委員会活動

委員会は年3回、広報誌「せと」の発行時期に合わせて開催し、ホームページについても検討を行っています。

1. 広報誌「せと」

病院広報誌である「せと」は年3回（新年号・春夏号・秋号）発行しています。短時間で気軽に目を通すことが出来るような小冊子で、新年号は年始の病院長挨拶に始まり、春夏号は新任医師の紹介、秋号は院内のトピックス等を掲載しています。その他に診療科やメディカルスタッフ、チーム医療の紹介、看護科や医療福祉支援センターからのお知らせ、病院行事の案内や院内での出来事等をコンパクトにまとめて構成しています。

平成26年度は、春夏号で脊椎・脊髄センター、心臓リハビリテーションチーム、秋号で小児科、心臓血管外科、膵・胆道がん教室、新年号で画像診断部、産婦人科、呼吸療法サポートチームを紹介しました。

2. ホームページ

ホームページについては年に1回アクセスの解析を行い、有益なサイトと相互リンクを増やすことによりアクセス数の増加に努めております。アクセス・ランキング及び閲覧データ比較を後掲します。

また、診療科及びスタッフによって作成された最新の話題やイベント情報などを盛り込んだトピックスを定期的に更新するように努めています。

さらに平成26年度は医療に関する情報を発信す

るFM ちゅーピー（後掲）や、病院を紹介する「恋するフォーチュンクッキー」などをインターネットに掲載しました。

○ホームページアクセス数 TOP5（2014.6.1～2015.5.31）
診療部門

1. 歯科口腔外科

多発するビスホスホネート製剤による顎骨壊死の情報

2. 心臓血管外科：近年の大動脈瘤の治療について

3. 麻酔科：気管挿管とビデオ喉頭鏡の導入

4. 循環器内科：超悪玉コレステロールに関して

5. 循環器内科：心筋梗塞と PCI/ スtent 治療

診療支援部門

1. 中央放射線科：心臓 CT 検査について

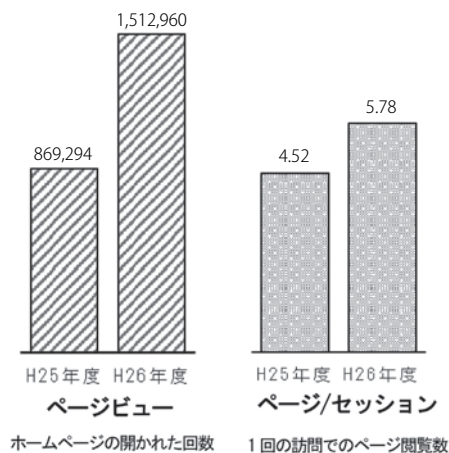
2. 臨床工学科：非侵襲的人工呼吸器専用機の増設

3. 看護部：腹膜透析におけるトラブルの対応について

4. 看護部：今年もたくさんフレッシュャーズが加わりました

5. 薬剤部：外来患者さんへの服薬指導について

○ホームページ閲覧データの比較



○FM ちゅーピー「あなたの健康守り隊」発表者

放送月	担当科	発表者
H26.8	消化器内科	徳毛 宏則
H26.9	産婦人科	大下 孝史
H26.10	外科	香山 茂平
H26.11	心臓血管外科	小澤 優道
H26.12	耳鼻咽喉科	高本 宗男
H27.1	脳神経外科	織田 祥至
H27.2	健康管理センター	碓井 裕史
H27.3	小児科	辻 徹郎

アカデミック委員会

委員長 徳毛 宏則

1. 設立趣旨

当院の医療および医療学術活動の質をレベルアップし、院外研修や学会発表の奨励を行う目的で平成22年に設立されました。

2. 活動内容

①学術奨励賞の設定 ②病院年報の充実 ③国内・国際学会発表、論文作成等、学術活動の活性化および支援活動 ④他施設との情報交換、人的交流の促進と支援です。

今年度は委員会を5回開催し、下記の事項について協議しました。

(1) 第5回ふれあいポスター展

平成26年11月10日～12月26日、各部署が趣向を凝らして作成したポスター44作品を院内に展示し、地域住民等から選出された6作品を表彰しました。

◆表彰作品

賞	部 門	部 署
最優秀賞		臨床研究検査科
優秀賞	医局部門	整形外科
	看護部門	東5階病棟
	コメディカル部門	栄養科
	チーム活動部門	災害対策ワーキングチーム
	住民投票部門	東5階病棟

(2) 第5回アカデミー学術賞

学会・研究等において優れた論文を発表した職員を表彰しました。

◆最優秀賞受賞者

部 門	診療科	氏 名
内科系	消化器内科	若井 雅貴
外科系	一般外科治療センター	馬場 健太
コメディカル	リハビリテーション科	本間 智明

(3) 国内・国際学会発表等の支援活動

学会への参加者等に「アカデミック研修費」を支給し、学術活動の支援を行っています。

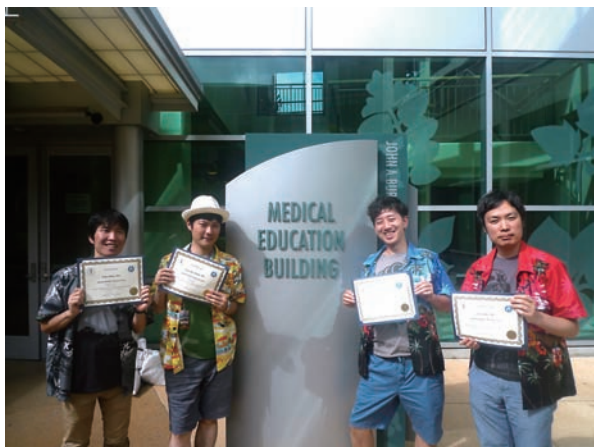
◆各診療科への支援状況

部 署	件 数
呼 吸 器 内 科	3
腎 臓 内 科	1
糖尿病・代謝内科	1
消 化 器 内 科	7
循 環 器 内 科	1
小 児 科	4
外 科	18
整 形 外 科	19
呼 吸 器 外 科	2
産 婦 人 科	3
麻 酔 科	5
救急・集中治療科	8
皮 膚 科	2
放 射 線 治 療 科	2
臨 床 研 修 医	3

(4) ハワイ大学研修について

医学教育で有名なハワイ大学で医師としてのレベルアップを目指し、英語環境にも触れ、また、日頃の忙しい日常業務から開放され、鋭気を養ってもらうことを目的に、平成24年度より短期海外研修を実施しています。

対象者は、初期研修から引き続き当院で3年目の勤務を続けた医師で、今年度は4名が参加しました。



救命救急センター運営委員会

委員長 吉 田 研 一

1. 設立目的

救命救急センターの業務に関する諸問題を審議し、業務を安全かつ円滑に行うことを目的としています。

2. 任務

委員会は次の各号に掲げる事項を行います。

- (1) センターの運営状況の報告と分析
- (2) センターの効率的運営に関する事項
- (3) センターの治療方針等に関する事項
- (4) その他必要と思われる事項

3. 委員

委員会の構成員は、病院長の指名により構成します。

委員長：地域救命救急センター長

副委員長：副院長・麻酔科主任部長

委員：副院長、診療部長、センター長、主任部長、看護部長、看護副部長、看護科長、薬剤部長、薬剤科長、臨床研究検査科長、病理研究検査科長、放射線科長、臨床工学科長、地域医療連携室長、総合医療相談室長、事務長、事務次長、施設資材課長、人事課長、医事課長、総務課長、診療情報管理科長、情報企画課長

書記：総務課係長

オブザーバー：病院長、病院長代行

4. 開催状況

毎月1回、定期的に開催しています。主にセンターの運営状況の報告および分析、救急患者受入時の応対について協議しました。

個人情報保護対策委員会

委員長 友 田 裕 康

1. 設立目的

情報公開及び個人情報保護の円滑な実施を審議することを目的としています。

2. 審議事項

- 1) 個人情報保護の実施体制に関すること。

- 2) 個人情報及び診療録の開示に関すること。
- 3) 個人情報の漏洩等の防止に関すること。
- 4) 個人情報の取扱いに係る苦情処理に関すること。
- 5) 従業員の個人情報保護に関すること。
- 6) 従業員の教育・研修に関すること。
- 7) その他保有個人情報の管理に関すること。

3. 委員

委員会の構成員は、病院長が委嘱します。

委員長：事務長

副委員長：事務次長

委員：診療部長、センター長、主任部長、薬剤部長、看護部長、看護副部長、放射線科長、臨床検査科長、リハビリテーション科長、看護科長、栄養科長、医療安全管理室科長、地域医療連携室長、診療情報管理科長、人事課長、総務課長、医事課長、情報企画課長、施設資材課長、健康管理課長

書記：総務課係長

オブザーバー：病院長、病院長代行

4. 運営

委員長の招集により定期的に開催します。ただし、必要がある場合には臨時に開催することもできます。

治験審査委員会

委員長 徳毛宏則

A. 設立主旨

1) 治験委員会の責務

(1) 治験委員会は、「治験の原則」に従って、全ての被験者の人権の保護、安全性の保持及び福祉の向上を図ることを目的としています。また社会的に弱い立場にある者を被験者とする可能性のある治験には特に注意を払っています。

(2) 治験審査委員会は、倫理的、科学的及び医学的・薬学的観点から治験の実施及び継続等について審査を行っています。

2) 治験審査委員会名簿

委員長：徳毛宏則、副委員長：小深田義勝

委員：碓井裕史、黒木一彦、橋本佳浩、横山富子、佐藤澄香、嘉屋祥昭、新宅幸司、松村英昭、角野正雄（外部委員）、松本明子（外部委員）

書記：磯貝明彦

オブザーバー：藤本吉範、友田裕康

B. 活動内容

1) 治験審査委員会の開催

治験審査委員会は原則として1ヶ月に1回開催します。

2) 2014年度治験審査委員会開催概要

・第1回（2014／4／18）

審議事項 10件（新規案件1件、継続審査9件）
報告事項 1件

・第2回（2014／5／23）

審議事項 10件（新規案件1件、継続審査9件）
報告事項 1件

・第3回（2014／6／20）

審議事項 10件（継続審査10件）

・第4回（2014／7／18）

審議事項 12件（新規案件1件、継続審査11件）

・第5回（2014／9／19）

審議事項 12件（継続審査12件）

・第6回（2014／10／17）

審議事項 10件（継続審査10件）

・第7回（2014／11／21）

審議事項 8件（継続審査8件）

・第8回（2014／12／19）

審議事項 7件（新規案件1件、継続審査6件）

・第9回（2015／2／6）

審議事項 10件（新規案件1件、継続審査9件）
報告事項 1件

・第10回（2015／3／6）

審議事項 7件（継続審査7件）

3) 2014年度の実施治験総件数：16件

(1) 前年度からの継続治験（11件）

① DSP-1747 の非アルコール性脂肪肝炎患者を対象とした探索的試験（大日本住友製薬）

- ②急性静脈血栓塞栓症を対象とした BMS-562247 第Ⅲ相臨床試験（ファイザー）
- ③ PSA 上昇を伴う非転移性去勢抵抗性前立腺癌患者を対象とした TAK-700 第Ⅱ相臨床試験（武田薬品）
- ④糖尿病性末梢神経障害者を対象とした AS-3201 第Ⅲ相試験（大日本住友製薬）
- ⑤高齢又は低体重の虚血性脳血管障害患者を対象とした CS-747S（プラスグレル塩酸塩）第Ⅲ相試験（第一三共）
- ⑥虚血性脳血管障害患者を対象とした CS-747S（プラスグレル塩酸塩）の第Ⅲ相試験（第一三共）
- ⑦ C. difficile 感染症に対する抗菌薬治療を受けている患者を対象とした MK-6072 及び MK-3415A の第Ⅲ相試験（MSD）
- ⑧ ACZ885 の心筋梗塞後の安定した患者を対象とした第Ⅲ相試験（ノバルティス）
- ⑨ DSP1747 の第Ⅱ相臨床試験（大日本住友製薬）
- ⑩潰瘍性大腸炎・クローン病の治療における MLN0002（300mg）の第Ⅲ相臨床試験（武田薬品）
- ⑪ Z-103 の味覚障害に対する第Ⅲ相臨床試験（ゼリア新薬）
- (2) 2014 年度からの新規治験（5 件）
 - ①小児気管支喘息を対象としたアドエアエアゾールの第Ⅳ相試験（グラクソ・スミスクライン）
 - ②TG 高値を示す脂質異常症患者を対象とした K-877 の 52 週長期投与試験（第Ⅲ相）（興和）
 - ③冠動脈疾患を合併した慢性心不全患者を対象としたリバーロキサバンの有効性及び安全性を検討する二重盲検試験（バイエル薬品）
 - ④急性虚血性脳卒中又は一過性脳虚血発作患者を対象とした AZD6140（チカグレロル）の国際共同第Ⅲ相試験（アストラゼネカ）
 - ⑤ DS-5565 第Ⅲ相国際共同試験（PHN）（第一三共）
- (3) 2014 年度の終了治験（5 件）

- ① Z-103 の味覚障害に対する第Ⅲ相臨床試験（ゼリア新薬）
- ② PSA 上昇を伴う非転移性去勢抵抗性前立腺癌患者を対象とした TAK-700 第Ⅱ相臨床試験（武田薬品）
- ③糖尿病性末梢神経障害者を対象とした AS-3201 第Ⅲ相試験（大日本住友製薬）
- ④高齢又は低体重の虚血性脳血管障害患者を対象とした CS-747S（プラスグレル塩酸塩）第Ⅲ相試験（第一三共）
- ⑤急性静脈血栓塞栓症を対象とした BMS-562247 第Ⅲ相臨床試験（ファイザー）

薬事委員会

委員長 徳 毛 宏 則

1. 目的

当委員会は、院内で使用する医薬品に関わる諸問題の検討協議を行い、薬事全般にわたる病院長の諮問事項を審議し、報告する機能と義務を負い、医薬品の安全かつ効率的な使用をはかることを目的としています。

2. 任務

- 1) 新規採用申請薬品の審議
- 2) 薬品の適切な使用方法の協議と啓発
- 3) 在庫薬品の適切な管理と運用
- 4) 医薬品情報の衆知活動
- 5) その他の医薬品に関する事項

3. 委員

委員長及び委員は病院長が任命した者であり、病院幹部（病院長代行、副院長）、各診療科代表（センター長・主任部長）、看護部副部長、院内リスクマネージャー、医事課長及び薬剤部長等で構成されています。

4. 委員会の開催

委員会の開催は、原則として月 1 回となっています。（但し、8 月と 12 月は委員会を休会しています。）

5. 新規医薬品

- 1) 医薬品の採用は、a) 一般採用医薬品 b) 用時購入医薬品 c) 患者限定医薬品に分類され、a) b) は委員会の審議が必要となります。
- 2) a) b) に関して、採用を希望する場合は、所属長の承認の元、「新規医薬品購入申請書」に必要事項を記入し、事務局（薬剤部）に提出していただき、当委員会で審議することとなります。
- 3) c) は「患者限定使用許可申請書」を事務局に提出、迅速審議の上、委員長が許可し、次回の委員会にて薬剤部長より報告されます。
- 4) 薬事委員会は、採用の可否を審議決定しますが、1増1減を原則とし、適正な在庫数になるよう努めています。
6. 医薬品の安全性情報が新規に発布された場合は、全医師に連絡、注意喚起し、必要な対策を講じています。

7. ジェネリック医薬品

当委員会では、当院の病院環境や薬剤使用状況を十分に考慮した上でジェネリック医薬品の採用を検討、実施しています。

2014年度は82件を採用し約1400万円の収益効果をあげています。

8. 2014年度実績

・2014年3月31日現在の当院採用数

一般採用		特定患者限定	72
内服薬	730		
注射薬	527		
外用薬	305		
その他	8		
一般採用 計	1570		
RI 医薬品	111		
(2014年度より採用品数に含む)			
用時購入	81	採用品数合計	1762
(ジェネリック医薬品 243含む)			

9. 2014年度 医薬品の総新規採用件数・総削除件数

医薬品総新規採用件数	59
医薬品総削除件数	61

出張記

■ EUSEM（ヨーロッパ救急医学会）に参加して

救急・集中治療科 平 田 旭

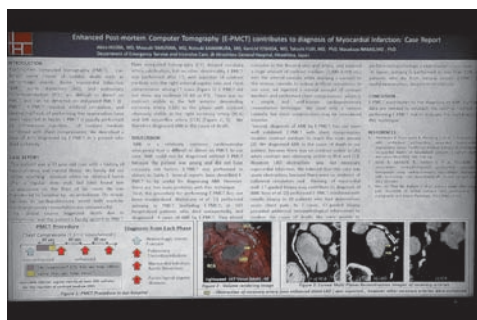
2014年9月28日から2014年10月1日までオランダのアムステルダムで行われたヨーロッパ救急医学会に参加して参りましたので報告させていただきます。同時期に開催される EISCM（ヨーロッパ集中治療学会）が人工呼吸器管理やARDSといった集中治療の話題についての学会であるのに対して、EUSEMは救急外来での初期診療の話題（心筋梗塞の除外、敗血症の初期診療、小児の初期診療等）が中心の学会です。私は海外での学会発表は初めてで、ポスター発表ではありましたが、慣れない英語に四苦八苦しました。もともと日本の救急医学会で発表した題材を外国人向けにアレンジして投稿した物でしたが、英語で作ると言うだけで全く新しい物を作るのと同じ位の苦労がありました。今回投稿したのは、死因の診断において造影剤を投与後に心臓マッサージをすることで、血流が途絶えた後でも全身に造影剤を行き渡らせて死因を確定するという内容の物です。主な突然死因の原因である心筋梗塞、大動脈解離、肺塞栓症は造影剤を用いたCT撮影でなければ確定診断ができず、これまでは推測でしか診断書は作られていないのが日本の現状でした。外国では解剖が一般的に行われており、これで確定診断ができますが、日本では解剖を好まない文化があり、これまでの死因統計はかなり不確実なものでした。日本はCTが諸外国に比べ異常に普及しており、これも今回の手法ができあがった要因の一つです。全体を通した内容と文書作成に関しては救急・集中治療科副部長 櫻谷医師のバックアップの元、図表や冠動脈の専門領域の内容に関しては、循環器部長 藤井医師のバックアップの元、さらに英語に関して麻酔科主任部長 中尾医師のバックアップの元、大船に乗った気持ちで作成することができました。

アムステルダムはオランダの首都であり、人口80万人の都市です。オランダ人の特徴としては異常に背が高く、女性で171cm、男性で183cmという世界一の平均身長を誇ります。私は日本では特別身長が高い方ですが、オランダでは平均より少し高いということになります。衝撃的でした。オランダ人の

高身長の理由としては、平均以上の身長の方が生涯子孫を残す数が多いというのが理由の一つらしいです。そのほかにも有名なチーズ等の酪農製品の摂取が多いことが原因の一つかもしれません。

アムステルダムは非常に広島に似た土地だと感じました。町には路面電車が走っており、ほどよく田舎の残った町並みは私にとってどこか心地よく、外国だという緊張感はありませんでした。機会があれば是非また訪れたい都市です。なかでもアムステルダム美術館では、様々な著名な美術品の鑑賞に浸りすばらしい時間を過ごすことができました。

このような機会を与えてくださった院長はじめ、アカデミック委員会の関係者の方々、ご協力くださった中尾先生、藤井先生、櫻谷先生、休み中にご迷惑をおかけしたスタッフの皆様には感謝してもしきれません。本当にありがとうございました。この恩を返すべく、今後もJA広島総合病院発展のために身を粉にして働いていきます。



■ EUROSPINE 2014 に参加して

整形外科 脊椎・脊髄センター 山田 清 貴

2014年10月1日から3日にかけて、フランスのリヨンにおいて開催されたEUROSPINE 2014に参加しましたので報告いたします。

EUROSPINE は、the Spine Society of Europe の Annual meeting で年1回開催されます。本学会は1998年にEuropean Spine SocietyとEuropean Spinal Deformity Societyが基となり設立され、脊椎の分野ではヨーロッパ最大の学会です。ヨーロッパのみならず世界中から参加者があり、今回は約3800人の参加がありました。広島からは私と広島大学整形外科の同門である安佐市民病院整形外科の宮内晃先生、藤原靖先生の3名が参加しました。演題は口演70題、ポスター155題のみであり、採択率は37%と大変厳しい学会です。日本からの発表は評判がよく、口演11題、ポスター57題が採択されました。



会場はLyon Cite Internationale Congress Centreで、ヨーロッパらしい大きな公園がそばにある会場です。古代ローマの半円形劇場をイメージして作られた大きな会場の一会場のみで口演が行われました。私は口演が2題あり、初日に“Targeted therapy of low back pain associated with de novo degenerative lumbar scoliosis in the elderly : prospective observation cohort study”、二日目に“Association of Vertebral Bone Marrow Edema with Low Back Pain in Degenerative Lumbar Scoliosis in the Elderly : Cross-sectional Observational Study”を発表しました。腰痛に対する新たな病態解析とそれに基づいた低侵襲手術に関する当院独自演題でしたが非常に多くの質問があり、そのセッションが終

わった後もフロアで質問が続くほどでした。驚いたのは、二日目の発表の際に、初日に発表した演題を知っているかという質問があったことです。私達の演題によほどインパクトがあったのだと思います。



リヨンは、地図上ではフランスのやや南より、ローヌ・アルプ地方にある人口164万人のフランス第2の都市です。旧市街全体が世界遺産であり、中世ヨーロッパがそのまま残っており、非常に雰囲気のある都市です。星の王子様の作者であるサン・テグジュペリを輩出した街ですが、ボジョレ・ヌーボーの発祥の地であり、フランス料理で有名なポール・ボキューズの本店があります。グルメ大国フランスらしく、とにかく料理がおいしく、ワインも安くおいしいため、ついつい飲み過ぎてしまいました。ポール・ボキューズの店には行けませんでした。現地で知り合いになった先生達と一緒に旧市街の店をハシゴしたのはとても良い思い出になりました。

国際学会で大きな反響があったことは、私達の診療、研究を背中から押してもらえたようで大変嬉しく、また、これまでの苦勞が報われた瞬間でもありました。他大学や他国の医師達と交流ができることも国際学会の大きな魅力の一つです。これからも積極的に参加したいと思います。

忙しい診療業務の中、貴重な機会を与えて頂いた藤本院長、ならびに留守中にご迷惑をおかけした先生方、スタッフの皆様に厚く御礼申し上げます。

■ 5th Asia Pacific Cervical Spine Research Society に参加して

整形外科 中 前 稔 生

2014年4月3日から4月8日まで、ベトナムのホーチミンで開催された 5th Asia Pacific Cervical Spine Research Society (CSRS-AP) に参加しましたので報告させていただきます。CSRS-AP は国際頚椎学会である CSRS のアジア・環太平洋のセクションですが、頚椎分野は元々日本が世界をリードしてきたこともあり、CSRS-AP は CSRS の本会よりも演題のレベルが高く頚椎分野における最先端の研究が多数報告されています。当院からは藤本吉範院長と整形外科の山田清貴先生、中前稔生が参加しました。山田先生は "Total Cervical Spondylectomy for Primary Osteosarcoma -case report-" のタイトルで、極めて稀な頚椎原発の骨肉腫に対する椎体全摘術を poster 発表されました。私は "Pathology and treatment for cervical flexion myelopathy (juvenile muscular atrophy of unilateral upper extremity) " のタイトルで若年に発症する一側上肢の筋萎縮に関する病態および手術的治療についての口演を行いました。

今回訪れたホーチミンはベトナム戦争終結までは南ベトナムの首都・サイゴンでした。現在はベトナム最大の商業都市であり市街地には高層ビルが立ち並ぶ一方、すぐその脇には昔ながらの市場が立ち並ぶという、まさに "カオス" でした。近年、ベトナムでは市場経済の導入により貧富の差が拡大し大きな社会問題となっているようです。街には HONDA のスーパーカブがあふれかえっており、3人乗り4人乗り当たり前、信号機なしの無秩序な空間でした。学会期間中に藤本院長のご親友であり今回の学会会長である Vo Van Thanh 先生の病院を見学させていただくことができました。病院は約 500 床の整形外科病院で 100 名以上の医師が働いています。外来の待合室は通勤電車のように混雑し、病棟は廊下まで患者さんがあふれておりベッド数の 500 床の倍以上の患者さんが入院していると思われます。病棟で

は患者さんだけでなく家族も一緒に入院生活をされており、ベトナムにおける家族の繋がりの方を感じました。学会期間中、非常にタイトなスケジュールであり観光に行く時間を持てなかったのですが、毎晩ベトナムビールの 333 (バーバーバー) を片手に刺激的なベトナム料理に舌鼓を打ち、暮れゆく夕日を眺めながらサイゴン川のほとりでたたずみ異文化を楽しみました。

このような国際学会への参加・発表は、世界を肌で直に触れることができる大変貴重な機会でした。英語に関してはまだまだですが、我々が行っている研究を世界に向けて発信できたことは非常に自信となり、私の人生にとっても大きな財産となりました。学会参加中で迷惑をお掛けした先生方および関係者の方々にはこの場を借りて深謝いたします。



Vo Van Thanh 先生を囲んで
(前列右から3人目が山田先生、2人目が中前)



ホーチミンの夜の街

■ North American Spine Society 29th annual meeting に参加して

整形外科 中 前 稔 生

2014年11月12日から15日まで、アメリカのサンフランシスコで開催された North American Spine Society (NASS) 29th annual meeting に参加したのでご報告させていただきます。本学会はアメリカ合衆国を中心とした北米における脊椎の学会であり、脊椎分野において最も権威ある国際学会の1つです。当院からは藤本吉範院長、整形外科の山田清貴先生、松浦正己先生、中前稔生が参加しました。山田先生は "Association of Vertebral Bone Marrow Edema with Low Back Pain in Degenerative Lumbar Scoliosis in the Elderly: A Cross-sectional Observational Study" の口演と "Targeted therapy of low back pain associated with de novo degenerative lumbar scoliosis in the elderly: observation cohort study" のポスター発表を、私が "The cause of delayed neurologic deficits following osteoporotic vertebral pseudoarthrosis" の口演を、松浦先生が "Percutaneous vertebroplasty versus balloon kyphoplasty for osteoporotic vertebral fracture with intravertebral cleft" のポスター発表を行いました。NASS の演題採択率は非常に低く（約2割!）、しかも北米の学会なので日本からの演題はほぼありません。そのような非常にハイレベルの学会に当院から4演題（そのうち2つは口演）が採択されることは正しく快挙であり藤本院長の指導の成果の賜物です。サンフランシスコの歓喜！これには他大学の教授からも羨ましがられ、当院で行っている研究の質の高さが証明されました。発表内容は高齢者の腰椎変性側弯症に関するものや高齢者の脊椎椎体骨折に関するもので、どれも廿日市という地域性を生かした研究です。

さて、今回訪れたサンフランシスコは人口700万人以上の国際色豊かな都市です。気候は比較的温暖であり、一部を除いては治安もよく安心して滞在できました。サンフランシスコといえば坂の街です。斜度60度もあるかという難関もありケーブルカーが活躍していました。今回、非常にタイトな学会スケジュールの合間を縫って初めて NBA 観戦に行き

ました。バスケット観戦のみならずダンスやMCなど色々なところに楽しめる要素がありました。選手は想像を絶する大きさであり、アメリカという国の「大きさ」を感じました。

このような国際学会への参加は、世界を肌で直接触れることができる大変貴重な機会でした。医学的な面ばかりではなく、その国の文化や考え方に接することができ、人間としての幅を広げることができたと思います。学会参加中で迷惑をお掛けした先生方および関係者の方々にはこの場を借りて深謝いたします。



左から松浦先生、藤本院長、山田先生、中前



流暢な英語で発表する山田先生



流暢な英語の質問に苦戦する中前

Orthopaedic Research Society (ORS) 2015に参加して

整形外科 中 前 稔 生

2015年3月26日から3月30日まで、アメリカ合衆国のラスベガスで開催された Orthopaedic Research Society (ORS) 2015に参加しましたのでご報告させていただきます。ORSとは整形外科の基礎研究の国際学会で主に大学など最先端の基礎研究の発表が数多く行われております。そのような学会に我々のような市中病院から演題が採択されるのは非常に稀であります。当院からは整形外科の中前稔生が参加し、"Association of Vertebral Bone Marrow Edema with Low Back Pain in Degenerative Lumbar Scoliosis in the Elderly: A Cross-sectional Observational Study" および "Targeted Operative Therapy for Chronic Low Back Pain Associated with de novo Degenerative Lumbar Scoliosis in the Elderly: A prospective cohort study" の2題のポスター発表を行い、高齢者腰椎変性側弯における腰痛についての画期的な病態報告（椎体終板の浮腫が腰痛に関連する）および腰椎変性側弯症に伴う腰痛に対して当院で開発し行っている世界に先駆けた新しい治療法である対する経皮的椎間板内セメント治療の有用性について報告しました。今回、広島大学から味八木先生という基礎実験のスペシャリストが来られていたので、ずっと行動をともにしながら広島における今後の基礎研究の方向についてビールを片手に深夜まで熱く語りました。

今回訪れたラスベガスという街はご存じのようにカジノやギャンブルの街です。私にとっては初めての訪問でした。飛行機で向かうと砂漠の中に突然巨大な街が現れ、夜はまばゆいばかりのネオンを放っています。ラスベガスという名前ですが、「ベガ」はスペイン語で「肥沃な草原」を意味する名詞で、これに定冠詞を付けて「ラスベガス」となったようです。第二次世界大戦終結後、ベンジャミン・シーゲルがフラミンゴホテルを建設し、カジノが収益を上げることが判るとマフィアが続々とホテルを建設し「カジノの街」ができあがりました。そのような

カジノの街で今回、非常にタイトな学会スケジュールの合間を縫ってシルク・ドゥ・ソレイユの「O」と「KA」を鑑賞しました。特に「O」ではその美しさに声が出ず、思わず涙が頬を伝いました。さすがエンターテインメントの国、アメリカです。

このような国際学会へ参加し発表することで、最前線での研究を直に触れることができ大変貴重な機会でした。サッカーや野球において日本のレベルは世界に近づいていると言われていますが、私にとって世界はまだままだであると感じました。しかし今回、我々が行っている研究を世界に向けて発信できたことは私にとって非常に大きな自信となりました。このような機会を与えてくださった藤本院長、および学会参加中で迷惑をお掛けした先生方および関係者の方々にはこの場を借りて深謝いたします。



学会会場前にて



ラスベガスの街

■ 広島総合病院ハワイ大学 SimTiki Simulation Center 研修

外科 馬場 健 太

今回我々はハワイのホノルル島にあるハワイ大学 SimTiki Simulation Center にて研修をさせていただきました。メンバーは JA 広島総合病院の研修医からそのまま同病院に残って、3 年目となった呼吸器内科 下地、腎臓内科 藤野、泌尿器科 宮本、外科 馬場の 4 人でした。日本とハワイとは 19 時間の時差があり、日本を 8 月 5 日の夕方に出発し、ハワイに同じく 8 月 5 日の朝に着いたため、翌 8 月 6 日から 2 日間研修が行われました。

8 月 5 日、ハワイ大学に到着してまず思ったことは、こんなキャンパスがあつたらいいなあということです。中は広く、植物が多く、何より綺麗でした。そんなキャンパスの中で研修が始まりました。講師を務めていただいたのは救命医療の Berg 先生をはじめとする先生方で、そんな中に日本人の講師の方もいて、英語がとても不安な私にとっては救いでした。まず講義が始まると、先生方の自己紹介、私たちの自己紹介がありました。英語での自己紹介なんて何年ぶりだろうと思いながら、つたない英語で話し、うまく言えないところは先生方のフォローでなんとかかなりましたが、自己紹介さえままならない英語力しかないことが分かったことはよかったかもしれません。こういう英語の授業が受けたかったなと思うぐらい、分かりやすく楽しく話をさせていただきました。講義では主にチーム医療の大切さを話しており、一人ひとりが考えて行動することが重要であるという内容でした。その後、人形がたくさん置いてある部屋に移動しました。ある人形では実際に脈を触れたように感じる事ができたり、呼吸音や心音の聴取ができたり、瞳孔の左右差を変えたりできるようになっているほか、輪状甲状切開も体験できるようになっていました。その部屋には他にもバーチャルな上部・下部の内視鏡訓練や気管支鏡訓練の道具があつたり、コンピューターでの腹腔鏡の訓練装置が置いてあつたりしました。ぜひ身近にそういう訓練できる場所があればいいなあと思いました。午前中はその人形を使い、シミュレーション研修を行いました。実際当直中に病棟で起こりうる症状に、対応してみようというものでした。三人一組で行われ、

内容は基本的なものでしたが、英語で行われていることと久しぶりの感覚で、とても緊張しました。日頃からこういうことが起こったら、どのように対応するかを考えておくことが大切だと感じました。午後には「difficult airway」という挿管困難の患者に対して、どのように対応するかを学びました。日本より肥満体型が多いアメリカならではの力の入れようであり、日本では見たこともない挿管器具がたくさんありました。もう挿管することはほとんどないですが、今後緊急で起こりうる時にこの経験が活かされればいいなと思います。

2 日目は 9 人全員で対応するシミュレーションから始まりました。内容は ACLS と同様なものでしたが、発見する看護師役がいるほか、リーダーは情報収集や指示などでとても忙しく、チームもリーダーの指示だけに従うのではなく、自ら一員として提案したり、動いたりすることが必要でした。この研修のよいところは、その一部始終をカメラで撮影されており、終了後実際に映像を見ながらどう動いていたかを確認でき、反省や次回に活かせる点です。当院の救急外来もビデオで撮影しているので、応用できるのではないかと思います。

研修以外の時間は、ハワイを満喫させてもらったのですが、ハワイ島では実に 20 年ぶりの台風が到来し、すべてのレクリエーションがキャンセルになってしまいました。青い海で泳ぐことは叶いませんでしたが、ハワイはとても過ごしやすい街であることを実感できて楽しい研修となったと思います。

最後になりましたが、忙しい時期にハワイ研修に行かしていただいた先生方、ハワイへの交通や宿泊・研修の手配をしてくださった事務の方々、その他援助していただいた多くの方々に大変感謝いたします。



ハワイ大学にて

著書・論文

呼吸器内科

タイトル・著書名	著者名	雑誌名・出版社	巻・号・ページ	発行年
肺炎、膿胸から acute respiratory distress syndrome (ARDS) の合併を来し、low-flow extracorporeal CO ₂ removal (ECCO2R) により救命できた 1 例	近藤丈博 若林優 櫻谷正明 吉田研一	日本集中治療医学会 雑誌	第 21 巻第 5 号 516-320p	2014 年

消化器内科

タイトル・著書名	著者名	雑誌名・出版社	巻・号・ページ	発行年
専門医に学ぶ胃瘻ケア 実践的知識スキルマスタート「胃瘻の造設と基礎的事項」	徳毛宏則	臨床老年看護	21 : 73-80	2014 年
地域における胃瘻の現状認識－広島ページェント参加者におけるアンケート結果の考察－	石崎淳子 松下理恵 藤本七津美 徳毛宏則	在宅医療と内視鏡治療	18 : 101-108	2014 年
専門医に学ぶ胃瘻ケア 実践的知識スキルマスタート「胃瘻の適応を巡る諸問題とその背景」	徳毛宏則	臨床老年看護	21 : 84-91	2014 年
高用量オキシコドン注射剤が安全・有用であった頭頸部がんの 1 例	小松弘尚 桐生浩司 河野秀和 松本千香子 撰香織 香山茂平	広島医学	67 : 206-210	2014 年

外科

タイトル・著書名	著者名	雑誌名・出版社	巻・号・ページ	発行年
鼠径ヘルニアに対する腹腔鏡下修復術の適応	田崎達也 今村祐司 佐々木秀 香山茂平 大下彰彦 杉山陽一 中村浩之 黒尾優太 井上聡 川本常喬 馬場健太 中光篤志	広島医学	67 (11) , 722-726	2014 年
Successful Treatment of Conversion Chemotherapy for Initially Unresectable Synchronous Colorectal Liver Metastasis.	Kenta Baba, Akihiko Oshita, Mohei Kohyama, Satoshi Inoue, Yuta Kuroo, Takuro Yamaguchi, Hiroyuki Nakamura, Yoichi Sugiyama, Tatsuya Tazaki, Masaru Sasaki, Yuji Imamura, Yutaka Daimaru, Hideki Ohdan, Atsushi Nakamitsu	World Journal of Gastroenterology	21 (6) , 1982-1988 doi: 10.3748/wjg.v21.i6.1982.	2015 年 February 14
十二指腸乳頭部癌を合併した巨大腓脂肪腫の 1 例	佐々木秀 中光篤志 香山茂平 大下彰彦 杉山陽一 臺丸裕	手術	69 : 187-190, 2015	2015 年

整形外科

タイトル・著書名	著者名	雑誌名・出版社	巻・号・ページ	発行年
橈骨遠位端骨折の治療 掌側ロッキングプレート固定	鈴木修身	広島県臨床整形外科 医会会誌	17 : 68-74	2014 年
外来で行う小手術 Heberden 結節	鈴木修身 生田義和	整形外科 Surgical Technique	4 (4) : 488-491	2014 年
骨粗鬆症性椎体骨折に対する経皮的椎体形成術のコツと pitfall	中前稔生 藤本吉範	整形外科最小侵襲手術 ジャーナル、全日本 病院出版社	73 : 43-51	2014 年
アスリートの腰椎椎間板ヘルニアに対する Percutaneous Endoscopic Discectomy の治療成績－腰痛に着目して	中前稔生 藤本吉範 鈴木修身 山田清貴 橋本貴士 松浦正己 森迫泰貴	Journal of Spine Research	5 (5) : 851-854	2014 年

脳神経外科

タイトル・著書名	著者名	雑誌名・出版社	巻・号・ページ	発行年
脳動脈瘤クリッピング手術における術中破裂の検討	黒木一彦 渋谷正顕 織田祥至 下永皓司	広島医学	67 ; 23-26	2014 年

呼吸器外科

タイトル・著書名	著者名	雑誌名・出版社	巻・号・ページ	発行年
術前肺機能検査が導く潜在慢性閉塞性肺疾患の診断と治療	渡正伸 熊田高志 嶋田恵美 長尾専	麻酔・克誠堂	64・3・331-335	2015 年

著書・論文

心臓血管外科

タイトル・著書名	著者名	雑誌名・出版社	巻・号・ページ	発行年
Surgery for an Adult with tetralogy of Fallot and acquired heart disease.	Masaki Hamamoto, Kiyohiko Morifuji	Asian Cardiovascular and Thoracic Annals	22 : 607-610	2014 年
Prosthetic ring endocarditis with shrunken mitral annulus late after undersized mitral annuloplasty.	Masaki Hamamoto, Taira Kobayashi, Masamichi Ozawa, Hiroshi Kodama	Open Journal of Thoracic Surgery	4 : 62-65	2014 年
Blood cyst and stone in an adult heart.	Masaki Hamamoto, Taira Kobayashi, Hiroshi Kodama	Asian Cardiovascular and Thoracic Annals	23 巻 87 ページ	2015 年
上腕動脈閉塞に対して上腕尺側皮静脈を使用して in situ で血行再建した 1 例	小林平 濱本正樹 小澤優道 児玉裕司	日本血管外科学会雑誌	23 : 7 : 989-992	2014 年
当院における重症下肢虚血に対する包括的チームアプローチの実績	小林平 濱本正樹 小澤優道 児玉裕司	血管外科	33 : 1 : 21-25	2014 年

産婦人科

タイトル・著書名	著者名	雑誌名・出版社	巻・号・ページ	発行年
尿管瘤と交通を認めた Wunderlich 症候群の 1 例	楠本真也 佐野祥子 佐々木充 佐々木美砂 中前里香子 藤本英夫 中西慶喜	現代産婦人科	63・1・43-48	2014 年
腹腔洗浄細胞診が診断の契機となった子宮内膜癌の 1 例	濱崎晶 藤本英夫 佐々木充 佐野祥子 中前里香子 中西慶喜 (井町海太) (上國愛) (岡本淳子) (永田郁子) (住田美栄) (臺丸裕)	日本臨床細胞学会 広島県支部会誌	34・15-19	2014 年
肺血栓塞栓症を合併した巨大子宮筋腫の 1 例	佐々木充 中西慶喜 楠本真也 佐々木美砂 佐野祥子 中前里香子	現代産婦人科	62・2・213-216	2013 年

眼科

タイトル・著書名	著者名	雑誌名・出版社	巻・号・ページ	発行年
極小切開白内障手術での眼内レンズ挿入後創口拡大	二井宏紀 井上千絵	日本農村医学会雑誌	63 (2) 121-126	2014 年

麻酔科

タイトル・著書名	著者名	雑誌名・出版社	巻・号・ページ	発行年
VI 静脈麻酔法の実践 1 麻酔・鎮静導入 稲垣喜三 編集	中尾正和	For Professional Anesthesiologists 静脈麻酔・克誠堂出版	147-161	2014 年
VI 静脈麻酔法の実践 2 麻酔・鎮静維持 稲垣喜三 編集	中尾正和	For Professional Anesthesiologists 静脈麻酔・克誠堂出版	162-173	2014 年
VI 静脈麻酔法の実践 3 麻酔・鎮静からの覚醒 稲垣喜三 編集	中尾正和	For Professional Anesthesiologists 静脈麻酔・克誠堂出版	174-182	2014 年
汎用喉頭鏡をビデオ喉頭鏡に変身させる小型ビデオカメラ利用の変遷, 麻酔・集中治療とテクノロジー 2014	中尾正和	北斗プリント 京都	44-40	2014 年
鎮静薬投与の自動調節	中尾正和	臨床麻酔	38 (12) : 1677-83	2014 年

臨床研究検査科

タイトル・著書名	著者名	雑誌名・出版社	巻・号・ページ	発行年
関節液検査の臨床的意義とポイント	山下美香	MEDICAL TECHNOLOGY	Vol42, No 8, 814 ~ 821	2014 年 8 月
膿胸を呈した胸水中にトリコモナス原虫を認め、Tetratrichomonas Species と同定した本邦初症例	荒瀬美幸	臨床病理	Vol62, No12, 1197 ~ 1202	2014 年 12 月

著書・論文

中央放射線科

タイトル・著書名	著者名	雑誌名・出版社	巻・号・ページ	発行年
虚血性心疾患の診断における心臓 CT の現状と将来展望	山口裕之	日本放射線技術学会誌・メディカルトリビューン	71 (3) : 250-2	2015 年

リハビリテーション科

タイトル・著書名	著者名	雑誌名・出版社	巻・号・ページ	発行年
重症下肢虚血に対する血行再建術後の包括的リハビリテーション	本間智明 小林平 上野忠活 金羽木敏治 寺迫正広 小林恭子 河野裕美 小島輝久 小山明子 井場和敏 飛鷹恵理 西谷喜子 折手祐一 名井幸香 橋詰菜津美 上田雅美 後藤優佳 濱本正樹	心臓リハビリテーション	第 20 巻第 1 号 217-221	2015 年

栄養科

タイトル・著書名	著者名	雑誌名・出版社	巻・号・ページ	発行年
胃瘻からの栄養剤や薬剤の投与	八幡謙吾 徳毛宏則	臨床老年看護（日総研）	第 22 巻第 1 号 P105-114	2014 年 11 月

書籍・雑誌編集

消化器内科

担当者	書籍・雑誌名	担当	巻・号 (Volume, number)	出版元
徳毛宏則	在宅医療と内視鏡治療	査読者	vol8. No1	PEG・在宅医療研究会

心臓血管外科

担当者	書籍・雑誌名	担当	巻・号 (Volume, number)	出版元
濱本正樹	日本血管外科学会雑誌	査読者		株式会社メディカルトリビューン
濱本正樹	日本血管外科学会雑誌	査読者		株式会社メディカルトリビューン
濱本正樹	Annals of Vascular Diseases	査読者		Medical Tribune Inc.
濱本正樹	Annals of Vascular Diseases	査読者		Medical Tribune Inc.
濱本正樹	Saudi Medical Journal	査読者		Saudi Medical Journal
濱本正樹	Indian Journal of Medical Research	査読者		Indian Council of Medical Research
濱本正樹	Edorium Journal of Cardiothoracic and Vascular Surgery	査読者		Edorium Journals

麻酔科

担当者	書籍・雑誌名	担当	巻・号 (Volume, number)	出版元
中尾正和	Journal of Anesthesia	査読者		日本麻酔科学会
中尾正和	日本臨床麻酔学会誌	査読者		日本臨床麻酔学会
中尾正和	麻酔と蘇生	査読者		麻酔と蘇生編集部

学会発表

呼吸器内科

演題	発表者・協同研究者名	学会名	開催期間	開催都市
ARDS 患者における喀痰中 KL-6 の検討	近藤丈博 徳毛健太郎 若林 優 河野秀和	日本呼吸器学会	2014 年 4 月 25 ～ 27 日	大阪市
ECMO にて救命しえた ANCA 関連血管炎に伴う肺出血の 1 例	下地清史 近藤丈博 櫻谷正明 徳毛健太郎 黒住悟之 河野秀和	日本呼吸器学会中国・四国地 方会	2014 年 7 月 11 ～ 12 日	鳥取県
気管食道ダブルステント留置にて救命および QOL 改善を得られた肺扁平上皮癌患者の 1 例	下地清史 近藤丈博 富永明子 古土井明 黒住悟之 河野秀和	日本呼吸器学会中国・四国地 方会	2014 年 12 月 13 日	香川県
HIV 陽性患者に合併したニューモシスチス肺炎の 1 例	山口哲司 近藤丈博 下地清史 黒住悟之 河野秀和	日本呼吸器学会中国・四国地 方会	2014 年 12 月 13 日	香川県
ARDS 患者における喀痰中 KL-6 の検討	近藤丈博 下地清史 櫻谷正明 吉田研一	日本集中治療学会	2015 年 2 月 9 ～ 11 日	東京都
VV-ECMO 管理を要した肺出血を伴う難治性 ANCA 関連血管炎の 1 例	下地清史 近藤丈博 櫻谷正明 徳毛健太郎 黒住悟之 河野秀和	日本集中治療学会	2015 年 2 月 9 ～ 11 日	東京都

腎臓内科

演題	発表者・協同研究者名	学会名	開催期間	開催都市
血液維持透析患者における NT-proBNP の有用性の検討	下田 大紀 眞田 亜季 荒川 哲次 土井 盛博 内藤 隆之 正木 崇生	第 59 回日本透析医学会学術 集会	2014 年 6 月 13 ～ 15 日	兵庫県
血液維持透析患者における NT-proBNP の予後予想能に関する多施設共同研究	眞田 亜季 下田 大紀 荒川 哲次 土井 盛博 内藤 隆之 正木 崇生	第 59 回日本透析医学会学術 集会	2014 年 6 月 13 ～ 15 日	兵庫県
MPO-ANCA が正常範囲に維持されていたにもかかわらず、血管炎による急速進行性糸球体腎炎の再燃を認めた 1 例	田村 亮 藤野 修 宮崎真美 荒川哲次	第 111 回日本内科学会中国地 方会	2014 年 11 月 8 日	島根県

糖尿病代謝内科

演題	発表者・協同研究者名	学会名	開催期間	開催都市
電流知覚閾値検査（CPT）を尺度として立案した、CPT を用いない新たな糖尿病神経障害重症度評価法の提言	石田和史 浅生貴子 木 ノ原周平 堀江正和	第 57 回日本糖尿病学会年次 学術集会	2014 年 5 月 22 ～ 24 日	大阪市
腎機能を加味したシタグリプチン、ビルダグリプチン、リナグリプチンの臨床効果の比較	浅生貴子 木ノ原周平 堀江正和 石田和史	第 57 回日本糖尿病学会年次 学術集会	2014 年 5 月 22 ～ 24 日	大阪市
既存の持効型インスリンアナログからの切り替え症例での検証に基づいたデグルデク適正使用のための考案	木ノ原周平 堀江正和 浅生貴子 石田和史	第 57 回日本糖尿病学会年次 学術集会	2014 年 5 月 22 ～ 24 日	大阪市
CPT の経年観察による糖尿病神経障害に関するインクレチン関連薬の pleiotropic effect の検証	堀江正和 木ノ原周平 浅生貴子 石田和史	第 57 回日本糖尿病学会年次 学術集会	2014 年 5 月 22 ～ 24 日	大阪市
モーニングセミナー 強化療法に頼らない 2 型糖尿病のインスリン治療へ患者さんに寄り添うインスリン治療を工夫してみませんか？～	石田和史	第 52 回日本糖尿病学会中国 四国地方会	2014 年 10 月 24 ～ 25 日	広島市
既存の持効型インスリンからの切り替え症例におけるデグルデクの長期有用性の検討と課題	木ノ原周平 堀江正和 浅生貴子 石田和史	第 52 回日本糖尿病学会中国 四国地方会	2014 年 10 月 24 ～ 25 日	広島市
リポハイパートロフィー予防への取り組みー 4mm 針へ変更したアンケート調査の結果からー	中元美恵 加賀美昌美 石田和史	第 52 回日本糖尿病学会中国 四国地方会	2014 年 10 月 24 ～ 25 日	広島市
イプラグリフロジンの血糖降下作用および InBody S20 を用いた体組成変化の検討	浅生貴子 木ノ原周平 堀江正和 石田和史	第 52 回日本糖尿病学会中国 四国地方会	2014 年 10 月 24 ～ 25 日	広島市
HbA1c・CPT 経年観察での糖尿病神経障害へのインクレチン関連薬の pleiotropic effect の検証	堀江正和 木ノ原周平 浅生貴子 石田和史	第 52 回日本糖尿病学会中国 四国地方会	2014 年 10 月 24 ～ 25 日	広島市

学会発表

アキレス腱反射改善に着目した糖尿病神経障害治療の有効性予測指標の提言	石田和史 木ノ原周平	浅生貴子 堀江正和	第52回日本糖尿病学会中国 四国地方会	2014年 10月24 ～25日	広島市
------------------------------------	---------------	--------------	------------------------	------------------------	-----

消化器内科

演題	発表者・協同研究者名			学会名	開催期間	開催都市
当院における大腸憩室出血と抗血栓薬内服の関連について	中野貴之 宮森純子 藤本佳史 石田邦夫	若井雅貴 富永明子 小松弘尚	古土井明 野中裕広 徳毛宏則	第101回日本消化器病学会中 国支部例会	2014年 6月21日	岡山市
胃粘膜下腫瘍様の形態を呈した胃原発悪性ラブドイド腫瘍の一例	宮森純子 富永明子 小松弘尚	古土井明 野中裕広 徳毛宏則	若井雅貴 藤本佳史 石田邦夫	第101回日本消化器病学会中 国支部例会	2014年 6月21日	岡山市
シンポジウム：緩和ケアの視点からみた消化器がんの現状と特徴	小松弘尚 徳毛宏則	藤本佳史 石田邦夫	古土井明	第101回日本消化器病学会中 国支部例会	2014年 6月21日	岡山市
腹腔鏡にて診断した肝内腫瘍の一例	棚橋弘貴 富永明子 古土井明 石田邦夫	野中裕広 宮森純子 小松弘尚	若井雅貴 藤本佳史 徳毛宏則	第112回日本消化器内視鏡学 会中国支部例会	2014年 6月29日	岡山市
自己免疫性膵炎に合併した膵臓癌の1例	若井雅貴 宮森純子 小松弘尚 臺丸裕	藤本佳史 野中裕広 徳毛宏則	富永明子 古土井明 石田邦夫	第112回日本消化器内視鏡学 会中国支部例会	2014年 6月29日	岡山市
地域連携における「膵癌教室」の役割	藤本佳史 石田邦夫	若井雅貴 佐々木秀	徳毛宏則 中光篤志	第45回日本膵臓学会大会	2014年 7月12日	北九州市
巨大な膵脂肪腫の2例	若井雅貴 石田邦夫	藤本佳史 佐々木秀	徳毛宏則 中光篤志	第45回日本膵臓学会大会	2014年 7月12日	北九州市
胆道結石に対するYAGレーザー碎石術の有用性	藤本佳史	宮森純子	徳毛宏則	第50回日本胆道学会学術集 会	2014年 9月27日	東京
胆道狭窄に対するinside stentの治療成績	藤本佳史 宮森純子 小松弘尚	富永明子 野中裕広 徳毛宏則	若井雅貴 古土井明 石田邦夫	第88回日本消化器内視鏡学 会総会	2014年 10月24 日	神戸市
当院における大腸ESD治療の現況	若井雅貴 宮森純子 小松弘尚	古土井明 野中裕広 徳毛宏則	富永明子 藤本佳史 石田邦夫	第88回日本消化器内視鏡学 会総会	2014年 10月25 日	神戸市
腎癌術後21年目に膵転移を認めた1例	田妻昌 富永明子 古土井明 石田邦夫	藤本佳史 宮森純子 小松弘尚	若井雅貴 野中裕広 徳毛宏則	第102回日本消化器病学会中 国支部例会	2014年 11月29 日	広島市
「膵・胆道がん教室」の取り組み	若井雅貴 富永明子 小松弘尚	藤本佳史 野中裕広 徳毛宏則	宮森純子 古土井明 石田邦夫	第102回日本消化器病学会中 国支部例会	2014年 11月30 日	広島市
Duodenum perforation caused by serous cystadenoma of pancreas: a case report and a review of literature	Yoshifumi Fujimoto, Hironori Tokumo, Akihiko Oshita, Masaru Sasaki			24th World Congress of the International Association of Surgeons, Gastroenterologists and Oncologists	2014年 12月5日	Vienna, Austria

小児科

演題	発表者・協同研究者名			学会名	開催期間	開催都市
小児喘息の病態・疫学 2012年秋季広島県小児喘息実態調査について JPACを用いた2008年調査との比較	岡島宏易 (広島小児アレルギー研究会) 小野厚 加藤恭博 喜多村哲朗 白尾謙一郎 杉原雄三 辻徹郎 藤高道子 安井耕三 池田政憲 有田昌彦			日本アレルギー学会	2014年5月9 ～11日	東京都
小児気管支喘息の臨床的コントロール状態から見た肺機能、気道過敏性についての検討	辻徹郎 岡島宏易 田邊真奈美			日本小児アレルギー学会	2014年11月 8～9日	四日市市
2012年秋季にJPACを用いて検討したJA広島総合病院、庄原赤十字病院受診喘息児の発作状況と治療内容の比較	田邊真奈美 岡島宏易 辻徹郎 藤井寛 中島千恵子 金丸博 浦山耕太郎			日本小児アレルギー学会	2014年11月 8～9日	四日市市
JPACを用い、2008年、2012年秋季に同一の施設で行った広島県喘息児実態調査の比較	岡島宏易 岡野里香 小野厚 加藤恭博 川口浩史 喜多村哲朗 佐々木信孝 白尾謙一郎 杉原雄三 辻徹郎 藤高道子 安井耕三 松浦良二 池田政憲 有田昌彦			日本小児アレルギー学会	2014年11月 8～9日	四日市市

学会発表

外科

演題	発表者・協同研究者名	学会名	開催期間	開催都市
Right Atrium Monitoring Using Transesophageal Echocardiography Could Prevent Critical Carbon Dioxide Gas Embolism In Laparoscopic Liver Resection.	Akihiko Oshita, Masahide Shinzawa, Masaru Sasaki, Satoshi Inoue, Yuta Kuroo, Takuro Yamaguchi, Hiroyuki Nakamura, Yoichi Sugiyama, Tatsuya Tazaki, Mohei Kouyama, Yuji Imamura, Masakazu Nakao, Astushi Nakamitsu	SAGES 2014 (Society of American Gastrointestinal and Endoscopic Surgeons)	2014 年 4 月 2 ～ 5 日	ソルト レークシ ティ
肝切除術前化学療法を行った大腸癌肝転位切除症例の検討	中村浩之 中光篤志 今村祐司 佐々木秀 香山茂平 大下彰彦 田崎達也 杉山陽一 山口拓朗 黒尾優太	第 114 回日本外科学会定期学 術集会	2014 年 4 月 3 ～ 5 日	京都市
EGFR 遺伝子変異の異なる同時重複肺腺癌の 1 切除 例	川本常喬 穴山貴嗣 宮崎涼平 廣橋健太郎 岡田浩晋 久米基彦 渡橋和政	第 31 回日本呼吸器外科学会 総会	2014 年 5 月 29 ～ 30 日	東京都
当院における TAPP 導入の実際	田崎達也 佐々木秀 香山茂平 大下彰彦 杉山陽一 中村浩之 山口拓朗 黒尾優太 井上聡 今 村祐司 中光篤志 河合央	第 12 回日本ヘルニア学会学 術集会	2014 年 6 月 6 ～ 7 日	東京都
Right Atrium Monitoring Using Transesophageal Echocardiography Could Prevent Critical Carbon Dioxide Gas Embolism In Laparoscopic Liver Resection. (Invited lecture)	Akihiko Oshita	IASGO (International Association of Surgeons, Gastroenterologists, and Oncologists) Postgraduate Course in Moscow	2014 年 6 月 6 ～ 8 日	モスクワ
完全腹腔鏡下右肝葉切除における Hanging maneuver をするための工夫ーデバイスを組み合わせた IVC 前面のトンネリング法ー	大下彰彦 佐々木秀 井上聡 黒尾優太 山口拓朗 中村浩之 杉山陽一 田崎達也 香山茂平 今村祐司 中光篤志	第 26 回日本肝胆膵外科学会・ 学術集会	2014 年 6 月 11 ～ 13 日	和歌山市
脾神経内分泌腫瘍に対する腹腔鏡補助下脾鉤部切 除	佐々木秀 中光篤志 今村祐司 香山茂平 大下彰彦 田崎達也 杉山陽一 中村浩之 黒尾優太 井上聡 川本常喬	第 26 回日本肝胆膵外科学会	2014 年 6 月 11 ～ 13 日	和歌山市
肝切除術前化学療法を行った大腸癌肝転位切除症 例の検討	中村浩之 中光篤志 今村祐司 佐々木秀 香山茂平 大下彰彦 田崎達也 杉山陽一 山口拓朗 黒尾優太 井上聡	第 26 回日本肝胆膵外科学会・ 学術集会	2014 年 6 月 11 ～ 13 日	和歌山市
CHDF により救命し得た薬剤性肝腎症候群の 1 例	大下彰彦 山口拓朗 野中裕広 河村夏生 櫻谷正明 佐々木秀 吉田研一 徳毛宏則 中光篤志	日本透析医学会総会	2014 年 6 月 12 ～ 15 日	神戸市
十二指腸乳頭部癌を合併した巨大脾脂肪腫に対 する亜全胃温存脾頭十二指腸切除	佐々木秀 中光篤志 今村祐司 香山茂平 大下彰彦 田崎達也 杉山陽一 中村浩之 黒尾優太 井上聡 川本常喬	第 69 回日本消化器外科学会 総会	2014 年 7 月 16 ～ 18 日	郡山市
肝切除術前化学療法を行った大腸癌肝転位切除症 例の検討	中村浩之 中光篤志 今村祐司 佐々木秀 香山茂平 大下彰彦 田崎達也 杉山陽一 山口拓朗 黒尾優太	第 69 回日本消化器外科学会 総会	2014 年 7 月 16 ～ 18 日	郡山市
術前診断に難渋した肝内胆管癌に対して腹腔鏡補 助下肝外側区域切除を施行した 1 例	川本常喬 大下彰彦 杉山陽一 田崎達也 香山茂平 中光篤志	第 27 回日本内視鏡外科学会 総会	2014 年 10 月 2 ～ 4 日	盛岡市
高度の腸管狭窄と膀胱瘻を合併し、癌との鑑別が 困難であった S 状結腸憩室炎の 1 例	田崎達也 香山茂平	第 69 回日本大腸肛門病学会 学術集会	2014 年 11 月 7 ～ 8 日	横浜市
高齢者大腸癌症例に対する腹腔鏡下大腸切除術の 意義	香山茂平 田崎達也	第 69 回日本大腸肛門病学会 学術集会	2014 年 11 月 7 ～ 8 日	横浜市
外科領域における抗菌薬投与と健常成人糞便中真 菌叢の変化ー生活習慣病患者の腸内環境変化の検 討へ向けてー	中村浩之 森藤雅彦 中川直哉	第 45 回日本消化吸収学会総 会	2014 年 11 月 22 日	東京都
脾頭十二指腸切除術後の脂肪肝に関する検討ー術 後栄養状態との関連とその危険因子ー	中村浩之 森藤雅彦	第 45 回日本消化吸収学会総 会	2014 年 11 月 22 日	東京都
消化吸収障害と骨粗鬆症の程度を定量的評価した 脾頭十二指腸切除後晩期の脾機能不全・肝硬変の 1 例	中村浩之 森藤雅彦 中川直哉	第 45 回日本消化吸収学会総 会	2014 年 11 月 22 日	東京都

学会発表

乳腺外科

演題	発表者・協同研究者名	学会名	開催期間	開催都市
当院における乳癌骨転移症例に対する BMA (bone-modifying agents) 使用症例の検討	川淵義治 吉村紀子 安井大介 中光篤志 山口拓朗 黒尾優太 熊田高志 香山茂平 桐生浩司	第 22 回日本乳癌学会学術総会	2014 年 6 月 10 ~ 12 日	大阪市
BI-RADS-MRI 第 2 版に基づいた乳房 MRI 読影とは～特に乳管病変の評価について～	吉村紀子 川淵義治 安井大介 桐生浩司 中光篤志	第 22 回日本乳癌学会学術総会	2014 年 6 月 10 ~ 12 日	大阪市
Chronic empyema in a patient with metastatic breast cancer on bevacizumab	吉村紀子 川淵義治 近藤丈博	第 12 回日本臨床腫瘍学会学術総会	2014 年 7 月 17 ~ 19 日	福岡市
進行再発乳癌に対する Bevacizumab + Paclitaxel 療法の有用性と安全性の検討	川淵義治 安井大介 川野亮	第 52 回日本癌治療学会学術総会	2014 年 8 月 28 ~ 30 日	横浜市
当院での HER2 陽性の手術不能又は再発進行乳癌に対するペリツツマップの使用経験	鈴木江梨 川淵義治 中光篤志 今村祐司 香山茂平 安井大介 田崎達也	第 11 回日本乳癌学会中国四国地方会	2014 年 9 月 20 ~ 21 日	広島市
当院における吸引式乳腺組織生検の使用経験	川淵義治 鈴木江梨 安井大介 馬場健太 川本常喬 井上 聡 中村浩之 田崎達也 杉山陽一 大下彰彦 香山茂平 佐々木秀 今村祐司 中光篤志	第 24 回佐伯医学会総会	2014 年 11 月 3 日	広島市
ホルモン療法により長期生存を得ている乳癌脳転移肺転移の一例	鈴木江梨 川淵義治 中光篤志 今村祐司 佐々木秀 香山茂平 大下彰彦 田崎達也 杉山陽一 安井大介 中村浩之 川本常喬 黒尾優太 井上聡 馬場健太	第 76 回日本臨床外科学会総会	2014 年 11 月 20 ～ 22 日	郡山市

整形外科

演題	発表者・協同研究者名	学会名	開催期間	開催都市
Total cervical spondylectomy for primary osteosarcoma : case report	Kiyotaka Yamada, Yoshinori Fujimoto, Toshio Nakamae, Masaki Matsuura	Cervical Spine Research Society Asia-Pacific section 5th Annual Meeting	2014 年 4 月 3 ~ 5 日	Ho Chi Minh, Viet Nam
Pathology and treatment for cervical flexion myelopathy (juvenile muscular atrophy of unilateral upper extremity)	Nakamae T, Fujimoto Y, Yamada K, Suzuki O, Hashimoto T, Matsuura M, Morisako T	5th CSRS-AP (Cervical Spine Research Society Asia-Pacific section)	2014 年 4 月 3 ~ 5 日	Ho Chi Minh City, Viet Nam
高齢者腰椎変性側弯症の腰痛に対するターゲット療法：観察コホート研究	山田清貴 藤本吉範 鈴木修身 橋本貴士 中前稔生 松浦正己 森迫泰貴	第 43 回日本脊椎脊髄病学会学術集会	2014 年 4 月 17 日	京都市
高齢者腰椎変性側弯症に伴う腰痛と骨髄浮腫の関係：横断研究	中前稔生 藤本吉範 山田清貴 鈴木修身 橋本貴士 松浦正己 森迫泰貴 新保卓郎	第 43 回日本脊椎脊髄病学会	2014 年 4 月 17 ~ 19 日	京都市
骨粗鬆症性椎体偽関節に伴う遅発性神経障害に対する経皮的椎体形成術の EBM	中前稔生 藤本吉範 山田清貴 鈴木修身 橋本貴士 松浦正己 森迫泰貴 新保卓郎	第 43 回日本脊椎脊髄病学会	2014 年 4 月 17 ~ 19 日	京都市
プロスポーツ選手の腰部障害に対するマネージメント	山田清貴 藤本吉範 中前稔生 鈴木修身 橋本貴士 松浦正己 森迫泰貴 寛田司 奥田晃章 吉崎健 松原慶直	第 6 回日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会	2014 年 7 月 24 日	広島市
Association of Vertebral Bone Marrow Edema with Low Back Pain in Degenerative Lumbar Scoliosis in the Elderly: Cross-sectional Observational Study	Kiyotaka Yamada, Yoshinori Fujimoto, Toshio Nakamae, Osami Suzuki, Takashi Hashimoto, Masaki Matsuura, Taiki Morisako	Eurospine 2014	Wednesday, October 01, 2014	Lyon, France
Targeted therapy of low back pain associated with de novo degenerative lumbar scoliosis in the elderly: prospective observation cohort study	Kiyotaka Yamada, Yoshinori Fujimoto, Toshio Nakamae, Osami Suzuki, Takashi Hashimoto, Masaki Matsuura, Taiki Morisako	Eurospine 2014	October 01,	Lyon, France
骨粗鬆症性椎体骨折後偽関節の画像所見と臨床症状の関連性	中前稔生 藤本吉範 山田清貴 鈴木修身 橋本貴士 松浦正己 森迫泰貴	第 54 回広島脊椎・脊髄セミナー	2014	広島市
椎体内クレフトを有する骨粗鬆症性椎体骨折に対する手術療法～ PVP vs BKP ～	松浦正己 藤本吉範 鈴木修身 山田清貴 橋本貴士 中前稔生 森迫泰貴	第 54 回広島脊椎・脊髄セミナー	2014 年 10 月 11 日	広島市

学会発表

手関節部に障害を来した単発性骨軟骨腫の1例	森迫泰貴 鈴木修身 山田清貴 橋本貴士 中前稔生 松浦正己 藤本吉範	第47回中国・四国整形外科学会	2014年 11月8～9日	尾道市
椎体内クレフトを有する骨粗鬆症性椎体骨折に対する手術療法～PVP vs BKP～	松浦正己 藤本吉範 鈴木修身 山田清貴 橋本貴士 中前稔生 森迫泰貴	第47回中国・四国整形外科学会	2014年 11月8～9日	尾道市
Association of Vertebral Bone Marrow Edema With Low Back Pain in Degenerative Lumbar Scoliosis in the Elderly : A Cross-Sectional Observational Study	Kiyotaka Yamada, Yoshinori Fujimoto, Toshio Nakamae, Osami Suzuki, Takashi Hashimoto, Masaki Matsuura, Taiki Morisako	North American Spine Society 29th Annual Meeting	2014年 11月12日	San Francisco, USA
Percutaneous vertebroplasty versus balloon kyphoplasty for osteoporotic vertebral fracture with intravertebral cleft	Masaki Matsuura, Yoshinori Fujimoto, Kiyotaka Yamada, Toshio Nakamae	North American Spine Society 29th Annual Meeting	2014年 11月12～15日	San Francisco, USA
Targeted Therapy of Low Back Pain Associated With De Novo Degenerative Lumbar Scoliosis in the Elderly : Observation Cohort Study	Kiyotaka Yamada, Yoshinori Fujimoto, Toshio Nakamae, Masaki Matsuura	North American Spine Society 29th Annual Meeting	2014年 11月12～15日	San Francisco, USA
The cause of delayed neurologic deficits following osteoporotic vertebral pseudoarthrosis	Nakamae T, Fujimoto Y, Yamada K, Suzuki O, Hashimoto T, Matsuura M, Morisako T	North American Spine Society 29th Annual Meeting	2014年 11月12～15日	San Francisco, USA
腰椎変性側弯症に対する後方椎体間固定術の治療成績	山田清貴 藤本吉範 鈴木修身 橋本貴士 中前稔生 松浦正己 森迫泰貴	第55回広島脊椎脊髄セミナー	2015年 3月14日	広島市
Surgical outcomes of microscopic posterior cervical discectomy	Kiyotaka Yamada, Yoshinori Fujimoto, Toshio Nakamae, Osami Suzuki, Takashi Hashimoto, Masaki Matsuura, Taiki Morisako	6th CSRS-AP 2015	2015年 3月27～28日	Yokohama
JOACMEQ reflects the pathology of lower limb motor function in cervical myelopathy patients	Takeshi Hiramatsu, Nobuhiro Tanaka, Kazuyoshi Nakanishi, Naosuke Kamei, Takanori Rikita, Norihiko Sumiyoshi, Atsushi Takazawa, Mitsuo Ochi	Annual Meeting of the CSRS Asia Pacific Section	2015年 3月27～28日	Yokohama
Association of Vertebral Bone Marrow Edema with Low Back Pain in Degenerative Lumbar Scoliosis in the Elderly : A Cross-sectional Observational Study	Nakamae T, Fujimoto Y, Yamada K, Suzuki O, Hashimoto T, Matsuura M, Morisako T	Orthopaedic Research Society 2015	2015年 3月28～4月1日	Las Vegas, USA
Targeted therapy of low back pain associated with degenerative lumbar scoliosis in the elderly : observation cohort study	Nakamae T, Fujimoto Y, Yamada K, Suzuki O, Hashimoto T, Matsuura M, Morisako T	Orthopaedic Research Society 2015	2015年 3月28～4月1日	Las Vegas, USA

脳神経外科

演題	発表者・協同研究者名	学会名	開催期間	開催都市
眼窩内海綿状血管腫の1手術例	黒木一彦 渋川正顕 織田祥至 下永皓司	第78回日本脳神経外科学会 中国四国支部学術集会	2014年 12月6日	倉敷市

呼吸器外科

演題	発表者・協同研究者名	学会名	開催期間	開催都市
術前チーム医療から新たな展開へ 日本の COPD は外科医が救う	渡正伸 熊田高志	第114回日本外科学会	2014年 4月3～5日	京都市
胸腔鏡下手術における若年者の原発性気胸に対する PGA シートの使用	熊田高志 渡正伸	第114回日本外科学会	2014年 4月3～5日	京都市
術前肺機能検査で多くの潜在 COPD を診断する	渡正伸 熊田高志 嶋田恵美	第54回日本呼吸器学会	2014年 4月25～27日	大阪市
COPD 肺癌に対する術前から開始する包括的呼吸リハビリテーションの効果－体成分分析結果の考察－	熊田高志 渡正伸	第31回日本呼吸器外科学会	2014年 5月14～15日	東京都
COPD 合併肺の治療戦略から見てくる外科医の COPD に対する理解の重要性	渡正伸 熊田高志	第31回日本呼吸器外科学会	2014年 5月29～30日	東京都
外科系手術における術前肺機能検査による潜在 COPD の周術期管理	渡正伸 熊田高志 嶋田恵美 長尾専 小田さなえ	第67回日本胸部外科学会	2014年 9月30日～10月3日	福岡市

学会発表

術前肺機能外来による新たな COPD 診療	渡正伸 熊田高志 嶋田恵美 長尾専 小田さなえ	第 63 回日本農村医学会	2014 年 11 月 13 ～ 14 日	つくば市
多発性骨病変を伴った原発性肺癌の 1 手術例	熊田高志 渡正伸	第 76 回日本臨床外科学会	2014 年 11 月 20 ～ 22 日	郡山市

心臓血管外科

演題	発表者・協同研究者名	学会名	開催期間	開催都市
CLI 患者の足関節位遠に確実に吻合するために	小林平 濱本正樹 小澤優道 児玉裕司	第 42 回日本血管外科学会	2014 年 5 月 21 ～ 23 日	青森県
PAD に対する低侵襲手術を目指して一内視鏡下静脈剥離を用いたバイパス術の検討ー	小林平 濱本正樹 小澤優道 児玉裕司	第 42 回日本血管外科学会	2014 年 5 月 21 ～ 23 日	青森県
立って歩いてこそ一重症下肢虚血に対するチーム医療の意義を考えるー	小林平 濱本正樹 小澤優道 児玉裕司	第 42 回日本血管外科学会	2014 年 5 月 21 ～ 23 日	青森県
膝窩動脈瘤急性閉塞に対して血栓除去術および Distal bypass にて救肢しえた 1 例	児玉裕司 濱本正樹 小林平 小澤優道	第 42 回日本血管外科学会	2014 年 5 月 21 ～ 23 日	青森県

皮膚科

演題	発表者・協同研究者名	学会名	開催期間	開催都市
マルトース製剤によるアナフィラキシーの 1 例	森脇昌哉 梅田直樹 森川博文 石井 香 秀 道広	第 113 回日本皮膚科学会総会	2014 年 5 月	京都市
色素性乾皮症バリエーション型の 1 症例	平川佳葉子 梅田直樹 森脇昌哉 森川博文	第 135 回日本皮膚科学会広島 地方会	2014 年 9 月	広島市
Pazopanib で加療した頭部血管肉腫の 1 例	梅田直樹 平川佳葉子 森脇昌哉 森川博文	第 135 回日本皮膚科学会広島 地方会	2014 年 9 月	広島市
Narrow band UVB 療法が奏効した環状肉芽腫の 1 例	梅田直樹 平川佳葉子 森川博文 野田英貴 山田 悟	第 136 回日本皮膚科学会広島 地方会	2015 年 3 月	広島市
劇症型肺炎球菌感染症に伴い両下肢が壊死した 1 例	平川佳葉子 梅田直樹 森川博文 櫻谷正明 平田 旭	第 136 回日本皮膚科学会広島 地方会	2015 年 3 月	広島市
下腿に生じた Mycobacterium avium (M. avium) 感染症の 1 例	白石剛章 平川佳葉子 梅田直樹 森川博文 亀好良一	第 136 回日本皮膚科学会広島 地方会	2015 年 3 月	広島市

泌尿器科

演題	発表者・協同研究者名	学会名	開催期間	開催都市
陰嚢内硬化性脂肪肉芽腫の一例	栗村嘉昌 宮本俊輔 丸山 聡 小深田義勝	第 155 回日本泌尿器科学会広 島地方会学術集会	2014 年 6 月 21 日	広島県
当院で経験した膀胱平滑筋腫の 2 例	丸山 聡 宮本 俊輔 栗村 嘉昌 小深田義勝	第 63 回日本農村医学会学術 総会	2014 年 11 月 13 日	茨城県

産婦人科

演題	発表者・協同研究者名	学会名	開催期間	開催都市
三絨毛膜三羊膜胎の 1 児に母児間輸血症候群を発症した 1 例	寺岡有子 佐村修 向井百合香 佐々木克	第 66 回日本産科婦人科学会 学術総会	2014 年 4 月 19 ～ 20 日	東京都
塩酸リトドリン投与により無顆粒球症を発症した 1 例	寺岡有子 中西慶喜 楠本真也 佐々木美砂 佐野祥子 中前里香子 大下孝史	第 63 回広島産科婦人科学会	2014 年 9 月 3 日	広島市
長期間の経過を辿った頸管妊娠の 1 例	楠本真也 大下孝史 寺岡有子 佐々木美砂 中前里香子 中西慶喜	第 65 回中国四国産科婦人科 学会	2014 年 9 月 13 ～ 14 日	宇部市
術前診断に苦慮した卵管癌の 1 例	藤本悦子 大下孝史 寺岡有子 佐々木美砂 中前里香子 中西慶喜 井町海太 岡本淳子 上國 愛 永田郁子 豊丸裕	第 40 回日本臨床細胞学会広 島県支部総会	2015 年 3 月 14 日	広島市

学会発表

眼科

演題	発表者・協同研究者名	学会名	開催期間	開催都市
眼内レンズループの前房内脱出の5例	末岡千絵 二井宏紀	第73回広島地方眼科学会	2014年12月7日	広島県
オートサートの使用経験	二井 宏紀	第271回広島眼科症例検討会	2015年3月5日	広島県

放射線治療科

演題	発表者・協同研究者名	学会名	開催期間	開催都市
舌癌に対するセツキシマブ併用放射線療法で経験した間質性肺炎の1例	廣川淳一 桐生浩司	第122回日本医学放射線学会 中国・四国地方会	2014年 6月13～14日	米子市
広島放射線治療研究会における肺癌に対する放射線治療の現状	岡部智之 木村智樹 永田靖 伊藤淳 桐生浩司 松浦寛司 樫本和樹 柏戸宏造 高澤信好 藤田和志 和田崎晃一	第64回中国・四国治療懇話会	2014年 6月14日	米子市
当院における中・下咽頭癌の放射線治療成績	廣川淳一 桐生浩司 兼見良典 高本宗男 岡林大	第123回日本医学放射線学会 中国・四国地方会	2014年 12月20～21日	松山市

麻酔科

演題	発表者・協同研究者名	学会名	開催期間	開催都市
瞳孔記録計（Npi-100）を使用した麻酔管理中の瞳孔測定の有用性の検討	梅田絢子 中尾正和 檜高育宏 本多亮子 新澤正秀 松本千香子	日本麻酔科学会第61回学術集会	2014年 5月15～17日	横浜市
【P1-35-4】挿管時に瞳孔径変化が抑制されていても、血圧心拍数変化は起こるー赤外線ビデオ瞳孔記録計 NPi-100 による定量的検討ー	中尾正和 梅田絢子 檜高育宏 片岡宏子 本多亮子 松本千香子	日本麻酔科学会第61回学術集会	2014年 5月15～17日	横浜市
手術室効率運用・時間外入退室症例削減に向けての実績調査	松本千香子 中尾正和 梅田絢子 本多亮子 片岡宏子 檜高育宏	日本麻酔科学会第61回学術集会	2014年 5月15～17日	横浜市
Abdominal aortic injury during vertebroplasty : a case report	Ayako Umeda, N Saeki, C Matsumoto, M Nakao, M Kawamoto	10th Euroanaesthesia congress. The European Society of Anaesthesiology	2014年 5月31-6月3日	Stockholm
硬膜外併用脊髄も膜下麻酔後に馬尾障害、右下肢麻痺を生じた一症例	片岡宏子 中尾正和 梅田絢子 本多亮子 檜高育宏 松本千香子	日本臨床麻酔学会 第34回大会	2014年 11月1～3日	東京都
ガイド付き間接視認型ビデオ喉頭鏡 Airway Scope (AWS) と King Vision (KV) での左右回旋時の比較検討ーらせん入りチューブの方が通常チューブより偏位が大きいー	片岡宏子 中尾正和 梅田絢子 本多亮子 檜高育宏 松本千香子	日本臨床麻酔学会 第34回大会	2014年 11月1～3日	東京都
シンポジウム 小児の TIVA 現状と近未来への展望 小児での TIVA を安全にするために	中尾正和	日本臨床麻酔学会 第34回大会	2014年 11月1～3日	東京都
ランチョンセミナー Target Controlled Infusionーopen TCI 時代を見すえてー	中尾正和	日本臨床麻酔学会 第34回大会	2014年 11月1～3日	東京都

救急・集中治療科

演題	発表者・協同研究者名	学会名	開催期間	開催都市
Enhanced Post-mortem Computer Tomography (E-PMCT) contributes to diagnosis of Myocardial Infarction: Case Report	平田 旭	8th European Congress on Emergency Medicine	H26年9月28日～10月1日	アムステルダム
日本版 HFO 使用指針の概要 HFOV-WG 報告 PD 2-3 管理目標値と設定変更のアルゴリズム	櫻谷正明	第36回日本呼吸療法医学会学術総会	H26年7月19日～20日	秋田
HFO を使ってみよう！～人工呼吸器シミュレーション	櫻谷正明	第9回 HFOV フォーラム	H26年7月19日	秋田
当院における MRSA 菌血症の検	櫻谷正明	第42回日本救急医学会総会・学術集会	H26年10月28日～30日	福岡
Pulmonary ARDS における予後規定因子	平田 旭	第42回日本救急医学会総会・学術集会	H26年10月28日～30日	福岡
当院における Rapid Response System (RRS) 稼働の経験	河村夏生	第42回日本集中治療医学会学術集会	H26年2月9日～11日	東京
Peripherally inserted central catheter (PICC) 抜去後に肺動脈血栓塞栓症を発症した1例	筒井 徹	第42回日本集中治療医学会学術集会	H26年2月9日～11日	東京

学会発表

浅い鎮静で発生したせん妄と鎮静薬の使用の有無について	櫻谷正明	第 42 回 日本集中治療医学会学術集会	H26 年 2 月 9 日 ～ 11 日	東京
呼吸器離脱後の non-invasive ventilation と nasal-high-flow 使用による再挿管率の比較検討	平田 旭	第 42 回 日本集中治療医学会学術集会	H26 年 2 月 9 日 ～ 11 日	東京

緩和ケアチーム

演題	発表者・協同研究者名	学会名	開催期間	開催都市
緩和ケアの視点からみた消化器がんの現状と特徴	小松弘尚	第 101 回日本消化器病学会中国支部例会	2014 年 6 月 21 日	岡山市
遺族による緩和ケア病床のケアの評価	藤本優香 岡田加奈子 岡田恵美子 古本直子 高原さおり	第 38 回死の臨床研究会年次大会	2014 年 11 月 1 ～ 2 日	別府市
在宅緩和ケアのためのアドバンス・ケア・プランニングとリビングウィル～広島県地域在宅緩和ケア推進モデル事業に参画して～	小松弘尚 桐生浩司 河野秀和 香山茂平 高石佳幸 松本千香子	医学会総会	2014 年 11 月 9 日	広島市

健康管理センター

演題	発表者・協同研究者名	学会名	開催期間	開催都市
動脈硬化予防への個別支援～ small denseLDL ーコレステロールの測定を用いて	森川裕子 長田恵美子 林直子 東千穂 増本順子 野村恵美 久保知子 丸山恭平 碓井裕史	日本農村医学会学術総会	2014 年 11 月 13 日～ 14 日	つくば市

外来

演題	発表者・協同研究者名	学会名	開催期間	開催都市
「これまでとこれからの消化器内視鏡技師研究」シンポジウム	石崎淳子	第 72 回日本消化器内視鏡技師学会	2014 年 5 月 16 ～ 17 日	東京都
ERCP 検査時における X 線防護用カーテンの有用性	米田直美 平舛仁美 石崎淳子 池田将敏 高畑明 小濱千幸 藤本佳史 徳毛宏則	第 50 回日本胆道学会学術集会	2014 年 9 月 27 日	東京都

ICU・西 3 階病棟

演題	発表者・協同研究者名	学会名	開催期間	開催都市
CPOP を用いた当院 ICU における鎮痛管理	伊藤美奈 岡田明子 高松美沙希 村中好美 櫻谷正明 河村夏生 平田旭 吉田研一	第 42 回日本集中治療医学会学術集会	2015 年 2 月 9 日～ 2 月 11 日	東京都
当院 ICU での栄養プロトコール導入に対する問題点	五百川典子 中本麻里 村中好美 櫻谷正明 河村夏生 平田旭 筒井徹 吉田研一	第 30 回日本静脈経腸栄養学会学術集会	2015 年 2 月 12 日～ 2 月 13 日	兵庫県

東 4 階病棟

演題	発表者・協同研究者名	学会名	開催期間	開催都市
口腔内の有害事象に対する看護師の取り組みが患者に与える影響 ～化学療法・放射線療法を受ける頭頸部がん患者の関わりを通して～	下前敦子 橋本弓子	第 63 回日本農村医学学術集会	2014 年 11 月 13-14 日	つくば市

東 8 階病棟

演題	発表者・協同研究者名	学会名	開催期間	開催都市
アンケート調査からみえたもの～シャント管理・指導に向けての取り組み～	安藤知佳 川西麻衣子 槌谷滋乃	第 23 回中国腎不全研究会	2014 年 10 月	広島県
透析患者のかゆみに対するスキンケア指導について～患者・スタッフ教育への取り組み～	乗金利絵 持掛恵美 槌谷滋乃	第 23 回中国腎不全研究会	2014 年 10 月	広島県

学会発表

薬剤部

演題	発表者・協同研究者名	学会名	開催期間	開催都市
中催吐性リスク抗がん薬に対する制吐療法の現状報告と課題	白井敦史 堀橋賢吾 藪田ゆみ 中島恵子 大田博子 橋本佳浩	第 6 回日本がん薬剤学会	2014 年 5 月 18 日	東京都
閉塞性動脈硬化症/バイパス術後患者のコンプライアンスの現状と指導の課題	角井碧 稲田淑江 山崎貴司 大田博子 小林平	第 20 回日本心臓リハビリテーション学会学術総会	2014 年 7 月 19 ~ 20 日	京都市
何が開心術後の服薬コンプライアンスを不良にさせるのか？	向井一樹 稲田淑江 角井碧 本間智明 上田雅美 小林平	第 20 回日本心臓リハビリテーション学会学術総会	2014 年 7 月 19 ~ 20 日	京都市
当院の TPN 処方の現状と今後の課題についての検討	中島恵子 山崎貴司 八幡謙吾 香山茂平 大田博子 橋本佳浩	第 45 回全国厚生連病院薬剤師長会議学術総会	2014 年 9 月 26 日	名古屋市
ICU におけるストレス潰瘍予防に対する薬剤師の関与	吉廣尚大 櫻谷正明 平田旭 高場章宏 大田博子 吉田研一 橋本佳浩	第 24 回日本医療薬学会年会	2014 年 9 月 27 ~ 28 日	名古屋市
当院外来患者に対するイプラグリフロジン服薬指導の取り組み	得能千晶 角井碧 中島恵子 瀧口幸子 永田佳子 大田博子 橋本佳浩 浅生貴子 木ノ原周平 堀江正和 石田和史	日本糖尿病学会中国四国地方会 第 52 回総会	2014 年 10 月 24 ~ 25 日	広島市
経内視鏡的胃瘻造設術後の経腸栄養による壊死性腸炎の発症が疑われた一例	山崎貴司 中島恵子 八幡謙吾 香山茂平 古土井明 橋本佳浩	第 53 回日本薬学会・日本薬剤師会・日本病院薬剤師会・中国四国支部学術大会	2014 年 11 月 8 ~ 9 日	広島市
抗 EGFR 抗体使用時における皮膚科連携の推進とその効果	堀橋賢吾 白井敦史 藪田ゆみ 橋本佳浩 只佐正嗣 大田博子	第 53 回日本薬学会・日本薬剤師会・日本病院薬剤師会・中国四国支部学術大会	2014 年 11 月 8 ~ 9 日	広島市
医師および看護師を対象とした病棟薬剤業務の評価アンケートの実際	石津克紘 磯貝明彦 中島恵子 大田博子 橋本佳浩	第 53 回日本薬学会・日本薬剤師会・日本病院薬剤師会・中国四国支部学術大会	2014 年 11 月 8 ~ 9 日	広島市
JA 広島総合病院薬剤部の実情と今後の挑戦〜地域医療と患者に貢献する病院薬剤師のあり方とは〜	中島恵子 石津克紘 角井碧 正島和美 磯貝明彦 大田博子 橋本佳浩	第 37 回広島県農村医学研究会	2015 年 2 月 21 日	広島市

臨床研究検査科

演題	発表者・協同研究者名	学会名	開催期間	開催都市
高血圧症を伴った腎盂癌の 1 症例	本田愛 中山沙織 森下未来依 山下美香 三舛正志 水野誠士 山田和夫 藤井隆	第 3 回臨床高血圧フォーラム	2014 年 5 月 24 ~ 25 日	広島市
第 47 回中四国支部医学検査学会	本堂夏実 藤岡朋子 長尾専 小松浩基 水野誠士	第 47 回中四国支部医学検査学会	2014 年 9 月 13 ~ 14 日	松山市
広島県における ESBL 産生菌サーベイランス 5 年目の動向	池田光泰	第 62 回日本化学療法学会西日本支部総会	2014 年 10 月 23 日	岡山市
small dense LDL-C 値は、冠動脈プラーク性状を反映するか？ MDCT の Plaque IDTM を用いた検討	藤井隆 久留島秀治 莊川知己 赤澤良太 原田崇弘 前田幸治 辻山修司 丸山恭平 水野誠士 碓井裕史	第 63 回日本農村医学会	2014 年 11 月 13 ~ 14 日	つくば市
末梢血液像が契機となり早期に診断できた Capnocytophaga canimorsus による掻傷感染症の一例	梶川裕子 池田光泰 山川里奈 外丸香織 池部晃司 山本加代子 笹谷真奈美 水野誠士 藤井隆	第 63 回日本農村医学会	2014 年 11 月 13 ~ 14 日	つくば市
侵襲性髄膜炎菌感染症の一例	池田光泰 梶川裕子 外丸香織 池部晃司 山本加代子 笹谷真奈美 水野誠士	第 32 回広島県医学検査学会	2015 年 3 月 1 日	広島市

中央放射線科

演題	発表者・協同研究者名	学会名	開催期間	開催都市
虚血性心疾患の診断における心臓 CT の現状と将来展望（シンポジウム）	山口裕之	日本放射線技術学会	2014 年 4 月 10 ~ 13 日	横浜市

学会発表

臨床工学科

演題	発表者・協同研究者名	学会名	開催期間	開催都市
当院における整形外科手術に立ち会う臨床工学技士の業務	胡子健 瀬尾憲由	第24回日本臨床工学技士会	2014年 5月10～11日	宮城県
Ho-YAGレーザーを用いた内視鏡的胆道碎石術における臨床工学技士の役割	藤田雄樹 瀬尾憲由	第24回日本臨床工学技士会	2014年 5月10～11日	宮城県
臨床工学技士の内視鏡センターへの介入	藤田雄樹 瀬尾憲由	第72回日本内視鏡技師学会	2014年 5月14日	東京都
患者さんやご家族が安心できるサポートを目指して～当院における在宅人工呼吸療法の実践～	田中恵子 荒田晋二	第7回広島県臨床工学学会	2014年 6月1日	広島県
HFOVの管理～臨床工学技士の立場から～	荒田晋二 田中恵子 田中智子	第36回日本呼吸療法医学会学術集会	2014年 7月18～21日	秋田県
患者さんの要望に叶えていくうちに～在宅人工呼吸器からの離脱～	田中恵子 荒田晋二 田中智子	第36回日本呼吸療法医学会学術集会	2014年 7月18～21日	秋田県
当院の心筋保護システムの過去～現在そして未来	瀬尾憲由 藤田雄樹 胡子健 田中恵子 荒田晋二	第40回日本体外循環技術医学会	2014年 10月10～11日	広島県
症例検討会～そのときCEの考えは～	荒田晋二 田中恵子 田中智子	第42回日本集中治療医学会学術集会	2015年 2月9～11日	東京都

リハビリテーション科

演題	発表者・協同研究者名	学会名	開催期間	開催都市
骨粗鬆症性椎体骨折患者における Timed Up and Go test の有用性について	井場和敏 上野忠活 小山明子 西谷喜子 馬場崎喜美子 山田清貴	第16回日本医療マネージメント学会学術総会	2014年6月 13～14日	岡山市
重症下肢虚血患者における血行再建術後の歩行能力と転帰	本間智明 上野忠活 金羽木敏治 寺迫正広 小林恭子 小島輝久 小山明子 井場和敏 飛鷹恵理 西谷喜子 折手祐一 名井幸香 橋詰菜津美 上田雅美 後藤優佳 池永佑佳 小林平	第20回日本心臓リハビリテーション学会	2014年7月 19～20日	京都市
保存的療法を行う急性大動脈解離 Stanford B型に対する心臓リハビリテーションの問題点について	小島輝久 本間智明 上野忠活 金羽木敏治 寺迫正広 小林恭子 河野裕美 小山明子 井場和敏 飛鷹恵理 西谷喜子 折手祐一 名井幸香 橋詰菜津美 上田雅美 後藤優佳 池永佑佳 小林平	第20回日本心臓リハビリテーション学会	2014年7月 19～20日	京都市
開心術後に発症する認知機能障害の予測因子の分析と予後の検討	折手祐一 上野忠活 金羽木敏治 寺迫正広 小林恭子 本間智明 飛鷹恵理 西谷喜子 井場和敏 小山明子 小島輝久 河野裕美 名井幸香 橋詰菜津美 上田雅美 後藤優佳 池永佑佳 小林平	第20回日本心臓リハビリテーション学会	2014年7月 19～20日	京都市
急性期心臓リハビリテーションにおける言語聴覚士の役割	上田雅美 後藤優佳 上野忠活 金羽木敏治 寺迫正広 小林恭子 河野裕美 小島輝久 小山明子 井場和敏 本間智明 西谷喜子 飛鷹恵理 折手祐一 小林平	第20回日本心臓リハビリテーション学会	2014年7月 19～20日	京都市

栄養科

演題	発表者・協同研究者名	学会名	開催期間	開催都市
末梢血管疾患患者に対するテーラーメイドな栄養指導の実践と効果	渡壁史那 河本良美 本間智明 上田雅美 小林 平	第20回心臓リハビリテーション学会学術集会	2014年7月 19～20日	京都市
「主食不足」継続による体組成への影響の検討	森田菜津美 上村真由美 三浦満美子 河本良美 石田和史	第52回日本糖尿病学会中国四国地方会	2014年10月 25～26日	広島市
当院の入院時栄養スクリーニングの妥当性及びNST介入の有効性の検討	八幡謙吾 上田雅美 山崎貴司 要田裕子 山下美香 横山富子 中島恵子 河本良美 藤本七津美 石崎淳子 藤田寿賀 香山茂平	第7回日本静脈経腸栄養学会中国支部学術集会	2014年12月 6日	広島市
ICUにおけるNST活動の成果～INS2013に参加して～	八幡謙吾 上田雅美 山崎貴司 山口瑞穂 山下美香 横山富子 中島恵子 河本良美 藤本七津美 石崎淳子 藤田寿賀 櫻谷正明 香山茂平 吉田研一	第30回日本静脈経腸栄養学会学術集会	2015年2月 12～13日	神戸市

学会発表

感染防止対策室

演題	発表者・協同研究者名	学会名	開催期間	開催都市
JA 広島総合病院 感染対策チームの活動実績	今本紀生 渡正伸	第 25 回佐伯医学会総会	2014 年 11 月 3 日	廿日市市
当院における MRSA 院内伝播疑い症例の発生動向と分析	今本紀生 池部晃司 正畠和美	第 30 回日本環境感染学会総会	2015 年 2 月 20 ～ 21 日	神戸市

学会での座長

糖尿病代謝内科

学会名	座長者名	担当セッション	開催年月日	開催都市
第 57 回日本糖尿病学会年次学術集会	石田和史	薬物療法 (GLP-1 受容体作動薬 4)	2014 年 5 月 22 日	大阪市
第 52 回日本糖尿病学会中国四国地方会	石田和史	合併症 2	2014 年 10 月 25 日	広島市
第 49 回糖尿病学の進歩	石田和史	動脈硬化評価法	2015 年 2 月 20 日	岡山市

消化器内科

学会名	座長者名	担当セッション	開催年月日	開催都市
第 112 回日本消化器内視鏡学会中国支部例会	藤本佳史	肝胆膵	2014 年 6 月 29 日	岡山市
第 102 回日本消化器病学会中国支部例会	徳毛宏則	専修医奨励賞「膵」	2014 年 11 月 29 日	広島市
第 102 回日本消化器病学会中国支部例会	藤本佳史	一般演題 〈膵 2〉	2014 年 11 月 30 日	広島市

小児科

学会名	座長者名	担当セッション	開催年月日	開催都市
日本小児アレルギー学会	岡島宏易	喘息疫学	2014 年 11 月 8 日	四日市

外科

学会名	座長者名	担当セッション	開催年月日	開催都市
第 7 回日本静脈経腸栄養学会中国支部学術集会	香山茂平	一般演題 (周術期管理)	2014 年 12 月 6 日	広島市

乳腺外科

学会名	座長者名	担当セッション	開催年月日	開催都市
第 11 回日本乳癌学会中国四国地方会	川淵義治	一般演題 画像診断 2	2014 年 9 月 20 ～ 21 日	広島市

整形外科

学会名	座長者名	担当セッション	開催年月日	開催都市
第 43 回日本脊椎脊髄病学会	藤本吉範	一般口演 3 骨粗鬆症	2014 年 4 月 17 ～ 19 日	京都市

皮膚科

学会名	座長者名	担当セッション	開催年月日	開催都市
第 135 回日本皮膚科学会広島地方会	森川博文		2014 年 9 月 7 日	広島市
第 136 回日本皮膚科学会広島地方会	森川博文		2015 年 3 月 1 日	広島市

麻酔科

学会名	座長者名	担当セッション	開催年月日	開催都市
日本麻酔科学会第 61 回学術集会	中尾正和	麻酔科関連 静脈麻酔コメントーター	2014 年 5 月 15 ～ 17 日	横浜市

外来

学会名	座長者名	担当セッション	開催年月日	開催都市
第 73 回日本消化器内視鏡技師学会	石崎淳子	前処置 (上部)	2014 年 10 月 24 ～ 25 日	東大阪市

臨床研究検査科

学会名	座長者名	担当セッション	開催年月日	開催都市
第 63 回日本医学検査学会	水野誠士	管理運営	2014 年 5 月 17 ～ 18 日	新潟市
第 32 回広島県医学検査学会	水野誠士	市民公開講座	2015 年 2 月 28 ～ 3 月 1 日	広島市
第 33 回広島県医学検査学会	山本加代子	移植検査部門	2015 年 2 月 28 ～ 3 月 2 日	広島市

学会での座長

中央放射線科

学会名	座長者名	担当セッション	開催年月日	開催都市
第 70 回日本放射線技術学会総会学術大会	高畑明	心筋 SPECT	2014 年 4 月 10 日	横浜市

臨床工学科

学会名	座長者名	担当セッション	開催年月日	開催都市
第 24 回日本臨床工学技士会	荒田晋二	呼吸療法業務におけるチーム医療と CE	2014 年 5 月 10 ～ 11 日	宮城県
第 7 回広島県臨床工学会	荒田晋二	臨床工学技士が知っておきたい呼吸整理	2014 年 6 月 1 日	広島県

研究会講演・発表

循環器内科

研究会名	講演タイトル	講演者名	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
第53回広島循環器病研究会	冠動脈瘤穿孔を契機に急性心筋梗塞を発症したSLEの一例	赤澤良太	2014年6月7日 エソール広島	興和
第5回広島心不全の体液管理を考える会	体液管理におけるトルバプタンのpositioning～ディスカスタント	辻山修司	2014年7月3日 リーガロイヤルホテル広島	大塚製薬
安芸高田市医師会学術講演会	体液管理におけるtolvaptanの位置づけ～サムスカの果たす役割を考える～	辻山修司	2014年7月15日 JA吉田総合病院	大塚製薬
三次地区 心不全講演会	体液管理におけるtolvaptanの位置づけ～サムスカの果たす役割を考える～	辻山修司	2014年8月1日 市立三次中央病院	大塚製薬
佐伯地区医師会学術講演会	抗血小板療法新時代の幕開け ～プラスグレルへの期待～	辻山修司	2014年8月27日 佐伯地区医師会館	佐伯地区医師会、第一三共
プラザキサ 広島西部地区講演会	NOAC時代の心房細動治療 ～治療選択の考え方と病診連携の重要性～	辻山修司	2014年10月2日 五日市記念病院	日本ベーリンガーインゲルハイム
サムスカ心不全急性期治療学術講演会	体液管理におけるtolvaptanの位置づけ～サムスカの果たす役割を考える～	辻山修司	2014年10月10日 ザクラウンパレス新阪急高知	大塚製薬
佐伯区医師会学術講演会	肺高血圧の診断と治療	荘川知己	2014年10月14日 佐伯区地域福祉センター	佐伯区医師会
How to Rotablator	How to Rotablator	辻山修司	2014年10月15日 JA広島総合病院心臓カテーテル室	ボストンサイエンティフィック
佐伯地区学術講演会	NOAC時代の心房細動治療 ～治療選択の考え方と病診連携の重要性～	辻山修司	2014年11月6日 佐伯地区医師会館	佐伯地区医師会、ファイザー、 Bristol・マイヤーズ
学術講演会	体液管理におけるtolvaptanの位置づけ～サムスカの果たす役割を考える～	辻山修司	2014年11月11日 ザ・グラマシー	徳山医師会、下松医師会、光市医師会、大塚製薬
	腸骨動脈に対するEVT時ステント留置後も解離が残存した1例	久留島秀治	2014年11月14日 福山循環器病院	ジョンソンエンドジョンソン
広島総合病院 院内ライブ	院内ライブ	辻山修司	2014年11月21日 JA広島総合病院心臓カテーテル室	グッドマン
Network meeting	心房細動合併患者におけるPCI時の抗血栓療法	辻山修司	2014年11月27日 グランヴィアホテル広島	日本ベーリンガーインゲルハイム
サムスカ勉強会	体液管理におけるtolvaptanの位置づけ～サムスカの果たす役割を考える～	辻山修司	2014年11月28日 聖マリア病院	大塚製薬
第20回広島県西部地区糖尿病医療連携を進める会	糖尿病と心血管疾患 ～体の中で何が起ころの？～	辻山修司	2014年12月10日 廿日市市商工保健会館	広島県西部地区糖尿病医療連携を進める会、広島県医師会糖尿病対策推進協議会、キッセイ薬品
第54回広島循環器病研究会	S字状中隔により加速された左室流出路血流に伴い機械弁溶血性貧血を生じた一症例	赤澤良太	2014年12月13日 エソール広島	エーザイ
Saeki Clinicians Group	心不全薬物療法の考え方と当院における現状 ～利尿剤の使い方～	辻山修司	2015年1月21日 広島市佐伯区区民文化センター	大塚製薬
第8回西せと循環器研究会	冠動脈瘤穿孔を契機に急性心筋梗塞を発症したSLEの一例	赤澤良太	2015年2月1日 岩国国際観光ホテル	武田製薬
第1回イメージングアカデミー広島	冠動脈瘤穿孔を契機に急性心筋梗塞を発症したSLEの一例	赤澤良太	2015年2月10日 広島クリスタルビル	ボストンサイエンティフィック
サムスカ講演会	体液管理におけるtolvaptanの位置づけ～サムスカの果たす役割を考える～	辻山修司	2015年3月13日 公立八女総合病院	大塚製薬
心房細動抗凝固療法法の今を考える	パネルディスカッション・ディスカッサント	赤澤良太	2015年3月19日 広島サンプラザ	Bristol・マイヤーズ、ファイザー
心房細動抗凝固療法法の今を考える	佐伯地区、佐伯区における心房細動抗凝固療法法の現状	辻山修司	2015年3月19日 広島サンプラザ	Bristol・マイヤーズ、ファイザー

糖尿病代謝内科

研究会名	講演タイトル	講演者名	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
糖尿病治療を考える会～患者さんに寄り添った治療へ～	人間愛に満ちたインスリン治療実現への歩み～患者さんの思いに応えるテラーメイドなインスリン治療とは？～	石田和史	2014年4月4日 京王プラザホテル札幌（北海道札幌市）	日本イーライリリー

研究会講演・発表

第 18 回広島県西部地区糖尿病医療連携を進める会	内分泌疾患を合併した糖尿病	浅生貴子	2014 年 4 月 9 日 廿日市市商工保健会館（広島県廿日市市）	広島県西部地区糖尿病医療連携を進める会・広島県医師会糖尿病対策推進会議・テルモ
第 18 回広島県西部地区糖尿病医療連携を進める会	クリニックでもできる糖尿病神経障害の診かた	石田和史	2014 年 4 月 9 日 廿日市市商工保健会館（広島県廿日市市）	広島県西部地区糖尿病医療連携を進める会・広島県医師会糖尿病対策推進会議・テルモ
高齢者糖尿病治療戦略研究会	人間愛に満ちたインスリン治療実現への歩み～患者さんの思いに応えるテラーメイドなインスリン治療とは？～	石田和史	2014 年 4 月 11 日 東武ホテルレバント東京（東京都墨田区）	日本イーライリリー
国立病院機構岩国医療センター 地域医療研修センターカンファレンス	人間愛に満ちたインスリン治療実現への歩み～患者さんの思いに応えるテラーメイドなインスリン治療とは？～	石田和史	2014 年 5 月 13 日 国立病院機構岩国医療センター研修センター（山口県岩国市）	日本イーライリリー
Diabetes Symposium in HIROSHIMA 2014	高齢者糖尿病診療の留意点	石田和史	2014 年 5 月 29 日 ホテルグランヴィア広島（広島市南区）	小野薬品工業・アストラゼネカ
温故知新インスリン学術講演会	人間愛に満ちたインスリン治療実現への歩み～患者さんの思いに応えるテラーメイドなインスリン治療とは？～	石田和史	2014 年 5 月 30 日 旭川グランドホテル（北海道旭川市）	日本イーライリリー
Diabetes Expert Seminar	人間愛に満ちたインスリン治療実現への歩み～患者さんの思いに応えるテラーメイドなインスリン治療とは？～	石田和史	2014 年 5 月 31 日 日本イーライリリー東京支店（東京都港区）	日本イーライリリー
糖尿病重症化予防（フットケア）研修会	糖尿病患者の足病変～病態生理から治療まで～	石田和史	2014 年 6 月 6 日 広島県看護協会（広島市中区）	広島県看護協会
滋賀県北部インスリン治療懇話会	人間愛に満ちたインスリン治療実現への歩み～患者さんの思いに応えるテラーメイドなインスリン治療とは？～	石田和史	2014 年 6 月 13 日 エキシブ琵琶湖（滋賀県米原市）	日本イーライリリー
DM Conference in Mihara	人間愛に満ちたインスリン治療実現への歩み～テラーメイドなインスリン治療実践のためのチームアプローチ～	石田和史	2014 年 6 月 20 日 興生総合病院（広島県三原市）	日本イーライリリー
糖尿病治療を考える会	人間愛に満ちたインスリン治療実現への歩み～患者さんの思いに応えるテラーメイドなインスリン治療とは？～	石田和史	2014 年 6 月 27 日 ホテルアソシア静岡（静岡県静岡市）	日本イーライリリー
DM Skill Up Seminar in 尾道	人間愛に満ちたインスリン治療実現への歩み～患者さんの思いに応えるテラーメイドなインスリン治療とは？～	石田和史	2014 年 7 月 3 日 尾道国際ホテル（広島県尾道市）	日本イーライリリー
Insulin Expert Seminar	人間愛に満ちたインスリン治療実現への歩み～患者さんの思いに応えるテラーメイドなインスリン治療とは？～	石田和史	2014 年 7 月 4 日 烏丸京都ホテル（広島県尾道市）	日本イーライリリー
インスリン治療 Update	人間愛に満ちたインスリン治療実現への歩み～患者さんの思いに応えるテラーメイドなインスリン治療とは？～	石田和史	2014 年 7 月 15 日 飯塚病院（福岡県飯塚市）	日本イーライリリー
広島プライマリケア・セミナー	糖尿病治療の極意 1. 知っておきたい検査項目と使い分け 2. 多様化する糖尿病治療薬の使い分け	石田和史	2014 年 7 月 31 日 ホテルグランヴィア広島（広島市南区）	小野薬品工業
第 19 回広島県西部地区糖尿病医療連携を進める会	速報！ SGLT2 阻害薬の使用経験	石田和史	2014 年 8 月 6 日 廿日市市商工保健会館（広島県廿日市市）	広島県西部地区糖尿病医療連携を進める会・広島県医師会糖尿病対策推進会議・シオノギ製薬
糖尿病チーム医療を考える会	違いがわかる糖尿病治療薬のお話～患者さんにとって Happy な薬剤選択～	石田和史	2014 年 8 月 28 日 シェラトンホテル広島（広島市東区）	日本ベーリンガーインゲルハイム・日本イーライリリー
安芸高田市糖尿病治療を考える会	違いがわかる糖尿病治療薬のお話～患者さんにとって Happy な薬剤選択～	石田和史	2014 年 9 月 2 日 安芸高田市民文化センター（広島県安芸高田市）	日本ベーリンガーインゲルハイム・日本イーライリリー
Insulin Mixture Conference in SENDAI	人間愛に満ちたインスリン治療実現への歩み～患者さんの思いに応えるテラーメイドなインスリン治療とは？～	石田和史	2014 年 9 月 12 日 仙台国際ホテル（宮城県仙台市）	日本イーライリリー
Diabetes Expert Seminar	人間愛に満ちたインスリン治療実現への歩み～患者さんの思いに応えるテラーメイドなインスリン治療とは？～	石田和史	2014 年 9 月 19 日 立川グランドホテル（東京都立川市）	日本イーライリリー
第 2 回三八地区インスリン治療講演会～混合型インスリン製剤の活用方法を考える～	人間愛に満ちたインスリン治療実現への歩み～患者さんの思いに応えるテラーメイドなインスリン治療とは？～	石田和史	2014 年 10 月 3 日 八戸パークホテル（青森県八戸市）	日本イーライリリー

研究会講演・発表

第 222 回内科臨床談話会	違いがわかる糖尿病治療薬のお話～患者さんにとって Happy な薬剤選択～	石田和史	2014 年 10 月 8 日 広島医師会館（広島市西区）	内科臨床談話会
糖尿病スキルアップセミナー	人間愛に満ちたインスリン治療実現への歩み～患者さんの思いに応えるテラーメイドなインスリン治療とは？～	石田和史	2014 年 10 月 31 日 信楽園病院（新潟県新潟市）	日本イーライリリー
第 4 回尾道糖尿病セミナー	糖尿病地域連携パス、真に連携すべきものは何か？～チーム力を結集して糖尿病診療の質の均一化をめざす広島県西部地区の取り組み～	石田和史	2014 年 11 月 6 日 尾道国際ホテル（広島県尾道市）	尾道糖尿病セミナー・尾道市医師会・ノボノルディスクファーマ
外来インスリン治療を考える会	人間愛に満ちたインスリン治療実現への歩み～患者さんの思いに応えるテラーメイドなインスリン治療とは？～	石田和史	2014 年 11 月 7 日 セレクトロイヤル八代（熊本県八代市）	日本イーライリリー
佐伯クリニシャンズグループ学術講演会	違いがわかる糖尿病治療薬のお話～患者さんにとって Happy な薬剤選択～	石田和史	2014 年 11 月 14 日 佐伯区民文化センター（広島市佐伯区）	日本ベーリンガーインゲルハイム・日本イーライリリー
広島総合病院オープンカンファレンス	新規持効型インスリン「デグルデク」の特徴	木ノ原周平	2014 年 11 月 19 日 広島総合病院大会議室（広島県廿日市市）	広島総合病院
糖尿病治療を考える会～SGLT2 阻害剤の適正使用を考える～	イブラグリフロジン 3 ヶ月投与で見てきたことは何か？	石田和史	2014 年 11 月 21 日 オリエンタルホテル広島（広島市中区）	アステラス製薬
広島県西部地区薬剤師研修セミナー	違いがわかる糖尿病治療薬のお話～患者さんにとって Happy な薬剤選択～	石田和史	2014 年 11 月 27 日 廿日市市総合健康福祉センター（広島県廿日市市）	廿日市市薬剤師会・広島県病院薬剤師会・小野薬品工業・アストラゼネカ
小山地区糖尿病セミナー	人間愛に満ちたインスリン治療実現への歩み～患者さんの思いに応えるテラーメイドなインスリン治療とは？～	石田和史	2014 年 12 月 5 日 ベルヴィ アンフランベルジェ小山（栃木県小山市）	日本イーライリリー
第 20 回広島県西部地区糖尿病医療連携を進める会	SGLT2 阻害薬投与 6 ヶ月での臨床効果は如何なる物か？	石田和史	2014 年 12 月 10 日 廿日市市商工保健会館（広島県廿日市市）	広島県西部地区糖尿病医療連携を進める会・広島県医師会糖尿病対策推進会議・キッセイ薬品工業
山陽女子短期大学 臨床検査学科 臨床病態学Ⅰ 特別講演	進化を続ける糖尿病臨床と臨床検査の関わり	石田和史	2014 年 12 月 12 日 山陽女子短期大学（広島県廿日市市）	山陽女子短期大学
第 42 回備後糖尿病セミナー	糖尿病地域連携パス、真に連携すべきものは何か？～チーム力を結集して糖尿病診療の質の均一化をめざす広島県西部地区の取り組み～	石田和史	2015 年 1 月 29 日 福山労働会館（広島県福山市）	備後糖尿病セミナー・ノボノルディスクファーマ
福山地区 2 型糖尿病治療薬勉強会	違いがわかる糖尿病治療薬のお話～患者さんにとって Happy な薬剤選択～	石田和史	2015 年 2 月 6 日 まなびの館ローズコム（広島県福山市）	キッセイ薬品工業
糖尿病チーム医療を考える会	当院における糖尿病チーム医療～その過去・現在そして未来～	石田和史	2015 年 2 月 9 日 ホテルグランヴィア広島（広島市南区）	日本イーライリリー・日本ベーリンガーインゲルハイム
広島市佐伯区医師会勉強会	違いがわかる糖尿病治療薬のお話～患者さんにとって Happy な薬剤選択～	石田和史	2015 年 2 月 10 日 佐伯区地域福祉センター（広島市佐伯区）	広島市佐伯区医師会
高齢社会とオーダーメイド治療を考える会	人間愛に満ちたインスリン治療実現への歩み～患者さんの思いに応えるテラーメイドなインスリン治療とは？～	石田和史	2015 年 3 月 6 日 金沢都ホテル（石川県金沢市）	日本イーライリリー
糖尿病と歯周病を考える会～糖尿病内科と歯科の共通言語作りを目指して～	さらに多彩になった経口血糖降下薬～その使い分けと注意点を整理しましょう～	石田和史	2015 年 3 月 20 日 エソール広島（広島市中区）	第一三共・田辺三菱・サンスター
第一回福井県丹南地区糖尿病フォーラム	人間愛に満ちたインスリン治療実現への歩み～患者さんの思いに応えるテラーメイドなインスリン治療とは？～	石田和史	2015 年 3 月 27 日 武生パレスホテル（福井県越前市）	日本イーライリリー・日本ベーリンガーインゲルハイム

消化器内科

研究会名	講演タイトル	講演者名	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
大竹市医師会月例会	内科医の立場から腰痛の診断と治療	藤本佳史	2014 年 4 月 11 日 大竹市	大竹地区医師会、持田製薬、ヤンセンファーマ
第 115 回広島消化器病研究会	胆道狭窄に対する inside stent の治療成績	富永明子 宮森純子 小松弘尚 藤本佳史 野中裕広 徳毛宏則 若井雅貴 古土井明 石田邦夫	2014 年 4 月 19 日 広島市	広島消化器病研究会

研究会講演・発表

第 115 回広島消化器病研究会	診断に苦慮した肝内腫瘍の一例	棚橋弘貴 野中裕広 若井雅貴 富永明子 宮森純子 藤本佳史 古土井明 小松弘尚 徳毛宏則 石田邦夫 大下彰彦	2014 年 4 月 19 日 広島市	広島消化器病研究会
第 11 回 Regional Interactive G.I. Doctors' Network	膵癌教室を活用した佐伯地区の地域連携：在宅緩和が有用であった 1 例	藤本佳史 木村泰博	2014 年 6 月 25 日 廿日市市	Rigid Net、アストラ、第一三共
第 15 回臨床消化器病研究会	自己免疫性膵炎に合併した膵臓癌の 1 例	藤本佳史	2014 年 7 月 26 日 東京	臨床消化器病研究会、エーザイ株式会社
第 1 回広島西部地域食道胃腸疾患研究会	実地診療に必ず役立つ大腸腫瘍診療のポイントと ESD の実施	古土井明	2014 年 7 月 29 日 廿日市市	JA 広島総合病院内視鏡センター、消化器内科、アステラス、ゼリア
第 19 回広島県西部地区糖尿病医療連携を進める会	糖尿病と肝疾患	野中裕広	2014 年 8 月 6 日 廿日市市	広島県西部地区糖尿病医療連携を進める会、塩野義製薬
第 19 回 PEG・在宅医療研究会学術集会	胃瘻造設の適応について考える～術後、経口摂取がすすまず栄養管理が困難であった症例の振り返り～	藤本七津美 石崎淳子 香山茂平 徳毛宏則	2014 年 9 月 13 日 東京	PEG・在宅医療研究会
第 25 回佐伯医学会総会	十二指腸に穿破した膵漿液性嚢胞腺腫の 1 例	最上文字 藤本佳史 若井雅貴 富永明子 宮森純子 野中裕広 古土井明 小松弘尚 徳毛宏則 石田邦夫	2014 年 11 月 3 日 廿日市市	佐伯地区医師会
第 25 回佐伯医学会総会	当科における NASH 診療の変遷と現況について	野中裕広 若井雅貴 富永明子 宮森純子 藤本佳史 古土井明 小松弘尚 徳毛宏則 石田邦夫	2014 年 11 月 3 日 廿日市市	佐伯地区医師会
第 67 回広島医学会総会	胃粘膜下腫瘍様の形態を呈した胃原発悪性ラプドイド腫瘍の一例	宮森純子 古土井明 若井雅貴 富永明子 野中裕広 藤本佳史 小松弘尚 徳毛宏則 石田邦夫	2014 年 11 月 9 日 広島市	広島県医師会
第 1 回広島胆膵臨床セミナー	胆管用メタリックスステントの使用経験	藤本佳史	2015 年 2 月 7 日 広島市	メディコスヒラタ
第 37 回広島県農村医学研究会	ERCP 検査における X 線防護用カーテンの有用性～オリジナル防護用カーテンを作成して～	米田直美 平外仁美 石崎淳子 池田将敏 高畑明 小濱千幸 藤本佳史 徳毛宏則	2015 年 2 月 22 日 広島市	広島県農村医学研究会
第 13 回 Regional Interactive G.I. Doctors' Network	食道癌の ESD 後狭窄予防 ～経口ステロイド vs ステロイド局注～	若井雅貴	2015 年 2 月 25 日 廿日市市	Rigid Net、アストラ、第一三共
心房細動抗凝固療法今の今を考える	ディスカッサー「抗凝固療法の合併症を考える」	古土井明	2015 年 3 月 19 日 広島市	ブリストルマイヤーズ、ファイザー
第 228 回佐伯臨床研修会	生物学的製剤が著効したステロイド依存性潰瘍性大腸炎とクローン病の 2 症例	古土井明	2015 年 3 月 24 日 廿日市市	佐伯地区医師会、エーザイ
第 228 回佐伯臨床研修会	膵癌の診断と治療の進歩	藤本佳史	2015 年 3 月 24 日 廿日市市	佐伯地区医師会、エーザイ

小児科

研究会名	講演タイトル	講演者名	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
広島小児アレルギー研究会	JPAC を用い、2008 年、2012 年秋季に同一の施設で行った広島県喘息児実態調査の比較	岡島宏易	2014 年 7 月 24 日 広島	広島小児アレルギー研究会

外科

研究会名	講演タイトル	講演者名	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
第 11 回中国四国ヘルニア手術研究会	鼠径ヘルニア手術における術式選択－TAPP の適応について－	田崎達也 佐々木秀 香山茂平 大下彰彦 杉山陽一 中村浩之 黒尾優太 井上聡 川本常喬 今村祐司 中光篤志	2014 年 7 月 5 日 広島市	
広島総合病院オープンカンファレンス	鼠径ヘルニアに対する腹腔鏡手術	田崎達也 今村祐司 佐々木秀 香山茂平 大下彰彦 杉山陽一 中村浩之 黒尾優太 川本常喬 中光篤志	2014 年 7 月 16 日 広島市	

研究会講演・発表

第7回広島腹腔鏡下手術勉強会	TAPP	田崎達也 佐々木秀 大下彰彦 中村浩之 川本常喬 中光篤志	今村祐司 香山茂平 杉山陽一 黒尾優太 井上聡	2014年7月26日 広島市	covidien
第11回佐伯地区医師会外科会総会	単径ヘルニアの最新の治療法—腹腔鏡下ヘルニア修復術—	田崎達也		2014年10月9日 広島市	
第25回佐伯医学会総会	単径ヘルニアに対する腹腔鏡手術	田崎達也 佐々木秀 大下彰彦 中村浩之 川本常喬 馬場健太	今村祐司 香山茂平 杉山陽一 黒尾優太 井上聡 中光篤志	2014年11月3日 広島市	
第67回広島医学会総会	腹腔鏡下単径ヘルニア修復術における手技の定型化	田崎達也 佐々木秀 大下彰彦 中村浩之 川本常喬	今村祐司 香山茂平 杉山陽一 黒尾優太 中光篤志	2014年11月9日 広島市	
Medicon Educational Clinic ラパヘルトレーニングセミナー	ビデオディスカッション～TAPP 法手技の安定化のために～	田崎達也		2014年12月13日 東京都	medicon
広島西部地区消化器疾患研究会	術前診断に難渋した肝腫瘍に他医にて腹腔鏡補助下肝外側区域切除を施行した1例	川本常喬 佐々木秀 井上聡 中村浩之 杉山陽一 今村祐司 臺丸裕	大下彰彦 馬場健太 黒尾優太 田崎達也 香山茂平 徳毛宏則 中光篤志	2014年6月19日 広島市	
第180回広島外科会ならびに総会 第36回日本臨床外科学会広島県支部学術集会	腸重積をきたした回腸 lipomatosis の1例	馬場健太 香山茂平 川本常喬 中村浩之 大下彰彦 今村祐司 台丸 裕	田崎達也 井上 聡 黒尾優太 杉山陽一 佐々木秀 古土井明 中光篤志	2015年3月7日 広島市	
第43回広島肝胆膵外科手術研究会	脾脂肪腫の2例	佐々木秀 今村祐司 大下彰彦 杉山陽一 黒尾優太 川本常喬	中光篤志 香山茂平 田崎達也 中村浩之 井上聡	2014年6月24日 広島市	
広島総合病院のNST活動の現状と課題	第12回広島 NST 研究会	香山茂平		2015年1月31日 広島市	広島 NST 研究会

乳腺外科

研究会名	講演タイトル	講演者名	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
下関プレストキャンサーアカデミア	ホルモン陽性進行再発乳癌の治療	川淵義治	2014年5月30日 下関市	アストラゼネカ
平成26年度広島県がん検診精度管理推進事業乳がん検診従事者研修会	マンモグラフィ読影	川淵義治	2014年11月14日 広島市	公益財団法人広島県地域保健医療推進機構

整形外科

研究会名	講演タイトル	講演者名	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社	
骨粗鬆症の圧迫骨折を治す会	骨粗鬆症性椎体骨折に対する経皮的後弯矯正術	山田清貴 鈴木修身 中前稔生 森迫泰貴	藤本吉範 橋本貴士 松浦正己	2014年7月12日 広島市	
第1回広島骨粗鬆症性椎体骨折治療セミナー	骨粗鬆症の最新治療－治療計画に基づいた手術後の通院治療の実践－	中前稔生 鈴木修身 橋本貴士 森迫泰貴 藤本吉範 山田清貴 松浦正己	藤本吉範 山田清貴 松浦正己 中前稔生 鈴木修身 橋本貴士 森迫泰	2014年9月4日 廿日市市	

研究会講演・発表

第 227 回広島整形外科研究会	腰椎椎間板ヘルニアに対する percutaneous endoscopic discectomy の手術成績	松浦正己 鈴木修身 橋本貴士 森迫泰貴	藤本吉範 山田清貴 中前稔生	2014 年 9 月 27 日 広島市	
第 227 回広島整形外科研究会	手の非定型性抗酸菌感染症の 1 例	森迫泰貴 山田清貴 中前稔生 藤本吉範	鈴木修身 橋本貴士 松浦正己	2014 年 9 月 27 日 広島市	
AOSpine Advances Seminar 岡山	骨粗鬆症性椎体骨折に対する経皮的後弯矯正術	山田清貴 鈴木修身 中前稔生 森迫泰貴	藤本吉範 橋本貴士 松浦正己	Saturday, October 18, 2014 岡山市	
第 2 回広島骨粗鬆症性椎体骨折治療セミナー	骨粗鬆症性椎体骨折に対する最新の治療法 手術療法の適応と実際	山田清貴		Thursday, February 05, 2015 広島市	
第 2 回広島骨粗鬆症性椎体骨折治療セミナー	骨粗鬆症の最新治療－治療計画に基づいた手術後の通院治療の実際－	中前稔生 鈴木修身 橋本貴士 森迫泰貴	藤本吉範 山田清貴 松浦正己	Thursday, February 05, 2015 広島市	

実績

脳神経外科

研究会名	講演タイトル	講演者名	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
認知症カンファレンス	認知症 外科的治療が必要な疾患の検討	黒木一彦	2014 年 5 月 28 日 広島市	
Network Meeting	最近 5 年間の当院における脳塞栓症の治療経験	黒木一彦	2014 年 9 月 22 日 広島市	
広島西圏域メディカルコントロール協議会	脳疾患の症状あれこれ ちょっと変わった症状を見逃さない専門医の視点から	黒木一彦	2014 年 10 月 11 日 廿日市市	
佐伯地区医師会	脳梗塞の診断・治療について	黒木一彦	2014 年 10 月 28 日 廿日市市	

心臓血管外科

研究会名	講演タイトル	講演者名	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
第 2 回広島西部心疾患を有する患者のリハビリテーションを考える会	心リハ Q and A	小林平	2014 年 5 月 30 日 廿日市市	
第 6 回中国地区血管内治療研究会	CLI に対する Bypass First 治療の適応と問題点を考える	小林平	2014 年 5 月 31 日 岡山市	
第 53 回広島循環器病研究会	大動脈弁置換術後の基部拡大に対する基部再建術の 1 例	濱本正樹	2014 年 6 月 7 日 広島市	
第 27 回循環器診療の病診連携の勉強会	ステントグラフト内挿術による大動脈治療	小澤優道	2014 年 6 月 13 日 廿日市市	
生活習慣病 web セミナー	TG 低下の意義と ω -3 系脂肪酸製剤への期待	小林平	2014 年 9 月 2 日 広島市	
佐伯区医師会講演会	当院における大動脈治療の現状	小澤優道	2014 年 9 月 24 日 廿日市市	
第 28 回循環器診療の病診連携の勉強会	チーム医療としての心臓リハビリテーション	小林平	2014 年 11 月 7 日 廿日市市	
第 8 回廿日市市薬業研修会	TG 低下の意義と ω -3 系脂肪酸製剤への期待	小林平	2014 年 11 月 12 日 廿日市市	
第 9 回広島大動脈ステントグラフトカンファレンス	EVAR プランニング変更例～内腸骨動脈コイル塞栓術に難渋した 2 例	小澤優道	2014 年 11 月 13 日 広島市	
第 54 回広島循環器病研究会	Y-graft 術後遠隔期の人工血管破綻による仮性動脈瘤に対して EVAR を施工した 1 例	小澤優道	2014 年 12 月 13 日 広島市	
広島動脈硬化を考える会	胸部大動脈瘤に対する低侵襲治療～ステントグラフト内挿術 (TEVAR) ～	小澤優道	2015 年 1 月 28 日 広島市	
第 23 回広島心血管手術手技研究会	僧帽弁形成術 基本ノート	濱本正樹	2015 年 2 月 7 日 広島市	
西部地区病病・病診連携勉強会	閉塞性動脈硬化症に対するチーム医療の実際、皆の力で！！	小林平	2015 年 2 月 14 日 広島市	

研究会講演・発表

第 31 回 Hiroshima Young Vascular Surgeon Conference	急性下肢虚血に対して Distal Bypass を施行してよかったのでしょうか？	児玉裕司	2015 年 2 月 24 日 広島市	
--	---	------	------------------------	--

皮膚科

研究会名	講演タイトル	講演者名	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
広島皮膚科医会	当院で経験した皮膚悪性腫瘍の多発例	平川佳葉子	2014 年 6 月 19 日 広島大学 廣仁会館	広島皮膚科医会 マルホ株式会社

泌尿器科

研究会名	講演タイトル	講演者名	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
広島県西部泌尿器科勉強会	前立腺全摘後 PSA 再発症例の臨床的検討	宮本俊輔	2014 年 6 月 6 日 広島市	
広島県西部泌尿器科勉強会	2013 年 JA 広島総合病院泌尿器科の実情～何が行われているのか？～	栗村嘉昌	2014 年 6 月 6 日 広島市	
佐伯地区医師会講演会	女性の排尿障害の対処法（女性の排尿トラブルにお答えします）	丸山聡	2014 年 7 月 22 日 廿日市市	
広島西部泌尿器科フォーラム	当院における CRPC 症例の臨床的検討	宮本俊輔	2014 年 9 月 12 日 広島市	
広島県西部泌尿器科勉強会	新しい前立腺癌治療薬～ジェブタナ～	栗村嘉昌	2014 年 10 月 10 日 広島市	
前立腺癌エキスパートミーティング	完全重複尿管損傷の 1 例	丸山聡	2014 年 12 月 13 日 尾道市	

眼科

研究会名	講演タイトル	講演者名	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
JA 広島総合病院オープンカンファレンス	全身疾患と眼	末岡千絵	2015 年 3 月 18 日 廿日市市	JA 広島総合病院

耳鼻咽喉科

研究会名	講演タイトル	講演者名	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
広島頭頸部癌治療セミナー	セツキシマブ併用放射線療法が有用であった進行声門上癌の 1 例	高本 宗男	2014 年 4 月 25 日 シェラトンホテル広島	Merck Serono 他
第 59 回広島頭頸部腫瘍研究会	下咽頭巨大腫瘍を呈した MALT リンパ腫の一症例	岡林 大	2014 年 7 月 2 日 ワークピア広島	広島頭頸部腫瘍研究会

放射線治療科

研究会名	講演タイトル	講演者名	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
第 6 会西部地区がん診療オープンカンファレンス	当科における頭頸部癌放射線治療の成績について	廣川淳一	2014 年 10 月 10 日 JA 広島総合病院	大鵬薬品・武田薬品

画像診断部

研究会名	講演タイトル	講演者名	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
第 149 回広島放射線診断カンファレンス	胸腰椎骨折の画像診断	太刀掛俊浩	2014 年 9 月 11 日 広島大学	
第 153 回広島放射線診断カンファレンス	腹痛の 1 例	西原礼介	2014 年 10 月 3 日 広島大学	
第 12 回 Regional Interactive G. I. Doctors's Network	急性腹症の画像診断、本院の症例を中心に	西原礼介	2014 年 10 月 29 日 廿日市市商工保健会館	アストラゼネカ
第 12 回 Regional Interactive G. I. Doctors's Network	動注刺激後肝静脈サンプリングを施行した膵インスリノーマの一例	太刀掛俊浩	2014 年 10 月 29 日 廿日市市商工保健会館	アストラゼネカ

研究会講演・発表

第 54 回広島 IVR 研究会	本院整形外科で施行されている経皮的経椎弓根的椎間バキューム腔内 PMMA 注入療法の有用性について	西原礼介	2015 年 2 月 6 日 広島大学	バイエル薬品
第 174 回広島放射線診断カンファレンス	脊髄ヘルニアの 1 例	太刀掛俊浩	2015 年 2 月 5 日 広島大学	

麻酔科

研究会名	講演タイトル	講演者名	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
広島総合病院オープンカンファレンス	困難な気道確保を克服する Difficult Airway Management	中尾正和	2014 年 6 月 18 日 JA 広島総合病院	JA 広島総合病院

救急・集中治療科

研究会名	講演タイトル	講演者名	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
第 1 回大阪救急集中治療看護セミナー	集中治療に関する合併症を減らそう！～せん妄と ICU-AW を中心に～	櫻谷正明	H26 年 4 月 21 日 大阪	丸石製薬
RST 勉強会岡山旭東病院	ICU での人工呼吸中の鎮静・患者管理について	櫻谷正明	H26 年 4 月 30 日 岡山	岡山旭東病院
広島 MRSA 講演会	当院におけるダブトマイシンの使用状況について	櫻谷正明	H26 年 5 月 22 日 広島	MSD
第 5 回北海道呼吸療法セミナー	急性期の NPPV 管理	櫻谷正明	H26 年 8 月 31 日 旭川	日本臨床工学技士会
第 1 回瀬戸内 Critical Care Team STEPP	ICU から始めよう	櫻谷正明	H26 年 11 月 29 日 広島	瀬戸内 Critical Care Team
第 8 回広島人工呼吸療法セミナー	応用コース「まずは、見た目から入る呼吸のアセスメント」	櫻谷正明	H27 年 2 月 22 日 広島	広島県臨床工学技士会

緩和ケアチーム

研究会名	講演タイトル	講演者名	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
第 6 回 HEMCO	がん薬物療法と緩和医療の谷間の克服 パネルディスカッション パネリスト	小松弘尚	2014 年 10 月 24 日 ホテルグランピア広島	共催：大鵬薬品工業株

健康管理センター

研究会名	講演タイトル	講演者名	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
農村医学に関する調査研究報告会	超悪玉 LDL- コレステロールと生活習慣との関連	久保知子 碓井裕史	2014 年 10 月 24 日 JA 全厚連会議室	一般財団法人 日本農村医学研究会

西 5 階病棟

研究会名	講演タイトル	講演者名	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
平成 25 年固定チームナーシング全国研究集会	固定チームナーシングに受け持ちカード・担当カードを導入して～患者満足度調査を実施して～	南原みゆき 中村愛 畠田舞	2014 年 9 月 14 日 神戸ポートピアホテル	固定チームナーシング研究会
第 45 回日本看護学会急性期学術集会	領域を超えて行う情報収集と情報提供が患者と病棟看護師に与える影響	中村希 馬場崎喜美子 美濃智子 西村留美	2014 年 10 月 23 ～ 24 日 パシフィコ横浜	日本看護協会

薬剤部

研究会名	講演タイトル	講演者名	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
第 18 回広島県西部地区糖尿病医療連携を進める会	2 型糖尿病治療の新しい薬剤について	大田博子	2014 年 4 月 9 日 廿日市市	広島県西部地区糖尿病医療連携を進める会／広島県医師会糖尿病対策推進会議／テルモ
第 7 回廿日市市薬業研修会 学術講演会	尾三地区における薬業連携について	橋本佳浩	2014 年 6 月 11 日 廿日市市	廿日市市薬剤師会／武田薬品／JA 厚生連 広島総合病院薬剤部
第 5 回最新薬学セミナー	糖尿病治療薬の話題	大田博子	2014 年 9 月 5 日 広島市	MSD

研究会講演・発表

第8回廿日市市薬業研修会 学術講演会	当院でのPAD チーム医療～下肢外来チームラウンドを始めて～	角井碧	2014年11月12日 廿日市市	廿日市市薬剤師会／武田薬品／JA 厚生連 広島総合病院薬剤部
瀬戸内 Clinical care Team STEPPS	薬剤師は病棟活動を通してどのようにチームに貢献しているか？	吉廣尚大	2014年11月22日 広島市	広島 Team STEPPS、ホスピーラ
広島県西部地区薬剤師研修セミナー	当院の糖尿病治療薬～薬剤師の立場から～	大田博子	2014年11月27日 廿日市市	廿日市市薬剤師会／広島県病院薬剤師会／小野薬品／アストラゼネカ
Meet the Expert	当院外来患者に対する SGLT2 阻害薬服薬指導の取り組み	得能千晶	2014年12月2日 広島市	田辺三菱

臨床研究検査科

研究会名	講演タイトル	講演者名	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
尿検査フォーラム 2014	この尿で、どこまで考えるか	山下美香	2014年4月19日 よみうりホール	シーメンスヘルスケア・ダイアグノスティクス株式会社
第1回血液領域研修会	使いこなそう自動血球分析装置 シーメンス ADVIA 2120i	森下未来依	2014年5月24日 広島市立広島市民病院	一般社団法人 広島県臨床検査技師会
出雲市医師会・薬剤師会 学術講演会	～冠動脈疾患 VS. sd-LDL-C～	藤井隆	2014年6月5日 ホテル武志山荘	出雲市医師会・薬剤師会
尿検査フォーラム中四国 2014	このおしっこはなんじゃろ～どう思う？	山下美香	2014年6月29日 川崎医療短期大学体育館 1階講義室	シーメンスヘルスケア・ダイアグノスティクス株式会社
第1回回生研修会	心電図入門 虚血編	霜津宏典	2014年7月12日 広島市立広島市民病院	一般社団法人 広島県臨床検査技師会
平成26年度認定一般検査技師認定試験対策研修会	髄液検査・精液検査	山下美香	2014年7月13日 関西医科大学付属滝井病院 臨床講堂	一般社団法人 日本臨床衛生検査技師会
Crest Meeting in 東広島	CT画像から診た動脈硬化と sd-LDL-Cholesterol	藤井隆	2014年7月24日 東広島市	塩野義製薬
尿検査フォーラム九州 2014	この尿から、なんば考えるか	山下美香	2014年7月26日 熊本保健科学大学 50周年記念館	シーメンスヘルスケア・ダイアグノスティクス株式会社
広島西部地区動脈硬化フォーラム	LDL-C 低下療法の残余リスクを含めた脂質異常症に対する考え方～冠動脈プラーク vs. sdLDL-C と EPA/AA 測定の意義～	藤井隆	2014年7月31日 広島サンプラザ	持田製薬
第2回血液領域研修会	末梢血鏡検実習 症例解説	森下未来依	2014年8月2日 広島大学医学部	一般社団法人 広島県臨床検査技師会
茨城県臨床検査技師会平成26年度第1回一般検査分野研修会	髄液検査・関節液検査	山下美香	2014年8月9日 筑波大学附属病院 けやき棟1階	公益社団法人 茨城県臨床検査技師会
尿検査フォーラム大阪 2014	この尿から、何が考えられんねん！？	山下美香	2014年8月24日 新大阪ブリックビル 3F	シーメンスヘルスケア・ダイアグノスティクス株式会社
HIROSHIMA 脂肪酸ラウンドミーティング	虚血性心疾患における sdLDL-C と EPA/AA 測定の意義	藤井隆	2014年9月18日 シェラトンホテル広島	持田製薬
東広島地区研修会	簡単にできる尿検査	山下美香	2014年10月21日 本永病院 8F 研修ホール	一般社団法人 広島県臨床検査技師会
尾道内科会	冠動脈疾患 vs. 超悪玉コレステロール	藤井隆	2014年10月24日 尾道市 医師会館	尾道医師会、塩野義製薬
第21回心エコー研究会	当院でのルーチン心エコー検査の実際と所見用紙について	北村紀恵	2014年10月25日 エソール広島	大日本住友製薬株式会社
第3回臨床一般検査部門研修会	尿検査を活かせる技師になろう！	山下美香	2014年11月8日 草津市立市民交流プラザ 大会議室	公益社団法人 滋賀県臨床検査技師会
第14回広島心臓血管外科フォーラム	Undersized mitral annuloplasty 後に発症した感染性心内膜炎の1例	霜津宏典	2014年11月14日 オリエンタルホテル広島	アステラス製薬株式会社
第1回 EPA プライマリーセミナー	コレステロール代謝と冠動脈病変との関連性	藤井隆	2014年11月18日 ホテルサンルート徳山	周東医師会、持田製薬
第14回広島大学循環器内科同門会 開業医部会勉強会	心臓 CT とともに 【過去～現在～未来】	藤井隆	2014年11月20日 広島市	広島大学循環器科開業医部会

研究会講演・発表

第3回一般検査研修会	チャレンジ関節液！たまにしか出ない検査だけど	山下美香	2014年12月6日 広島大学医学部 第4講義室	一般社団法人 広島県臨床検査技師会
第54回広島循環器病研究会	S字状中隔により加速された左室流出路血流に伴い機械弁溶血性貧血を生じた一症例	藤井隆（共同演者）	2014年12月13日 エソール広島	広島循環器病研究会、エーザイ
臨床検査精度管理調査報告会	血液検査	三舛正志	2015年2月11日 広島県医師会館	広島県医師会、一般社団法人 広島県臨床検査技師会
第1回関西 POT キット研究会	当院における POT キットを活用した感染管理	池部晃司	2015年2月28日 TKP 大阪梅田駅前ビジネスセンター	関東化学株式会社
積水セミナー in 津山	STEP UP 尿検査！	山下美香	2015年3月6日 津山中央病院 研修センター 2F 講義室	積水メディカル株式会社
北部地区研修会	私が臨床検査技師を続けられている理由	山下美香	2015年3月7日 三ツ次ワイナリー	一般社団法人 広島県臨床検査技師会

中央放射線科

研究会名	講演タイトル	講演者名	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
第19回広島 GEMRI ユーザーズミーティング 2014	婦人科領域の MRI	田丸隆行	2014年5月31日 安佐南区民文化センター	GE Health Care Japan
日本放射線技術学会 中国・四国部会 第15回夏期学術大会	心筋 SPECT 画像の補正法について「多施設間評価」	高畑明	2014年6月30日 岡山大学鹿田キャンパス	日本放射線技術学会
第24回ひろしま核医学技術検討会勉強会	最新心筋 SPECT 画像の多施設間評価	高畑明	2014年9月6日 RCC 文化センター	ひろしま核医学技術検討会 日本メジフィジックス
広島県 MR 勉強会 基礎講座 28	EPI	本山貴志	2014年9月11日 県立広島病院	広島県 MRI 勉強会 バイエル薬品株式会社
第20回広島 GEMRI ユーザーズミーティング 2014	当院での CUBE を用いた脊椎撮像	本山貴志	2014年9月13日 広島市西区民文化センター	GE Health Care Japan
第35回ひろしま乳房画像研究会	症例検討	戸崎光弘	2014年9月27日 エソール広島	ひろしま乳房画像研究会、エーザイ
第8回北部地区乳腺研究会	マンモグラフィを再考する	小濱千幸	2014年11月29日 三ツ次中央病院	北部地区乳腺研究会、アストラゼネカ
CT テクノロジー第48回勉強会	さあみんなで考えよう！「腹部領域」	下土居一	2015年1月9日 エーザイ広島コミュニケーションオフィス	広島 CT 技術研究会 エーザイ株式会社
(公社) 日本放射線技術学会 中国四国部会セミナー	乳房組織検査の最前線	亀井義明 新井貴士 他3名	2015年1月25日 愛媛大学	(公社) 日本放射線技術学会 中国四国部会
日本放射線技術学会 中国・四国部会 核医学セミナー	心筋 SPECT 画像の補正法について	高畑明	2015年1月30日 岡山市勤労者福祉センター	日本放射線技術学会

臨床工学科

研究会名	講演タイトル	講演者名	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
RST 情報交換会	点ではなく円で～急性期から慢性期・在宅まで臨床工学技士の関わり～	田中恵子	2015年5月31日 大阪府	
臨工村塾	患者さんに合った NPPV 設定～あなたならどうする？～	荒田晋二	2015年7月3日 山口県	
第11回中国消化器内視鏡技師研究会	Ho-YAG レーザーを用いた内視鏡的胆道碎石術における臨床工学技士の役割	藤田雄樹	2015年9月21日 広島県	
倉敷シンポジウム	体外循環中にリザーバーを交換した1症例	瀬尾憲由	2015年11月15日 広島県	
第1回瀬戸内 Critical Care Team STEPPS	チーム医療における臨床工学技士の役割	荒田晋二	2015年11月22日 広島県	
第8回広島人工呼吸療法セミナー	症例から考える NPPV の基礎	荒田晋二	2015年2月22日 広島県	

研究会講演・発表

リハビリテーション科

研究会名	講演タイトル	講演者名	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
広島県言語聴覚士会中南部ブロック研修会	心臓疾患における嚥下障害の発症要因とその対応法について	上田雅美	2014 年 12 月 14 日 呉市	広島県言語聴覚士会
西部地区 疾病・病診連携勉強会	閉塞性動脈硬化症に対する理学療法の工夫、いかにやる気にさせるか	本間智明	2015 年 2 月 14 日 広島市	武田薬品工業株式会社

栄養科

研究会名	講演タイトル	講演者名	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
第 36 回広島県農村医学研究会	地域連携における食形態の統一を目指して～広島西脳卒中対策地域連携協議会の栄養士部会の取り組み～	西田美穂	2014 年 2 月 15 日 JA ビル	JA 広島厚生連
第 19 回広島県西部地区糖尿病医療連携を進める会	コメディカルレクチャー「食品交換表第 7 版の変更点—そのところを読む—」	河本良美	2014 年 8 月 6 日 廿日市市商工保健会館	広島県西部地区糖尿病医療連携を進める会 塩野義製薬株式会社
糖尿病チーム医療を考える会	聞き取り力を活かした糖尿病の食事指導	河本良美	2015 年 2 月 9 日 ホテルグランヴィア広島	日本イーライリリー株式会社
第 37 回広島県農村医学研究会	患者に適した治療食提供のために～特別食加算件数増加への取り組み～	要田裕子	2015 年 2 月 21 日 JA ビル	JA 広島厚生連

総合医療相談室

研究会名	講演タイトル	講演者名	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
がん相談員意見交換会研修会	在宅緩和ケアの取り組み	正島忠貴	2014 年 6 月 28 日 JA 広島総合病院	広島県がん診療拠点病院
平成 26 年度緩和ケア専門研修（介護支援専門員・地域連携職種研修基礎コース）	在宅緩和ケア移行時の連携～拠点病院の役割～	正島忠貴	2014 年 7 月 9 日 広島県緩和ケア支援センター	広島県
佐伯地域ケア会議	佐伯地域の在宅緩和ケアについて	正島忠貴	2014 年 11 月 26 日 廿日市市役所佐伯支所	地域包括支援センター
在宅緩和ケアコーディネーター養成研修会	緩和ケアコーディネーターの実践	正島忠貴	2015 年 1 月 17 日 三原市城町庁舎	三原市地域包括ケア連携推進協議会
市民公開講座	在宅緩和ケアコーディネーターの役割	正島忠貴	2015 年 1 月 25 日 さくらびあ	JA 広島総合病院
平成 26 年度第 3 回廿日市市五師士会研修会シンポジウム	廿日市市の地域包括ケアについて考える	正島忠貴	2015 年 2 月 14 日 日本赤十字広島看護大学	廿日市市五師士会

医事課

研究会名	講演タイトル	講演者名	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
第 95 回広島診療情報勉強会	自院データ分析の実際	行廣優	2014 年 8 月 20 日 山陽女子短期大学	広島診療情報勉強会

研究会座長

循環器内科

研究会名	座長者名	講演タイトル	講演者	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
第10回心広島循環器治療研究会	辻山 修司	下肢閉塞性動脈硬化症の最新の治療	川崎大三	2014年5月9日 ホテルグランヴィア広島	協和発酵キリン
広島動脈硬化を考える会 2014 — PAD を診る —	辻山 修司	超音波検査による下肢動脈の評価	渡邊亮司	2014年7月26日 広島グランドインテリジェントホテル	興和創薬
第21回広島心エコー研究会	荘川 知己	ルーチン心エコーの取り方	菊田憲二	2014年10月25日 エソール広島	広島心エコー研究会・大日本住友製薬株式会社
広島動脈硬化を考える会 2015 — 低侵襲治療を目指して —	辻山 修司	全身の動脈硬化を診る	岡田武規	2015年1月28日 ANA クラインプラザホテル	興和創薬

糖尿病代謝内科

研究会名	座長者名	講演タイトル	講演者	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
第5回最新糖尿病治療広島フォーラム	石田和史	トレスーパーの用量調節と今後の製剤への期待	クリニックみらい 国立 宮川高一先生	2014年8月8日 ホテルグランヴィア 広島（広島市南区）	ノボノルディスク ファーマ
Scientific Exchange Meeting QOL 向上を意識した糖尿病 診療の工夫	石田和史	Patient Centered Care ～患者さんの生活の質（QOL）を中心とした治療アプローチについて～	奈良県立医科大学 石井均先生	2014年12月11日 ホテルグランヴィア 広島（広島市南区）	小野薬品工業・アストラゼネカ
GLP-1 UP DATE meeting	石田和史	GLP1- 受容体作動薬による併用療法の有用性	熊本県陣内病院 陣内秀昭先生	2015年2月2日 ホテルグランヴィア 広島（広島市南区）	ノボノルディスク ファーマ
第44回中国糖尿病談話会	石田和史	糖尿病実臨床における SGLT2 阻害剤	熊本県陣内病院 陣内秀昭先生	2015年3月14日 広島グランドインテリジェントホテル （広島市南区）	中国糖尿病談話会・サノフィ

消化器内科

研究会名	座長者名	講演タイトル	講演者	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
Meet the Specialist 消化器内科懇話会特別企画	徳毛宏則	がん患者とその家族に寄り添った教育的アプローチ	野村昌代 古本直子	2014年4月18日 廿日市市	大鵬薬品・武田薬品工業
Meet the Specialist 消化器内科懇話会特別企画	藤本佳史	広島のみなさんと考える肝癌の治療	奥坂拓志	2014年4月18日 廿日市市	大鵬薬品・武田薬品工業
第116回広島消化器病研究会	藤本佳史	一般演題		2014年4月19日 広島市	広島消化器病研究会
広島胃瘻と栄養セミナー	徳毛宏則	胃瘻 PEG 合併症管理と寒天固形化栄養の実践	蟹江次郎	2014年7月24日 広島市	大塚製薬工場
第1回広島西部地域食道胃腸疾患研究会	小松弘尚	実地診療に必ず役立つ大腸腫瘍診療のポイントと ESD の実施	古土井明	2014年7月29日 廿日市市	JA 広島総合病院内視鏡センター、消化器内科、アステラス、ゼリア
第12回 Regional Interactive G.I. Doctors' Network	藤本佳史	急性腹の画像診断	西原礼介	2014年10月29日 廿日市市	消化器内科、アストラ、第一三共、Rigid Net
第25回佐伯医学会総会	徳毛宏則	非アルコール性脂肪性肝疾患の最新診療	西原利治	2014年11月3日 廿日市市	佐伯地区医師会
第67回広島医学会総会	藤本佳史	一般演題		2014年11月9日 広島市	広島県医師会
佐伯地区医師会学術講演会	徳毛宏則	医療安全講習会・感染対策講習会	日山亨	2014年12月22日 廿日市市	佐伯地区医師会
第7回西部地区がん診療オープンカンファレンス	小松弘尚	診断された時からの緩和ケア～最善をつくして最悪に備える併走者～	月山淑	2015年2月6日 廿日市市	大鵬薬品、武田製薬工業
佐伯地区医師会学術講演会	徳毛宏則	プライマリケアにおける不眠への対処	倉田明子	2015年2月24日 廿日市市	佐伯地区医師会、MSD
第10回広島胃瘻と経腸栄養療法研究会	徳毛宏則	胃瘻の決定のプロセスと ACP（アドバンスケアプランニング）	会田薫子	2015年3月7日 広島市	広島胃瘻と経腸栄養療法研究会
第10回広島胃瘻と経腸栄養療法研究会	徳毛宏則	嚥下機能評価法の基礎と臨床	高本宗男	2015年3月7日 広島市	広島胃瘻と経腸栄養療法研究会

研究会座長

第10回広島胃腸と経腸栄養療法研究会	徳毛宏則	嚥下リハビリの実践	沖田啓子	2015年3月7日 広島市	広島胃腸と経腸栄養療法研究会
第228回佐伯臨床研修会	徳毛宏則	生物学的製剤が著効したステロイド依存性潰瘍性大腸炎とクローン病の2症例 膵癌の診断と治療の進歩	古土井明 藤本佳史	2015年3月24日 廿日市市	佐伯地区医師会、 エーザイ

小児科

研究会名	座長者名	講演タイトル	講演者	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
web ライブセミナー（食物アレルギー）	岡島宏易	食物アレルギーについて	三原祥嗣	2015年1月16日 マルホ株式会社広島第一営業所	マルホ株式会社

外科

研究会名	座長者名	講演タイトル	講演者	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
第一回消化器疾患を考える若手の会	佐々木秀	大腸ESDの現況	JA広島総合病院 食道胃腸内科 古土井明	2014年8月27日 広島市	武田薬品工業株式会社
中国地区大腸癌マネジメント研究会	香山茂平	抗EGFR抗体の皮膚障害対策の実践	国立がん研究センター中央病院 皮膚腫瘍科 山崎直也	2015年2月26日 広島市	武田薬品工業株式会社
第二回消化器疾患を考える若手の会	佐々木秀	消化器科医師に知っておいて欲しいリウマチ性疾患	野島内科医院 野島崇樹	2015年3月18日 広島	武田薬品工業株式会社
佐伯地区医師会講演会	中光 篤志	当科における膵がん治療	JA広島総合病院 食道外科 佐々木秀	2015年4月21日 廿日市市	佐伯地区医師会、大 鵬薬品

心臓血管外科

研究会名	座長者名	講演タイトル	講演者	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
第8回広島大動脈ステントグラフトカンファレンス	小澤優道	特別講演	井上享三	2014年5月15日 広島市	
佐伯地区医師会講演会	濱本正樹	当科における大動脈治療の現状	小澤優道	2014年9月24日 廿日市市 廿日市商 工会議所	トーアエイヨー、ア ステラス
第17回倉敷心臓疾患最先端治療研究会	濱本正樹	一般演題	心臓血管外科医師	2014年11月15日 廿日市市 JA 広島総 合病院	メドトロニック株式 会社
第54回広島循環器病研究会	濱本正樹	一般演題セッション1（リハビリ、ADL、末梢血管）	循環器内科医師、 心臓血管外科医 師、理学療法士	2014年12月13日 広島市 エソール広 島	エーザイ株式会社
広島動脈硬化を考える会	小林 平	一般演題	小澤優道 群谷篤史	2015年1月28日 広島市 ANAクラウ ンプラザホテル	興和創薬株式会社
第31回 Hiroshima Young Vascular Suregn Conference	小澤優道	一般演題	心臓血管外科医師	2015年2月24日 広島市 グランドイ ンテリジェントホテ ル	大塚製薬株式会社
脂質異常症 Web セミナー	小林 平	心血管イベント抑制への治療戦略	岡田武規	2015年3月6日 広島市	武田薬品工業株式 会社

皮膚科

研究会名	座長者名	講演タイトル	講演者	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
広島皮膚科医会	森川博文	当院で経験した皮膚悪性腫瘍の多発例	平川佳葉子	2014年6月19日 広島大学 廣仁会館	広島皮膚科医会 マ ルホ株式会社

研究会座長

産婦人科

研究会名	座長者名	講演タイトル	講演者	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
西部地区産婦人科医会	中西慶喜	泌尿器科疾患の話題〜カップルライフを快適に〜	永井敦	2014年5月29日 広島サンプラザ	日本新薬株式会社
西部地区産婦人科医会	中西慶喜	LNG-IUS の臨床応用ー効果と適応を考えるー	太田郁子	2014年10月30日 広島サンプラザ	バイエル株式会社

放射線治療科

研究会名	座長者名	講演タイトル	講演者	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
第6回西部地区がん診療オープンカンファレンス	桐生浩司	消化器癌への放射線治療〜肺癌を中心に〜	手島昭樹	2014年10月10日 JA 広島総合病院	大鵬薬品・武田薬品
第12回広島放射線治療研究会	桐生浩司	頭頸部癌の放射線治療など	広島県 放射線治療医	2014年10月25日 アークホテル	
第7回西部地区がん診療オープンカンファレンス	桐生浩司	緩和ケアと死の選択権	小松弘尚	2015年2月6日 JA 広島総合病院	大鵬薬品・武田薬品

画像診断部

研究会名	座長者名	講演タイトル	講演者	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
第6回西部地区がん診療オープンカンファレンス	西原礼介	当科における頭頸部癌放射線治療の成績について	廣川淳一	2014年10月10日 JA 広島総合病院	大鵬薬品工業株式会社、武田薬品工業株式会社

薬剤部

研究会名	座長者名	講演タイトル	講演者	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
第5回廿日市市薬業連携研修会	大田博子	当院でのPAD チーム医療〜下肢外来チームラウンドを始めて〜	角井碧	2014年11月12日 アイプラザ	廿日市市薬剤師会／武田薬品／JA 厚生連広島総合病院薬剤部
第5回廿日市市薬業連携研修会	橋本佳浩	TG 低下の意義とω-3系脂肪酸製剤への期待〜PAD(末梢動脈疾患)の話題も踏まえて〜	小林平	2014年11月12日 アイプラザ	廿日市市薬剤師会／武田薬品／JA 厚生連広島総合病院薬剤部
第6回廿日市市薬業連携研修会	大田博子	内視鏡技師と薬剤部の関わり	石崎淳子	2015年3月4日 アイプラザ	廿日市市薬剤師会／武田薬品／JA 厚生連広島総合病院薬剤部
第6回廿日市市薬業連携研修会	橋本佳浩	消化性潰瘍の過去・現在・未来	小松弘尚	2015年3月4日 アイプラザ	廿日市市薬剤師会／武田薬品／JA 厚生連広島総合病院薬剤部
広島地区医薬品安全管理責任者等交流会	大田博子	メトグルコ小児用法用量追加に伴うRMPの公開	御手洗義和	2015年1月19日 大日本住友製薬中国支店	大日本住友製薬

臨床研究検査科

研究会名	座長者名	講演タイトル	講演者	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
第1回一般検査研修会	荒瀬美幸	尿路上皮細胞を学習する	猪浦一人	2014年4月26日 東区民文化センター	一般社団法人広島県臨床検査技師会
第53回広島循環器病研究会	藤井隆	セッション4：大血管・血栓症		2014年6月7日 エソール広島	興和創薬、広島循環器病研究会
アークレイオーションアカデミー 2014 広島	山下美香	尿沈渣における異形細胞類の考え方	長崎みなとメディカルセンター 浦壁順一郎	2014年6月14日 リッチモンドホテル 福山駅前ローズ	アークレイマーケティング株式会社
認定一般検査技師研修会	山下美香	分かりやすい話し方とスライド作成	アボットジャパン株式会社 吉田輝倫	2014年7月12日 関西医科大学附属滝井病院 臨床講堂	一般社団法人日本臨床衛生検査技師会
第104回日本循環器学会中国・四国合同地方会	藤井隆	一般演題『虚血性心疾患 8』		2014年7月19日 岡山コンベンションセンター	
第2回一般検査研修会	山下美香	臨床検査と検査所見より考える腎疾患 血尿症例を中心に	九州医療センター 加藤裕一	2014年8月23日 広島大学医学部 第2講義室	一般社団法人広島県臨床検査技師会

研究会座長

アーケレイオーションアカデミー 2014 広島	山下美香	検尿データから病態を解析する～症例を含めて～	大阪大学医学部付属病院 堀田真希	2014 年 11 月 29 日 リッチモンドホテル 福山駅前ロース	アーケレイマーケティング株式会社
第 6 回シーメンスラボラトリーマネジメントセミナー	水野誠士	医療技術部から見た臨床検査技師とは	社会医療法人きつこう会多根総合病院	2014 年 12 月 6 日 アークホテル広島駅南	シーメンスヘルスケア・ダイアグノスティクス株式会社

中央放射線科

研究会名	座長者名	講演タイトル	講演者	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
第 15 回瀬戸内 CT サイエンスセミナー	田丸隆行	初心者向け！救急 CT 撮影のコツと工夫	藤村一郎	2014 年 9 月 6 日 エソール広島	第一三共株式会社、広島 CT 技術研究会他
広島 GEMRI ユーザーズミーティング第 37 回初級者コース	田丸隆行	頭部 T1WI T2WI の各種パラメータ変更による影響 頭部 FLAIR について	吉岡成哲 吉野要	2015 年 1 月 30 日 安佐南区民文化センター	GE Health Care Japan
第 16 回 CT テクノロジーセミナー	田丸隆行	当院における心臓 CT	西山光	2015 年 3 月 14 日 エソール広島	エーザイ株式会社、広島 CT 技術研究会他
第 25 回安芸 RI 倶楽部勉強会	高畑明	SPECT 画像の補正技術	菊池明泰	2014 年 11 月 20 日 広島赤十字原爆病院	安芸 RI 倶楽部 富士 RU ファーマ
安芸 RI 倶楽部勉強会	高畑明	心臓専用半導体 SPECT 装置による当院の試み 心筋血流定量検査に向けて	石村隼人	2015 年 2 月 27 日 広島グランドインテリジェントホテル	安芸 RI 倶楽部 富士 RU ファーマ
第 25 回ひろしま核医学技術検討会	高畑明	心臓核医学検査の読影補助	長木昭男	2015 年 3 月 7 日 広島グランドインテリジェントホテル	ひろしま核医学技術検討会 日本メジフィジックス
広島県 MR 勉強会 基礎講座 29	本山貴志	1. 血管撮影 2. 前立腺の MRI	大胡文彦 棕木直樹	2015 年 3 月 26 日 広島大学	広島県 MRI 勉強会 バイエル薬品株式会社
第 2 回中国・四国部会 国際推進化セミナー	小濱千幸	英語口述発表と英語論文作成のために	島村東世子 メリンダハル	2015 年 2 月 21 日 広島大学	(公社) 日本放射線技術学会
MEDICONNECTION in 広島	小濱千幸	マンモグラフィこんな時どうしてですか？	奥村健一郎	2015 年 1 月 17 日 NTT クレドホール	日立メディコ

リハビリテーション科

研究会名	座長者名	講演タイトル	講演者	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
第 2 回広島西部地区心疾患を有する患者のリハビリテーションを考える会	本間 智明	地域で自主トレーニングが継続して行えるための試みについて	田邊裕子	2014 年 5 月 30 日 廿日市市	大塚製薬株式会社
第 17 回倉敷心臓疾患最先端治療研究会	本間 智明	LVAD 装着後離床に難渋した 1 症例についての報告	猪熊正美	2014 年 11 月 15 日 廿日市市	日本メトロニック株式会社
第 18 回倉敷心臓疾患最先端治療研究会	本間 智明	心大血管外科術後および心不全患者の栄養障害の実態と身体機能の関連について	満山兼一郎	2014 年 11 月 15 日 廿日市市	日本メトロニック株式会社
第 19 回倉敷心臓疾患最先端治療研究会	本間 智明	倉敷中央病院 心臓リハビリテーションの取り組みについて	川田稔	2014 年 11 月 15 日 廿日市市	日本メトロニック株式会社

栄養科

研究会名	座長者名	講演タイトル	講演者	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
第 21 回 NST を本音で語る会 秋期合宿	八幡謙吾	シームレスな栄養管理 一般演題：在宅に向けたケア	占部秀徳（公立みつぎ総合病院） 元廣優子（広島市立リハビリテーション病院）	2014 年 9 月 13 日 安芸グランドホテル	共催：日本静脈経腸栄養学会、NST を本音で語る会、株式会社クリニコ、アボットジャパン株式会社、テルモ株式会社、株式会社明治

地域活動

糖尿病代謝内科

活動内容	活動者	対象者	開催日・開催場所	主催者	参加人数
第5回広島いちがたの会	石田和史	1型糖尿病患者&家族、糖尿病医療従事者	2014年7月6日 広島市文化交流会館（広島市中区）	日本イーライリリー	102人
兵庫ヤングの会宿泊研修会学術講習会 講演「目で見る糖尿病神経障害のお話」	糖尿病診療に関わるスタッフ全員	兵庫県在住1型糖尿病患者、糖尿病医療従事者	2014年8月17日 兵庫県立南但馬自然学校（兵庫県朝来市）	兵庫ヤングの会	35人
第11回あいプラザまつり「あなたの体は脂肪型？筋肉型？」	糖尿病診療に関わるスタッフ全員	一般市民	2014年11月9日 あいプラザ（廿日市市）	廿日市市	120人
県民公開講座 糖尿病を治療する本当の意味は何か？～糖尿病を正しく理解し、治療のポイントを学びましょう～	石田和史	一般市民	2015年1月31日 広島県薬剤師会館（広島市中区）	広島県薬剤師会	130人

消化器内科

活動内容	活動者	対象者	開催日・開催場所	主催者	参加人数
第10回 JA 広島総合病院市民公開講座 がんとともに、自分らしく～地元の在宅緩和ケアの取り組みについて～	小松弘尚	一般市民	2015年1月25日 廿日市市	JA 広島総合病院、廿日市市	600人

小児科

活動内容	活動者	対象者	開催日・開催場所	主催者	参加人数
食物アレルギーについての講演と指導	岡島宏易	教職員	2014年5月22日 阿品台西小学校	阿品台西小学校	30人
食物アレルギーについての講演と指導	岡島宏易	教職員	2014年8月6日 大野東中学校	大野東中学校	25人
食物アレルギーについての講演と指導	岡島宏易	教職員	2014年8月27日 大野東小学校	大野東小学校	35人
食物アレルギーについての講演と指導	岡島宏易	保育士	2015年2月24日 さくらびあ	廿日市市	120人

外科

活動内容	活動者	対象者	開催日・開催場所	主催者	参加人数
健康セミナー	中光篤志	地域住民	2014年7月23日 地御前公民館		
健康セミナー	中光篤志	地域住民	2014年7月27日 大野公民館		
健康セミナー	中光篤志	地域住民	2014年8月31日 大野公民館		
健康セミナー	中光 篤志	地域住民	2014年9月14日 大野公民館		

乳腺外科

活動内容	活動者	対象者	開催日・開催場所	主催者	参加人数
地域医療従事者研修会	川淵義治	地域医療従事者	2014年5月19日 大会議室	地域連携室	
地域講演会	川淵義治	一般	2014年11月27日 地御前市民センター	廿日市市保健センター	
患者会講演会	川淵義治	乳癌患者・家族	2015年1月25日 男女共同参画推進センター	のぞみの会	
患者会講演会	川淵義治	乳癌患者・家族	2015年2月7日 喫茶さえぎ	まちなかりボンサロン	

地域活動

整形外科

活動内容	活動者	対象者	開催日・開催場所	主催者	参加人数
第6回 JA 広島総合病院市民公開講座	鈴木修身 藤本吉範 山田清貴 橋本貴士 中前稔生 松浦正己 森迫泰貴	一般市民	2014年6月22日 廿日市文化ホール さくらびあ	JA 広島総合病院	
第6回 JA 広島総合病院市民公開講座	山田清貴 藤本吉範 鈴木修身 橋本貴士 中前稔生 松浦正己 森迫泰貴	一般市民	2014年6月22日 廿日市文化ホール さくらびあ	JA 広島総合病院	

呼吸器外科

活動内容	活動者	対象者	開催日・開催場所	主催者	参加人数
喫煙防止授業	渡正伸	中学1年生	2014年7月9日 大野中学校	佐伯地区医師会禁煙推進部会	95人
喫煙防止授業	渡正伸	中学1年生	2014年7月11日 玖波中学校	佐伯地区医師会禁煙推進部会	60人
喫煙防止授業	渡正伸	小学5年生	2014年10月8日 阿品台西小学校	佐伯地区医師会禁煙推進部会	90人
喫煙防止授業	渡正伸	小学6年生	2015年1月19日 津田小学校	佐伯地区医師会禁煙推進部会	18人
喫煙防止授業	渡正伸	小学6年生	2015年1月21日 大野東小学校	佐伯地区医師会禁煙推進部会	120人
喫煙防止授業	渡正伸	小学6年生	2015年1月23日 金剛時小学校	佐伯地区医師会禁煙推進部会	17人
喫煙防止授業	渡正伸	小学5+6年生	2015年1月30日 原小学校	佐伯地区医師会禁煙推進部会	14人
喫煙防止授業	渡正伸	小学6年生	2015年2月4日 友和+玖島小学校	佐伯地区医師会禁煙推進部会	41人
喫煙防止授業	渡正伸	小学5年生	2015年2月6日 平良小学校	佐伯地区医師会禁煙推進部会	106人
喫煙防止授業	渡正伸	小学6年生	2015年2月9日 廿日市小学校	佐伯地区医師会禁煙推進部会	118人
喫煙防止授業	渡正伸	小学6年生	2015年2月18日 地御前小学校	佐伯地区医師会禁煙推進部会	44人
喫煙防止授業	渡正伸	小学6年生	2015年2月23日 小方小学校	佐伯地区医師会禁煙推進部会	52人
喫煙防止授業	渡正伸	小学5年生	2015年2月25日 宮園小学校	佐伯地区医師会禁煙推進部会	36人
喫煙防止授業	渡正伸	小学6年生	2015年2月27日 大竹小学校	佐伯地区医師会禁煙推進部会	113人

放射線治療科

活動内容	活動者	対象者	開催日・開催場所	主催者	参加人数
(医師を主体にした) 緩和ケア研修会	桐生浩司	医師	2014年5月25日、6月1日 JA 広島総合病院	JA 広島総合病院	
(医療従事者を主体にした) 放射線治療講習会	桐生浩司	医療従事者	2014年9月16日 JA 広島総合病院	JA 広島総合病院	
(医師を主体にした) 緩和ケア研修会	桐生浩司	医師	2015年3月14日 広島大学病院	広島大学病院	

緩和ケアチーム

活動内容	活動者	対象者	開催日・開催場所	主催者	参加人数
「緩和ケアと尊厳死」地域医療従事者研修会	小松弘尚	地域医療従事者	2015年10月21日 JA 広島総合病院	JA 広島総合病院地域 相談支援センター	60人

地域活動

「エンゼルメイク」地域医療従事者研修会	高原さおり	地域医療従事者	2015 年 11 月 18 日 JA 広島総合病院	JA 広島総合病院地域 相談支援センター	101 人
「家族ケア」地域医療従事者研修会	岡田恵美子	地域医療従事者	2015 年 12 月 16 日 JA 広島総合病院	JA 広島総合病院地域 相談支援センター	47 人
「精神援助について」地域医療従事者研修会	古本直子	地域医療従事者	2015 年 2 月 17 日 JA 広島総合病院	JA 広島総合病院地域 相談支援センター	
「緩和ケア事例検討会」地域医療従事者研修会	正島忠貴	地域医療従事者	2015 年 1 月 20 日 JA 広島総合病院	JA 広島総合病院地域 相談支援センター	44 人
「がんとともに、自分らしく」第 10 回市民公開講座「マスメディアからみた最後の迎え方」平井敦子 パネリスト：小松	小松弘尚	市民	2015 年 1 月 25 日 廿日市さくらびあ	JA 広島総合病院地域 相談支援センター	533 人
第 7 回西部地区がん診療オープンカンファレンス—キャンサーボードオープンカンファレンス—一般演題「緩和ケアと死の選択権」小松弘尚 特別講演「診断されたときからの緩和ケア」～最善を尽くして最悪に備える併走者～和歌山医科大学 緩和ケア部 月山淑	小松弘尚	地域医療従事者	2015 年 2 月 6 日 JA 広島総合病院	JA 広島総合病院 共 催：大鵬薬品工業株 式会社 武田薬品工 業薬品会社	

健康管理センター

活動内容	活動者	対象者	開催日・開催場所	主催者	参加人数
健康長寿の秘訣	林直子	JA 組合員（しあわせの会）	2014 年 4 月 24 日 JA 広島市落合支店	JA 広島市ふれあい課	37 人
健康に関すること 健診 PR	碓井裕史	JA 組合員	2014 年 4 月 25 日 JA 安芸本店	JA 安芸総務課	270 人
60 代からの健康管理	野村恵美	年金受給者	2014 年 5 月 16 日 西区民センター	JA 広島市総務課	28 人
今日こそ燃やそう！体の脂肪	東千穂	JA 組合員	2014 年 5 月 19 日 JA 広島市観音支店	JA 広島市ふれあい課	22 人
いつまでも健康でいるために、元気で暮らせる健康寿命	碓井裕史	一般市民	2014 年 5 月 31 日 山陽女子短期大学	山陽女子短期大学白石副学 長	80 人
運動と生活習慣	東千穂	一般市民	2014 年 6 月 14 日 山陽女子短期大学	山陽女子短期大学白石副学 長	55 人
職員健康診断の結果と健康管理	森川裕子	事業所職員	2014 年 6 月 18 日 廿日市市保健会館	株式会社カープタクシー	47 人
今日こそ燃やそう！体の脂肪	東千穂	JA 組合員	2014 年 6 月 19 日 JA 安芸阿戸支店	JA 安芸本店総務係	21 人
職員の健康管理	増本順子	事業所職員	2014 年 6 月 25 日 廿日市市保健会館	株式会社カープタクシー	50 人
転倒・骨折の予防	増本順子 尾茂田彩	JA 組合員	2014 年 8 月 20 日 9 区集会所	JA 佐伯中央ふれあい課	39 人
歯と口の健康	尾茂田彩 増本順子	JA 組合員	2014 年 11 月 18 日 JA 広島市青崎支店	JA 広島市ふれあい課	13 人
病気の予防	碓井裕史	JA 組合員	2014 年 12 月 3 日 JA 広島市五日市支店	JA 広島市ふれあい課	35 人
元気な体で農業を 病気の前兆に注意！	長田恵美子	農事研究会員	2015 年 3 月 26 日 JA 広島市祇園支店	JA 広島市指導販売課	35 人
歯と口の健康	尾茂田彩	JA 組合員	2015 年 3 月 30 日 JA 広島市矢野支店	JA 広島市ふれあい課	62 人

薬剤部

活動内容	活動者	対象者	開催日・開催場所	主催者	参加人数
ICLS コース インストラクション	吉廣尚大 山崎貴司	メディカルス タッフ	2014 年 4 月 12 日 JA 広島総合病院	ICLS	
市民公開講座「骨粗鬆症のお薬」	中島恵子	一般市民	2014 年 6 月 22 日 廿日市市	JA 広島総合病院	
ICLS コース インストラクション	吉廣尚大	メディカルス タッフ	2014 年 7 月 12 日 広島県立病院	ICLS	
FCCS 広島 インストラクション	吉廣尚大	メディカルス タッフ	2014 年 10 月 4～5 日 広島大学病院	JSEPTIC	

地域活動

FCCS 倉敷 インストラクション	吉廣尚大	メディカルスタッフ	2014 年 11 月 15 ～ 16 日 倉敷中央病院	JSEPTIC	
FCCS 大阪 インストラクション	吉廣尚大	メディカルスタッフ	2014 年 12 月 6 ～ 7 日 大阪西医療センター	JSEPTIC	

中央放射線科

活動内容	活動者	対象者	開催日・開催場所	主催者	参加人数
公益社団法人広島県診療放射線技師会 65 周年記念事業 市民公開講座の座長	山口裕之	広島市周辺の市民および診療放射線技師	2015 年 2 月 28 日 広島国際会議場	公益社団法人広島県診療放射線技師会	350 名

リハビリテーション科

活動内容	活動者	対象者	開催日・開催場所	主催者	参加人数
市民公開講座	井場和敏	一般市民	2014 年 6 月 22 日 廿日市市	JA 広島総合病院	

栄養科

活動内容	活動者	対象者	開催日・開催場所	主催者	参加人数
がんサロン 講師	要田裕子	がん患者・医療従事者	2014 年 5 月 25 日 地域連携室	地域医療連携室 がん相談支援センター	8 人
第 9 回市民公開講座	西田美穂	一般市民	2014 年 6 月 22 日 はつかいち文化ホール	JA 広島総合病院・廿日市市	
地域医療従事者研修会	八幡謙吾	地域医療従事者	2014 年 8 月 19 日 大会議室	地域医療連携室	30 人
JA 呉女性部地区別研修会（呉地区）	八幡謙吾	JA 組合員	2015 年 1 月 20 日 JA 呉本店	JA 呉	48 人
JA 女性部 健康教室	森田菜津美	JA 組合員	2015 年 2 月 4 日 浅原市民センター	JA 佐伯中央	14 人
JA 女性部 健康教室	西田美穂	JA 組合員	2015 年 2 月 18 日 JA 地御前支店	JA 佐伯中央	35 人
JA 女性部 健康教室	渡壁史那	JA 組合員	2015 年 2 月 25 日 マロンの里	JA 佐伯中央	21 人
JA 女性部 健康教室	渡壁史那	JA 組合員	2015 年 3 月 4 日 JA 津田支店	JA 佐伯中央	25 人

感染防止対策室

活動内容	活動者	対象者	開催日・開催場所	主催者	参加人数
アマンノリハビリテーション病院 施設内研修（講演）	今本紀生	メディカルスタッフ	2014 年 6 月 26 日 アマンノリハビリテーション病院	アマンノリハビリテーション病院	40 人
地域医療従事者研修会（講演）	今本紀生	メディカルスタッフ	2014 年 7 月 15 日 広島総合病院	広島総合病院 地域医療連携室	50 人
じびぜん健康講座（講演）	今本紀生	廿日市市民	2014 年 7 月 23 日 地御前市民センター	地御前地区自治会 地御前市民センター	40 人
佐伯区医師会 MRM 講演会（講演）	今本紀生	メディカルスタッフ	2014 年 9 月 18 日 佐伯区地域福祉センター	佐伯区医師会	100 人
山陽看護専門学校「看護管理」（授業）	今本紀生	看護学生	2014 年 9 月 25 日 山陽看護専門学校	山陽看護専門学校	40 人
アマンノリハビリテーション病院 施設内研修（講演）	今本紀生	メディカルスタッフ	2014 年 10 月 23 日 アマンノリハビリテーション病院	アマンノリハビリテーション病院	40 人
廿日市市老人福祉施設連絡協議会研修（講演）	今本紀生	廿日市市老人福祉施設連絡協議会会員	2014 年 11 月 12 日 広島県西部保健所	広島県西部保健所	20 人
阿品土谷病院 施設内研修（講演）	今本紀生	メディカルスタッフ	2014 年 11 月 17 日 阿品土谷病院	阿品土谷病院	40 人

地域活動

JA 佐伯中央訪問介護事業所 研修会（講演）	今本紀生	訪問介護スタッフ	2014 年 11 月 20 日 JA 佐伯中央本店	JA 佐伯中央訪問介護事業所	20 人
広島県看護協会 認定看護師研修会（講演）	今本紀生	認定看護師、看護管理者	2014 年 11 月 22 日 広島県看護協会	広島県看護協会	150 人
阿品土谷病院 施設内研修（講演）	今本紀生	メディカルスタッフ	2014 年 12 月 15 日 阿品土谷病院	阿品土谷病院	40 人
広島グリーンヒル病院 施設内研修（講演）	今本紀生	メディカルスタッフ	2014 年 12 月 24 日 広島グリーンヒル病院	広島グリーンヒル病院	80 人
佐伯区医師会 MRM 講演会（講演）	今本紀生	メディカルスタッフ	2015 年 1 月 15 日 佐伯区地域福祉センター	佐伯区医師会	100 人
全共連社員研修会（講演）	今本紀生	一般社員	2015 年 1 月 20 ～ 21 日 JA ビル	全共連広島県本部	40 人
新型インフルエンザ実地研修（演習支援）	今本紀生	メディカルスタッフ	2015 年 1 月 26 日 あいプラザ	広島県医師会	80 人
杏林製薬社内勉強会（講演）	今本紀生	社員	2015 年 2 月 26 日 広島ビジネスタワー	杏林製薬株式会社	10 人

総合医療相談室

活動内容	活動者	対象者	開催日・開催場所	主催者	参加人数
ちょっと一息医療とふくしの相談室	佐藤澄香 桐山葉子	廿日市市住民	2014 年 5 月 22 日 佐方市民センター	廿日市市五師士会	13 人
ちょっと一息医療とふくしの相談室	三谷法子	廿日市市住民	2014 年 6 月 12 日 サロン・ド・四季が丘	廿日市市五師士会	35 人
ちょっと一息医療とふくしの相談室	岡村良太	廿日市市住民	2014 年 8 月 28 日 にこにこ元気（廿日市市平良）	廿日市市五師士会	9 人
ちょっと一息医療とふくしの相談室	佐藤澄香	廿日市市住民	2014 年 11 月 6 日 平良市民センター	廿日市市五師士会	15 人
ちょっと一息医療とふくしの相談室	佐藤澄香	廿日市市住民	2015 年 1 月 8 日 市民活動センター	廿日市市五師士会	4 人
ちょっと一息医療とふくしの相談室	益村勇子	廿日市市住民	2015 年 3 月 5 日 宮内市民活動センター	廿日市市五師士会	14 人
在宅緩和ケア事例検討会	正畠忠貴	地域医療従事者等	2015 年 1 月 16 日 JA 広島総合病院	JA 広島総合病院	44 人

雑誌投稿・テレビ・ラジオへの出演

循環器内科

提供者	テーマ・タイトル	出演、掲載物名	依頼社名	放送、掲載日
	Aortic Pulse Wave Velocity Improves Cardiovascular Event Prediction An Individual Participant Meta-Analysis of Prospective Observation Data From 17,635 Subjects	J.Am.Coll Cardiol 2014;63:17 636-646		

糖尿病代謝内科

提供者	テーマ・タイトル	出演、掲載物名	依頼社名	放送、掲載日
石田和史	違いがわかる糖尿病治療薬のお話～患者さんにとって Happy な薬剤選択～	Diabetes Web Conference (インターネット配信)	日本イーライリリー・日本ペーリンガーインゲルハイム	2014 年 11 月 20 日

消化器内科

提供者	テーマ・タイトル	出演、掲載物名	依頼社名	放送、掲載日
徳毛宏則	「内視鏡センター開設！」	あなたの健康守り隊	FM ちゅービー	2014 年 8 月 1 日
徳毛宏則	「NASH について」	あなたの健康守り隊	FM ちゅービー	2014 年 8 月 15 日
野中裕広	怖い脂肪肝～酒を飲まないのに肝炎～	中国新聞朝刊	中国新聞社	2014 年 10 月 15 日

外科

提供者	テーマ・タイトル	出演、掲載物名	依頼社名	放送、掲載日
香山茂平	大腸がんの治療（化学療法）	あなたの健康守り隊	FM ちゅービー	2014 年 10 月 3 日
香山茂平	大腸がんの治療（主に腹腔鏡手術）	あなたの健康守り隊	FM ちゅービー	2014 年 10 月 17 日

乳腺外科

提供者	テーマ・タイトル	出演、掲載物名	依頼社名	放送、掲載日
川淵義治	乳がんについて	医療情報	FM はつかいち	2014 年 8 月 20 日、 8 月 27 日

心臓血管外科

提供者	テーマ・タイトル	出演、掲載物名	依頼社名	放送、掲載日
小澤優道	大動脈瘤について		FM ちゅーピーラジオ	2014 年 11 月 7 日
小澤優道	大動脈瘤に対する新しい治療法		FM ちゅーピーラジオ	2014 年 11 月 7 日

産婦人科

提供者	テーマ・タイトル	出演、掲載物名	依頼社名	放送、掲載日
大下孝史	婦人科がん治療について		FM チュービー	2014 年 9 月 3 日
大下孝史	婦人科腹腔鏡手術について		FM チュービー	2014 年 9 月 17 日

歯科口腔外科

提供者	テーマ・タイトル	出演、掲載物名	依頼社名	放送、掲載日
安田雅美 原田直 加藤大喜	症例報告 口底部に発生した舌下腺由来悪性筋上皮腫の一例	広島大学歯学雑誌		第 46 巻, 第 1 号, 85-89 2014
加藤大喜 原田直 安田雅美	症例報告 口蓋に生じた扁平上皮癌と平滑筋肉腫の重複癌の症例	広島大学歯学雑誌		第 46 巻, 第 1 号, 77-84 2014
安田雅美 原田直 加藤大喜	症例報告 放射線治療後の下顎骨に発生した周辺性軟骨肉腫の一例	広島大学歯学雑誌		第 46 巻, 第 1 号, 90-95 2014

雑誌投稿・テレビ・ラジオへの出演

健康管理センター

提供者	テーマ・タイトル	出演、掲載物名	依頼社名	放送、掲載日
碓井裕史	痛風の話	医療情報コーナー	FM はつかいち	2014 年 6 月 9、16 日
碓井裕史	健康寿命の延ばし方	あなたの健康守り隊	FM ちゅーピー	2015 年 2 月 6 日
碓井裕史	人間ドックを活用して健康寿命を延ばす	あなたの健康守り隊	FM ちゅーピー	2015 年 2 月 20 日
碓井裕史	検査の基準値	佐伯地区医師会報	一般社団法人 佐伯地区医師会	2015 年 1 月号
林直子	花粉症について	こいぶみ	JA 広島市	2014 年 4 月号
長田恵美子	ひみこのはがいぜ よく噛んで食べましょう	こいぶみ	JA 広島市	2014 年 5 月号
増本順子	紫外線を予防しよう	こいぶみ	JA 広島市	2014 年 6 月号
東千穂	身体活動+10（プラス・テン）で健康寿命を伸ばそう	こいぶみ	JA 広島市	2014 年 7 月号
林直子	こころの病気について知っていますか？	こいぶみ	JA 広島市	2014 年 8 月号
長田恵美子	まだまだ暑い、残暑の季節のウォーキング	こいぶみ	JA 広島市	2014 年 9 月号
森川裕子	乳がんについて	こいぶみ	JA 広島市	2014 年 10 月号
尾茂田彩	冷えについて	こいぶみ	JA 広島市	2014 年 11 月号
東千穂	高齢の方へ、低栄養に気をつけよう	こいぶみ	JA 広島市	2014 年 12 月号
増本順子	インフルエンザ予防	こいぶみ	JA 広島市	2015 年 1 月号
長田恵美子	知っていますか？ 2 月は全国生活習慣病予防月間	こいぶみ	JA 広島市	2015 年 2 月号
木谷安美	ストレスと心の健康	こいぶみ	JA 広島市	2015 年 3 月号
長田恵美子	ひみこのはがいぜ よく噛んで食べましょう	さいきちゅうおう	JA 佐伯中央	2014 年 4 月号
森川裕子	歯周病も生活習慣病といわれているのはご存じですか？	さいきちゅうおう	JA 佐伯中央	2014 年 5 月号
増本順子	紫外線を予防しよう	さいきちゅうおう	JA 佐伯中央	2014 年 6 月号
東千穂	身体活動+10（プラス・テン）で健康寿命を伸ばそう	さいきちゅうおう	JA 佐伯中央	2014 年 7 月号
林直子	こころの病気について知っていますか？	さいきちゅうおう	JA 佐伯中央	2014 年 8 月号
長田恵美子	まだまだ暑い、残暑の季節のウォーキング	さいきちゅうおう	JA 佐伯中央	2014 年 9 月号
森川裕子	乳がんについて	さいきちゅうおう	JA 佐伯中央	2014 年 10 月号
尾茂田彩	冷えについて	さいきちゅうおう	JA 佐伯中央	2014 年 11 月号
東千穂	高齢の方へ、低栄養に気をつけよう	さいきちゅうおう	JA 佐伯中央	2014 年 12 月号
増本順子	インフルエンザ予防	さいきちゅうおう	JA 佐伯中央	2015 年 1 月号
長田恵美子	知っていますか？ 2 月は全国生活習慣病予防月間	さいきちゅうおう	JA 佐伯中央	2015 年 2 月号
木谷安美	ストレスと心の健康	さいきちゅうおう	JA 佐伯中央	2015 年 3 月号

外来

提供者	テーマ・タイトル	出演、掲載物名	依頼社名	放送、掲載日
石崎淳子	専門医に学ぶ胃腸ケア 実践的知識 スキルマスター「カテーテルケア」	臨床老年看護		2014 年 21：73-80
石崎淳子 松下理恵 藤本七津美 徳毛宏則	地域における胃腸の現状認識—広島 ページェント参加者におけるアン ケート結果の考察—	在宅医療と内視鏡治療		2014 年 18：101-108

雑誌投稿・テレビ・ラジオへの出演

ICU・西3階病棟

提供者	テーマ・タイトル	出演, 掲載物名	依頼社名	放送, 掲載日
岡田明子	当院 ICU における SAT(覚醒トライアル)の現状～看護の問題点と対策～	「ICU と CCU」第 38 巻 5 月号	医学図書出版株式会社	2014 年

薬剤部

提供者	テーマ・タイトル	出演, 掲載物名	依頼社名	放送, 掲載日
石津克紘	当院における病棟業務の実態	広島県病院薬剤師会誌	広島県病院薬剤師会	Vol. 49 No. 3 (2014)

合同カンファレンス

循環器内科

活動内容	活動者	対象者	開催日・開催場所	主催者	参加人数
病診連携の会	原田崇弘	医師、コ・メディカル	2014年5月15日 JA 広島総合病院		
JA 広島総合病院 オープンカンファレンス	原田崇弘	医師	2014年6月17日 JA 広島総合病院	辻山修司	10人
病診連携の会	久留島秀治	医師、コ・メディカル	2014年11月7日 JA 広島総合病院		
第116回オープンカンファレンス	赤澤良太	医師、コ・メディカル	2014年7月16日 JA 広島総合病院		

糖尿病代謝内科

カンファレンス名	代表者	対象者	開催日・開催場所	共催・後援会社
第18回広島県西部地区糖尿病医療連携を進める会	石田和史	広島県西部地区糖尿病診療に関わる 医師・コメディカル (121名)	2014年4月9日 廿日市市商工保健会館 (広島県廿日市市)	広島県西部地区糖尿病 医療連携を進める会・ 広島県医師会糖尿病対 策推進会議・テルモ
第19回広島県西部地区糖尿病医療連携を進める会	石田和史	広島県西部地区糖尿病診療に関わる 医師・コメディカル (117名)	2014年8月6日 廿日市市商工保健会館 (広島県廿日市市)	広島県西部地区糖尿病 医療連携を進める会・ 広島県医師会糖尿病対 策推進会議・シオノギ 製薬
第4回実践DMチーム医療勉強会 in 広島	大久保雅通	広島県糖尿病診療 に関わるコメディカル (57名)	2014年10月18日 広島県情報プラザ (広島市中区)	実践DMチーム医療勉強会 in 広島・日本糖尿病協会広島県支部・日本イーライリリー
第20回広島県西部地区糖尿病医療連携を進める会	石田和史	広島県西部地区糖尿病診療に関わる 医師・コメディカル (104名)	2014年12月10日 廿日市市商工保健会館 (広島県廿日市市)	広島県西部地区糖尿病 医療連携を進める会・ 広島県医師会糖尿病対 策推進会議・キッセイ 薬品工業

乳腺外科

カンファレンス名	代表者	対象者	開催日・開催場所	共催・後援会社
広島乳腺超音波診断カンファレンス	岡田守人	医師・医療従事者	隔月第4火曜日 県立広島病院	ひろしま乳腺超音波勉強会
院内オープンカンファ	川淵義治	地域医療従事者	2014年4月16日 大会議室	地域連携室

心臓血管外科

カンファレンス名	代表者	対象者	開催日・開催場所	共催・後援会社
第17回倉敷心臓疾患最先端治療研究会	小林 平	心臓外科医師、看護師、臨床工学技士、理学療法士	2014年11月15日 広島総合病院	日本メドトロニック株式会社

緩和ケアチーム

カンファレンス名	代表者	対象者	開催日・開催場所	共催・後援会社
緩和ケアカンファレンス	小松弘尚	緩和チーム	毎週木曜日 西8カンファレンスルーム	なし
疼痛緩和勉強会	小松弘尚	がん診療関係者 「医師・メディカルスタッフ」	2015年1月29日 JA 広島総合病院	シオノギ
疼痛緩和勉強会	小松弘尚	がん診療関係者 「医師・メディカルスタッフ」	2015年3月9日 JA 広島総合病院	シオノギ

合同カンファレンス

健康管理センター

カンファレンス名	代表者	対象者	開催日・開催場所	共催・後援会社
廿日市市健診判定委員会	碓井裕史	佐伯地区医師会医師 当院健康管理課	2014年9月19日、10月27日、12月8日 JA広島総合病院	

薬剤部

カンファレンス名	代表者	対象者	開催日・開催場所	共催・後援会社
感染対策講習会	渡正伸	院内スタッフ	2014年11月26日 院内大会議室	院内 ICT・安全対策室

リハビリテーション科

カンファレンス名	代表者	対象者	開催日・開催場所	共催・後援会社
第2回広島西部地区心疾患を有する患者のリハビリテーションを考える会	上野忠活	近隣病院職員	2014年5月30日 アマンリハビリテーション病院	大塚製薬株式会社

感染防止対策室

カンファレンス名	代表者	対象者	開催日・開催場所	共催・後援会社
広島総合病院・院内感染予防に関する地域連携合同カンファレンス	渡正伸	連携施設 ICT (7施設)	2014年6月4日 JA広島総合病院	
広島総合病院・院内感染予防に関する地域連携合同カンファレンス	渡正伸	連携施設 ICT (7施設)	2014年8月6日 JA広島総合病院	
広島総合病院・院内感染予防に関する地域連携合同カンファレンス	渡正伸	連携施設 ICT (7施設)	2014年10月1日 JA広島総合病院	
広島総合病院・院内感染予防に関する地域連携合同カンファレンス	渡正伸	連携施設 ICT (7施設)	2014年12月3日 JA広島総合病院	

総合医療相談室

カンファレンス名	代表者	対象者	開催日・開催場所	共催・後援会社
脳卒中地域連携計画書に係る合同委員会	黒木一彦	連携医療機関	2014年6月27日 西広島リハビリテーション病院	
大腿骨頸部骨折地域連携計画書に係る合同委員会	鈴木修身	連携医療機関	2014年7月17日 大野浦病院	
大腿骨頸部骨折地域連携計画書に係る合同委員会	鈴木修身	連携医療機関	2014年10月29日 廿日市記念病院	
脳卒中地域連携計画書に係る合同委員会	黒木一彦	連携医療機関	2014年11月7日 JA広島総合病院	
脳卒中地域対策協議会	狹田純	広島西医療圏	2014年11月19日 廿日市記念病院	
脳卒中地域連携計画書に係る合同委員会	黒木一彦	連携医療機関	2015年2月24日 JA広島総合病院	
大腿骨頸部骨折地域連携計画書に係る合同委員会	鈴木修身	連携医療機関	2015年3月12日 JA広島総合病院	

華道部

■クラブ概要

1980年より「池坊」の渡邊洋子先生をお呼びしてお稽古をしている伝統あるクラブです。

2013年より今井直子先生によるブリザードフラワー作成の稽古も活動の一部になっています。



渡邊洋子先生と西原先生のお稽古風景

■活動内容

池坊

活動日：毎月第3水曜日

(1月、8月 休み)

場所：中棟3階従業員休憩室

時間：17:30～

ブリザードフラワー

活動日：月2回

場所：中棟3階従業員休憩室

：薬局

時間：17:30～



池坊の作品



ブリザードフラワーのお稽古風景

■活動報告（クラブアピール）

池坊のお稽古では自由花、盛花、お生花、池坊とひとくくりには出来ずいろいろな生け方を教えてもらっています。

画像診断部受付、総合受付や応接室のお花も華道部が生けています。

年末にお正月のお稽古がありますが、この日は竹、松、梅、葉ボタンなど豪華な花材を使ったお花を生け、一年間の成果がこの日に現れます。

年一回の花展も他教室の生徒さんと合同で行います。今年は広島そごうに出展しました。

お花に興味のある方は是非のぞきにきてください。



ブリザードフラワーの作品

野球部

■クラブ概要

- ・部員数：25名（男性20名 女性5名）
- ・メンバー（職種）：医師、看護師、薬剤師、管理栄養士、臨床検査技師、臨床工学技士、社会福祉士、事務

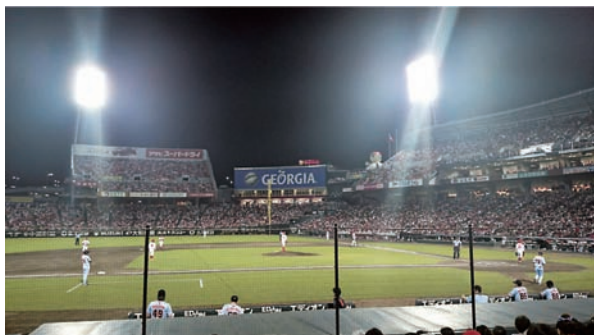
■活動内容

- ・練習場所：阿品台球場、宮園球場、昭北グラウンド等
- ・日時：不定期（試合の日程が決まり次第練習）



■年間行事予定

- 5月：新歓
 - 8月：夏レク
 - 10月：体育大会
 - 11月：病院間ソフトボール交流戦
 - 1月：新年会
- 不定期で対外試合を組み込んでいます。



■クラブアピール

男女混じってワイワイと野球にソフトボールに飲み会に精を出しています。他の病院とソフトボールで交流試合をしたり、草野球チームと試合を組んでガチンコで対決したりといろいろな変化をつけて楽しんでいます。若いメンバーも増えユニフォームも新調したので、どんどん外と試合を組んでいこうと思っています！未経験者でも参加可能です。是非のぞきにきて、そして参加してみてください。同時に練習試合の相手も募集中ですので、試合してみたい方もぜひ声をおかけください！



興味をもたれた方は、お近くの野球部員もしくは
 栄養科 八幡（PHS：5521）
 薬剤部 埋橋（PHS：3064）
 までご連絡ください。



テニス部

■クラブ概要

○部員数：32名

○メンバー：医師・薬剤師・臨床心理士・看護師
・社会福祉士・事務職など

初心者から中級者で、楽しく練習や試合をしています。

年3回テニス大会の参加があり、まじめに優勝目指して練習することもあります。

■2014年度活動内容

○練習場所：佐伯運動公園（佐伯区五日市町）

○日時：隔週水曜日 or 木曜日 19:00～21:00

○時期：3月～11月 冬は休部していますが、やる気のある人が揃う時は、不定期に活動しています。

○試合

・第30回広島医療メイト杯

広島県全土より、医療従事者が参加し試合を行います。当院からは2チームエントリーしました。

H26年8月31日（日）

びんご運動公園テニスコート（尾道市）

【結果】

広島総合病院 A チーム 4 位

広島総合病院 B チーム 準優勝

・厚生連親睦球技大会→親睦試合

毎年、尾道総合病院・吉田総合病院・本所・広島総合病院で、白熱した試合を繰り広げています。本年度は球技大会自体が中止となり、テニスの部のみ親睦試合に名を換えて、尾道総合病院・吉田総合病院・尾道市民病院・土谷病院・広島総合病院で大いに盛り上がりながら試合を行いました。

H26年11月8日（土）

白竜湖スポーツ村（三原市）

【結果】

広島総合病院・吉田総合病院混合チーム 優勝

・佐伯地区医師会・佐伯区医師会合同テニス大会

佐伯地区医師会と佐伯区医師会の会員（家族）、および従業員による親睦大会です。

【結果】

雨天中止

○交流会

年1回、日頃参加している人もしてない人も、ワイワイと楽しく飲み会を行っています。



伯友会（ゴルフ同好会）

163 回 伯友会 コンペ (H26 6/21 広島西)

- 優勝 宮本俊輔（泌尿器科）
- 準優勝 橋本貴士（整形外科）
- 3 位 山田清貴（整形外科）
- 4 位 井場和敏（リハビリ）
- 5 位 正嶋忠貴（地域連携室）

伯友会 16 名 MR8 名参加。

優勝は、泌尿器科、有望新人宮本先生でした。

広島大学付属高校時代はサッカー部所属、関西医科大学ではゴルフ部に所属、キャプテンを努めた逸材である。

ゴルフの上手な泌尿器科医を目指してください。

164 回 伯友会 コンペ (H26 9/28 鷹の巣)

- 優勝 金本英己（事務）
- 準優勝 碓井裕史（健康管理科）
- 3 位 兼見良典（耳鼻科）
- 4 位 森迫泰貴（整形外科）
- 5 位 高田治彦（林病院 OB）

伯友会 13 名 MR 7 名参加。

164 回コンペ直前に、ハンディキャップ改正を行いました。HD36 の金本君が、初優勝されました。

おめでとうございます。

しかしながら、HD が同じく 36 の正嶋君は、残念ながらブービーメーカー（最下位）でした。奮起を促します。

39 回地御前オープンコンペ (H26 11/23 呉)

- 優勝 関口善孝（名誉院長 OB）
- 準優勝 宮本俊輔（泌尿器科）
- 3 位 川上恭司（アマノリハ OB）
- 4 位 兼見良典（耳鼻科）
- 5 位 小深田義勝（泌尿器科）

伯友会 10 名 MR 8 名参加。

少し参加が少なく残念でしたが…

優勝は最高齢者(後期高齢者?)の関口先生でした。

後輩すべてより祝福されて、狂気乱舞の

関口老人でした。

おめでとうございます。

死ぬまで、ゴルフを頑張ってください。

シングルプレーヤーの川上先生、負けないでください。小生もがんばります。

165 回 伯友会 コンペ (H27 3/8 広島西)

- 優勝 中光篤志（外科）
- 準優勝 兼見良典（耳鼻科）
- 3 位 熊田高志（外科）
- 4 位 古谷喜義（古谷皮膚科 OB）
- 5 位 関口善孝（名誉院長 OB）

伯友会 16 名 MR 8 名参加。

優勝は HD 改正を強く強く、希望していた中光先生でした（新 HD34）。練習場、パソコンでもよく練習されています。感心感心。おめでとうございます。

次回 HD 改正まで、何とかもう一度、優勝を目指してください。（現 HD30）

HD36 の正嶋君は、残念ながら、またまたブービーメーカー（最下位）でした。いっそうの努力を期待します。

生まれてくる子供のためにも頑張ってください。

総評としては、優勝者がすべて違う 1 年間でした。群雄割拠の時代といえます。その中でも、若い人の奮起を期待します。もちろん関口先生を筆頭に、年寄りも頑張れるだけ頑張りますが…

また、女性ゴルファーの参加を強く望みます。

聞くとところによると、放射線科内（技師）にも何人かゴルファーが誕生しそうとのこと。期待しています。

是非、一緒に楽しみましょう。

文責 泌尿器科 小深田義勝

サッカー部



(試合後のさわやかな風景)

■クラブ概要

●通称：広総ラツィオ

●創設：19??年

●部員数：約20名

●メンバー（職種）：

医師、歯科医師、研修医、看護師、臨床検査技師、管理栄養士、臨床工学技士、理学療法士、事務など

■活動内容・報告

●練習

毎月第2、水曜日 20:00～21:30

第4、水曜日 20:00～21:30

(場所：廿日市グリーンフィールド)



(練習風景)

●練習試合（不定期開催）

廿日市役所、佐伯中央農協、近隣病院などのサッカー部の方々と、不定期で練習試合を行っています。



(試合に臨む選手たち)

●エンジョイ8リーグ

廿日市サッカー協会主催の社会人リーグに参加しています。8人制（ハーフコート）で1試合20分3本を戦い、1年間の総勝点で順位を決定します。

●2014年度総括

エンジョイ8リーグでは、終板に失速してしまい2013年度よりも順位を落とし4位でシーズンを終了しました。2015年シーズンこそは優勝目指してがんばります。

■クラブアピール

●サッカーが好きな人、やっていた人、やってみたい人、運動がしたい人、どんな方でもいつでも大歓迎です。経験の有無は問いません。

一緒に楽しみましょう!!

●不定期で交流会も開催し、団結を深めています。

《おまけ》

●サッカー部では、ここ数年マネージャー（またの名を勝利の女神）が不在となっています。

試合時の飲み物の準備など、各選手が持ち回りで行っています。

選手をサポートしてくださる方、一緒にサッカーを楽しめる方を大募集しています。



バスケットボール部



■クラブ概要

- ・チーム名：Comattus（チーム登録は男子のみ）
- ・部員（職種）
医師、看護師、放射線技師、臨床工学技士、
薬剤師、社会福祉士、事務
- ・部員数：20 名程度

■活動内容

- ・練習場所：阿品台中学校
- ・日時：毎週木曜日
- ・時間：19 時 30 分～ 21 時 30 分



■クラブアピール

JA 広島総合病院のバスケットボール部は、2012 年に発足し活動を続けています。活動はほぼ毎週行っており、みんな仲良く和気あいあいとした雰囲気の中、楽しくバスケットをしています。バスケットは経験者でないと難しそう…。しんどそう…。というイメージ

ジを持たれている方は多くいらっしゃるのではないのでしょうか。部員の中には、経験者はもちろん、初心者の方もいます。なので、最近運動不足だからちょっと運動してみよう、体を動かしてストレスを発散しよう、なんて軽い気持ちで参加してみてください。そうしたら、きっといつのまにかバスケットが好きになっているはず！（多分ですが）男子はチーム登録をしており、大会にも出場しています。

現在も経験・男女問わず部員を募集しています。また、バスケット以外にも楽しいことが大好きな私たちは、「交流会」という名の、飲み会も行っています。私たちと一緒に楽しくバスケットをしませんか？まずは、気軽に遊びに来てみてください。

バスケット部に参加するのを諦めたら、そこで試合終了ですよ。ほほほ。

■年間行事

- 7 月：夏のレクリエーション
- 8 月：3on3 大会
- 12 月：忘年会
- 1 月：男子公式試合
- 3 月：送別会
- わぁ交流会がいっぱい♪



■ Annual Report 2014 2014年(平成26年)度 年 報 ■

資 料

診療科別外来患者数

平成 26 年度 月別外来患者数 (4～7 月)

科 別	4 月 (診療日数 21 日)				5 月 (診療日数 20 日)			
	旧患	新患	計	1 日当	旧患	新患	計	1 日当
内 科	5,062	618	5,680	270.5	4,737	602	5,339	267.0
（呼 吸 器 内 科）	574	87	661	31.5	591	80	671	33.6
（循 環 器 内 科）	997	163	1,160	55.2	1,008	143	1,151	57.6
（腎 臓 内 科）	736	49	785	37.4	708	36	744	37.2
（糖 尿 病 内 科）	1,283	78	1,361	64.8	1,088	95	1,183	59.2
（消 化 器 内 科）	1,358	226	1,584	75.4	1,261	231	1,492	74.6
（神 経 内 科）	86	0	86	4.1	50	0	50	2.5
（緩 和 ケ ア 科）	14	0	14	0.7	14	0	14	0.7
（総 合 診 療 科）	14	15	29	1.4	17	17	34	1.7
精 神 科 ・ 心 療 内 科	34	15	49	2.3	34	11	45	2.3
小 児 科	762	111	873	41.6	737	154	891	44.6
外 科	1,143	100	1,243	59.2	1,136	89	1,225	61.3
乳 腺 外 科	338	36	374	17.8	338	39	377	18.9
整 形 外 科	1,344	223	1,567	74.6	1,411	229	1,640	82.0
形 成 外 科	134	30	164	7.8	157	16	173	8.7
脳 神 経 外 科	1,291	159	1,450	69.0	1,193	163	1,356	67.8
呼 吸 器 外 科	158	34	192	9.1	165	32	197	9.9
心 臓 ・ 血 管 外 科	341	49	390	18.6	361	48	409	20.5
皮 膚 科	1,471	258	1,729	82.3	1,484	249	1,733	86.7
泌 尿 器 科	1,626	111	1,737	82.7	1,711	124	1,835	91.8
産 婦 人 科	1,069	139	1,208	57.5	1,119	130	1,249	62.5
眼 科	834	111	945	45.0	867	75	942	47.1
耳 鼻 咽 喉 科	693	214	907	43.2	639	218	857	42.9
放 射 線 治 療 科	818	18	836	39.8	820	22	842	42.1
麻 酔 科	92	286	378	18.0	99	279	378	18.9
救 急 科	75	55	130	6.2	56	57	113	5.7
画 像 診 断 部	3	114	117	5.6	11	105	116	5.8
歯 科 口 腔 外 科	495	152	647	30.8	477	152	629	31.5
計	17,783	2,833	20,616	981.7	17,552	2,794	20,346	1,017.3
栗 谷 診 療 所	51	5	56	2.7	57	2	59	3.0
合 計	17,834	2,838	20,672	984.4	17,609	2,796	20,405	1,020.3

科 別	6 月 (診療日数 21 日)				7 月 (診療日数 22 日)			
	旧患	新患	計	1 日当	旧患	新患	計	1 日当
内 科	4,973	648	5,621	267.7	5,265	704	5,969	271.3
（呼 吸 器 内 科）	578	97	675	32.1	655	90	745	33.9
（循 環 器 内 科）	972	177	1,149	54.7	1,068	171	1,239	56.3
（腎 臓 内 科）	664	39	703	33.5	713	43	756	34.4
（糖 尿 病 内 科）	1,311	69	1,380	65.7	1,308	100	1,408	64.0
（消 化 器 内 科）	1,382	238	1,620	77.1	1,451	281	1,732	78.7
（神 経 内 科）	46	8	54	2.6	50	0	50	2.3
（緩 和 ケ ア 科）	8	0	8	0.4	13	0	13	0.6
（総 合 診 療 科）	12	20	32	1.5	7	19	26	1.2
精 神 科 ・ 心 療 内 科	29	15	44	2.1	37	11	48	2.2
小 児 科	744	101	845	40.2	740	118	858	39.0
外 科	1,276	78	1,354	64.5	1,143	98	1,241	56.4
乳 腺 外 科	390	40	430	20.5	417	70	487	22.1
整 形 外 科	1,362	247	1,609	76.6	1,444	276	1,720	78.2
形 成 外 科	94	11	105	5.0	77	12	89	4.0
脳 神 経 外 科	1,366	164	1,530	72.9	1,312	190	1,502	68.3
呼 吸 器 外 科	198	71	269	12.8	193	49	242	11.0
心 臓 ・ 血 管 外 科	313	53	366	17.4	384	48	432	19.6
皮 膚 科	1,492	242	1,734	82.6	1,680	269	1,949	88.6
泌 尿 器 科	1,807	124	1,931	92.0	1,662	128	1,790	81.4
産 婦 人 科	1,084	126	1,210	57.6	1,171	162	1,333	60.6
眼 科	881	91	972	46.3	877	87	964	43.8
耳 鼻 咽 喉 科	699	234	933	44.4	721	260	981	44.6
放 射 線 治 療 科	783	59	842	40.1	647	49	696	31.6
麻 酔 科	103	285	388	18.5	119	306	425	19.3
救 急 科	58	113	171	8.1	52	192	244	11.1
画 像 診 断 部	6	106	112	5.3	12	140	152	6.9
歯 科 口 腔 外 科	488	158	646	30.8	607	152	759	34.5
計	18,146	2,966	21,112	1,005.3	18,560	3,321	21,881	994.6
栗 谷 診 療 所	59	2	61	2.9	50	1	51	2.3
合 計	18,205	2,968	21,173	1,008.2	18,610	3,322	21,932	996.9

平成 26 年度 月別外来患者数 (8～11月)

科 別	8月(診療日数 21 日)				9月(診療日数 20 日)			
	旧患	新患	計	1 日当	旧患	新患	計	1 日当
内 科	4,760	579	5,339	254.2	4,823	744	5,567	278.4
(呼吸器内科)	591	103	694	33.0	630	101	731	36.6
(循環器内科)	949	120	1,069	50.9	987	181	1,168	58.4
(腎臓内科)	632	31	663	31.6	579	42	621	31.1
(糖尿病内科)	1,300	69	1,369	65.2	1,153	92	1,245	62.3
(消化器内科)	1,236	241	1,477	70.3	1,392	303	1,695	84.8
(神経内科)	30	0	30	1.4	62	4	66	3.3
(緩和ケア科)	15	0	15	0.7	10	0	10	0.5
(総合診療科)	7	15	22	1.0	10	21	31	1.6
精神科・心療内科	22	16	38	1.8	51	18	69	3.5
小 児 科	716	121	837	39.9	851	124	975	48.8
外 科	1,053	76	1,129	53.8	1,333	97	1,430	71.5
乳 腺 外 科	332	39	371	17.7	403	52	455	22.8
整 形 外 科	1,326	230	1,556	74.1	1,433	249	1,682	84.1
形 成 外 科	121	22	143	6.8	91	24	115	5.8
脳 神 経 外 科	1,113	172	1,285	61.2	1,214	206	1,420	71.0
呼 吸 器 外 科	155	35	190	9.0	196	55	251	12.6
心 臓 ・ 血 管 外 科	318	51	369	17.6	382	51	433	21.7
皮 膚 科	1,522	283	1,805	86.0	1,586	273	1,859	93.0
泌 尿 器 科	1,540	119	1,659	79.0	1,914	143	2,057	102.9
産 婦 人 科	995	191	1,186	56.5	1,213	147	1,360	68.0
眼 科	799	99	898	42.8	881	83	964	48.2
耳 鼻 咽 喉 科	582	215	797	38.0	686	204	890	44.5
放 射 線 治 療 科	737	13	750	35.7	548	20	568	28.4
麻 酔 科	99	290	389	18.5	85	312	397	19.9
救 急 科	59	208	267	12.7	39	186	225	11.3
画 像 診 断 部	10	111	121	5.8	8	122	130	6.5
歯 科 口 腔 外 科	496	126	622	29.6	510	153	663	33.2
計	16,755	2,996	19,751	940.5	18,247	3,263	21,510	1,075.5
栗 谷 診 療 所	56	1	57	2.7	58	0	58	2.9
合 計	16,811	2,997	19,808	943.2	18,305	3,263	21,568	1,078.4

科 別	10月(診療日数 22 日)				11月(診療日数 18 日)			
	旧患	新患	計	1 日当	旧患	新患	計	1 日当
内 科	5,421	804	6,225	283.0	4,544	638	5,182	287.9
(呼吸器内科)	575	125	700	31.8	536	100	636	35.3
(循環器内科)	1,037	181	1,218	55.4	879	155	1,034	57.4
(腎臓内科)	712	52	764	34.7	583	38	621	34.5
(糖尿病内科)	1,385	116	1,501	68.2	1,167	81	1,248	69.3
(消化器内科)	1,630	311	1,941	88.2	1,331	246	1,577	87.6
(神経内科)	52	3	55	2.5	30	2	32	1.8
(緩和ケア科)	18	0	18	0.8	5	0	5	0.3
(総合診療科)	12	16	28	1.3	13	16	29	1.6
精神科・心療内科	53	19	72	3.3	45	9	54	3.0
小 児 科	925	112	1,037	47.1	817	110	927	51.5
外 科	1,312	115	1,427	64.8	1,026	77	1,103	61.3
乳 腺 外 科	436	55	491	22.3	357	56	413	22.9
整 形 外 科	1,582	274	1,856	84.4	1,263	203	1,466	81.4
形 成 外 科	105	42	147	6.7	81	11	92	5.1
脳 神 経 外 科	1,216	168	1,384	62.9	987	162	1,149	63.8
呼 吸 器 外 科	204	45	249	11.3	181	38	219	12.2
心 臓 ・ 血 管 外 科	381	39	420	19.1	366	32	398	22.1
皮 膚 科	1,797	271	2,068	94.0	1,457	212	1,669	92.7
泌 尿 器 科	1,857	118	1,975	89.8	1,594	99	1,693	94.1
産 婦 人 科	1,291	157	1,448	65.8	1,108	132	1,240	68.9
眼 科	926	89	1,015	46.1	783	91	874	48.6
耳 鼻 咽 喉 科	721	230	951	43.2	593	225	818	45.4
放 射 線 治 療 科	814	23	837	38.0	671	15	686	38.1
麻 酔 科	87	343	430	19.5	92	269	361	20.1
救 急 科	59	178	237	10.8	42	203	245	13.6
画 像 診 断 部	7	133	140	6.4	5	111	116	6.4
歯 科 口 腔 外 科	526	173	699	31.8	494	135	629	34.9
計	19,720	3,388	23,108	1,050.4	16,506	2,828	19,334	1,074.1
栗 谷 診 療 所	62	1	63	2.9	49	2	51	2.8
合 計	19,782	3,389	23,171	1,053.2	16,555	2,830	19,385	1,076.9

平成 26 年度 月別外来患者数 (12～3月)

科 別	12 月 (診療日数 20 日)				1 月 (診療日数 19 日)			
	旧患	新患	計	1 日当	旧患	新患	計	1 日当
内 科	5,000	675	5,675	283.8	4,784	636	5,420	285.3
（呼 吸 器 内 科）	590	93	683	34.2	601	89	690	36.3
（循 環 器 内 科）	963	154	1,117	55.9	925	139	1,064	56.0
（腎 臓 内 科）	628	36	664	33.2	644	40	684	36.0
（糖 尿 病 内 科）	1,319	94	1,413	70.7	1,204	100	1,304	68.6
（消 化 器 内 科）	1,398	275	1,673	83.7	1,347	252	1,599	84.2
（神 経 内 科）	78	1	79	4.0	47	2	49	2.6
（緩 和 ケ ア 科）	8	0	8	0.4	6	0	6	0.3
（総 合 診 療 科）	16	22	38	1.9	10	14	24	1.3
精 神 科・心 療 内 科	47	12	59	3.0	34	9	43	2.3
小 児 科	919	124	1,043	52.2	737	123	860	45.3
外 科	1,256	96	1,352	67.6	1,132	76	1,208	63.6
乳 腺 外 科	393	58	451	22.6	396	33	429	22.6
整 形 外 科	1,459	256	1,715	85.8	1,299	206	1,505	79.2
形 成 外 科	91	16	107	5.4	81	34	115	6.1
脳 神 経 外 科	1,251	174	1,425	71.3	1,011	171	1,182	62.2
呼 吸 器 外 科	200	31	231	11.6	164	32	196	10.3
心 臓・血 管 外 科	362	37	399	20.0	338	41	379	19.9
皮 膚 科	1,539	224	1,763	88.2	1,433	206	1,639	86.3
泌 尿 器 科	1,991	120	2,111	105.6	1,614	123	1,737	91.4
産 婦 人 科	1,181	134	1,315	65.8	1,121	118	1,239	65.2
眼 科	848	87	935	46.8	756	88	844	44.4
耳 鼻 咽 喉 科	733	200	933	46.7	614	205	819	43.1
放 射 線 治 療 科	576	29	605	30.3	467	21	488	25.7
麻 酔 科	86	321	407	20.4	91	309	400	21.1
救 急 科	44	198	242	12.1	70	239	309	16.3
画 像 診 断 部	7	93	100	5.0	1	90	91	4.8
歯 科 口 腔 外 科	555	145	700	35.0	526	131	657	34.6
計	18,538	3,030	21,568	1,078.4	16,669	2,891	19,560	1,029.5
栗 谷 診 療 所	61	3	64	3.2	59	5	64	3.4
合 計	18,599	3,033	21,632	1,081.6	16,728	2,896	19,624	1,032.8

科 別	2 月 (診療日数 19 日)				3 月 (診療日数 22 日)			
	旧患	新患	計	1 日当	旧患	新患	計	1 日当
内 科	4,662	664	5,326	280.3	5,270	746	6,016	273.5
（呼 吸 器 内 科）	540	82	622	32.7	625	113	738	33.5
（循 環 器 内 科）	939	165	1,104	58.1	1,013	176	1,189	54.0
（腎 臓 内 科）	623	49	672	35.4	675	56	731	33.2
（糖 尿 病 内 科）	1,242	91	1,333	70.2	1,383	97	1,480	67.3
（消 化 器 内 科）	1,229	254	1,483	78.1	1,474	285	1,759	80.0
（神 経 内 科）	54	2	56	2.9	62	1	63	2.9
（緩 和 ケ ア 科）	9	0	9	0.5	15	0	15	0.7
（総 合 診 療 科）	26	21	47	2.5	23	18	41	1.9
精 神 科・心 療 内 科	47	17	64	3.4	59	22	81	3.7
小 児 科	769	101	870	45.8	945	178	1,123	51.0
外 科	1,105	80	1,185	62.4	1,286	70	1,356	61.6
乳 腺 外 科	374	45	419	22.1	455	59	514	23.4
整 形 外 科	1,384	209	1,593	83.8	1,458	212	1,670	75.9
形 成 外 科	81	12	93	4.9	115	10	125	5.7
脳 神 経 外 科	998	199	1,197	63.0	1,339	182	1,521	69.1
呼 吸 器 外 科	196	16	212	11.2	220	41	261	11.9
心 臓・血 管 外 科	329	26	355	18.7	418	43	461	21.0
皮 膚 科	1,466	210	1,676	88.2	1,607	264	1,871	85.0
泌 尿 器 科	1,654	132	1,786	94.0	2,081	120	2,201	100.0
産 婦 人 科	1,064	119	1,183	62.3	1,199	137	1,336	60.7
眼 科	740	104	844	44.4	840	107	947	43.0
耳 鼻 咽 喉 科	545	215	760	40.0	657	228	885	40.2
放 射 線 治 療 科	679	20	699	36.8	705	58	763	34.7
麻 酔 科	74	294	368	19.4	65	306	371	16.9
救 急 科	56	169	225	11.8	63	185	248	11.3
画 像 診 断 部	19	84	103	5.4	15	118	133	6.0
歯 科 口 腔 外 科	517	153	670	35.3	542	161	703	32.0
計	16,759	2,869	19,628	1,033.1	19,339	3,247	22,586	1,026.6
栗 谷 診 療 所	58	1	59	3.1	57	1	58	2.6
合 計	16,817	2,870	19,687	1,036.2	19,396	3,248	22,644	1,029.3

診療科別入院患者数

平成 26 年度 月別入院患者数 (4～7 月)

科 別	4 月 (診療日数 30 日)				5 月 (診療日数 31 日)			
	入院	退院	計	1 日当	入院	退院	計	1 日当
内 科	261	296	4,538	151.3	240	299	4,120	132.9
(呼吸器内科)	40	53	897	29.9	32	43	865	27.9
(循環器内科)	75	71	1,134	37.8	60	82	848	27.4
(腎臓内科)	23	36	724	24.1	23	26	599	19.3
(糖尿病内科)	7	11	156	5.2	11	14	136	4.4
(消化器内科)	114	119	1,508	50.3	113	127	1,613	52.0
(神経内科)	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
(緩和ケア科)	2	6	119	4.0	1	7	59	1.9
(総合診療科)	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
精神科・心療内科	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
小 児 科	73	72	480	16.0	67	74	452	14.6
外 科	94	106	1,316	43.9	100	105	1,588	51.2
乳 腺 外 科	12	10	55	1.8	14	14	75	2.4
整 形 外 科	102	103	1,425	47.5	123	123	1,597	51.5
形 成 外 科	4	5	11	0.4	5	4	28	0.9
脳 神 経 外 科	50	62	1,277	42.6	46	56	1,221	39.4
呼 吸 器 外 科	22	24	355	11.8	17	16	297	9.6
心 臓・血 管 外 科	27	34	812	27.1	26	29	943	30.4
皮 膚 外 科	21	19	261	8.7	15	13	234	7.5
泌 尿 器 科	67	84	841	28.0	73	72	813	26.2
産 婦 人 科	103	104	759	25.3	102	103	861	27.8
眼 科	37	34	112	3.7	44	49	103	3.3
耳 鼻 咽 喉 科	37	41	439	14.6	32	35	456	14.7
放 射 線 治 療 科	2	4	94	3.1	5	3	178	5.7
麻 酔 科	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
救 急 断 科	112	47	323	10.8	142	56	321	10.4
画 像 診 断 部	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
歯 科 口 腔 外 科	11	10	153	5.1	11	13	99	3.2
合 計	1,035	1,055	13,251	441.7	1,062	1,064	13,386	431.8

科 別	6 月 (診療日数 30 日)				7 月 (診療日数 31 日)			
	入院	退院	計	1 日当	入院	退院	計	1 日当
内 科	266	304	4,147	138.2	287	284	4,187	135.1
(呼吸器内科)	33	55	799	26.6	38	54	719	23.2
(循環器内科)	67	69	754	25.1	63	58	898	29.0
(腎臓内科)	18	20	563	18.8	25	27	602	19.4
(糖尿病内科)	11	12	156	5.2	13	8	178	5.7
(消化器内科)	135	145	1,804	60.1	147	133	1,719	55.5
(神経内科)	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
(緩和ケア科)	2	3	71	2.4	1	4	71	2.3
(総合診療科)	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
精神科・心療内科	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
小 児 科	53	57	336	11.2	50	52	322	10.4
外 科	84	99	1,289	43.0	94	106	1,465	47.3
乳 腺 外 科	18	19	119	4.0	15	14	112	3.6
整 形 外 科	100	118	1,335	44.5	117	120	1,521	49.1
形 成 外 科	0	1	0	0.0	0	0	0	0.0
脳 神 経 外 科	50	62	1,254	41.8	56	55	1,204	38.8
呼 吸 器 外 科	27	25	479	16.0	18	27	350	11.3
心 臓・血 管 外 科	29	32	807	26.9	31	33	890	28.7
皮 膚 外 科	16	18	269	9.0	15	13	254	8.2
泌 尿 器 科	75	75	738	24.6	70	83	779	25.1
産 婦 人 科	95	93	889	29.6	99	110	906	29.2
眼 科	36	32	91	3.0	43	39	79	2.5
耳 鼻 咽 喉 科	35	36	364	12.1	45	49	376	12.1
放 射 線 治 療 科	7	5	221	7.4	8	6	320	10.3
麻 酔 科	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
救 急 断 科	119	44	321	10.7	146	70	387	12.5
画 像 診 断 部	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
歯 科 口 腔 外 科	14	12	118	3.9	13	15	157	5.1
合 計	1,024	1,032	12,777	425.9	1,107	1,076	13,309	429.3

資料

平成 26 年度 月別入院患者数 (8～11月)

科 別	8月(診療日数 31日)				9月(診療日数 30日)			
	入院	退院	計	1日当	入院	退院	計	1日当
内 科	254	321	4,271	137.8	272	285	4,386	146.2
(呼吸器内科)	33	37	678	21.9	40	51	786	26.2
(循環器内科)	68	88	922	29.7	67	61	820	27.3
(腎臓内科)	23	29	635	20.5	18	19	645	21.5
(糖尿病内科)	11	13	194	6.3	17	12	306	10.2
(消化器内科)	117	152	1,807	58.3	125	138	1,772	59.1
(神経内科)	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
(緩和ケア科)	2	2	35	1.1	5	4	57	1.9
(総合診療科)	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
精神科・心療内科	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
小 児 科	59	53	279	9.0	72	77	389	13.0
外 科	97	106	1,525	49.2	104	119	1,487	49.6
乳 腺 外 科	11	11	105	3.4	15	15	120	4.0
整 形 外 科	119	128	1,702	54.9	122	134	1,546	51.5
形 成 外 科	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
脳 神 経 外 科	39	53	1,324	42.7	57	68	1,464	48.8
呼 吸 器 外 科	22	23	407	13.1	19	18	286	9.5
心 臓・血 管 外 科	25	33	819	26.4	33	29	799	26.6
皮 膚 科	15	13	331	10.7	15	20	394	13.1
泌 尿 器 科	57	67	518	16.7	69	70	629	21.0
産 婦 人 科	101	94	804	25.9	106	106	987	32.9
眼 科	41	47	101	3.3	39	37	111	3.7
耳 鼻 咽 喉 科	40	38	374	12.1	39	39	330	11.0
放 射 線 治 療 科	2	5	301	9.7	1	7	157	5.2
麻 酔 科	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
救 急 科	165	65	422	13.6	130	53	301	10.0
画 像 診 断 部	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
歯 科 口 腔 外 科	10	11	103	3.3	10	10	127	4.2
合 計	1,057	1,068	13,386	431.8	1,103	1,087	13,513	450.4

科 別	10月(診療日数 31日)				11月(診療日数 30日)			
	入院	退院	計	1日当	入院	退院	計	1日当
内 科	283	352	4,479	144.5	267	312	4,311	143.7
(呼吸器内科)	38	51	683	22.0	34	44	832	27.7
(循環器内科)	59	80	946	30.5	47	55	709	23.6
(腎臓内科)	25	28	657	21.2	23	25	767	25.6
(糖尿病内科)	17	19	281	9.1	10	22	267	8.9
(消化器内科)	140	163	1,766	57.0	153	160	1,672	55.7
(神経内科)	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
(緩和ケア科)	4	11	146	4.7	0	6	64	2.1
(総合診療科)	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
精神科・心療内科	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
小 児 科	71	64	363	11.7	75	75	466	15.5
外 科	105	108	1,687	54.4	113	116	1,826	60.9
乳 腺 外 科	15	14	121	3.9	10	13	103	3.4
整 形 外 科	137	155	1,684	54.3	94	110	1,550	51.7
形 成 外 科	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
脳 神 経 外 科	52	59	1,353	43.6	40	48	1,284	42.8
呼 吸 器 外 科	19	20	388	12.5	19	24	421	14.0
心 臓・血 管 外 科	26	33	864	27.9	29	36	804	26.8
皮 膚 科	14	18	265	8.5	16	18	201	6.7
泌 尿 器 科	86	93	702	22.6	62	67	575	19.2
産 婦 人 科	100	104	894	28.8	103	104	831	27.7
眼 科	47	50	120	3.9	30	29	92	3.1
耳 鼻 咽 喉 科	42	48	435	14.0	36	39	458	15.3
放 射 線 治 療 科	4	1	103	3.3	4	3	168	5.6
麻 酔 科	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
救 急 科	161	47	327	10.5	153	54	513	17.1
画 像 診 断 部	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
歯 科 口 腔 外 科	17	13	215	6.9	14	18	218	7.3
合 計	1,179	1,179	14,000	451.6	1,065	1,066	13,821	460.7

平成 26 年度 月別入院患者数 (12～3月)

科 別	12 月 (診療日数 31 日)				1 月 (診療日数 31 日)			
	入院	退院	計	1 日当	入院	退院	計	1 日当
内 科	265	351	4,358	140.6	280	296	4,560	147.1
（呼吸器内科）	38	57	938	30.3	48	63	868	28.0
（循環器内科）	59	70	897	28.9	57	63	954	30.8
（腎臓内科）	17	31	643	20.7	23	22	606	19.5
（糖尿病内科）	15	12	211	6.8	13	13	261	8.4
（消化器内科）	134	180	1,615	52.1	138	127	1,778	57.4
（神経内科）	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
（緩和ケア科）	2	1	54	1.7	1	8	93	3.0
（総合診療科）	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
精神科・心療内科	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
小 児 科	78	80	422	13.6	65	69	371	12.0
外 科	98	121	1,853	59.8	86	97	1,898	61.2
乳 腺 外 科	13	15	123	4.0	20	18	144	4.6
整 形 外 科	109	138	1,492	48.1	105	102	1,331	42.9
形 成 外 科	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
脳 神 経 外 科	56	73	1,323	42.7	37	38	1,363	44.0
呼 吸 器 外 科	13	15	304	9.8	17	20	436	14.1
心 臓 ・ 血 管 外 科	25	30	937	30.2	34	29	1,061	34.2
皮 膚 外 科	9	14	147	4.7	20	9	219	7.1
泌 尿 器 科	70	81	793	25.6	69	65	758	24.5
産 婦 人 科	98	101	854	27.5	96	90	816	26.3
眼 科	36	37	98	3.2	43	43	108	3.5
耳 鼻 咽 喉 科	34	37	383	12.4	37	33	380	12.3
放 射 線 治 療 科	2	6	163	5.3	3	5	136	4.4
麻 酔 科	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
救 急 科	135	39	544	17.5	160	61	621	20.0
画 像 診 断 部	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
歯 科 口 腔 外 科	12	15	102	3.3	5	1	45	1.5
合 計	1,053	1,153	13,896	448.3	1,077	976	14,247	459.6

科 別	2 月 (診療日数 28 日)				3 月 (診療日数 31 日)			
	入院	退院	計	1 日当	入院	退院	計	1 日当
内 科	252	288	4,564	163.0	275	351	5,132	165.5
（呼吸器内科）	34	40	911	32.5	38	57	1,035	33.4
（循環器内科）	63	60	998	35.6	68	89	1,173	37.8
（腎臓内科）	21	26	620	22.1	30	32	882	28.5
（糖尿病内科）	10	10	230	8.2	11	12	255	8.2
（消化器内科）	122	149	1,755	62.7	128	156	1,734	55.9
（神経内科）	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
（緩和ケア科）	2	3	50	1.8	0	5	53	1.7
（総合診療科）	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
精神科・心療内科	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
小 児 科	63	58	332	11.9	77	73	453	14.6
外 科	95	107	1,570	56.1	94	107	1,624	52.4
乳 腺 外 科	17	17	115	4.1	17	17	124	4.0
整 形 外 科	98	112	1,297	46.3	113	116	1,334	43.0
形 成 外 科	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
脳 神 経 外 科	35	55	1,346	48.1	50	57	1,450	46.8
呼 吸 器 外 科	17	16	293	10.5	25	22	518	16.7
心 臓 ・ 血 管 外 科	23	28	905	32.3	30	36	872	28.1
皮 膚 外 科	14	18	331	11.8	10	13	266	8.6
泌 尿 器 科	78	72	833	29.8	77	88	979	31.6
産 婦 人 科	97	97	852	30.4	106	114	828	26.7
眼 科	41	38	102	3.6	35	37	115	3.7
耳 鼻 咽 喉 科	39	36	441	15.8	45	47	451	14.5
放 射 線 治 療 科	5	5	155	5.5	7	5	159	5.1
麻 酔 科	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
救 急 科	129	50	437	15.6	157	45	382	12.3
画 像 診 断 部	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
歯 科 口 腔 外 科	8	8	114	4.1	11	12	125	4.0
合 計	1,011	1,005	13,687	488.8	1,129	1,140	14,812	477.8

患者数の推移

年度別外来患者数

年 度	平成 23 年度（診療日数 244 日）				平成 24 年度（診療日数 244 日）				平成 25 年度（診療日数 243 日）				平成 26 年度（診療日数 245 日）			
科 別	旧患	新患	計	1 日当	旧患	新患	計	1 日当	旧患	新患	計	1 日当	旧患	新患	計	1 日当
内 科	52,920	7,513	60,433	247.7	59,736	7,752	67,488	276.6	61,915	7,617	69,532	286.1	59,301	8,058	67,359	274.9
精神科・心療内科	1,052	256	1,308	5.4	915	233	1,148	4.7	455	194	649	2.7	492	174	666	2.7
小 児 科	8,761	1,707	10,468	42.9	9,575	1,669	11,244	46.1	9,734	1,510	11,244	46.3	9,662	1,477	11,139	45.5
外科・乳腺外科	17,175	1,598	18,773	76.9	18,616	1,778	20,394	83.6	17,685	1,824	19,509	80.3	18,830	1,634	20,464	83.5
整 形 外 科	10,071	2,158	12,229	50.1	13,018	2,297	15,315	62.8	14,461	2,543	17,004	70.0	16,765	2,814	19,579	79.9
形 成 外 科					779	250	1,029	4.2	1,346	292	1,638	6.7	1,228	240	1,468	6.0
脳 神 経 外 科	14,645	2,109	16,754	68.7	15,369	2,061	17,430	71.4	17,531	2,113	19,644	80.8	14,291	2,110	16,401	66.9
呼 吸 器 外 科	2,523	222	2,745	11.3	2,589	326	2,915	11.9	2,514	378	2,892	11.9	2,230	479	2,709	11.1
心臓・血管外科	4,366	408	4,774	19.6	5,100	450	5,550	22.7	4,468	464	4,932	20.3	4,293	518	4,811	19.6
皮 膚 科	19,582	2,820	22,402	91.8	17,399	2,899	20,298	83.2	18,261	3,267	21,528	88.6	18,534	2,961	21,495	87.7
泌 尿 器 科	17,428	1,481	18,909	77.5	19,781	1,684	21,465	88.0	21,192	1,451	22,643	93.2	21,051	1,461	22,512	91.9
産 婦 人 科	12,300	1,583	13,883	56.9	11,833	1,562	13,395	54.9	12,667	1,584	14,251	58.6	13,615	1,692	15,307	62.5
眼 科	9,087	1,071	10,158	41.6	9,503	1,145	10,648	43.6	9,991	1,120	11,111	45.7	10,032	1,112	11,144	45.5
耳 鼻 咽 喉 科	8,777	2,652	11,429	46.8	9,169	2,700	11,869	48.6	8,675	2,632	11,307	46.5	7,883	2,648	10,531	43.0
放射線治療科	9,365	268	9,633	39.5	9,367	267	9,634	39.5	8,968	281	9,249	38.1	8,265	347	8,612	35.2
麻 酔 科	1,320	3,330	4,650	19.1	1,823	3,991	5,814	23.8	2,309	4,459	6,768	27.9	1,092	3,600	4,692	19.2
救 急 科									130	124	254	1.0	673	1,983	2,656	10.8
画 像 診 断 部	14,471	5,318	19,789	81.1	4,874	2,284	7,158	29.3	741	877	1,618	6.7	104	1,327	1,431	5.8
歯科口腔外科	4,360	1,641	6,001	24.6	4,535	1,681	6,216	25.5	5,353	1,785	7,138	29.4	6,233	1,791	8,024	32.8
計	208,203	36,135	244,338	1,001.4	213,981	35,029	249,010	1,020.4	218,396	34,515	252,911	1,040.8	214,574	36,426	251,000	1,024.5
栗谷診療所	915	23	938	3.8	866	23	889	3.6	714	17	731	3.0	677	24	701	2.9
合 計	209,118	36,158	245,276	1,005.2	214,847	35,052	249,899	1,024	219,110	34,532	253,642	1,043.8	215,251	36,450	251,701	1,027.4

年度別入院患者数

年 度	平成 23 年度（診療日数 366 日）				平成 24 年度（診療日数 365 日）				平成 25 年度（診療日数 365 日）				平成 26 年度（診療日数 365 日）			
科 別	旧患	新患	計	1 日当	旧患	新患	計	1 日当	旧患	新患	計	1 日当	旧患	新患	計	1 日当
内 科	3,493	3,562	53,293	145.6	3,258	3,577	52,978	144.7	3,104	3,639	55,182	151.2	3,202	3,739	53,053	145.0
精神科・心療内科	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
小 児 科	915	913	5,854	16.0	867	872	5,688	15.5	852	855	5,680	15.6	803	804	4,665	12.8
外科・乳腺外科	1,299	1,390	20,334	55.6	1,313	1,400	20,638	56.4	1,292	1,380	18,467	50.6	1,341	1,474	20,444	56.0
整 形 外 科	1,012	1,063	15,598	42.6	1,159	1,230	16,895	46.2	1,196	1,276	15,424	42.3	1,339	1,459	17,814	48.8
形 成 外 科	0	0	0	0.0	45	47	245	0.7	45	44	312	0.9	9	10	39	0.1
脳 神 経 外 科	475	556	13,414	36.7	563	644	13,643	37.3	581	672	14,314	39.2	568	686	15,863	43.5
呼 吸 器 外 科	273	276	3,970	10.8	270	289	4,923	13.5	246	270	4,331	11.9	235	250	4,534	12.4
心臓・血管外科	317	337	8,721	23.8	336	362	8,430	23.0	260	294	8,986	24.6	338	382	10,513	28.8
皮 膚 科	199	208	2,319	6.3	162	173	2,236	6.1	188	194	2,461	6.7	180	186	3,172	8.7
泌 尿 器 科	808	833	6,558	17.9	872	917	7,912	21.6	882	918	8,433	23.1	853	917	8,958	24.5
産 婦 人 科	1,108	1,099	8,648	23.6	1,032	1,056	7,662	20.9	1,160	1,148	9,783	26.8	1,206	1,220	10,281	28.2
眼 科	481	485	1,326	3.6	480	481	1,256	3.4	441	439	1,198	3.3	472	472	1,232	3.4
耳 鼻 咽 喉 科	518	538	5,743	15.7	499	515	6,226	17.0	473	492	5,846	16.0	461	478	4,887	13.4
放射線治療科	54	60	1,410	3.9	70	72	1,926	5.3	54	54	1,553	4.3	50	55	2,155	5.9
麻 酔 科	988	633	6,371	17.4	1,293	557	4,472	12.2	1,381	613	5,389	14.8	0	0	0	0.0
救 急 科									235	76	799	2.2	1,709	631	4,899	13.4
画 像 診 断 部	3	3	30	0.1	1	1	8	0.0	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
歯科口腔外科	101	105	1,333	3.6	105	103	1,377	3.8	100	99	1,261	3.5	136	138	1,576	4.3
合 計	12,044	12,061	154,922	423.3	12,325	12,296	156,515	428.8	12,490	12,463	159,419	436.8	12,902	12,901	164,085	449.5

平均在院日数

平成 26 年度 月別 診療科別 平均在院日数

(単位: 日数)

科別	月別	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
内科		17.8	16.8	15.8	16.3	16.8	17.5	15.3	16.9	15.8	17.6	18.7	17.9
小児科		6.8	6.6	6.2	6.3	5.4	5.7	5.6	6.6	5.7	6.1	6.2	6.5
外科		12.9	16.4	14.4	14.4	15.5	13.7	16.7	16.3	16.6	20.0	15.3	16.5
整形外科		13.9	13.2	12.6	12.6	14.4	12.3	11.7	15.7	12.6	13.1	12.9	11.3
形成外科		2.4	6.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
脳神経外科		23.3	23.3	22.5	21.6	28.1	24.4	25.0	28.8	20.8	36.9	29.6	28.5
産婦人科		9.0	10.6	11.7	10.6	9.1	11.5	10.0	8.9	10.1	11.3	11.1	9.2
皮膚科		12.1	16.5	14.1	16.0	21.1	20.0	16.8	10.9	13.4	15.1	20.7	21.9
泌尿器科		14.6	13.5	12.2	14.3	10.4	11.3	11.0	11.8	13.9	15.6	14.9	15.5
眼科		4.7	4.7	0.9	0.9	0.8	3.6	4.0	4.9	0.2	0.3	0.4	3.8
耳鼻咽喉科		11.3	13.9	10.4	8.0	9.7	8.5	9.6	12.2	10.8	10.9	11.8	9.8
歯科口腔外科		14.6	8.3	9.1	11.0	9.8	12.7	14.3	13.4	7.6	16.0	14.1	10.4
救急科・麻酔科		4.4	3.4	4.1	3.8	3.5	3.2	3.0	4.7	6.3	5.5	4.9	3.8
放射線治療科		34.8	57.2	38.4	44.6	77.1	37.4	41.2	48.0	40.8	34.0	31.0	24.0
画像診断部		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
呼吸器外科		16.0	18.0	18.3	16.0	17.9	15.5	22.3	18.8	20.8	23.2	18.7	21.5
心臓血管外科		27.0	42.5	32.1	29.8	31.3	29.0	33.1	26.0	38.9	36.3	37.6	29.9
精神科・心療内科		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
計		14.1	14.3	13.8	13.6	14.0	13.8	13.3	14.3	14.0	15.7	15.3	14.4

平成 26 年度 月別 病棟別 平均在院日数

(単位: 日数)

科別	月別	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
西 病 棟	4 F	8.5	9.3	10.1	9.2	8.7	9.5	9.1	8.8	9.5	9.7	9.9	8.9
	5 F	14.0	14.0	12.7	13.5	15.8	13.0	12.7	16.5	13.3	13.3	13.1	11.3
	6 F	14.0	18.6	15.6	17.6	17.0	15.0	19.5	19.2	19.2	28.6	17.2	19.7
	7 F	16.1	17.5	15.8	15.8	16.2	15.9	13.7	13.6	12.4	18.2	15.2	14.1
	8 F	23.5	23.2	21.2	21.2	29.0	20.6	17.6	28.8	23.7	17.0	29.2	22.1
	3 F	11.9	16.9	18.7	13.1	14.4	12.2	20.8	26.3	23.7	24.2	13.6	17.3
	救命	2.0	1.4	1.8	1.9	1.8	1.8	2.2	1.7	2.1	2.5	2.1	2.1
東 病 棟	3 F	20.4	15.5	15.3	19.0	14.3	14.7	15.9	14.7	16.8	19.0	19.5	17.4
	4 F	8.2	9.4	7.9	7.1	7.5	7.6	7.2	8.6	7.0	8.4	8.8	8.3
	5 F	24.6	22.3	20.0	19.3	25.3	24.2	23.4	25.2	20.9	33.7	28.5	27.3
	6 F	12.9	12.3	11.7	12.8	12.3	12.4	11.1	11.4	13.3	13.4	14.5	14.9
	7 F	16.2	21.0	17.6	17.4	17.8	19.2	16.7	17.4	20.1	22.5	23.4	21.1
計		14.1	14.3	13.8	13.6	14.0	13.8	13.3	14.3	14.0	15.7	15.3	14.4

地域医療支援病院紹介率・逆紹介率

平成 26 年度
地域医療支援病院紹介率（月別）

月別	紹介率
4月	81.1%
5月	80.4%
6月	85.0%
7月	84.0%
8月	78.0%
9月	84.5%
10月	83.4%
11月	83.4%
12月	81.9%
1月	92.7%
2月	84.8%
3月	85.0%
合 計	83.6%

平成 26 年度
地域医療支援病院逆紹介率（月別）

月別	逆紹介率
4月	70.1%
5月	64.7%
6月	61.8%
7月	62.1%
8月	68.0%
9月	63.9%
10月	67.8%
11月	73.1%
12月	70.4%
1月	67.3%
2月	67.4%
3月	72.0%
合 計	67.3%

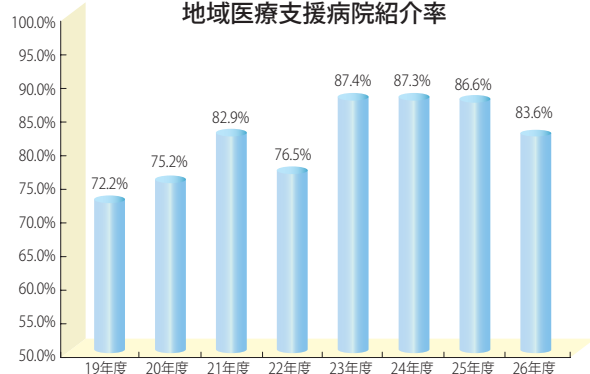
平成 26 年度
地域医療支援病院紹介率（診療科別）

科別	紹介率
内 科	89.9%
小 児 科	53.4%
外 科	92.3%
整 形 外 科	96.0%
脳 神 経 外 科	75.9%
産 婦 人 科	98.6%
皮 膚 科	77.9%
泌 尿 器 科	77.0%
眼 科	91.6%
耳 鼻 咽 喉 科	69.0%
歯 科 ・ 口 腔 外 科	44.0%
救 急 科 ・ 麻 酔 科	511.4%
放 射 線 治 療 科	105.4%
画 像 診 断 部	100.5%
心 臓 ・ 血 管 外 科	107.3%
精 神 科 ・ 心 療 内 科	0.0%
呼 吸 器 外 科	66.2%
形 成 外 科	53.3%
合 計	83.6%

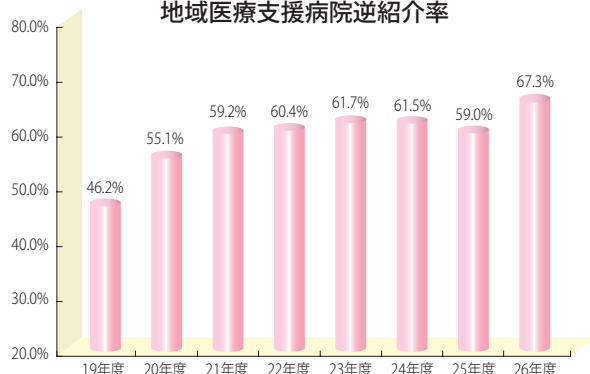
平成 26 年度
地域医療支援病院逆紹介率（診療科別）

科別	逆紹介率
内 科	103.0%
小 児 科	12.3%
外 科	56.7%
整 形 外 科	84.2%
脳 神 経 外 科	131.8%
産 婦 人 科	26.5%
皮 膚 科	12.3%
泌 尿 器 科	24.8%
眼 科	74.6%
耳 鼻 咽 喉 科	14.9%
歯 科 ・ 口 腔 外 科	70.6%
救 急 科 ・ 麻 酔 科	270.5%
放 射 線 治 療 科	83.8%
画 像 診 断 部	121.3%
心 臓 ・ 血 管 外 科	198.8%
精 神 科 ・ 心 療 内 科	0.0%
呼 吸 器 外 科	35.3%
形 成 外 科	26.7%
合 計	67.3%

地域医療支援病院紹介率



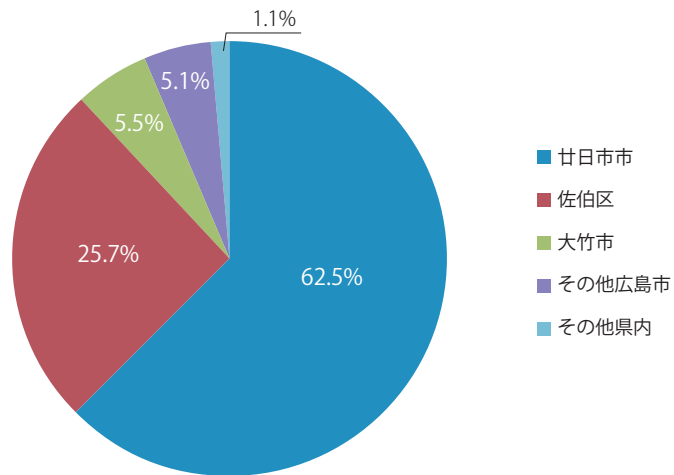
地域医療支援病院逆紹介率



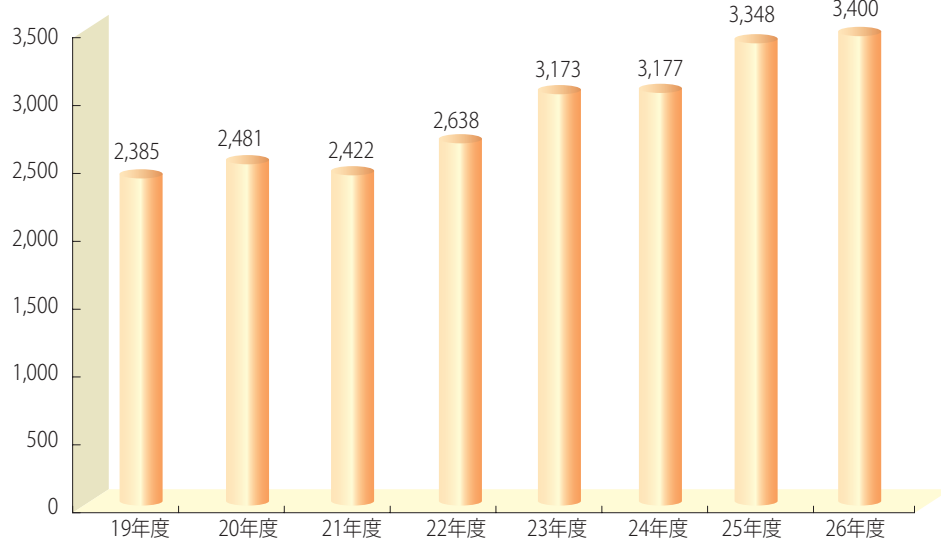
救急車来院件数

平成 26 年度
救急車来院件数（管轄別）

平成 26 年度	
廿 日 市 市	2,125
佐 伯 区	875
大 竹 市	188
そ の 他 広 島 市	173
そ の 他 県 内	39
合 計	3,400



救急車来院件数



資
料

医療行為統計表

平成 26 年度 医療行為統計表

【手術件数】		4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	累計
内 科		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
小 児 科		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
精 神 科・心 療 内 科		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
外 科		85	88	71	93	84	98	96	85	105	81	81	95	1,062
整 形 外 科		119	129	112	131	126	137	147	110	127	118	102	115	1,473
形 成 外 科		14	11	4	2	11	4	6	6	4	3	6	3	74
脳 神 経 外 科		19	10	8	17	12	16	23	16	22	13	9	14	179
産 婦 人 科		38	42	47	41	45	41	48	41	43	38	41	50	515
眼 科		50	49	46	60	49	54	63	38	49	56	48	53	615
耳 鼻 咽 喉 科		18	15	16	20	22	18	19	17	13	12	19	21	210
皮 膚 科		26	25	30	28	26	30	32	22	22	24	30	28	323
泌 尿 器 科		33	29	32	30	27	32	38	22	36	32	34	38	383
歯 科 口 腔 外 科		9	5	7	7	9	8	11	7	8	5	8	7	91
救 急 科・麻 酔 科		0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
放 射 線 治 療 科		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
画 像 診 断 部		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
心 臓 血 管 外 科		40	34	41	43	38	46	45	39	44	41	28	34	473
呼 吸 器 外 科		12	14	19	18	14	10	13	7	9	11	10	14	151
乳 腺 外 科			4	8	10	7	11	10	11	11	14	12	13	111
計		463	455	441	500	470	505	552	421	493	448	428	485	5,661
手術（外来件数）（再掲）		58	53	50	55	44	51	55	43	45	48	53	61	616
（ 口 腔 外 科 ）		(41)	(41)	(45)	(46)	(39)	(45)	(43)	(42)	(34)	45	(44)	(45)	(510)
ア ン ギ オ 室 手 術		1	3	3	5	1	5	3	(2)	(2)	(3)	(7)	(9)	44
内視鏡下手術（VPP）		94	83	92	86	96	105	112	75	105	84	92	95	1,119
全 身 麻 酔 件 数		268	282	281	320	303	324	327	271	333	288	275	299	3,571

【放射線業務】		4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	累計
一 般 撮 影		3,259	3,488	3,646	3,800	3,575	3,776	3,936	3,363	3,798	3,859	3,445	3,684	43,629
パ ン ト モ		106	108	106	199	96	108	141	112	104	103	117	119	1,419
骨 密 度 測 定		45	52	57	73	59	68	67	38	50	46	60	65	680
造 影 透 視 撮 影		119	116	161	164	136	168	171	136	129	113	88	96	1,597
上 部 消 化 管		120	162	156	162	141	161	158	137	202	143	128	79	1,749
注 腸		3	6	6	2	2	4	3	2	1	3	3	2	37
血 管 連 続 撮 影		14	23	16	27	20	22	26	17	20	20	22	26	253
心臓血管連続撮影		65	53	47	60	59	48	51	45	46	49	52	58	633
C T 各 科		1,572	1,550	1,525	1,601	1,536	1,643	1,780	1,472	1,582	1,609	1,493	1,651	19,014
C T 画 診		39	48	45	49	36	51	56	52	37	35	30	48	526
M R I		582	561	579	655	604	600	638	548	613	575	550	633	7,138
R I		92	51	127	186	137	164	155	164	123	159	150	193	1,701
リニアック（件数）		569	611	672	459	492	321	598	454	381	252	489	513	5,811
リニアック（門数）		2,211	2,312	2,240	1,654	1,746	1,109	2,262	1,691	1,397	923	1,812	1,906	21,263

【検査業務】		4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	累計
心 電 図 検 査		1,650	1,680	1,637	1,813	1,616	1,624	1,713	1,526	1,652	1,847	1,700	1,860	20,318
ト レ ッ ド ミ ル		3	2	6	13	7	1	3	2	3	3	7	4	54
ホ ル タ ー 型		27	21	32	29	21	31	33	31	23	25	33	36	342
心 臓 エ コ ー		448	452	466	469	436	455	426	390	466	474	480	518	5,480
脳 波		49	20	33	73	65	48	51	32	41	23	36	58	529
肺 機 能 検 査		305	312	324	342	366	348	351	288	340	359	309	365	4,009
神経伝達速度・電流知覚閾値測定		210	187	217	188	183	178	221	157	224	157	120	239	2,281
重 心 動 揺 検 査		21	20	35	28	20	18	10	17	19	13	26	13	240
サーモグラフィー検査		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
脈波図・心電図・ポリグラフ検査		262	214	238	270	221	231	253	205	217	251	274	266	2,902
体 液 量 測 定		207	180	220	180	183	174	218	155	225	307	311	223	2,583
病 理 組 織 検 査		1,005	1,097	1,176	1,257	1,043	1,305	1,333	1,143	1,237	1,104	1,053	1,168	13,921
解 剖 件 数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1

【薬剤業務】		4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	累計
外 来	処 方 箋 枚 数	9,749	9,969	10,157	10,387	9,812	10,316	11,114	9,409	10,824	9,953	9,487	11,140	122,317
	剤 数（件数）	29,221	29,552	30,006	30,744	29,117	29,897	32,759	27,307	32,184	29,231	28,328	32,579	360,925
	延 べ 剤 数	837,027	837,171	886,007	879,891	842,800	897,901	948,301	794,374	997,511	825,331	816,428	975,089	10,537,831
入 院	処 方 箋 枚 数	5,220	5,381	5,138	5,398	7,999	8,205	8,970	8,626	8,606	9,386	7,868	9,358	90,155
	剤 数（件数）	10,346	10,777	10,335	10,819	12,978	13,260	14,667	13,504	14,030	15,021	13,031	15,488	154,256
	延 べ 剤 数	62,616	64,550	63,352	65,200	61,876	63,859	68,587	61,109	71,725	69,552	68,604	76,787	797,817
薬 合 診 療 所	服 薬 指 導 件 数	936	782	845	878	865	762	842	729	694	822	779	909	9,843
	処 方 箋 枚 数	49	66	44	47	46	54	48	38	66	43	49	58	608
	剤 数（件数）	265	356	248	294	270	328	287	228	372	226	280	309	3,463
	延 べ 剤 数	6,976	9,752	6,637	7,046	7,334	8,302	7,662	5,950	9,171	6,173	7,183	8,835	91,021

【その他業務】	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計
在宅療法指導	80	73	67	59	48	62	69	48	61	42	50	69	728
分 娩	54	53	44	51	41	52	44	51	52	51	52	56	601
そ の 他 分 娩	0	0	0	1	1	0	2	0	0	1	0	0	5
腎尿管結石破碎	6	16	9	11	9	9	8	10	8	13	5	8	112
化学療法件数（外来）	387	346	312	335	290	328	308	261	300	311	297	351	3,826
化学療法件数（入院）	187	186	145	146	132	104	144	132	134	133	134	145	1,722
（超音波内訳）													
内 科	235	224	235	245	232	243	241	207	236	220	208	232	2,758
小 児 科	9	17	16	8	14	7	10	9	4	10	9	7	120
精神科・心療内科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
外 科	216	213	236	287	190	251	267	225	207	205	223	246	2,766
整 形 外 科	15	13	18	10	15	16	28	10	12	16	17	15	185
脳神経外科	3	14	12	11	17	19	8	12	13	10	4	19	142
産婦人科	270	339	347	372	296	341	384	312	348	325	309	363	4,006
眼 科	1	4	5	3	5	5	7	2	2	1	2	2	39
耳鼻咽喉科	34	24	40	26	37	39	30	22	49	29	39	47	416
皮膚科	2	1	3	2	2	2	2	3	0	2	3	0	22
泌尿器科	191	202	217	211	209	248	227	170	232	152	200	246	2,505
歯科口腔外科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
救急科・麻酔科	99	84	97	124	135	134	133	146	143	162	120	123	1,500
放射線治療科	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	4
画像診断部	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
心臓血管外科	30	40	45	57	33	58	51	52	27	41	36	50	520
呼吸器外科	1	0	5	0	1	2	3	2	1	4	0	1	20
健康管理課	117	217	232	276	253	264	283	232	251	242	234	124	2,725
超音波診断計	1,224	1,393	1,508	1,632	1,439	1,629	1,674	1,404	1,525	1,419	1,406	1,475	17,728

【内視鏡業務】	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計
胃ファイバー検査 内科	240	212	232	268	221	256	268	256	237	235	230	257	2,912
胃ファイバー検査 ドック	93	153	196	193	163	184	179	163	190	178	175	103	1,970
気管支ファイバー検査	10	1	9	11	9	17	19	7	12	13	13	11	132
大腸ファイバー検査	133	125	148	138	124	142	147	124	129	119	113	131	1,573
上部止血（消化管止血術）	8	1	10	11	18	6	21	14	14	9	16	15	143
EVL（食道静脈瘤血紮術）	7	3	1	3	1	1	6	5	1	4	2	3	37
PEG（胃瘻造設術）	3	4	11	4	2	6	9	7	2	3	7	10	68
上部EMR（粘膜切除）、ESD	6	7	9	5	8	6	10	8	9	11	10	8	97
下部ポリペク（ポリプ切除）	31	27	28	24	20	23	45	42	26	17	34	29	346
下部EMR（粘膜切除）	32	34	32	38	41	35	33	46	49	41	37	35	453
ERCP（膵胆管造影）、ERBD	1	27	7	7	13	18	8	10	12	12	18	9	142
EST（乳頭切開術）	26	13	41	28	22	36	25	21	29	30	18	17	306

【リハビリテーション業務】	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計
消炎鎮痛等（器具）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
運動器リハビリテーション	473	564	489	529	578	544	612	598	569	488	598	644	6,686
脳血管疾患リハビリテーション	2,186	1,756	1,737	1,846	1,862	1,944	1,899	1,524	1,560	1,652	1,602	1,821	21,389
呼吸器リハビリテーション	219	244	362	247	186	177	198	225	244	208	210	372	2,892
疾患対象外	174	175	185	228	237	257	258	155	216	233	178	233	2,529
心大血管疾患リハビリテーション	489	511	467	567	478	474	580	375	568	587	578	671	6,345
A D L 加 算													0
早期リハ加算	2,358	2,071	2,112	2,227	2,109	2,173	2,211	1,736	1,976	1,921	2,076	2,281	25,251
リハビリテーション総合実施計画書	40	44	42	40	34	33	52	46	45	55	58	60	549
退院時リハ指導	56	35	56	39	42	48	34	31	48	42	40	50	521

【給食業務】	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計
常食	4,886	4,961	5,116	5,964	5,666	5,163	4,797	4,550	5,755	4,633	4,349	4,284	60,124
全粥	8,363	8,450	8,517	8,126	8,657	8,862	8,341	8,703	9,135	9,659	9,178	9,841	105,832
五分	194	204	130	189	122	148	170	250	158	143	121	100	1,929
三分	157	262	161	148	216	92	95	176	134	119	166	142	1,868
重湯	262	277	220	114	135	50	191	218	159	148	145	150	2,069
特別食	20,642	20,436	19,147	19,955	20,091	20,579	22,333	22,036	20,686	22,407	21,827	24,155	254,294
計	34,504	34,590	33,291	34,496	34,887	34,894	35,927	35,933	36,027	37,109	35,786	38,672	426,116

【栄養指導業務】	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計
外来栄養指導	197	181	219	192	179	190	192	150	153	119	151	183	2,106
入院栄養指導	55	46	55	77	52	58	78	55	61	61	56	64	718
集団栄養指導	13	14	18	18	5	22	18	11	15	15	11	16	176

医師科別人員／職員数の推移

平成 26 年度 医師科別人員

部署名		平成 26 年 4 月	備考
内科	呼 吸 器 内 科	4	
	腎 臓 内 科	4	
	糖尿病代謝内科	4	
	消 化 器 内 科	9	
	循 環 器 内 科	6	
合 計		27	
小 児 科		5	常勤 4、非常勤 1
外 科		14	
整 形 外 科		7	
脳 神 経 外 科		4	
心 臓 血 管 外 科		4	
産 婦 人 科		6	
眼 科		2	
耳 鼻 科		3	
皮 膚 科		4	常勤 3、非常勤 1
泌 尿 器 科		4	
歯 科		3	
放 射 線 治 療 科		2	
画 像 診 断 部		2	
麻 酔 科		8	常勤 7、非常勤 1
救 急 ・ 集 中 治 療 科		4	
精 神 科		0	
形 成 外 科		1	
呼 吸 器 外 科		2	
健 康 管 理 科		1	
臨 床 研 究 検 査 科		1	
病 理 研 究 検 査 科		1	
臨 床 専 門 研 修 医		0	
臨 床 研 修 医 2 年 次		10	
臨 床 研 修 医 1 年 次		11	
合 計		126	

職員数の推移

区 分	H25 年 4 月	H26 年 4 月
医 師	100	101
歯 科 医 師	2	4
臨 床 研 修 医	20	21
専 修 医	—	—
医 師 部 門 計	122	126
助 産 師	30	29
保 健 師	103	123
看 護 師	431	431
准 看 護 師	7	7
看 護 部 門 計	571	590
薬 剤 師	32	35
放 射 線 技 師	26	26
臨 床 検 査 技 師	43	44
臨 床 工 学 技 士	13	12
理 学 療 法 士	11	11
マ ッ サ ー ジ 師	—	—
作 業 療 法 士	3	3
管 理 栄 養 士	11	11
歯 科 衛 生 士	2	2
歯 科 技 工 士	—	—
視 能 訓 練 士	3	3
言 語 聴 覚 士	3	2
臨 床 心 理 士	—	—
社 会 福 祉 士	4	4
介 護 福 祉 士	—	—
医 療 技 術 部 門 計	151	153
事 務	47	86
事 務 部 門 計	47	86
ボ イ ラ 技 師	2	2
電 気 技 師	1	1
運 転 手	—	—
調 理 師	—	—
保 清 員	1	1
保 育 士	—	—
看 護 助 手	32	38
介 護 員	—	—
技 術 助 手	4	5
労 務 部 門 計	40	47
出 向	—	—
合 計	931	1002

学会施設認定

認定種別
日本内科学会認定内科専門医教育関連病院
日本内科学会認定内科専門医制度研修医指導
日本呼吸器学会教育認定施設
日本消化器内視鏡学会認定指導施設
日本消化器病学会認定施設
日本胆道学会指導施設
日本糖尿病学会認定教育施設
日本腎臓学会研修施設
日本透析医学会認定施設
日本循環器学会認定循環器専門医研修施設
日本小児科学会認定医制度研修施設
日本小児科学会小児科専門医研修施設
日本外科学会認定医制度修練施設
日本外科学会外科専門医制度修練施設
日本乳癌学会認定医・専門医制度認定施設
日本胸部外科学会（認定医）指定施設
三学会構成心臓血管外科専門医認定機構基幹施設
日本脳神経外科学会指定専門医訓練施設
日本脳卒中学会認定研修教育病院
日本整形外科学会認定医制度研修施設
日本整形外科学会専門医制度研修施設
日本皮膚科学会認定専門医研修施設
日本泌尿器科学会専門医教育施設
日本眼科学会専門医制度研修施設
日本婦人科腫瘍学会専門医制度指定修練施設
日本耳鼻咽喉科学会専門医研修施設
日本麻酔科学会認定病院
日本ペインクリニック学会ペインクリニック専門医指定研修施設
日本救急医学会認定救急科専門医指定施設
日本医学放射線学会放射線科専門医修練機関
日本老年医学会認定施設
日本呼吸器外科学会指導医制度関連施設
呼吸器外科専門医制度関連施設
日本アレルギー学会認定教育施設
日本放射線腫瘍学会準認定施設
日本口腔外科学会専門医制度研修機関
日本病態栄養学会認定「栄養管理・NST実施施設」
日本がん治療認定医機構認定研修施設
マンモグラフィ検診精度管理中央委員会認定マンモグラフィ検診施設画像認定
日本高血圧学会専門医認定施設
日本心血管インターベンション治療学会研修関連施設
PEG・在宅医療研究会専門胃瘻造設施設・管理施設
日本呼吸学会教育関連病院
優良二日ドック施設
腹部ステントグラフト実施施設
日本栄養療法推進協議会NST稼働施設
日本静脈経腸栄養学会認定NST稼働施設
日本肝胆膵外科学会肝胆膵外科高度技術専門医修練施設B
日本消化器外科学会専門医修練施設
乳房再建用エキスパンダー・インプラント実施施設
日本外科感染症学会外科周術期感染管理教育施設
日本産婦人科学会専門医制度専攻医指導施設
胸部ステントグラフト実施施設

編集後記

2014 年度の JA 広島総合病院 “Annual Report” が完成いたしましたのでお届けいたします。

2014 年度は消費税の 8% への上昇で幕を開けました。予想された通り増税後に消費の落ち込みがありました。このため消費税の 10% への引き上げを延期せざるを得ませんでした。とはいえ、いつの間にか 8% の税率になれてしまったのか、諦めてしまったのか徐々に消費は回復しました。しかしながら増税分を十分補うだけの診療報酬の改定はなく、経営的に病院に打撃となったことは否めません。中国での賞味期限切れ鶏肉使用、マクドナルドの異物混入など食の安全への不安、東洋ゴムの免震ゴムデータ改ざん、ベネッセの顧客データ大量流出、“危険ドラッグ” 使用による車の暴走事故等社会的に不安な問題も多く噴出しました。武器輸出三原則の変更、集团的自衛権の解釈変更と日本の安全保障関係分野に大きな変更が加えられた年でもありました。将来どの様な評価になるのでしょうか。御嶽山の噴火、広島市の土砂災害等の大規模災害に心を痛めた日々もありました。東海道新幹線が開業 50 周年を迎える一方、北陸新幹線開業、リニアモーターカー工事計画決定等新たな交通網発達への期待を抱かせました。明るいニュースとしては楽天からヤンkeesに移籍したマー君の活躍、錦織圭選手の全米オープン準優勝を初めとする活躍、スウェーデン王立バレエ団の木田真理子さんがブノワ舞踊賞を日本人として初受賞するなどスポーツ・芸術分野での日本人の活躍、青色 LED を開発した赤崎勇、天野浩、中村修二の 3 氏がノーベル物理学賞を受賞したことなどがありました。個人的にファンであった桂米朝師匠や国民的スターであった高倉健さんなど今年度も多くの有名人が亡くなり、時の流れを感じました。

医療分野に目を転じてみると、iPS 細胞を用いた網膜の再生医療が臨床試験として開始されるという非常に夢のある話があった反面、群馬大学医学部附属病院において行われた腹腔鏡を用いた肝臓切除手術の術後に相次いで 8 人の患者が死亡したという事件あり、病院内の調査委員会の調査結果は医師の過失という結論でしたが、それで片付けて良いのかという意見も聞かれました。医療行為において安全という観点は重要であり、我々も日々の地道な診療活動の継続を心したいと思います。

本年報が地域の方々に我々の診療の実際を知っていただく端緒となれば幸いです。

2016 年 3 月
年報編集委員長
辻山 修司

年報編集委員会

小林 平	高畑 明	坂尻 明美	佐藤 澄香
小松 浩基	上田 雅美	荒田 晋二	砂田 朋子
山根 保博	眞田 沙季	松田 真伍	

JA広島総合病院 年報 2014年度

平成 28 年 3 月 発行

発 行 広島県厚生農業協同組合連合会
広島総合病院

広島県廿日市市地御前 1-3-3

TEL 0829-36-3111

印 刷 株式会社 タカトープ rint メディア



JA 広島総合病院
JA. HIROSHIMA General Hospital